

一般国道17号（高松立体）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

高崎城 XV 遺跡

2006

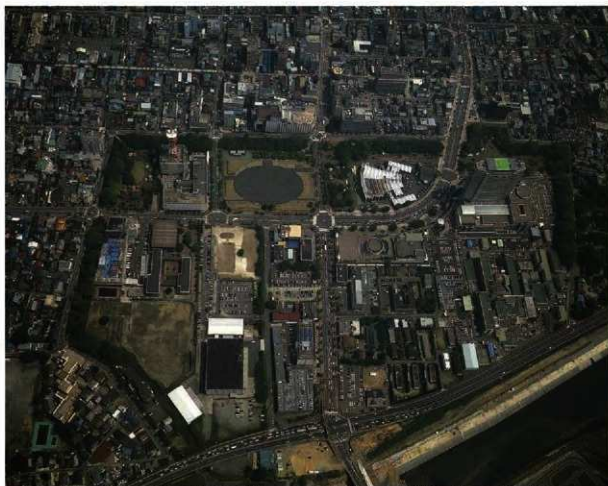
国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

一般国道17号（高松立体）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

高崎城 XV 遺跡

2006

国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

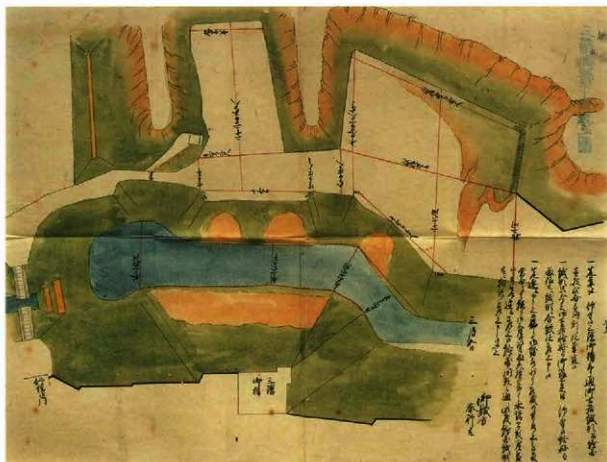


高崎城遺跡空中写真 西上空から撮影 三の丸を囲む堀と土塁が明確に見える（下が烏川）



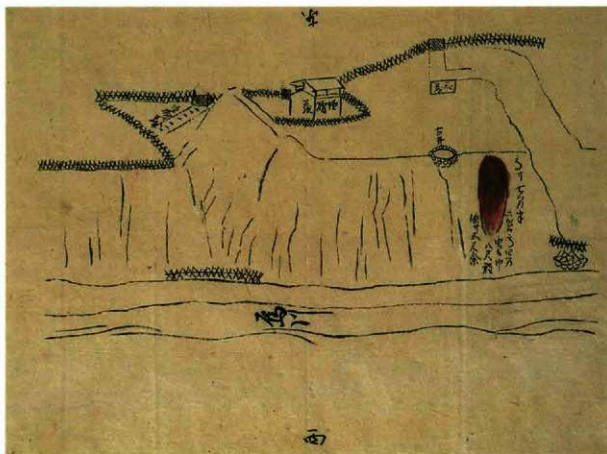
高崎城 「御城堅土居通御植物木尺附絵図」の調査区付近部分（下が烏川）

高崎市史資料担当写真提供 高崎市教育委員会蔵



高崎城「三層御櫓下御堀ノ図」(上が西) 2条の堀と中央の本丸型の一部が調査された

高崎市史資料担当写真提供 高崎市教育委員会蔵



高崎城絵図「鳥川沿硝蔵付近崩れ」中央が1区 古井は既に崩壊していたようで、確認されなかった。

高崎市史資料担当写真提供 高崎市教育委員会蔵



陶磁器 内面

図番号のないものは非掲載



陶磁器 外面



2区盛土 土層断面（東から）



2区盛土 土層断面近接 黒色土と泥流の境に石列（東から）



80図430

南ブラシ先端と刻印近接（最小目盛りは1mm）



79図428



107図34



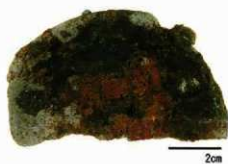
123図155



122図154



98図 3



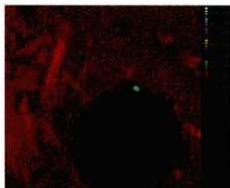
No. 3



Cu · As · S



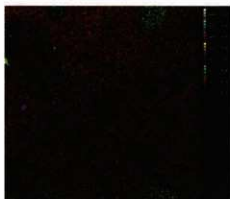
No. 5



Fe · Cu · S



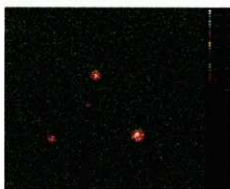
No. 7



Fe · Sb · S



No. 1



Fe · Sb · S

取銅の外観と抽出した試料に含有される元素濃度分布の複合カラーマップ

序

【高崎城XV遺跡】は、高崎市高松町にある高崎城本丸と烏川との間に位置し、国道17号（高松立体）改築工事に伴い国土交通省から委託を受けた財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成14年度から平成15年度にかけて発掘調査を実施した遺跡です。

高崎城XV遺跡の存在する高崎城本丸西側は、高崎城が本丸から二ノ丸、三ノ丸、城下町と東に広がる構造であったため、高崎城の時代にはほとんど使用されない場所でありました。そのため、高崎城の煙硝蔵が絵図に描かれていたり、中世和田城の遺構が残っていると考えられてきました。また、旧高崎城内では弥生時代や平安時代の遺構も確認されていきましたので、両時代の遺構が発見される可能性もありました。

発掘調査の結果、平安時代の竪穴住居跡、中世の畠や建物跡、城を造る際の大規模な土盛り跡、高崎城の堀跡などが発見されました。

本報告書は、これらの成果をまとめたものですが、注目されるものとして、「和田城槽台跡」があります。和田城槽台跡は、江戸時代の記録などから和田城時代のものとして考えられてきました。しかし、槽台盛土の下から中世の畠が見つかり、更にその下から和田城時代の建物や鉄砲玉が見つかりました。これにより、従来和田城のものと考えられてきた槽台跡がより新しい時代のものであったことが判明しました。

これらのことは、高崎市や高崎城、和田城の歴史を明らかにしていくうえで貴重な資料となり、考古学研究者や城郭研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの市民や県民の皆様にも大いに役立つものと確信しております。

最後になりますが、国土交通省、高崎市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成17年12月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 高橋 勇 夫

例 言

1. 本書は、一般国道17号（高松立体）改築工事に伴う事前事業として、平成14年度から平成15年度にかけて実施した「高崎城XV遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は、高崎市高松町38-1、39-1・3・5、40-2・3・4、41-1・2である。
3. 発掘調査と整理事業は、国土交通省から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託を受けて行った。
4. 発掘調査期間と発掘調査組織は以下のとおりである。

(1) 事前（測量・写真）調査期間と担当者

期間：平成12年11月から同12月 1,500㎡

担当：石守 晃

地番：高松町39番地他

(2) 発掘調査期間と発掘調査担当者

期間：平成14年4月1日から平成15年3月31日 6,327㎡

担当：大西雅広 山村英二

地番：高松町38-1、39-1、40-2

期間：平成15年4月1日から平成15年6月30日 2,330㎡

担当：大西雅広 土屋崇志

地番：高松町38-1

期間：平成15年11月1日から平成16年1月31日 3,232㎡

担当：大西雅広 土屋崇志

地番：高松町40-2・3・4、41-1・2

(3) 調査年度と事務担当者

平成14年度

理事長 小野宇三郎

事務担当

常務理事 吉田 豊 事業局長 神保佑史

管理部長 萩原利通 総務課長 植原恒夫

総務課 小山建夫 高橋房雄 須田朋子 吉田有光 森下弘美 田中賢一

内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 狩野真子 今井もと子

調査研究部長 中 隆之 調査研究第3課長 中沢 悟

平成15年度

理事長 小野宇三郎

事務担当

常務理事 住谷永市 事業局長 神保佑史

管理部長 萩原利通 総務課長 植原恒夫

総務課 竹内 宏 高橋房雄 須田朋子 吉田有光 阿久澤玄洋 田中賢一

内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 狩野真子 今井もと子

調査研究部長 右島和夫 調査研究第2課長 関 晴彦

5. 整理事業

整理期間 平成17年4月1日から平成18年3月31日

理事長 小野宇三郎 高橋勇夫

事務担当

常務理事 木村裕紀

管理部長 矢崎俊夫 総務課長 宮前結城雄

総務課 須田朋子 吉田有光

内山住子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 狩野真子 今井もと子

資料整理部長 中東耕志 資料整理2課長 相京建史

編集担当 大西雅広

整理補助員 根井美智子 小林町子 伊藤幸代 真庭和子 中橋たみ子

遺物写真撮影 佐藤元彦

保存処理 関 邦一 土橋まり子 小材浩一 津久井桂一 森田智子

三次元測定土器実測 田中精子 富沢スミ江

6. 本書の執筆は以下のとおりである。

山村英二、赤沼英男、植崎修一郎、上記以外大西雅広

7. 委託業務

発掘調査

- ・遺構掘削工事は株式会社小出測量設計事務所へ委託して行った。
- ・遺構測量の一部は、株式会社アコン測量設計に委託した。
- ・檜台調査時の防護壁は、設計を株式会社小出測量設計事務所、施工を株式会社角藤に委託した。
- ・3号堀調査時の仮設土留工は、設計を株式会社小出測量設計事務所、施工を井上工業株式会社に委託した。

整理作業

- ・遺構図面デジタル編集は、一部を除き技研測量設計株式会社に委託した。
- ・遺物デジタルトレース・編集は、一部を除き株式会社測研に委託した。
- ・遺跡出土金属製品、金属生産関連遺物の自然科学分析は岩手県立博物館に研究委託を行った。なお、本分析に関しては赤沼英男・佐々木整氏に玉稿を頂いた。

8. 発掘調査や報告書作成にあたっては、次の機関・諸氏からご協力・ご教示をいただいた。

高崎市教育委員会、高崎市史編さん室、高崎市総務部庶務課市史資料担当、三田市教育委員会、ヤマト株式会社

土屋喜英、森田秀策、村田敬一、時枝 務、阿部秀男、伊藤 肇、星野守弘、鹿沼栄輔、黒田 晃、藤澤良祐、山下峰司、茂木 渉、原 真、青木利文、清水 豊、秋本太郎、中島直樹、石神由貴、田中賢人、長谷部邦夫、宿谷尚代（敬称略、順不同）

9. 出土遺物、遺構測量図、遺構写真、遺物写真などは、群馬県埋蔵文化財センターが保管している。

凡 例

- 発掘調査及び本書で使用した基準は以下のとおりである。
平面基準は、平面直角座標第Ⅱ系（日本測地系（Tokyo Datum））を使用した。
図中に示した方位は、日本測地系（Tokyo Datum）座標北である。
- 挿図の縮尺は、各図下部にスケールで示した。また、遺物写真の縮尺は挿図に近づけたが、一部異なるものがある。
- 遺構断面図及び等高線に記した数値は標高を表す。
- 土層注記及び遺物観察で使用した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修、財団法人日本色彩研究所 色監修「新版 標準土色帖」1991を使用した。
- 遺物観察表で使用した「胎土」や内耳鍋・すり鉢などの「焼成」は以下のとおりである。

胎土

①内耳鍋、すり鉢、火鉢

- A：角閃石と石英多く含む。
- B：角閃石多く含む、石英少量含む。
- C：角閃石含む。片岩細片と片岩に由来する雲母多く含む。
- D：角礫含む。片岩細片と片岩に由来する雲母、石英少量含む。

②土器皿

- A：9号土坑からまとまって出土。夾雑物少ない。
- B：角閃石含む。片岩細片を少量、片岩に由来する雲母多く含む。
- C：角閃石少量含む。片岩細片と片岩に由来する雲母少量含む。
- D：角閃石非常に多く含む、器表に黒斑状を呈する部分もある。
- E：角閃石僅かに含む。赤色粒多く含む。

③須恵器

- A：角閃石含む。石英含む。雲母？多く含む。
- B：角閃石含む。石英少量含む。雲母？少量含む。
- C：角閃石極少量含む。

焼成（内耳鍋、火鉢、すり鉢）

- A：断面がサンドイッチ状を呈する
- B：還元炎焼成
- C：酸化炎焼成
- D：燻し焼成
- E：黒色を呈する

- 遺物実測図中心線の破線は、口縁部又は底部の残存が1/2以下であることを示す。

目 次

口絵、序、例言、凡例	
I 高崎城XV遺跡調査の経過	1
1 発掘調査に至る経過	1
2 調査の経過と方法	1
II 遺跡の立地と周辺の遺跡	4
1 遺跡の位置と立地	4
2 周辺の遺跡	4
3 調査成果の概要	6
III 確認された遺構と遺物	9
1 盛土上および高崎城期以降の遺構と遺物	9
2 盛土と盛土内で確認された遺構と遺物	21
3 盛土下で確認された畝状遺構と黒色土内出土遺物	25
4 畝状遺構下で確認された遺構と遺物	25
IV 調査成果のまとめ	33
V 図表	35
1 土坑・溝一覧表	35
2 ビット一覧表	38
3 確認された遺構図等	45
4 確認された遺物図等	107
5 出土遺物観察表	178
VI 自然科学分析	223
1 高崎城XV遺跡出土獣骨	223
2 高崎城XV遺跡出土銅関連資料の金属考古学的調査結果	231
写真図版	

遺構・遺物版目次

第1図	遺跡位置図	第59図	2区畠状遺構下土坑群断面図(2)
第2図	周辺の遺跡	第60図	2区畠状遺構下ビット群断面図(1)
第3図	高崎崎市と地形区分図	第61図	2区畠状遺構下ビット群断面図(2)
第4図	高崎泥炭分布範囲	第62図	2区畠状遺構下ビット群断面図(3)
第5図	高崎城遺跡調査地位置位置図	第63図	2区畠状遺構下ビット群断面図(4)
第6図	調査前現況図、高崎城縄張り図(部分)	第64図	2区畠下遺構群溝、3号堅穴住居断面図
第7図	1区・3区全体図、1号塙平面、断面図	第65図	1区1号堀上層出土遺物(1)
第8図	2号堀・3号堀	第66図	1区1号堀上層出土遺物(2)
第9図	6号堀	第67図	1区1号堀上層出土遺物(3)
第10図	2区盛土上全体図、断面模式図	第68図	1区1号堀上層出土遺物(4)
第11図	4号堀・5号堀	第69図	1区1号堀上層出土遺物(5)
第12図	1号石敷遺構	第70図	1区1号堀上層出土遺物(6)
第13図	【和田城構台跡】現況図、土層断面図	第71図	1区1号堀上層出土遺物(7)
第14図	【和田城構台跡】残存状態	第72図	1区1号堀上層出土遺物(8)
第15図	【和田城構台跡】盛土内石列	第73図	1区1号堀上層出土遺物(9)
第16図	2区盛土内石列全体図、集石部部分図	第74図	1区1号堀上層出土遺物(10)
第17図	2区盛土内石列平面図(1)、土層断面図	第75図	1区1号堀上層出土遺物(11)
第18図	2区盛土内石列平面図(2)	第76図	1区1号堀上層出土遺物(12)
第19図	2区盛土内石列土層断面図・断面図・側面図	第77図	1区1号堀上層出土遺物(13)
第20図	2区盛土土層断面図	第78図	1区1号堀上層出土遺物(14)
第21図	2区盛土下畠状遺構全体図	第79図	1区1号堀上層出土遺物(15)
第22図	2区盛土下畠状遺構平面図(1)、土層断面図	第80図	1区1号堀上層出土遺物(16)
第23図	2区盛土下畠状遺構平面図(2)	第81図	1区1号堀中層出土遺物(1)
第24図	2区盛土下畠状遺構平面図(3)、断面図	第82図	1区1号堀中層出土遺物(2)
第25図	2区盛土下畠状遺構平面図(4)	第83図	1号堀下層から6号堀出土遺物(1)
第26図	1号・2号・3号・4号土坑	第84図	1号堀下層から6号堀出土遺物(2)
第27図	5号・6号・7号・8号土坑	第85図	1号堀下層から6号堀出土遺物(3)
第28図	9号土坑	第86図	1号堀下層から6号堀出土遺物(4)
第29図	10号・11号・12号・13号・14号・15号土坑、2号堅穴住居	第87図	1号堀下層から6号堀出土遺物(5)
第30図	2区畠状遺構下遺構群平面図	第88図	1号堀下層から6号堀出土遺物(6)
第31図	2区畠状遺構下遺構群平面図(1)	第89図	1区遺構内出土遺物(1)
第32図	2区畠状遺構下遺構群平面図(2)	第90図	1区遺構内出土遺物(2)
第33図	2区畠状遺構下遺構群平面図(3)	第91図	1区遺構内出土遺物(3)
第34図	2区畠状遺構下遺構群平面図(4)	第92図	1区・3区遺構外出土遺物
第35図	2区畠状遺構下遺構群平面図(5)	第93図	2区盛土内出土遺物(1)
第36図	2区畠状遺構下遺構群平面図(6)	第94図	2区盛土内出土遺物(2)
第37図	2区畠状遺構下遺構群平面図(7)	第95図	2区盛土内出土遺物(3)
第38図	2区畠状遺構下遺構群平面図(8)	第96図	2区盛土内石列出土遺物(1)
第39図	2区畠状遺構下遺構群平面図(9)	第97図	2区盛土内石列出土遺物(2)
第40図	2区畠状遺構下遺構群平面図(10)	第98図	2区盛土内石列出土遺物(3)
第41図	2区畠状遺構下遺構群平面図(11)	第99図	2区盛土内石列出土遺物(4)
第42図	2区畠状遺構下遺構群平面図(12)	第100図	2区盛土内石列出土遺物(5)
第43図	2区畠状遺構下遺構群平面図(13)	第101図	2区盛土内石列出土遺物(6)
第44図	2区畠状遺構下遺構群平面図(14)	第102図	2区盛土内石列出土遺物(7)
第45図	2区畠状遺構下遺構群平面図(15)	第103図	2区盛土内石列出土遺物(8)
第46図	2区畠状遺構下遺構群平面図(16)	第104図	2区盛土内石列出土遺物(9)
第47図	2区畠状遺構下遺構群平面図(17)	第105図	2区畠状遺構黒色土内出土遺物(1)
第48図	2区畠状遺構下遺構群平面図(18)	第106図	2区畠状遺構黒色土内出土遺物(2)
第49図	2区畠状遺構下遺構群平面図(19)	第107図	2区畠状遺構黒色土内出土遺物(3)
第50図	24・25号土坑、62・74・76号土坑遺物出土状態図	第108図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(1)
第51図	63・64・65号土坑、67号土坑遺物出土状態図	第109図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(2)
第52図	66号土坑、68・69号土坑、71・72・73号土坑遺物出土状態図	第110図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(3)
第53図	82・83号土坑、8号溝遺物出土状態図	第111図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(4)
第54図	4号堅穴住居、5～8号堅穴住居遺物出土状態図	第112図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(5)
第55図	2区畠状遺構下ビット群柱痕平面図(1)	第113図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(6)
第56図	2区畠状遺構下ビット群柱痕平面図(2)	第114図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(7)
第57図	2区畠状遺構下ビット群柱痕平面図(3)	第115図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(8)
第58図	2区畠状遺構下土坑群断面図(1)	第116図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(9)
		第117図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(10)
		第118図	2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(11)

- 第1190区 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (12)
 第1200区 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (13)
 第1210区 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (14)
 第1220区 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (15)
 第1230区 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (16)
 第1240区 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (17)
 第1250区 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (18)
 第1260区 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (19)
 第1270区 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (20)
 第1280区 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (21)

- 第1290区 2区畠状遺構下遺構群出土古代遺物 (1)
 第1300区 2区畠状遺構下遺構群出土古代遺物 (2)
 第1310区 2区畠状遺構下遺構群出土古代遺物 (3)
 第1320区 遺構外出土遺物 (1) 及び遺構内出土遺物補遺
 第1330区 遺構外出土遺物 (2)
 第1340区 歩兵第十五連隊管内図 (酒保・下土集会所部分)
 第1350区 昭和9年 歩兵第十五連隊平面図
 第1360区 昭和9年 歩兵第十五連隊平面図 (部分)
 第1370区 前橋城、高崎城縄張り比較図

表目次

表1 土坑・溝一覧表

表2 ビット一覧表

表3 1号堀上層出土ガラス瓶観察表

表4 1号堀上層出土陶磁器類観察表

表5 1号堀上層出土銅類観察表

表6 1号堀上層出土金属製品等観察表

表7 1号堀上層出土土器・土質観察表

表8 1号堀中層出土陶磁器類観察表

表9 盛土および高崎城跡の出土遺物観察表

表10 1区・3区堀以外出土遺物観察表

表11 2区盛土内出土遺物観察表

表12 2区盛土内石列出土遺物観察表

表13 2区盛土下畠状遺構黒色土内出土遺物観察表

表14 2区畠状遺構下遺構群出土遺物観察表

表15 2区畠状遺構下遺構群出土平安時代遺物観察表

表16 2区畠状遺構下遺構群出土遺物補遺、遺構外出土遺物観察表

写真版目次

P L - 1

- 1 区調査前全景 (東から)
 2 区調査前全景 奥に櫓台が見える (北から)
 1 区全景 手前の基礎跡は現代 (北から)
 1号 (本丸西側) 堀土層全景 (西から)
 1号 (本丸西側) 堀船内陣出土状態 (北西から)

P L - 2

- 1号 (本丸西側) 堀船内陣出土状態近接 (東から)
 1号 (本丸西側) 堀全景 (南から)
 1号 (本丸西側) 堀全景 (北から)
 1号 (本丸西側) 堀全景 (北から)
 1号 (本丸西側) 堀土層断面 (北から)
 1号 (本丸西側) 堀土層断面 左に古い堀 (南から)
 地形に反映する2・3号堀跡 中央の低い場所が堀跡
 2・3号堀土層断面 (南から)

P L - 3

- 2・3号堀土層断面 右上には堀跡の凹みが確認となって残る (東から)
 2・3号堀土層断面 右上も堀の立ち上がりが延びる (東から)
 2・3号堀全景 古い3号堀は高崎城本丸方向に延びる (西から)
 2・3号堀確認状態 南壁に特殊地下入り口が見える (北西から)
 2・3号堀全景 (北から)

P L - 4

- 1号特殊地下壕全景 (北から)
 2号特殊地下壕床面近接 (東から)
 2号特殊地下壕全景 (南から)
 6号堀全景 (東から)
 6号堀全景 (西から)
 6号堀土層断面 (東から)
 6号堀東側底部付近立ち上がり (西から)

P L - 5

- 4号堀全景 左と右の一部に立ち上がり (南東から)
 4号堀北壁 垂直な立ち上がりで不自然 (南から)
 4号堀北壁際 現代瓦・磁器出土状態 (南から)
 5号堀北壁 (南から)
 5号堀北壁 (左) と土層断面 (西から)
 1号石敷3面全景 (東から)

1号石敷3面肥前磁器片出土状態 (東から)

1号石敷面方全景 (南から)

P L - 6

- 【和田城櫓台跡】調査前全景 (西上空から)
 【和田城櫓台跡】表土除去後全景 (北から)
 【和田城櫓台跡】1回目掘り削り状態 (北から)
 【和田城櫓台跡】1回目掘り削り土層断面 (南から)
 【和田城櫓台跡】石列確認状態 (北から)

P L - 7

- 【和田城櫓台跡】石列確認状態近接 (北から)
 【和田城櫓台跡】石列西側側面 (北西から)
 【和田城櫓台跡】石列断面 (北から)
 2区盛土土層断面 (東から)
 2区盛土土層断面近接 黒色土と泥流の境に石列 (東から)
 2区盛土土層断面 (東から)
 2区盛土土層断面 石の代わりに泥流塊を積む (東から)
 2区盛土内石列全景 (南から)

P L - 8

- 2区盛土内石列全景 (南から)
 2区盛土内石列東半 (西から)
 2区盛土内石列北東端 (北から)
 同左近接 石の間に泥流塊も積む
 2区盛土・石列断面 石列を境に盛土が変わる
 2区盛土内石列 石列を境に盛土が変わる
 2区盛土内石列
 2区盛土内石列

P L - 9

- 2区盛土下畠状遺構全景 (南から)
 2区盛土下畠状遺構全景 (北から)
 2区櫓台下畠状遺構全景 (北から)
 2区櫓台下畠状遺構全景 (北から)
 2区櫓台下畠状遺構近接
 1区遺構群全景 (北西から)
 2区北半畠状遺構下遺構群調査風景 (南から)
 2区南半畠状遺構下遺構群全景 (北から)

P L - 10

- 1号土坑灰堆積状態断面
 1号土坑全景 (東から)
 2号土坑遺物出土状態 (南から)

3号土坑 雑・遺物出土状態 (南西から)

5号土坑 金景 柱穴は離方 (西から)

7号土坑 雑・遺物出土状態 (南から)

7号土坑 金景 (南から)

11号土坑 金景 (北東から)

P L-11

9号土坑 金景 (南から)

9号土坑 遺物出土状態 (東から)

9号土坑 西平遺物出土状態 (南から)

9号土坑 東平遺物出土状態 (南から)

9号土坑 壁際ピット5 土層断面近接

9号土坑 壁際ピット10 土層断面近接

9号土坑 壁際ピット1 土層断面近接

9号土坑 床面杖状痕 (木根) 壁際ピットとの比較

P L-12

24・25号土坑 遺物出土状態 (北東から)

24号土坑 遺物出土状態 (東から)

25号土坑 遺物出土状態 (西から)

25号土坑 遺物出土状態 (北西から)

24・25号土坑 金景 (北から)

29号土坑 金景 (南から)

30号土坑 金景 (南から)

P L-13

30号土坑 北東隅遺物出土状態 (南から)

30号土坑 輪出土状態

30号土坑 大溝面出土状態 (東から)

32号土坑 金景 遺物付近の色遣いは4号溝

35号土坑 金景 (北から)

35号土坑 床層断面 床層は床面より浮いている

39号土坑 金景 (南から)

40号土坑 金景 (東から)

P L-14

41・42・43号土坑 金景 (東から)

43号土坑 貝出土状態

44・45号土坑 遺物出土状態 (東から)

45号土坑 遺物出土状態 近接 (東から)

51号土坑 金景 (東から)

43・54号土坑 金景 (東から)

59号土坑 金景 (北から)

62号土坑 金景 (南から)

P L-15

62号土坑 遺物出土状態

62号土坑 古瀬戸水溝 (右中央) 出土状態

63・64・65号土坑 遺物出土状態 (南から)

63号土坑 遺物出土状態 (南から)

64号土坑 遺物出土状態 (南から)

63・64号土坑 遺物出土状態 (南から)

63・64号土坑 遺物出土状態 近接 (南から)

P L-16

65号土坑 遺物出土状態 金景 (南から)

65号土坑 輪等出土状態 (西から)

64号土坑 金景 (南から)

63号土坑 金景 (南から)

63・64・65号土坑 金景 (南から)

65号土坑 金景 (南から)

66号土坑 金景 (北から)

P L-17

67号土坑 雑・遺物出土状態 (南西から)

67号土坑 雑・遺物出土状態 (南から)

67号土坑 金景 (南西から)

68・69号土坑 金景 (北東から)

68号土坑 遺物・獣骨出土状態

70号土坑 金景 (北から)

72・73号土坑 遺物出土状態 金景 (南西から)

72号土坑 遺物出土状態 (南から)

P L-18

72号土坑 遺物出土状態 底面より浮いた雑・遺物が多い (南から)

72号土坑 黒色小円礫 (中央) 出土状態

73号土坑 遺物出土状態 (南から)

73号土坑 遺物出土状態 近接 (南から)

73号土坑 金景 (西から)

74・75号土坑 金景 (東から)

77号土坑 金景 左の62号土坑より古い (南から)

79号土坑、309号ピット 金景 (南から)

P L-19

82・83号土坑 遺物出土状態 (西から)

82・83号土坑 遺物出土状態 (南から)

82号土坑 遺物出土状態 近接

82号土坑 遺物出土状態 近接

82号土坑 遺物出土状態 近接

82号土坑 遺物出土状態 近接

P L-20

82・83号土坑 金景 (西から)

82・83号土坑 金景 (南から)

82号土坑 青磁皿出土状態

84号土坑 金景 (北西から)

85号土坑 金景 手前は10号溝 (南から)

89号土坑 金景 (西から)

89号土坑 遺物出土状態 近接 (東から)

90号土坑 金景 10号溝、204ピットより古い (西から)

P L-21

1号井戸 壁面 金景

1号井戸 底面 付近

84号ピット 遺物出土状態

88・91 (奥側) 号ピット 柱痕確認状態

106号ピット 柱痕確認状態

110号ピット 柱痕確認状態

118号ピット 柱痕確認状態

120号ピット 柱痕確認状態

P L-22

121号ピット 柱痕確認状態

141号ピット 柱痕確認状態

154号ピット 柱痕確認状態

156号ピット 柱穴下部 貝出土状態

302号ピット 柱穴 土層断面

319号ピット 柱穴 土層断面 (9号溝より新しい)

4号溝 金景 (西から)

3号住居 金景 (西から)

P L-23

6号溝 金景 (北から)

8号溝 雑・遺物出土状態 (南から)

8号溝 金景 9号溝より新しい (南から)

10号溝 金景 (東から)

P L-24

4号住居 隅方 金景 (東から)

4号住居 床下 土坑 (南から)

5号住居 金景 (西から)

5号住居 竈 灰と焼土分布により確認

6号住居 金景 (西から)

5・6号住居 隅方 金景 (西から)

5・7号住居 隅方 金景 (西から)

8号住居 金景 竈と貯蔵穴のみ確認

PL-25
1号堀上層出土ガラス瓶
PL-26
1号堀上層出土ガラス瓶
PL-27
1号堀上層出土ガラス瓶類、陶磁器
PL-28
1号堀上層出土陶磁器
PL-29
1号堀上層出土陶磁器
PL-30
1号堀上層出土歯ブラシ
PL-31
1号堀上層出土歯ブラシ等
PL-32
1号堀上層出土陶磁器
PL-33
1号堀上層出土陶磁器、石製品、鉛、金属製品

PL-34
1号堀上層出土金属製品、中層出土鉛弾、4号堀出土遺物
1区土坑出土遺物
PL-35
1区土坑、2区盛土内、畠状遺構黑色土内出土遺物
PL-36
2区畠状遺構黑色土内、2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物
PL-37
2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物
PL-38
2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物
PL-39
2区畠状遺構下遺構群出土中世・古代遺物
PL-40
2区畠状遺構下遺構群出土古代遺物、遺構外出土遺物
PL-41
2区盛土、畠状遺構黑色土、畠状遺構下遺構群出土具類
PL-42
参考品

I 高崎城XV遺跡調査の経過

1 発掘調査に至る経過

群馬県高崎市を縦断する一般国道17号では、烏川を渡河する和田橋や聖石橋に交通が集中し、朝夕のラッシュ時をピークに激しい交通渋滞が発生している。特に一般国道18号線の分岐点と近接し、高崎市中心市街地と住宅地を結ぶ県道藤木高崎線と交差する和田橋交差点は、県内最大の交通渋滞区間となっていた。こうした状況を改善するため、建設省関東地方整備局（当時）は和田橋交差点を立体化する高松立体事業を策定し、平成11年度に事業着手をした。事業は国道17号を地下化し、和田橋交差点を立体化するもので、実際に地下化される部分は現道下となるが、立体化工事期間中の切り直し道路部分が高崎城西郭部分に予定されていた。

平成12年6月、建設省関東地方建設局高崎工事事務所（当時）から群馬県教育委員会に「平成12年度高崎工事事務所管内の改築工事に伴う埋蔵文化財試掘調査について」の依頼、同8月には「一般国道17号（高松立体）改築工事の実施に伴う埋蔵文化財の所在について」の照会が行われた。

これに対し、群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部文化財保護課（当時）は、事業予定地が和田城

の遺構が残る場所であると共に高崎市指定史跡「和田城櫓台跡」も存在するため、高崎市教育委員会との協議も行き、本格的な発掘調査が必要と判断した。

平成12年9月に建設省関東地方建設局高崎工事事務所長より群馬県教育委員会教育長あてに「一般国道17号高松立体事業に伴う事前の文化財調査（測量・写真について）依頼があり、群馬県教育委員会の調整により財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が、櫓台を中心とした現況測量と高崎城域の空中写真撮影を実施した。

平成13年度において発掘調査が計画されたが、用地の問題で発掘調査を開始することはできなかった。平成14年度には用地問題も一部を残して解決し、発掘調査が開始されることとなった。

今回の発掘調査にあたって平成14年度4月1日付けで国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長及び財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の三者で「一般国道17号（高松立体）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が取り交わされ、協定書に沿って調査が進められた。

2 調査の経過と方法

平成12年度

先に述べたように事前調査とし調査区の現況測量と空中写真撮影を行った。

平成14年度

本年度の調査箇所は建設省高崎工事事務所跡地（1区）と和田橋交差点南に位置し高崎市が公園として使用していた高崎市指定史跡「和田城櫓台」が対象となっていた。当初の調査期間は平成14年4月1日から平成14年12月31日の9ヶ月であった。調査は、土地問題の解決していた1区から開始した。公

園として利用されていた「和田城櫓台跡」部分には公園関連の構造物や多くの樹木が植えられていた。

5月16日の調整会議の中で、これらの樹木に関しては、平成13年度にパブリックインボルブメントなどによって移植・伐採の調整が行われており、移植の際の立ち会い調査の必要性と共に大径木の移植が11月とされた。そのため、「和田城櫓台跡」部分の本調査は11月以降となり、調査期間は平成15年3月31日とされた。旧建設省高崎工事事務所跡地（1区）南半の調査は6月で終了し、7・8月は「和田

I 高崎城XV遺跡調査の経過

「櫓台跡」の樹木移植立合調査や大径木根回し作業時に確認された石組溝（調査の結果底石下から近代遺物片出土）の調査を行った。9月からは1区北半の調査を開始し、2・3号堀の存在と共に、未買収地にまで堀が達していることが確認された。

樹木の移植が終了した11月から「和田城櫓台跡」の調査を開始した。調査の進行に伴い、郭部分が1m以上の盛土造成や盛土に伴う石列遺構が確認され、更にその下には畠、中世の竅穴遺構、溝、土坑などが存在していることが明らかとなった。「櫓台」の調査とその下の遺構を考えると、3月終了は困難と判断され、1月29日に国土交通省高崎河川国道事務所、県教育委員会文化課、群馬県埋蔵文化財調査事業団との3者で調整会議を行い、調査期間を平成15年5月30日までとすることが決定した。

櫓台部分は、高崎市指定史跡「和田城櫓台跡」の中心をなす部分である。大部分は国道17号建設の際に削り取られ、僅かに鳥川に面する部分が残されていた。国道側は高さ7m、下部幅約25mの擁壁が構築されていた。この擁壁を崩しながらの調査を行うため、国道と擁壁の間に安全柵を設置し、擁壁片や土砂の転落防止を行った。

平成15年度その1

今年度の調査は、櫓台本体の調査が主体となる

調査日誌抄

平成14年度

- 4月1日 発掘作業準備開始。
- 5月15日 作業員を入れ、1区遺構確認作業に入る。
- 5月27日 2区中低木移植作業開始を確認。移植作業時の立ち会い開始。
- 6月19日 1区南側調査終了し、埋め戻し開始。1号堀調査継続。
- 8月12日 170点以上の鉛弾弾取り上げ。
- 9月5日 2区の大径木移植作業10月中に移植作業終了、11月から2区調査開始予定。
当初「調査不要」とされた箇所でも堀を確認。協議の結果調査開始。（2・3号堀）
- 9月26日 煙硝蔵の可能性も考えた横穴は、調査の結果大戦末期の特殊地下壕の可能性が高く、その後に引き揚げ者が生活していたことが判明。2・3号堀の存在と新旧関係、未買収地にも堀が続くことが判明し、未買収地買収後に本調査を行うこととなる。危険防止のため、一旦埋め戻す。
- 11月7日 2区櫓台跡周辺草刈り工事開始。

が、調査方法をはじめとして、確認された遺構について高崎市教育委員会、高崎市文化財調査委員の指導を受けながら調査を実施した。しかし、櫓台上部の幅は2m程しかないうえに国道17号と鳥川崖に挟まれた狭小な場所であり、一度に断面観察を行うことは不可能であった。このため、一度に1.5m～2.0mを目安に櫓台西半をバックホーで崩し、断面測量を行った後に国道側を崩し、露出した擁壁を解体して撤去するという行程を繰り返す方法を探らざるをえなかった。

また、郭部盛土下の中世遺構群の遺構量が非常に多く、予定期間内の調査終了が困難となった。そこで、5月15日の調整会議において平成15年6月30日までの期間延長が決定し、6月30日に調査を終了した。

平成15年度その2

新たに用地買収と建造物撤去が終了した3区と平成14年度にその存在を確認して一旦埋め戻しておいた堀の調査を平成15年11月1日から平成16年1月31日の予定で行った。3区の調査は2区と逆で、国道に近接して堀が存在するため、17号線との間に土留め安全対策工事を行った。調査は危険を避けるため、深さ5m以内で湧水が認められるまでという範囲内で行ない、平成16年1月31日調査予定地内すべての調査を終了した。

- 11月21日 2区槽台跡安全策設置工事。
- 11月28日 2区調査開始。4号堀調査。
- 1月8日 2区平坦部1m以上の盛土と盛土内石列を確認。
- 1月29日 予想外の遺構が確認され、調整会議において来年度5月までの調査期間延長決定。
- 2月17日 国道17号に隣接し、道路面からの比高7mの槽台調査に際し、擁壁や土砂の国道落下防止用安全対策工事入札を行う。
- 2月19日 盛土下で畠状遺構を確認。
- 2月25日 畠状遺構西半耕作土下遺構確認。土坑・柱穴が密集する。
- 3月28日 槽台調査に向けて斜路を設置。

平成15年度

- 4月14日 槽台断ち割り開始。
- 5月8日 槽台下畠状遺構調査開始。
- 5月15日 調整会議において畠状遺構下の遺構量が非常に多く、6月30日まで調査期間再延長決定。
- 5月16日 槽台部分畠状遺構下遺構確認開始。
- 6月30日 2区調査終了。
3区の買収、建物撤去が終了するまで中断。
- 11月4日 調査事務所設置。調査再開。国道17号付近の堀調査（地表か5m間での調査を予定）のため、安全対策工事準備開始。
- 11月21日 6号堀調査開始。2号横穴も大戦末期特殊地下壕と判明し、本遺構の調査を中止。
- 12月16日 安全対策工事開始。
- 12月24日 3号堀調査開始。
- 1月11日 2・3号堀全景写真撮影。埋め戻し開始。
- 1月31日 調査終了。

II 遺跡の立地と周辺の遺跡

1 遺跡の位置と立地

遺跡の位置

遺跡の所在する高崎市は、関東平野北端付近に位置する。関東平野北部は北を足尾山地に、北西部は秩父山地によって区切られている。関東平野北部、栃木・群馬県平野部のみを見た場合、北側の足尾山地により平地が二分されたような地形となり、足尾山地の東西に鬼怒川と利根川流域の平地が分岐して長く伸びている。高崎市は、平野が分岐して山間部に至る分岐点付近西端に位置する。市域西側は丘陵部となり、丘陵部は次第に起伏を増して信越国境の山々へと続いていく。そのため、傾斜は西に向かって低く、碓氷川、鍋川、烏川が高崎市域に向かって流下し、利根川に合流する。当然のことながら、山間部を流れる河川に沿って平地や谷が伸び、峠を越える重要な交通路となる。

この地形は現在の交通網にも影響を与えている。鉄道を例にとると、鬼怒川合流部付近で高崎線と東北本線が分岐し、高崎駅では利根川に沿って新潟県に向かう上越線、碓氷川に沿って長野県に向かう信越線、鍋川に沿って甘楽部に向かう上信電鉄が分岐する。また、高崎駅と指野の位置にある新前橋駅では、群馬県吾妻郡に向かう吾妻線が更に分岐する。また、道路も川に沿う形で存在し、重要な道路となっている。

江戸時代では、中山道をはじめ、中山道から分岐

2 周辺の遺跡

高崎城は、慶長3年(1598年)井伊直正が幕命により箕輪より和田に移り築いたものである。高崎城は、戦国期の和田城の跡地を組み入れ、烏川の段丘上に構築された城で、三重の堀に囲まれていた。高崎城が完成したのは、安藤氏三代77年間(元和5年:1619年~元禄8年:1695年)といわれている。

して高崎を起点とする三国街道、中山道倉賀野宿を起点とする日光例幣使街道などが高崎を通っており、地形と位置から必然的に新潟と長野を結ぶ交通の要衝となったことが理解できる。

遺跡の立地

高崎市の地形は、西側が烏川右岸の岩野谷丘陵(観音山)、北側が緩傾斜の火山山麓扇状地、中央と東側が平坦な前橋台地となっている(第3図)。前橋台地のほぼ中央には、利根川の流路であった井野川低地帯が伸びる。この低地帯の西側には、前橋泥流堆積物上には砂層や泥炭層が堆積し、上部には更に泥流堆積物が厚く堆積している。この泥流は高崎泥流と呼ばれ、1.1万年ほど前に堆積したと考えられている(第4図)。この井野川低地帯西側は高崎台地とも呼ばれている。⁽¹⁾

遺跡の所在する高崎市高松町は、高崎泥流が堆積するほぼ中央西端に位置する。高崎台地西端は烏川によって泥流堆積物が浸食され、特に高松町付近では比高差8mにも及ぶ崖が形成され、自然の要害となりえた。

この点と先に述べたように、交通の要衝となりうる地理的環境にあったことにより、この地に和田城や高崎城が築かれたのである。

高崎城関連構造物は、三ノ丸堀・乾槽・三ノ丸土塁と東門を残すのみとなっている。今回の発掘調査区は、高崎城の前身となった和田城の縄張り内に存在しており、西曲輪や和田城のものと同定される市指定史跡「槽台跡」を含む地区である。

「高崎」という地名は、井伊直正が、慶長3年築

城の際、城内西方の烏川の崖上にそびえる古松にちなんで松が崎と名付けようとしたが、竜広寺の開山白庵和尚の「松は榮枯あり」という提言を入れて高崎と命名したという。また一説には地域を定めるときに鷹を飛ばせて決めたからだという。

明治以降、高崎城跡地には、群馬県庁を設置。県庁移転後は東京鎮台高崎分営が置かれ、明治17年(1884年)より陸軍歩兵第十五連隊が設置された。近年、本遺跡周辺では、新市庁舎建設計画をはじめ都市計画道路高崎駅西口線建設計画・土地区画整理事業・再開発事業等が計画・施工されており、それら事業に伴う発掘調査が実施されている。その結果、古代から近世に至るまでの遺跡が確認されている。

各時代の遺跡の概要は次のようになる。

弥生時代の遺跡を見ると、本遺跡の南方約1kmに

所在する中期後半の竜見町式土器の標識遺跡である竜見町遺跡、南東2kmに所在する中期後半の土器が出土した競馬場遺跡などが存在する。

古墳時代の遺跡では、1974年に発掘された円墳である頼政神社古墳や、絵図等で前方後円墳と思われる古墳(浅間山)が記載されている場所で古墳が確認されている。

中世の城館址については、主な名称と推定される時期をあげる。烏川左岸では、和田下之城(16世紀後半)、倉賀野城(室町期)があげられる。観音山丘陵には多く城館址が存在する。寺尾上城(南北朝、戦国期)、寺尾中城(南北朝頃か)、寺尾茶臼山城(南北朝頃か)、根小屋城(永禄13年か、16世紀後半)、山名城(寺尾下城)(14・16世紀)、木部北城(戦国期)、木部城(16世紀)、などがあげられる。

弥生時代・中世の周辺遺跡

番号	遺跡名	所在地	主な文献
1	寺尾茶臼山城	高崎市寺尾町	『群馬県古墳遺跡の研究』上巻 山崎一1971 新編『高崎市史』資料編3 高崎市 1996
2	根小屋城	高崎市山名町	同上
3	山名城(寺尾下城)	高崎市山名町	同上
4	木部城	高崎市木部町	同上
5	木部北城	高崎市阿久津町	同上
6	寺尾中城	高崎市寺尾町	『寺尾中城遺跡』2000 歴史文化財調査事業団事業団 『群馬県古墳遺跡の研究』上巻 山崎一1971
7	寺尾上城	高崎市兼所町	『群馬県古墳遺跡の研究』上巻 山崎一1971 新編『高崎市史』資料編3 1996 高崎市
8	竜見町遺跡	高崎市竜見町	『群馬県史』資料編2 1986 群馬県
9	高崎競馬場遺跡	高崎市上中野町	同上
10	和田下之城	高崎市下之城町	『群馬県古墳遺跡の研究』上巻 山崎一1971 新編『高崎市史』資料編3 1996 高崎市

古墳時代の周辺遺跡

1	頼政神社古墳	高崎市宮元町	『国道17号線拡幅に伴う頼政神社古墳の調査』高崎市教委 1966
2	総高崎市第218号古墳	高崎市若松町	『高崎市遺跡分布地図』1998 高崎市教育委員会
3	観音塚古墳	高崎市上和田町	新編『高崎市史』資料編1 原始古代1 1999 高崎市
4	神明塚	高崎市並榎町	同上
5	無縁塚	高崎市並榎町	同上
6	浅間山	高崎市高松町	同上 『高崎城三ノ丸遺跡』1994 高崎市教育委員会

高崎城遺跡調査一覧

遺跡名	遺跡の概要	文献
高崎城Ⅰ遺跡		1・3
高崎城Ⅱ遺跡		2
高崎城Ⅲ遺跡 坪の橋形遺跡	古墳時代前期の土坑や江戸時代の井戸などを確認。	3

II 遺跡の立地と周辺の遺跡

高崎城IV遺跡	坪の橋形及び三ノ丸遺跡	歩兵第十五連隊陣地遺物、江戸時代では陶磁器が1600点と1700点ほど出土した廃棄土坑と思われる遺構。坪ノ橋形の一部を確認。平安時代堅穴住居を確認。	3
高崎城V遺跡	東門及び三ノ丸遺跡	近代では歩兵第十五連隊陣地、送・配水管などを確認。江戸時代の大塚遺物、東門北側土塁、井戸などと中世と思われる幅8m、深さ1.5mの堀が確認されている他には平安時代と古墳時代堅穴住居、弥生時代方形周溝墓が確認されている。	3
高崎城VI遺跡	三ノ丸遺跡	浅間山古墳周溝、奈良・平安時代堅穴住居や高崎城梅ノ木郭跡、二ノ丸堀が確認されている。二ノ丸堀底部には障子堀が認められる。量的には少ないようであるが中世土坑も確認されている。遺物としては古代瓦が多く出土している点が注目される。	4
高崎城VII遺跡	三ノ丸遺跡		5
高崎城VIII遺跡	追手門遺跡	追手門跡と現存土塁間の石組み磨崖と土塁の調査。	6
高崎城IX遺跡	三ノ丸遺跡		5
高崎城X遺跡	梅ノ木郭遺跡	梅木郭内の調査、中世、近世の土坑を中心とした遺構が確認されている。中世遺物の出土が多いようである。	7
高崎城XI遺跡	高松地下駐車場遺跡		8
高崎城XII遺跡	三ノ丸遺跡	古墳時代から近代の土坑、溝、ピットを確認。調査面積は151㎡と狭い。近世陶磁器、木製品などが出土している。	9
高崎城XIII遺跡	三ノ丸遺跡	平安時代から近世の土坑、溝、ピットなどを確認。調査面積は92.1㎡と狭い。近世陶磁器、五輪塔、板碑などが出土した。	9
高崎城XIV遺跡		確実な近世遺構は高崎城二ノ丸堀西端の一部が確認できたのみである。遺構の主体は古墳時代土坑で、滑石製品未製品が集中して出土している。平安時代の瓦が出土したとされているが詳細不明。	10
高崎城XV遺跡			本書
高崎城XVI遺跡		高崎城堀を確認。礎石遺物は近代か。	11

文献

1. 高崎市教育委員会「第10回埋蔵文化財特別企画高崎城を掘る」『丹野高崎遺跡 上 横根下松II遺跡 石原精司地II遺跡 坂塚東金井遺跡 埋蔵文化財展示室について発掘調査概要』高崎市文化財調査報告書第124集 1993
2. 高崎市教育委員会「高崎城遺跡」高崎市文化財調査報告書第81集
3. 高崎市教育委員会「高崎城遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの橋形遺跡 坪の橋形及び三ノ丸遺跡 東門及び三ノ丸遺跡」高崎市文化財調査報告書 第107集 1990
4. 高崎市教育委員会「高崎城Ⅵ「三ノ丸」遺跡」高崎市文化財調査報告書第104集
5. 高崎市教育委員会「高崎城ⅦⅧ「高崎城三ノ丸遺跡」」高崎市文化財調査報告書第129集 1994
6. 高崎市教育委員会「上在野舟橋II遺跡高崎城堀（追手門）遺跡 引間II遺跡 高野明神遺跡 東町II遺跡 南新波大道上遺跡 発掘調査概要」高崎市文化財調査報告書第121集 1992
7. 高崎市教育委員会編「高崎城X高崎城梅ノ木郭遺跡」高崎市遺跡調査会 1993
8. 高崎市教育委員会「高松地下駐車場遺跡」高崎市文化財調査報告書第130集
9. 高崎市教育委員会「高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急調査報告書」高崎市文化財調査報告書第131集 1994
10. 山武考古学研究所編「高崎城XIV遺跡」高崎市遺跡調査会文化財調査報告書第57集 高崎市遺跡調査会 1997
11. 高崎市教育委員会「高崎城XVI遺跡」高崎市文化財調査報告書第193集 2003

3 調査成果の概要

高崎城と和田城

慶長3年（1598）和田の廃城跡に城を構え、箕輪から町家や社寺を移して城下町の基礎を築き、地名を高崎と改めて高崎城と共に城下町が誕生したとされている。慶長5年に井伊氏が佐和山へ移った後、酒井氏・松平氏・安藤氏・大河内氏・間部氏などが城主となった。現在高崎城は、高崎市高松町に所在し、かつての城内には高崎市役所、群馬音楽センター、国立高崎病院などの公的施設が集中している。

この高崎城域を範囲とする高崎城遺跡は、1985年

の高松中学校建設予定地をはじめとして、16次にわたる発掘調査がなされている。これらのうち、1～14次、16次は高崎市教育委員会、15次は群馬県埋蔵文化財調査事業団による調査である。

本書で報告するのは、高崎城の西端にあたる高崎城XV遺跡（15次）の調査結果である。高崎城XV遺跡は、国道17号線と烏川との間に位置し、ほぼ中央に和田橋が架かっている。高崎城の曲輪配置では、本丸と烏川崖との間にあたる。高崎城は西側の烏川崖を背にして本丸、二ノ丸、三ノ丸、城下町と東に

展開する構造である。これに対して遺跡の場所は本丸の西に位置することから西郭とも言われ、防御以外の機能はなく、人気のない郭であったと考えられている。このため、煙硝蔵が置かれたようで「高崎城大意」⁽²⁾や絵図（口絵参照）にその記載がある。

西郭は絵図や縄張り図からもわかるように、崖線とはほぼ直交方向の4筋の堀とそれに伴う2箇所の土塁によって構造がやや複雑になっている。「西郭は一つの帯曲輪であって、：中略：ここでは錯綜した構造はかえって障碍になる筈であろう。つまり、この部分は改修の結果生まれたのではなく、それに先行する地形と考えねばならない」⁽³⁾とされ、これが高崎城築城以前に存在したとされる和田城の遺構と考えられてきた。

和田城の堀に関しては、前橋城本丸の堀形状との比較から大永年間（1521～1528）から天文年間（1532～同55）の約30年間に基本の縄張りが完成したとの考えも出されている⁽⁴⁾。この説は和田城の堀を新しく考える点で重要と考えられる。以上のように、発掘調査前の予測では、和田城主郭とされる堀と和田城櫓台が主な調査となり、状態が良ければ煙硝蔵が確認されると考えていた。しかし、調査の結果は予想外のものとなった。

和田城と考えられてきた堀

調査以前の予想どおり鳥川崖に直行する堀が4本（2・4・5・6号堀）確認できたが、調査範囲が狭いうえに交通量が多い国道17号に近く、堀底まで確認することは不可能であった。幅は、北から順に6号堀が9m、2・3号堀が16m、4号堀が22mと最大であった。相対的な堀の大きさは文化14年（1817）の絵図にはほぼ一致する。5号堀は調査区の関係で確認できなかったが、絵図と確認された堀幅から10m前後の幅を有していたと推測される。いずれも埋没土下部に天明3年（1783）降下の浅間A軽石を認め、埋没状態も高崎城本丸西側堀（1号堀、以下本丸堀）と同様であった。この事実も、和田城

と考えられていた堀も本丸堀と同様な維持管理がなされていたことを示している。

今回大きく予想と異なった点は、今までその存在が全く知られていなかった堀（3号堀）が確認されたことである。現在筆者が確認している範囲内ではあるが、この堀の存在は高崎城絵図に記載がない。3号堀は和田城主郭の北を区切ると考えられていた堀（2号堀）と同じ位置と幅で、本丸西側堀にまで達し、本丸堀に壊されていた。残念ながら出土遺物がなく時期を決定できなかった。更に、調査範囲の関係から発掘調査では確認できなかったが、和田城二の郭北側を区画する6号堀の延長線上にも古い堀が存在した可能性もあると推定される。

調査区はほぼ中央の和田橋交差点付近では、和田城主郭南側の大きく屈曲する堀（4号堀）の調査を行い、一部であるが22mという堀幅を確認できた。しかし、堀の規模が大きいうえに道路に近接しているため、底部や形状を確認することは不可能であった。堀先端部分の大半は和田橋交差点内に位置すると推定され、古い堀の存在や規模の違いを確認することは不可能であった。しかし、従来和田城の堀と考えられてきた堀は、少なくとも江戸時代に規模を縮小して掘り直されたものであったことは確実視される。但し、確認された3号堀の規模と位置が一致することから、形状に関しては大きく変更していない可能性も考えられるが、今回の調査範囲では確認不可能であった。

和田城櫓台

高崎城XV遺跡の南半には、もう一つの主目的である「和田城櫓台跡」が存在する。この地点の調査結果は先の堀以上に予測と異なる結果であった。結論から言うと「和田城櫓台跡」とされていた土塁の築造年代が当初推定されていた年代より百年以上新しいことが判明した。

和田城は高崎城築城以前を描いた「和田城並びに興禅寺境内古絵図」⁽⁵⁾に「和田ノ城」として国道17号と鳥川に挟まれた現在の和田橋交差点付近が記

II 遺跡の立地と周辺の遺跡

されている。和田城築城に関する確かな記録はないが、応永25年(1418)和田信忠による築城、正長元年(1428)和田義信による築城などの説がある。和田城は上杉氏と武田氏による激しい争奪が行われた場所でもあり、記録では水禄6年(1563)から同9年(1566)頃に4回以上にわたって上杉氏の攻撃を受けている。その際、武田信玄が(水禄7年)和田城に「鉄放(砲)之葉・玉」などを運び込むことを命じた記録も残っている⁽⁶⁾。落城は天正18年(1590)とされる。その後、慶長3年(1598)井伊直政は家康の命により、交通の要衝である和田に城を築き高崎と命名し高崎城が誕生した。

次に調査結果であるが、調査の概略を確認された順に説明すると次のようになる。

1. 「櫓台」とされていた土塁と二の郭盛土。従来和田城の遺構と考えられていた面。

2. 盛土の下には旧表土が残り、地表が島の畝状を呈していたことから一時期畝として利用されていた可能性が高い。

3. 島の耕作土下から発見された室町時代から戦国時代の土坑や建物の柱跡群。

これらの中で最も注目されるのは最下層の遺構群である。調査範囲が狭く建物の規模や構造は不明だが、火縄銃の弾や15世紀から16世紀の焼き物が出土している。年代の判明する遺物では1570年代後半か

ら1580年代と推定される瀬戸・美濃産の皿が最も新しい年代である。

この事実は、最下層の遺構面が和田城に関する記録が多く残る時期にあたることを物語っている。今回の調査では最下層の中世遺構をもって城とする明確な根拠は得られなかったが、火縄銃の弾は和田城に鉄砲を運び込むことを命じた記録を想起させ、中国産染付皿や碗の出土量や埴など貝類が出土する点は通常の集落とは考えにくい。

次に盛土造成と土塁築造時期であるが、下限を決定するには、盛土上に構築された遺構の年代が問題となる。しかし、盛土上からは江戸時代の染付磁器小片一点が出土した性格不明の石敷遺構一基が確認されたのみで、他は昭和時代の攪乱であった。遺構から時期決定はできなかったが、高崎城期において西曲輪は人気のない曲輪であったことからすると、遺構が存在しないのも不自然ではない。また、それを示すように江戸時代の遺物も調査区全体で小片が十数点しか出土していない。加えてこれらの大半は歩兵第十五連隊のゴミに混入して高崎城三ノ丸付近からもたらされたものである。この点を考慮すれば、和田城廃城から高崎城築城までの間が畝地として利用されていた可能性も否定できないのではないだろうか。

註

- (1) 中村 正芳「高崎の台地をつくる地層」『新編高崎市史 通史編1 原始古代』高崎市 2003
- (2) 「高崎城大鳥」『新編高崎市史 資料編5 近世1』所収 高崎市 2002
- (3) 山崎 一「群馬古城址の研究 下巻」群馬県文化振興事業団 1978
- (4) 茂木 渉「和田城の縄張りについて - 復元への試み - 」『高崎市 市史編さんだより』第20号 2000
- (5) 『新編高崎市史 資料編3 中世1』高崎市 1966
- (6) 『新編高崎市史 通史編2 中世』高崎市 2000

Ⅲ 確認された遺構と遺物

1 盛土上および高崎城期以降の遺構と遺物

概要

本遺跡で確認された遺構は江戸時代（高崎城期）と2区盛土下に代表される中世以前に大別される。1区と3区では盛土が確認されていないが、遺構と出土遺物の記載に当たり、高崎城の堀を前者に中世以前を中心とした土坑、ピット、竪穴住居を後者として説明を行う。なお、高崎城期に使用されていた2号堀より古い3号堀も説明の都合上前者に含めた。

堀

1号堀

遺構（第7図、P L-1・2）

1号堀は、和田橋交差点より北の1区東端で確認された。この地点は、絵図や縄張り図から和田城主郭南側を区切る屈曲した堀の先端付近が発見されると想定していた場所である。確認当初もこの堀であろうと考えていたが、調査長で26mと北に長く延びすぎることから疑問を感じ始めた。調査箇所から北は攪乱がひどく、プランを確認することは不可能であったが、攪乱外に堀埋土が残る場所が更に北に延び、調査区内だけで38mを確認することができ、和田城主郭の東側を区画するような位置関係となった。この位置関係からは、1号堀が高崎城本丸の西側堀としか考えられないとの結論に達した。そこで再度絵図（口絵参照）を確認すると、本丸西側堀には木橋が架かる場所があり、この箇所の堀幅が狭くなっていることが確認できる。一方、調査された1号堀をみると、南端部が調査区外に曲がる部分が確認でき、ここが木橋に向かって幅を減じ始める箇所であると判断した。

1号堀が位置や長さ、絵図との比較から本丸堀と確認できたことにより、現地と絵図とを対比する定點を得ることができた。また、今回の調査区内で

「和田城主郭」の南側堀が確認できなかったが、地山の高崎泥流が二次堆積している可能性も考慮し、1区南東隅付近（和田橋交差点付近）にバックホーを用いて深さ1m以上のトレンチを入れたが、二次堆積土は認められなかった。この結果、「和田城主郭」南側堀は、縄張り図に認められるような整った形状ではない可能性が高くなった。

1号堀は西側の立ち上がり部分のみの調査であり、本丸堀の中心は現国道17号下に存在する。調査できた幅は上端で最大3m、深さは2.2mまでである。埋土上部には石炭ガラ中に近代遺物を多く含む層があり、下部付近には浅間A軽石を多く含む層が認められた。堀壁の傾斜はセクションB計画地点で50°、後述する3号堀と重複するセクションA計画地点で25°であった。後者の25°という緩傾斜は、重複する3号堀埋土が砂を多く含んで崩れやすいことに起因すると思われる。

出土遺物

1号堀上層出土遺物（第65～80図、P L-26～34）

出土遺物は、堀が埋没する過程の凹みに大量に廃棄された歩兵第十五連隊関連遺物が主体を占める。この近代人為堆積層は石炭ガラを主体とし、亜炭やガラス、陶磁器、金属製品、皮革製品、炭化物などが多く含まれていた。金属製品や皮革製品は腐食が激しく、取り上げ不可能なものがほとんどであった。ガラス製品のなかには被熱によって原形を留めないものも多く認められ、焼却処分されたゴミも廃棄されていたようである。近代遺物のなかには「酒保」などの文字を記した陶磁器が複数認められ、使用場所も明らかとなった。陶磁器の中に生産者番号が認められないことや陶磁器群の特徴、薬瓶に記された銘柄などから、一部の混入品を除き、主体は歩兵第

III 確認された遺構と遺物

十五連隊期のものと考えられた。これらの遺物は量的にまとまっており、時期的にもほぼ大正期から歩兵第十五連隊終末の昭和15年頃と推定される点からも重要であり、以下に概要を紹介しておく。

A. ガラス製品 (鉛を除く)

ガラス製品の大半は瓶である。板ガラス片も少量出土したが図示しなかった。ガラス瓶は、当初の用途により薬品、文具、飲料、化粧品、不明などに大別される。瓶以外ではスライドガラス、鏡、照明具笠などがある。

①薬瓶

処方薬瓶

薬品瓶とした瓶にも売薬瓶と処方薬瓶の2種がある。処方薬瓶は医師の処方で出される飲み薬瓶である。すべて機械製瓶で型の合わせ痕が口元まで残る。目盛りはすべて長い目盛りと短い目盛り各本の計6本の目盛りを浮き出させている。蓋はすべてコルク栓であろう。大きさにより4種に分けられる。定形の19点を図示し、7点は最上目盛りまで水を入れた重さから空瓶の重さを引き、1g1ccとして容量を推定した。但し、内部の汚れや表面張力の問題があり、参考程度の数値である。

小型

26から38の13点がほぼ同じ大きさである。目盛りは長いものと短いものが各3本の計6本である点はすべて共通する。しかし、色調、目盛りの長さ、底部形状により細分される。

目盛りであるが、長い目盛りが型痕から型痕まで、短い目盛りが型痕から中央までの外周1/2-1/4型をI類。長い目盛りが型痕から外周1/4、短い目盛りが1/8をII類。基本的にはI類であるが端部が型痕から明らかに離れているものをI'類。目盛りの長さはII類と同じであるが、端部が型痕から離れ、かつ目盛りのある側を正面とした場合、目盛りが右側に存在するものをII'類とする。底部形状は土器でいう「蛇の目高台」状に幅広の高台状接地面を有し、中央がやや丸みを持って窪むものを1類。幅の狭い高台状の接地面を有し、中央の窪みが平坦なものを

2類。陶磁器の蛇の目凹型高台状に2類の中央が更に円形に窪むものを3類とする。色調は薄青をa類、透明をb類、どちらともつかないごく薄い青をx類とする。この異なった観点での分類を組み合わせると以下ようになる。

I-1-a類:26、27、28。

I-1-x類:29。

II-2-b類:30、31、32、33、34、35。

II-2-x類:36。

II'-2-b類:37。

I'-3-b類:38。

II-2-b類の中でも目盛りの太さによって更に2分できるが、13点の瓶は4つに大別することが妥当であると考えられる。

容量はI-1-a類:26が26.5cc。II-2-b類:34が25cc。II'-2-b類:37が26.8cc。

I'-3-b類:38が28.8cc。

中型

中型は2点のみで、39はI-1-b類、40はII-2-b類に分類される。容量は39が48.6cc、40が52.8ccである。

大型

大型は3点存在するが、同一タイプは存在しない。44は目盛りを右側に刻むが、左側にはラベルを貼付するような長方形の窪みを設けている。この目盛りタイプをII'類とすると、44はII'-2-b類となる。41はII-2-b類。43も目盛りの刻みが小・中瓶には認められない1/2-1/8タイプである。これをI'類とすると43はI'-2-b類となる。41の容量は86.7ccである。43にはコルク栓が残存している。

特大

42の1点のみで、容量は164.1ccである。II'-2-b類に属する。

売薬瓶

売薬瓶は形状・色調ともに多様である。瓶の浮き文字によって薬名が判明するものに「神薬」、「ロート目薬」、「全治水」、「旭丹」、「仁愛」がある。なお、

文字がない場合、売薬瓶と断定できないが、形状からここに含めたものがある。

「神薬」と「ルート目薬」は各地で出土が報じられており、ポピュラーな存在である。いずれも瑠璃色を呈する。「新薬」瓶は2点出土し、いずれも「資生堂製」の浮き文字があるが、複数存在した「資生堂」のうちどれかについては不明であるが、1は「東京日本橋」とあることから、「本町資生堂」か「室町資生堂」と推定される。⁽¹⁾機械製瓶で面取りされた長方形の対角線上に型痕が残る。

「ルート目薬」はルート製薬の前身「本舗山田安民薬房」が製造販売した目薬である。機械製瓶で対角線上に型痕が残る。瓶側面にはスポイトを取る窪みを備えている。「日本の新聞広告1000（明治24～昭和8年）」⁽²⁾によると、昭和7年の「ルート目薬」広告に新容器（ゴムを押さえて点眼するタイプ）の説明が大きく掲載され、昭和2年の広告には紹介されていない。また、「暮らしの中のガラスびん」⁽³⁾では昭和6年発売とされている。したがって、この目薬瓶の年代は、昭和6年頃以前と考えられる。

先に説明した処方薬瓶を小型にし、歪んだ広い口縁部を有する瓶が3点出土している。中型瓶の5は体部に「全治水」、「東京尾澤製」の浮き文字がある。全治水は「たむし、水虫、しらくも」をはじめ「一切の皮膚病に用いて大効あり」とされる皮膚病の万能薬である。製造元は東京牛込区尾澤豊太郎である⁽⁴⁾。4は全治水の瓶より小型、6は大型で文字がないが、同形態のためここに含めた。5・6は型の合わせ痕が残るが、4は型痕が見えない。

8から11の4点は無花果型を呈した瓶である。8・9は貼付されていたラベルがなく、薬名や製造所が不明である。10は浮き文字で「旭丹」、「松島一天堂」とある。松島一天堂は、「浪花ぶし赤垣源藏薬廣告」⁽⁵⁾によれば「江州甲賀郡大原 本舗 松島一天堂」とあり、四つの薬名が掲載されている。これらのひとつに「旭丹」があり、毒消しなどの機能をうたっている。11には浮き文字で「隆盛堂」、

「登録商標 仁愛」と記されている。いずれも小粒の薬を入れたコルク栓瓶であろう。9を除き口元まで型痕が残る。

12から22は体部が棒状を呈した瓶である。本来ならば不明に含めるべきかもしれないが、容量が少ないことから薬瓶として分類した。12から15は器壁が薄く透明で、頸部が短い。16から22は器壁が厚く頸部が長い。17から22は透明薄青色を呈し頸部が長い。16のみ透明でやや太いうえ、頸部の長さも前者と後者の中間である。器壁は最も厚い。

24、25は瓶ではないが、薬瓶に付属するガラス棒であろう。24には薬と思われる白色物質がこびり付いている。

その他

7も瑠璃色を呈した瓶であるが、体部下半のみの残存で形状は不明である。機械製瓶で型痕が明確に残る。体部に「ムシトリ」の浮き文字が見える。殺虫剤の可能性はあるが、ここで説明する。

23は平底で体部はやや厚い試験管のような形状である。上部は水平ではないが、端部に丸みがあり欠損ではない。この種の薬瓶も存在するためここに含めた。45はスライドガラスと考えられ、陸軍病院において検査用に使用された可能性を考慮してここに含めた。

②文具

インク瓶

インク瓶と糊瓶を文具とした。インク瓶は3種に大別される。体部水平断面が方形で、体部の中心に口を設けるタイプをⅠ類、体部水平断面が方形であるが、体部隅に口を設けるタイプをⅡ類、水平断面円形の体部外側に頸部を設けるタイプをⅢ類とする。この分類と処方薬瓶での色調分類を組み合わせで表記すると以下のようなになる。Ⅰ類とⅡ類の底部には○内に「M」の浮き文字があり、Ⅱ類の側面には左から「実用新案登録」、「No3218」の浮き文字がある。Ⅲ-b類底部にはエンボスの「+」と小枝マークがある。すべての瓶の体部から頸部まで型痕が

III 確認された遺構と遺物

明瞭に残る。

I - a 類：46から51。

I - b 類：52、53。

II - b 類：54。

III - a 類：60、61。

III - b 類：55。

樹瓶

薄い黄緑色がかった色調のヤマト樹瓶（56、57、62）およびヤマト樹瓶に形状と色調が似た58、63を樹瓶とした。ヤマト樹瓶に完形品はないが、残存状態が良好な62により全体の特徴を知ることができる。体部上段には右から「登録商（標）」、中段には「ヤマト樹」、下段には「木内製」、底部には「ヤマ（ト）」の浮き文字がある。56は文字の入らない側の体部から口縁部が残存する。底部には「（ヤ）マト」の一部が認められる。57は体部中段に右から「ト」の一部と「樹」、下段に「製」、底部に「ト」の浮き文字が残る。型痕残る。58、63は頸部2カ所に段を有し、ヤマト樹瓶に比して細く、器高が高い。底部にエンボスの☆マークがある。体部下端から口縁部まで型痕明瞭に残る。

ヤマト樹の商標登録が大正12年、東京都中央区に移転して「ヤマト樹工業株式会社」に改組したが1938（昭和13年）である⁶⁾。従って、56のヤマト樹が生産されたのは大正12年から昭和13年の間に限定することができる。また、57、62の2点も厚さが若干異なるものの、形態や色調、文字が近似しており、同年代の製品と推定される。

③化粧品瓶、用具

紙ラベルが残存しない中、確実に化粧品瓶と判明するものは59、68、71の3点のみである。59は小型広口瓶で、「君が代」の浮き文字から白毛、赤毛染めと分かる。黒色粉末の内容物が残っていた。東京市浅草区蔵前片町10番地 山吉商店の製品である。体部方口元まで型痕が残る。71の体部には「ホーカ一液」、裏側の下部に「堀越」、底部にも「堀越」の浮き文字を入れている。ホーカ一液は大正期に売れ

た東京神田和泉橋際 堀越嘉太郎商店による化粧水である。68は白色ガラスで天井部外面にエンボスで「CREME」、「LAIT」の文字と文様を描く。記された文字から、平尾賢平商店の「クレーム・レート」という肌用クリーム瓶の蓋ということが分かる。クレームレート（レートクレーム）の発売は明治42年からと長期間販売されているが、大正15年から昭和5年の新聞広告に見える蓋のデザインに近似している。67も白色不透明瓶という典型的なクリーム瓶で中身のクリームも残っている。商品名などは不明である。

64、65、66、69、70は形状から化粧瓶と推定した。64は共栓で装飾的な瓶である。66は薬瓶の可能性も考えられる。69は底部に右から「プレミア」の浮き文字があり、内部に白色物質がこびり付いている。70は水平断面円形の瓶で、化粧水か精油などの瓶と推測される。65は共栓で、ラベルを貼付するために側面を窪ませている。70を除き型痕が明瞭に残る。

72、73、74は鏡と推定される板ガラスである。73は片面に塗膜がのこり、一部が鏡状に反射する。72は73と同じ形状を呈する。塗膜は残存しないが、塗膜痕跡と思われるくもりが認められる。共に鏡付き粉歯磨の鏡と同形・同大で、歯磨の鏡の可能性が高い。74は円形板ガラスであるが、72同様塗膜痕跡と思われるくもりが片面に残る。歯磨の鏡にも円形が認められ、同厚、同大である。

④飲料瓶

飲料瓶で内容物が特定できるのはサイダー、ラムネ、ビールの3種である。底部のキックなどからワインと推定される瓶は出土していない。

サイダー瓶は75から78の4点が図示可能であった。76、77、78は底部にエンボスで三ツ矢マークと「三ツ矢」の文字を表している。76は底部形状が異なり、「三ツ矢」の文字も左回りで、三ツ矢マーク中央に「B」の文字がある。75は口縁から肩部片で、頸部に突帯を巡らす。いずれも暗い緑がかった色調である。

中型で茶色の瓶をビール瓶とした。79は体部下端に「Sakura Beer」、右から「サクラ・ビール」の浮き文字がある。85には右から「大日本麦酒株式会社醸造」、「登録商標」の浮き文字がある。サクラビールは大正2年(1913)帝国ビール株式会社により発売され、1929年桜麦酒株式会社と名称変更した後、昭和18年(1943)に大日本麦酒株式会社と合併して姿を消している⁽⁷⁾。一方、大日本麦酒株式会社は明治29年(1906)に誕生し、昭和24年(1949)に過度経済力集中排除法により2分割されるまで続いた最大手メーカーである。なお、昭和11年に発行された「大日本麦酒株式会社三十年史」⁽⁸⁾に掲載された「当社の製品」ラベルには「DAINIPPON BREWERY」と記されており、85はより古い時期の瓶と考えられる。80、81は王冠栓ビール瓶の口縁から肩部である。82から84は底部で、84は浮き文字最下部で割れており製造所不明。82と83は文字がなく製造所は不明である。

ラムネ瓶は1点(87)のみ図示可能であった。88は透明瓶であるが、形状から洋酒瓶と思われる。

⑤飲食具

86は「剣先グラス」と称される、外面に蓮弁状の文様をカットグラス風に陰刻するグラスである。高台内の抉りは深く、底部はアーチ状を呈する。

⑥調味料瓶

明らかに調味料瓶と判明するのは1点(89)のみである。体部の一方に下から「LEA&PERRINS」、肩部に「(WORCESTER)SHIRE (SAUCE)」(内欠損)の浮き文字があり、イギリス ウスターシャーのリーベリンソース瓶である。体部と頸部に型痕が明瞭に残る。

90、91、92はコルク栓で薄青色を呈したなで肩の瓶であり、調味料瓶の可能性もある。特に92は内部に黒い内容物が付着している。93、94も薄青色を呈したなで肩の機械栓瓶である。機械栓瓶は「日本酒、醤油、牛乳用の瓶に、大正末期から第二次大戦前

で盛んに」⁽³⁾ 使用されたようである。

⑦照明具笠

出土した照明具笠は、すべて電球の笠と推定される白色系のガラス製であった。器壁が薄いために接合率が悪く、6点のみ図示できた。白色ガラス製(104、105)、乳白色ガラス製(106、107)、貼り合わせガラス製(透明ガラス内面(電球側)に白色ガラスを貼る)(108、109)の3種がある。

⑧用途不明

110は水平断面円形のガラス棒中央に直径0.6mmの穴が開いている。透明度が高く、温度計破片の可能性が高い。

90、91、101、102、は比較的器壁が薄い透明薄青色の瓶である。103は形状から薬品瓶の可能性が考えられる。102も肩部が張った形態である。底部にはエンボスの「☆」マークが認められる。101の体部は上に向かうに従い細くなっており、体部からなめらかに頸部に至る形状の瓶と考えられる。接合しないが、上部は91のような形状であろう。90もなで肩の瓶口縁部と考えられるが、二次的な被熱で変形している。調味料瓶であろうか。

95から99の5点は小型ネジ栓瓶である。口径に大きな違いは認められないが、高さは、95、96が低く、97が中間で98、99が高い。また、器高が高いほどネジ山が長く、2段部分が多い。100もネジ栓瓶であるが、大型で器壁が薄い。

113は小型シャーレのような形状の蓋である。112は合子のような形状の身である。両者共に透明度が非常に高く型痕が認められない。111は厚手の板ガラスで一方の角を面取りしている。

B. 陶磁器類

出土陶磁器は、出土地点と文字資料から歩兵第十五連隊で使用されたものであることは確実視される。出土器種は、兵営生活を物語るように盃、徳利、湯飲み、碗、鉢、皿、急須などの飲食器の出土が主

Ⅲ 確認された遺構と遺物

体となっている。また、少量だが文房具、暖房用具が認められた。以下器種ごとに概要を述べる。

①磁器壺

本遺跡出土壺で注目されるのは酒保で使用された一群（114～120）である。壺はやや高めの高台から緩く内湾して開く形態で、白磁の見込みに青い上絵具で「酒保」と縦書きしている。上絵具は取れやすく、痕跡のみ残る個体もある。

また、口縁端部が小さく外反するタイプの白磁2片には、それぞれ「所准土」（122）の上絵痕、「兵第」（123）の黒色上絵が認められた。前者は文字間隔と後述する徳利の文字から「准士官下士集会所」、後者は「歩兵第十五連隊（酒保）」の文字が記されていたと推測される。

②磁器小碗

ここでは小碗としたが、用途としては湯飲みとぐい呑みが想定される。小碗にも酒保で使用されたもの（129、130、131、133）が出土している。すべて同じ器形で、白磁の体部外面に「酒」、「保」の二文字を青の上絵具で相対する側に書いている。128と132には文字が認められないが、欠損部に存在したと考えている。上絵は壺と同じ色調で、焼成若しくは上絵具の性質のせいかわがれやすい。

他に湯飲みにしては小さすぎる小碗が3点あり、2点は吹き墨で1点は上絵である。1点に二次的な被熱痕が認められる。

③湯飲み

湯飲みには陶器、硬質陶器、磁器の3種がある。なかでも硬質陶器は本遺跡を特徴づける遺物である。調査範囲が狭いためか、湯飲み以外の硬質陶器は出土していない。本報告において、硬質陶器と陶器の区別は、胎土と釉の特徴、高台端部の施釉、吊り焼きの支えビン痕で行った。

硬質陶器は10点図示し得た。高台内には方形枠内に篆書風の「硬陶」銘を入れるもの（138、141）と「NY」を組み合わせたマーク上に「硬質陶器」と

記すもの（146、147）がある。「硬陶」銘の141には口縁部外面に「☆」マークがある。「NY」マークの147にも「☆」マークの一部が認められ、両者共に陸軍用に生産された製品であることが分かる。前者は銘、文様共に呉須の色調であるが、後者は銘が黄緑色、文様が呉須の色調を呈している。口縁部片2点にも呉須による「☆」マークが施されているが、どちらの銘に伴うかは不明である。すべて下絵である。他の4点は残存部無文、無銘である。

硬質陶器に施された銘2種は、仙台城二の丸第12地点⁽⁹⁾における「1類」、「2b類」にあたり、NとYを組み合わせたマークの後者は、日本硬質陶器株式会社製の製品と考えられている。

磁器は19点図示可能であった。148から153の6点は軍用に生産されたと考えられる製品である。149は青の上絵具による「下」、「土」の2文字が残り、151には同じ上絵具で「()村」と記される。150は上絵文様の間に黒色上絵具で「萩原」の名が記されている。152には「西澤」の上絵痕が残る。これら4点は使用者と使用場所が特定される遺物である。153は金色上絵具による圏線と陸軍を示す「☆」マークが描かれる。なお、☆マークは絵具が完全に剥落しており色は不明である。148は金色上絵具による圏線のみであるが、下士官以上の使用者が想定される。

154から159の6点は現存部白磁で、159は完形である。陸軍用に生産（上絵付け）された湯飲みと白磁湯飲みは、やや透明感のある外観や胎土、器形、厚さに共通点があり、同一産地（地区）で生産された可能性が高い。なお、通常の文様を描いた160、161、163も共通の特徴を有している。

166は1点のみ色調が白色不透明で異質である。文様も緑色下絵具による2本圏線を口縁部外面に施し、国民食器と称された器の特徴を有している。胎土、色調が唯一異質であること、図示していないが、表土から同種の破片が出土していることから混入の可能性が高いと考えている。

陶器は3点のみで相馬焼（168）以外は制作地不

群である。

④碗

今回の報告中最も目立つ遺物として高台端部を除いて青緑色釉を施した磁器碗18点が(170-187)挙げられる。18点の胎土、色調は同じであるが、高台の大きさや腰部の丸みなど器形にばらつきが目立つ。また、数は2点(188、189)と少ないが、茶色釉を施した磁器碗も認められる。なお、188は平碗で雑な上絵が認められる。

染付磁器碗は3点のみで、型紙摺りの丸碗(192)、銅版転写の丸碗(190)、手描きの平碗(191)各1点である。192はやや大型で蓋が伴う可能性がある。

⑤鉢

図示可能な鉢10点はすべて磁器で、上絵が1点、型紙摺りが3点、他の6点は銅版転写である。銅版転写の6点は口縁部が内湾するもの(193、194)と外反するもの(196-199)に分けられる。更に後者の文様は鳳凰文と龍文の2種がある。型紙摺りの鉢は201と202が揃いである。

⑥徳利

本来はすべてに使用場所を示す上絵文字が記されていたと考えられる。上絵文字には「歩(兵)第十(五)連隊 酒保」(205)と「准士官下士集会所」(206)の2種があり、前者には高台内に「逸山精製」、後者には「幹山精製」の染付がある。

⑦急須、土瓶

急須はすべて陶器で、4点が万古風陶器、1点が施釉陶器である。土瓶3点はすべて磁器である。万古風急須の内1点(210)の体部には、蓋や徳利と同じ青色上絵具で「見習士官用」の文字が大きく書かれている。また、口縁部、取っ手端部、注ぎ口端部には金色上絵具で縁取りがなされる。付近からは、つまみ上部を金彩し、天井部に「歩十五」と青色上絵具で記した蓋が出土している。金彩が施され

1 盛土上および高崎城期以降の遺構と遺物

ていることから、両者はセットになるものと考えられる。他の万古風急須には文字がなく、端部縁取りも透明釉もしくは灰釉と思われる釉を使用している。

土瓶の内1点(215)には青色上絵具で文字を記している。底部片は文字の一部のみであるが、同一個体と推測される体部片には「士」が見受けられる。

⑧火鉢

火鉢には陶器と磁器の2種があるが、陶器(225、226)も磁器を意識した製品で、白化粧後に染付、施釉している。すべて手あぶりとも称される小型火鉢である。

⑨その他

個体数の少ない焼き物としては、表裏二つの型を合わせて作る土人形の鯛持ち恵比寿やクローム青磁の朱肉入れ、箸立て、銅版転写の水筒などがある。また、数少ない調理具としてすり鉢、焙烙各1点が図示可能であった。

歩兵第十五連隊とは時期的に異なるが、幕末期の三田青磁(229)は注目される。型作りで外面に凹凸の大きい文様を付け、少なくとも2回青磁釉を施している。鉢の体部片と推定される。歩兵第十五連隊関連遺物の中に「酒保」⁽¹⁰⁾や「下士集会所」(第134図、第135図参照)で使用されたものが多く含まれ、江戸期の三田青磁も高崎城三の丸あたりで使用・廃棄されたものが連隊ゴミに混入して再び本丸堀に廃棄されたものと考えている。また、同様に高崎城三の丸付近からもたらされたと考えている資料に轆轤成形の焼塩壺(235)がある。

C. 石製品

出土した石製品はすべて硯で、小型(249)が1点認められる。

D. 銅

①金属製

Ⅲ 確認された遺構と遺物

緑青を吹いていることから銅又は銅合金製と考えられる。全て丸みを帯びた表側の内面に「 Ω 」形の糸金具を貼り付け、表側の裏には板状の裏金をはめ込む「合わせ釘」である。形状は全て同じであるが、大きさによって明確に区分できる。いずれもメッキの有無は不明である。

A類：大型。33点出土し、状態が良好な10点を図示した。

B類：中型。18点出土し、状態が良好な8点を図示した。

C類：小型。2点出土し、状態が良好な1点を図示した。

他に、衣類に釘を付ける際に衣類裏側に付けると推定される金具1点も出土している。

②骨・角製

樹脂製ではないうえで、肉眼観察や実体顕微鏡観察に於いても木製品とは考えにくく、骨若しくは角製として報告する。

釘の基本形は糸穴周囲の形状と穴数から2種に大別され、周縁の形状から更に細分される。

I A類：糸を通す穴4つと中心の穴が貫通し、計5つの穴を有する。表側は糸穴の外側に接するように窪みを作る。周縁は丸みを帯びた幅広の土手状を成す。270、271、272の3点が本類に属する。

I B類：I A類と同様に糸を通す穴4つと中心の穴が貫通し、計5つの穴を有する。表側も糸穴の外側に接するように窪みを作る。しかし、周縁の高まりは丸みを帯びず平坦な点がI A類と異なる。273、274の2点が本類に属する。

II A-1類：糸穴は4つで、中心の穴は貫通していない。表側の糸穴周囲は広く平坦となる。また、周縁は幅2mm程の丸みを持った土手状を呈する。最も数が多く、275、276、277、278、279、280、281、282、289の9点が本類に属する。

II A-2類：II A-1類の大きいタイプを本類とした。1点のみ(283)出土した。

II B類：糸穴は4つで、中心の穴は貫通しない。

表側糸穴周囲の平坦面は狭いものの、糸穴には接していない。糸穴部平坦面の外側には狭い溝を巡らし、周縁は幅3mm程の丸みを持った土手状を呈する。284、285、286、287、288の5点が本類に属する。

③ガラス製

35点出土している。色調は白色不透明からやや灰色味を帯びた白色不透明で光沢を有し、一部に不純物を含む。歩兵第十五連隊防着等の釘であろう。直径は最小で約10.5mm、最大で11.7mmと1mm程の範囲に収まる。また、最大厚は2.6mmから3.0mmと大きな違いはない。周縁部の厚さは0.8から2.0mmと1.2mmもの違いがあり、薄い個体と厚い個体の違いは一目瞭然である。しかし、計測値(0.2mm単位スケールルーペで計測)を見ると数値にまとまりがなく連続している。糸穴部分の窪み平面形も仔細に観察すると円形と隅丸長方形の二者があるが、周縁厚さなどの相関関係は認められない。従って、分類は不可能である。

E. 金属製品

標章・肩章

連隊番号4点と陸軍を示す☆マーク2点が出土している。いずれも緑青を吹き、銅又は銅合金製と考えられる。これらのうち連隊番号2点と☆マーク2点を図示した。いずれもメッキの有無は不明である。

連隊番号は標章と推定され、「1」の上半と「5」の下2/3が残存する個体を図示している。連隊番号標章は、0から9の10種用意され、その組み合わせで連隊番号を示す。従って、図示した標章の「1」と「5」は歩兵第十五連隊を示すと考えられる。図示し得なかった2点は細片のため、数字の判読は不可能であった。

陸軍星マークは、凹凸が少なく谷間の切れ込みが浅い327と凹凸が大きく谷間の切れ込みが深いより立体的な328がある。標章か肩章であろう。

その他

先に説明した徽章・標章や鈕以外の金属製品は、大きく銅・合金製品と鉄製品に分けられる。前者には煙管やライフル弾、がまぐち金具などがあり、後者には引き手、缶、ボルトなどがある(図示していない)。煙管の大半は刀豆煙管と呼ばれるタイプであるが、火を落とす際にかなり乱暴に扱っていたのか雁首上面が大きく凹み、変形が著しい。ライフル弾は二次的な被熱を受けており、鉛製弾芯が溶け出している個体が多い。また、薬莢の出土はない。

F. 歯科衛生用品

歯ブラシと爪楊枝と推定される製品を歯科衛生用品とした。1区1号堀(高崎城本丸堀)上層から出土した製品はすべて肉眼観察で骨製と推定している。

歯ブラシ

近代骨製歯ブラシは仙台城二の丸跡第12地点から大量に出土している。本遺跡出土歯ブラシは、すべて舌苔を除去するための「舌こき」が付かない仙台城二の丸分類⁽⁹⁾のI類にあたる。また、植毛部背面に溝を刻む、仙台城分類「A類」は2点と非常に少ない。このため、本遺跡では、全長、把柄部形態を中心とし、銘と植毛数を加味して分類を行った。前記2点以外の歯ブラシは、頭部先端から植毛列の穴下部を貫くように穿孔している。従って、植毛列数と頭部先端の穿孔数は必ず一致する。頭部先端穴の直径は約1.2mm、植毛穴の直径は約1.4mmである。一部であるが、頭部先端穴を同一素材で塞いでいる例がある(口絵4)が、すべての歯ブラシが塞がれていたか否かについては判断できない。

以下、同じ特徴を有する個体が複数存在するものについて4つに大分類し、単体のものはその他として概略を説明する。

I類

全長15cm前後と長く、把柄部横断面が厚い薄錐形を呈するものをI類とした。I類内の細分は、4列19:20:20:19行植毛を1類、4列20:21:21:20

行植毛を2類植毛部側を左にして「CORBEILLE」の刻印を入れるものをa類、反対に植毛部を右にして「CORBEILLE」の刻印を入れるものをb類、「Super Fine」の文字を筆記体で刻印するものをc類とした。頭部が欠損した個体も分類したが、これは植毛行数こそ不明であるが、残存部の観察から4列植毛であることは確実視されたこと、植毛行数が多いI-2-b類とは把柄尻から植毛端部までの距離に明らかな違いが認められたことによる。

I-1-a類:377、378、379、380、(381、382、383、384、385)

I-1-b類:386、387、388、389、390、(391)

I-1-c類:392、393、394

I-2-b類:395

II類

全長が13cm弱と短く、把柄部と頭部境に溝と装飾的な段差を設ける。完形品6点はすべて3列18:19:18行植毛である。背面に湾曲した個体もあるが、個体差が大きく当初の反りは不明である。全長は同じであるが、把柄部と頭部境の溝と把柄尻までの長さに違いが認められる。長い一群を1類、短い一群を2類とする。1類の刻印は「SUPERFINE」。2類は2点共に刻印は認められない。2類の刻印は摩滅している可能性もあるが、ルーペによる観察で痕跡すら確認されていないこと、1類のすべてで刻印が確認できることから、刻印が施されていない可能性が高いと考えられる。

II-1類:396、397、398、399、400

II-2類:401、402

III類

全長13.2cm程で、把柄部横断面が三角形を呈することを特徴とする。全長は同じであるが、把柄部に厚みがあり中央の稜線が明瞭な一群を1類とする。1類の植毛は3列18:19:18行で刻印は「Extra Fine」である。2類は把柄部がやや薄く、中央稜線が鈍い。また、植毛は同じ3列であるが、

Ⅲ 確認された遺構と遺物

19:20:19行と1行多い。7点すべてに刻印が見え
たらず、施されていない可能性が高い。417は
把柄部形態のみではどちらに分類するか迷う個体で
あるが、植毛行数により2類とした。

Ⅲ-1類:403、404、405、406、407、408、409、
410、411

Ⅲ-2類:412、413、414、415、416、417、418

Ⅳ類

全長13.3cm程で、把柄部横断面形が幅の狭い蒲鉾
形を呈する。把柄尻は尖る。頭部横断面形は長方形
をなし、植毛は3列17:18:17行である。刻印は
「SUPERFINE」。点数は2点と少ない。

Ⅳ類:419、420

その他

421と422は頭部背面に溝を切って植毛するタイプ
であるが、把柄部の特徴は全く異なる。また、421
の植毛部は唯一内湾している。423は把柄部横断面
形が三角形を呈する点はⅢ類に近いが、全長が1cm
ほど長い点や4列植毛である点が異なる。把柄部稜
線を一部削って平坦面を作り、「TOKUSEIHIN」刻
印を施す。形態は異なるが、424も刻印を打つ場所
を設け、「SUPER FINE」と記している。また、
424は本遺跡出土資料中最も多毛束植で、その数は
4列25:26:26:25行である。

他に把柄部に特徴を有するものとして425、426、
427、428、429がある。425と427は共に把柄部中央
がくびれるが、厚さや形態に違いがあり、刻印も前
者が「SUPERFINE」?、後者がマークを挟み
「TRADE」と「MARK」、更に判読不能刻印と違い
がある。576は細めの把柄部で頭部との境が不明瞭
である。428は断面形状が楕円形、平面形状が紡錘
形をなし、象マークと判読不能であるが刻印を入れ
ている。429の把柄部は棒状を呈する。頭部は欠損
しており不明である。430の把柄部には鳥羽根マ
ークの左に「TRADE」右に「MARK」刻印を施す。
431は唯一の大型で把柄部、頭部共に幅が広く、他

用途のブラシの可能性はあるが、材質や植毛方法な
どの製法は同一である。

楊枝

439は一方を細く加工した棒状をなす。440は羽子
板状を呈し、先端を左右から削って尖らせている。
材質は歯ブラシと同じ骨製と考えられる。

歯磨き粉

金属製品であるが、浅い缶状を呈した器の外面に
ガラス製鏡をはめ込んだものが出土(369~375)し
ている。状態の良い個体を観察すると、鏡は蓋の天
井部外面に付けられているようである。ガラス鏡の
形状は、方形と円形の2種が確認できる。割れ口か
ら観察できる鏡の大きさは、ガラス製品で説明した
72、73、74と同じである。

確証はないが、類品に小林富治郎商店のライオン
歯磨き缶(PL-42参照)がある。歯ブラシも多量
に出土しており、歯磨き缶の可能性を考慮しておき
たい。

同種の缶は小林商店発行「歯磨の歴史」⁽¹⁰⁾に
「明治43年型録所載 粉製家庭用鏡付5號罐」として
紹介されている。

なお、チューブ入り歯磨きは明治末に国内メーカ
ーから発売されている⁽¹¹⁾が、「歯磨の歴史」には
「昭和七年には軍部方面の切なる要望に酬ひて、粉
磨の外、新たにチューブ入り煉り歯磨きをも製造し、
多大の好評を博してゐる。」とも記されている。し
かし、今回の調査では練り歯磨きチューブの出土は
確認できなかった。

G. 円弾、椎実弾(第81・82図)

南端付近の確認面近くからは、円弾172点と椎実
弾2点(第81図1・2)が直径3m程の狭い範囲か
ら集中して出土した。出土層位も同一で、浅間A軽
石を多く含む層の上位に位置していた。しかし、彈
丸と同じ場所、同じ層位から近代遺物の出土はなく、
調査時の所見では彈丸出土層位はより下位に位置す

ると判断された。これは、近代遺物包含層から円弾の出土が皆無であることや、弾丸集中箇所から近代遺物が出土していないことから考えても肯定されよう。ただ、弾丸以外の出土遺物がなく、調査所見のみからの年代は浅間A軽石降下（1783年）後から大正時代頃としかいえない。

椎実弾には旋条痕が認められ、円弾には凹みやつぶれた個体が多く、重量計測でもつぶれていない個体と重さが変わらないことから、発射された際に物に当たって潰れたり変形したと考えられる。円弾を詳細に観察すると、変形していない個体にも幅2mmから3mmの平坦面が円周上を巡る個体が多く、平坦面に擦れ痕も認められる。このことからほとんどの円弾は発射されたものと解される。また、調査時には付近に円弾製作場所があった可能性も想定し、集中して出土した箇所の塵土を篩いかけたが、細片や不良品、鉛小塊や鉛粒などは確認できなかった。

変形が認められない個体にも発射痕らしき痕跡が認められ、かつ大量に出土していることから、射撃練習に使用された可能性もある。昭和期の図では出土地点の北側に射撃場が存在したようである。

椎実弾が使用される時代でも、短距離の射撃練習には狭弾とよばれる円弾が使用されているが、第二次大戦期の狭弾弾径は、より小さいようである。より古い時期の狭弾がどのような物であったかは今後の課題としておきたい。

焙烙

本丸西側は高崎城の曲輪配置からして人気のない曲輪であり、それを示すように近代以前の焼き物は内耳焙烙形が1点（第83図1）7層から出土したのみである。

2・3号堀

遺構（第8図、P L-2・3）

2号堀はP L-2にも明らかのように、その痕跡が調査以前から比高差2m程の段差となつて残っていた。本堀は絵図や縄張り図から「和田城」主郭北側の区画溝に比定される。この場所は、調査開始時に

は事務所用地として使用していたり、未買地が存在したことから、1区南側の「和田城」主郭内部と1号堀から調査を開始し、1号堀と2号堀に重複する3号堀（1・2号堀より古い）を確認した段階でこの地点の作業を中断し、未買地が解決した時点で堀の調査を行った。調査にあたっては、3号堀の規模・形状・年代を知ることは、和田城、高崎城研究にとって重要と判断され、3号堀を少しでも多く調査するために国道17号との境に深さ5mまで掘削可能な仮設土留工事を行った。

この場所は構造物があったため、深さ2m付近まで掘削が複雑に及んでいることと調査範囲が狭く、確認面上端で調査可能長が27mであることから、堀を重複通りに調査することが不可能と判断し、新旧関係を確認した上で同時に掘削を行った。堀は存在を確認した段階で壁の傾斜が70°と急傾斜で人の出入りが不可能であることや確認面で2号堀と3号堀は幅が16.5mあることを確認していたので、掘削はほとんどロングアームのバックホーで行い、壁際の精査のみを人力で行った。調査地は鳥川崖と県下最大の交通量を誇る国道17号線に挟まれた位置にあり、危険防止の観点からも底部は確認面から3m、現地表からの深さ5mまで、湧水が認められた場合には上記以下の深さでも調査を中止することを前提に作業を開始した。

調査の結果、2号堀、3号堀の断面形状と幅は同じであり、埋まった3号堀の形状をなぞり、長さを短くして再掘削したのが2号堀であると判断された。2号堀埋土下部には1号堀同様浅間A軽石を多く含む層があり、壁際の堆積土も1号堀と同じ特徴を有していた。このことは、高崎城時代においても「和田城」堀が本丸堀と同じように扱われ、決して荒れるに任せていた状態ではないことを伺わせる。2号堀断面を見ると下部に不整合があり、堀底の液凍が行われたようである。調査を中止した点において、2号堀と3号堀の境が確認され、両者の深さに大きな違いがなかったことも判明した。

3号堀の埋土は、壁付近に壁崩落土や暗褐色土層

Ⅲ 確認された遺構と遺物

が堀の形状に沿って堆積していたが、その上部には砂主体の土が厚く堆積しており、洪水の影響を受けている可能性もある。

絵図や縄張り図で存在が確認できなかった3号堀が、規模・形状・方向共に2号堀と同様である点は注目される。この事実は、従来「和田城」の堀を改変せずに使用されていると推定されていた2号堀は、3号堀がかなり埋没した後に、形状を踏襲しつつも長さを短くして掘り直したことを示している。3号堀は高崎城本丸堀に壊されている部分までは調査で確認できたがその先が問題となる。この点については、城郭研究者の茂木沙氏のご教示によれば、かつて3号堀延長線上の本丸堀東側において工事が行われている際に堀状の落ち込みを確認しているとのことであった。この情報は3号堀が本丸堀を越えて更に東に伸びていた可能性が高いことを示している。残念ながら3号堀からの出土遺物が皆無で遺物から年代を決定することができなかったが、和田城を考える際に非常に重要な遺構であることに間違いはない。

従来「和田城」の堀と考えられてきた2号堀が、高崎城本丸堀と同様に管理され、同様な埋没状態をしてしており、より古い3号堀が想像以上に長くのびている可能性が高くなった今、従来の和田城観は再考しなければならないだろう。

遺物（第83～88図3～13、16）

2号堀の浅間A軽石を多く含む層より下位の狭い範囲から、瓦がパン箱3箱分出土したが、出土地点が調査区であったため、一部を取り上げることしかできなかった。出土した瓦はすべて同じ胎土・焼成であり、時期差が少ないことが伺われる。他には五輪塔火輪と上臼が出土している。

3号堀からは細片すら出土しなかった。

6号堀

遺構（第9図、P L-4）

「和田城」北側二ノ郭の北を区画すると考えられていた堀である。調査地点は一段と調査区が狭くな

る場所で、確認面で14.2mの長さしか調査できなかった。烏川と国道17号に挟まれた狭小な場所であったため、確認面からの深さ4.2m程で湧水の湧出が認められ、それ以上の調査は調査区の危険や国道17号への影響を考慮して調査を中止した。従って堀底は確認できていない。堀壁は上部が45°と緩やかで、中段に平坦面状の緩傾斜部を設けている。下位では70°と急に傾斜を増している。この急傾斜部分は砂層を壁としており、砂でほとんど埋没していた。おそらくこの部分は早い段階で埋没していたであろう。

本堀も2号堀同様に古い堀が東に延びていた可能性もあるが、調査区の関係から確認できなかった。しかし、「和田城」北側二ノ郭部分を中心とした絵図「御三層槽下之堀絵図」（口絵参照）を見ると、6号堀延長線状の本丸堀西壁が6号堀とほぼ同じ幅で緩傾斜部分が描かれている。同様な表現は3号堀部分にもあり、6号堀部分にも古い堀が存在した可能性は否定できないであろう。

遺物（第86図14）

やや発泡した黒色の石材を使用した茶臼型の下臼が出土している。

4号堀

遺構（第11図、P L-5）

「和田城」主郭南側を区画すると考えられていた堀である。堀の南側に関しては調査以前から2m程の段差が残り、その位置は明瞭であった。堀の走向は烏川崖に直交せず、やや南に下がっていた。

この堀は西を烏川崖、北を県道高崎藤木線、東を国道17号に囲まれた狭小な場所にあり、ごく一部を調査するに留まった。調査以前から存在が明らかであった南壁は明瞭に確認でき、50°の傾斜で立ち上がっている。壁は上端で長さ10mまで調査したが、西側は樹木移植痕で大きく挟られ、形状を留めていなかった。南壁は確認面から深さ6.2mまで掘削したが、6m付近でやっと浅間A軽石を多く含む層を確認できた。調査地点は河川に近く、長期間埋めら

2 盛土と盛土内で確認された遺構と遺物

れずにいたようで、南壁確認面から4m付近までは昭和期のゴミを含んでいた。

北壁は南壁から22mの距離で幅2mのみ確認されたが、平面プランが直角に曲がるうえに傾斜角度も急であり、南壁際と埋土も異なっていた点が不自然であった。これを裏付けるように、南壁確認面から2m以上下部の壁に接して昭和期の飯碗と瓦が出土している。また、壁に接する埋土は軟らかく、自然に弱がれ落ちる状態であった。確認した南壁は、後世に改変されているようである。北側は県道に近接し、これ以上の調査は危険を伴うため、調査はこの時点で中止した。絵図に描かれる屈曲部の位置は調査範囲外(国道17号下)に存在するようである。

北壁確認面は南壁確認面に比して1.5m以上低い。これは県道建設時に削平された結果であろう。

遺物(第83図2)

掘削範囲のほとんどが昭和期の埋土であり、昭和30年代を中心としたゴミの出土が多かった。しかし、1点のみ江戸期の肥前磁器香炉が出土した。この香炉は残存状態が良いうえに器表の光沢も強く、伝世品が昭和期に廃棄された可能性を考えている。

5号堀

遺構(第11図、P L-5)

「和田城」南側二ノ郭の南を区画する堀で、「和田城櫓台跡」に伴う堀である。本堀は調査区が次第に狭くなる南端付近に位置するため、北壁上幅3.5mのみを確認するに留まった。西が烏川崖、東が国道17号に接しているため、掘削は2mで中止せざるを得なかった。北壁傾斜は4号堀南壁同様50°である。調査区の関係から、南壁は確認できなかったが、堀の配置と絵図の記載から、規模は6号堀に近いと推測される。

2 盛土と盛土内で確認された遺構と遺物

概要

盛土は2区のみで確認された。2区は和田城二ノ郭南側の郭と推定されていた場所であり、ここで確

調査を2mで中止したため、埋土はすべて昭和期のゴミを含む新しい堆積土のみであった。

遺物

出土遺物は皆無である。

盛土上で確認された遺構

概要

盛土が確認されたのは第10図に示した2区の4号堀南から「櫓台跡」の間である。盛土上では、1号石敷遺構以外はすべて昭和期の攪乱と樹木移植痕が確認されたのみであった。

1号石敷遺構

遺構(第12図、P L-5)

2区盛土上で唯一攪乱と判断できなかった施設である。南側が破壊されており全体は不明であるが、短辺3.9m、長辺4m以上の長方形を呈すると思われる。石は3層に敷かれ、1面と2面の間は5cm前後、2面と3面の間は10cm前後の間層がある。埋土、間層共に黒色土で高崎泥炭は少量含むのみであり、締まりもなく叩き締められた形跡は認められない。礫は川原石で、直径数cmから20cmの礫を用いている。全体的には3面に敷かれた礫に大きいものが多いように見受けられる。

3面の石敷下には土を入れておらず、掘方面となっていた。掘方床面にはピットなどの施設は認められない。

遺物

遺物は3面に及ぶ敷石間に江戸時代の肥前磁器板類小片が1点あったのみである。この遺物は遺構に伴うものではなく石に混入したものと推定され、遺構の上限を示すにすぎない。したがって、構築時期は江戸以降ということになる。遺構の性格は不明。

認された遺構と層位関係は第10図右側に示したように、「櫓台跡」のみでなく平坦な郭部でも盛土造成が行われていた。盛土は石を並べながら行うという

III 確認された遺構と遺物

類例の少ないものであった。盛土内には下部の遺構群に存在した遺物が含まれ、石列には周辺から集められたと推測される石製品も円礫と共に並べられていた。

石列

遺構（第15～19図、P L—6～8）

和田城二ノ郭南側の郭と推定されていた2区の調査において、烏川橋梁工事にかかる一部を先行調査した際、4号堀北壁に旧表土と思われる黒色土層が確認された。堀調査後に黒色土上の調査を行った結果、畝状の高まりが等間隔に並んでおり、畝状遺構であることが確認された。更に黒色土中には中世遺物が包含されており、黒色土上に堆積した高崎泥流や黒色土が人為的な盛土であることが確認された。本来ならば、「槽台跡」と郭部盛土は一度に調査すべきであろうが、「槽台跡」を含めた土量の問題や搬出路などの問題により、分割して調査せざるを得なかった。

当初、郭部（4号堀と槽台跡の間）盛土はバックホーで除去しながら畝状遺構の確認を行う予定であった。しかし、調査区唯一の搬出入路における橋梁工事の関係から、バックホーの搬入可能日が約1週間遅れる事象となった。これを機に、郭部西側の掘削内で見つかった円礫と、盛土上に数個露出していた円礫が直線的に並ぶように見えた箇所を人力でトレンチを設定することにした。すると、設定したトレンチすべてで円礫が見つかり、直線的に並ぶ結果となった。そこで、トレンチを拡張したところ、更に石列が広がることが判明した。このため、重機による盛土除去を中止し、厚さ1m以上に及ぶ盛土すべての人力掘削に変更した。

確認された石列は第16図に示したとおりである。盛土上面からの掘削や樹木移植時の掘削により破壊されている箇所もあり、すべての石列を確認できた訳ではないが、全体の傾向は把握できる状態であったと考えている。使用された石のほとんどは烏川に認められる河床礫であり、極少量大型の角閃石安山

岩と石造物を使用していた。直径数十cmを超える角閃石安山岩は現在の烏川河床には認められず、石造物と共に前代に使用されていた石の再利用と推定される。

石は北西部ほど密に、高く積まれている。しかし、石垣のように面をそろえていないうえに表込石もなく、片面を露出させた状態で自立する状態ではないことから石列と呼称した。石列の並びを見る限り、概ね南北方向を基準とし、その間を東西方向に区切っているようである。南北方向の列は東側ほど明瞭であるが、逆に西側は不明瞭となる傾向が伺える。調査区内において、南北方向の列は、ほぼ6m間隔で4列並べられている。その間は1.5mから3.0m間隔で東西に区切っている。また、東側南北列のほぼ中央付近には、短辺約1m、長辺約2.5m程の長方形区画が認められ、中央部に集石されているようであった。この部分は地鎮などの施設も考慮して精査したが、その痕跡は確認できなかった。

先に述べたように、石列は西に向かうほど石の密度が粗となるが、石の大きさも小さくなる傾向がある。更に西側を中心に石列延長線上に硬質な高崎泥流塊（第16図から18図のトーン部分）も確認され、礫の代用として使用されたことが考えられた。この点は、後に述べる盛土断面観察において断定されることとなった。

最も石が密に並べられている北東隅の石列側面図を第19図に示したが、石間の間隙が多いことがわかる。この部分では、間隙部分は黒色土主体であるが、部分的に高崎泥流塊（トーン部分）が詰め込まれており、ここでも石の代用として使用されていた。

なお、西側調査区境付近の空白部は、危険防止のための法面分と断面実測用のトレンチであり、石列の空白部が存在するわけではない。

4号堀との関係であるが、石列（盛土）は4号堀と同時期が古いことは確実である。これ以上については確証がないが、盛土の供給源や東西方向の石列が4号堀上端とほぼ平行することや、4号堀上端が曲がる部分において石列も方向を若干変えている

2 盛土と盛土内で確認された遺構と遺物

(宝篋印塔基礎、第16・18図1出土地点)ことを考慮すると、4号堀掘削時に石列を作りながら盛土造成を行った可能性が考えられる。

遺物(第96~104図、P L—口絵4)

石造物や石製品の使用部位に特徴は認められず、単に宝篋印塔や五輪塔、石臼、凹み石などが河床礫の代わりに使用されていたと考えられる。宝篋印塔には、1辺32cm、高さ22cmで、逆修であるが、「永享三年辛亥」(1431)の紀年を有する基礎(1)や月輪内に胎藏界五仏を表す「ア」、「アン」、「アー」、「アク」の四方梵字を刻んだ塔身(3)が出土している。なお、月輪内は黒色に塗られている。(口絵参照)

五輪塔は地輪の破片(4)1点のみである。下面にはほぞ穴が穿たれ、正面は墨を円形に塗った後に梵字を刻んでいる。

石製品には、角閃石安山岩製の凹石や茶臼形・粉挽き形の石臼、石鉢(6)などがある。

盛土

遺構(第20図、P L—7~9、口絵4)

第20図に郭部西側の断面図を示した。断面図の4層から15層の1.2m程が盛土である。9層以下に不整合があるが、これは危険防止のためここで段掘りを行っているためであり、盛土造成時に時間差があるわけではない。断面図では分かり難いが、盛土は高崎泥流を主体とする部分と黒色土を主体とする部分が比較的明瞭に分かれる。断面図で最も明瞭な部分(ポイントAから1m~7m間)では、2.5mから4m程のブロックが観察できる。左側のブロックが黒色土主体、右側のブロックが高崎泥流主体の盛土である。これらのブロックは、旧表土上又は薄い間層を挟んだ上に小さい土山を造り、その上に被せるように土盛りを行う行程が明瞭に観察できる(P L—7、口絵参照)。このAポイントから1mの盛土境には、土の境に沿うように石が並べられている。また、断面図下段左側と中央部の盛土境には、高崎泥流塊(トーンで示した部分)が並べられていた。

この断面には、石列が盛土造成過程において、盛土を行いながら土質境に並べられていったことが明瞭に現れている。また、造成過程で石が不足したためか、高崎泥流の硬い部分の塊を石の代用として使用していたことも明らかとなった。断面図で示した場所は盛土上の攪乱が多く、平面的に石列を捉えることが不可能であった。

盛土境と石列の関連は、第19図上段の断面図においても認められる。更に第17図に示したように平面的にも確認できた(方位マーク下の破線は高崎泥流主体盛土と黒色土主体盛土の境)。但し、盛土上のプラン確認時に盛土境が長方形区画として確認できなかったこと、断面でも盛土境が不明瞭な箇所もあることから、すべての区画で黒色土主体盛土と高崎泥流主体盛土を交互に行ったわけではないようである。

図示しなかったが、東側調査区境では約70cm程の盛土が確認されたが、盛土上に碎石があり、全体に削平されているようである。しかし、盛土下旧表土の高さを見ると(第21図参照)西側が東側に比して30cm程低く、東側の盛土は、西側に比して薄かったと考えられる。

遺物(第93・94図、P L—35)

盛土内出土遺物は、畠状遺構下で確認された古代から中世遺構群に伴うものと考えられ、盛土を確保するために古い遺構が壊された結果、混入したものと考えられる。

畠状遺構下出土遺物同様、中国製白磁皿C群(第93図1)や染付皿B1群(第93図3)、瀬戸・美濃製大窯皿(第93図2)、在地製内耳鍋形(第94図8他)、皿(第94図18・19)などが出土している。また、内耳鍋形体部片を使用した小円盤(第94図16)も出土している。第93図7は、古代の土釜に似た形状であるが、調整や胎土の特徴が内耳鍋形と同じことから中世の所産であろう。

「和田城橋台跡」

概要

III 確認された遺構と遺物

調査以前に最も注目されていた遺構である。しかし、現況図(第13図)を見ても明らかなように、国道17号と烏川崖との狭い空間に位置するため、国道側は高さ7mにも及ぶ擁壁で覆われ、南から西側は2.5mの石垣が積まれていた。上面は擁壁裏込めを抜くと、長さ幅2mから3m、幅11m、擁壁と石垣の間でも9mの長さしか残存していなかった。この残存状態の悪さと、県内随一の交通量を誇る国道17号と烏川崖に挟まれるという環境下を考えた場合、調査は不可能とも思えた。この劣悪な環境の元、槽台の調査は、断面観察のみを目的とせざるを得なかった。

しかし、それとてもこの環境の下では困難を極めた。表土掘削といえども国道と至近距離にあるため、たとえ少量であっても土砂が国道側に落ちれば事故につながる恐れがあり、河川側の表土掘削を行えば降雨時に土砂が流出する可能性があった。このため、西側の表土掘削は行わず、東側は土砂や擁壁取り壊し時のコンクリ塊転落防止用のH鋼(高さ7m)を立てる安全対策工事を実施した。また、西側には作業員の転落を防止するためのフェンスも設置した。

槽台の調査は、すでに終了した郭部(北側平坦部)を一旦埋め戻してバックホーのバケットが届くまでの斜路を作り、頂部の遺構確認と北側斜面の表土掘削を行って残存状態図(第14図)を作成した。その後、再び斜路を作り、約1.5m毎に「西半掘削」、「断面観察、測量・写真撮影」、「東半掘削」、「擁壁破砕」、「擁壁片除去」という5行程を繰り返した。

遺構(第13~15図、P.L-6・7)

調査の結果、「和田城槽台跡」とされる土塁上で遺構は確認されなかった。土塁は、郭部の盛土同様、中央に小山を作り、更に上や両側の低い部分に土盛りするという方法で造られている。断面図をみても明らかなように、不整合部分もなく、古い土塁は含まれていない。また、土塁盛土が郭部盛土へと続く部分もあり、郭部盛土と同時期かつ計画的に築造さ

れている。内部に土を突き固めたような形跡や土をブロック状にして積み上げたような形跡は認められなかった。盛土は、黒色土に比して高崎泥流が多く、深い部分で確認される泥流層も含まれており、堀を掘削した際の土を利用してと推定される。

土塁内においても郭部と同様な石列が確認された。状態が良好な1号石列は、頂部から2m以上下がった東寄りに長さ8m、高さ1.2m以上にわたって積まれていた。頂部南側は多少バックホーにより石を除去してしまった可能性はあるが、石列の存在を想定しながら調査を行っており、8mにわたって石列上部を除去してしまった可能性はない。

1号石列の高さは約1.2mであるが、上部2/3程で石列がずれている。調査期間の都合で断面観察はこの1箇所のみであるが、この上下で盛土の質に変化が認められないため、時期差や大きな時間差などは想定していない。また、下部の扁平な石と比べると、石の大きき半分程度のずれであり、郭部盛土断面に認められるように、斜めに石を並べることも行われており、この程度のずれに意味づけする必要は感じていない。高崎泥流塊を石の代用として使用している点や石列を境に盛土の質が異なっている点が郭部の特徴と一致する。

2号石列は石の分布にばらつきがあるうえに広がりもなく、集石状を呈している。石列付近を境に黒色土を中心とした盛土と高崎泥流を中心とした盛土の境が存在するが、石列の場所と完全に一致する訳ではなく、盛土中の集石状遺構としたほうがよいかもれない。

「槽台跡」の南北断面(第13図)には、1号石列断面のような断面は認められず、土塁の幅ではなく、長さを区切った区割りを意識していたと考えられる。ただ、調査できた長さが中段でも11mしかなく、明瞭な石列も1箇所しか見つかっておらず、可能性を指摘するに留めたい。

遺物

出土遺物は郭部盛土との間に時期差が認められず、同一に扱った。

3 盛土下で確認された畝状遺構と黒色土内出土遺物

遺構 (第21～25図, P L—9)

2区盛土下には旧表土が残っており、その表面は畝状を呈していた。畝はほぼ50cm間隔で直線的に伸びている。大規模な盛土が行われたわりに地表の乱れはなく、部分的に凹みはあるものの、踏みつけたような道状遺構は見受けられない。これは、盛土の供給源と推定される堀側から土を盛った結果であろうか。

畝状遺構は2区北西部と2区中央部の2箇所大きく分かれ、前者はほぼ座標南北に沿っており、後者は座標北から71度ほど軸がずれている。両者の間と後者の南側には畝状遺構が見受けられない。しかし、両者の間には地表の状態に違いが認められる。2区北側東半の畝状遺構が認められない部分には、浅い凹みや旧地表を掘り込んだ土坑(17・18・19号土坑)や焼土の分布が認められ、やや荒れた地表の状態が見受けられる。2区南側の空白部には顕著な凹みはなく、自然な小さい凹凸が見受けられる程度であった。

1号焼土、2号焼土とした遺構の性格は不明であるが、断面観察の結果、旧表土上において火を焚いた結果生じた焼土と判断され、盛土造成時に伴う可能性もある。3号焼土は、浅い凹み部分に炭化物と焼土の分布が認められたが、旧表土黒色土内にも炭化物や焼土の広がりが確認でき、前者とは時期差が存在した可能性が高い。

2区南側の畝状遺構東側は畝がなくなり、空白部

4 畝状遺構下で確認された遺構と遺物

1区

概要

ここでは、盛土は確認されていないが、2区畝状遺構下で確認された遺構と同時期の遺構を含め、概要を記す。個々の形状や規模などは一覧表に記した。

1区は駐車場として利用されていた場所であり、舗装と砕石下には黒色土が全くなく、いきなり高崎

若しくは畝状遺構の境が存在するようである。この北側の破線で示した部分は、旧地表を数cm除去した箇所、僅かな色調の違いにより畝状遺構が確認できたが、同じ黒色土内での確認であり、部分的な確認に留まった。この遺構は断面(第24図)においても確認でき、部分的な確認であったものの、古い時期の畝状遺構若しくは耕作痕?が存在した可能性が非常に高い。

遺物 (第105～107図, P L—口絵3)

黒色土内からは、明代の染付皿、越州窯系青磁碗や大窯製品をはじめ、在地製の皿やすり鉢、火鉢などが出土している。1の染付皿は小野正敏氏分類によるB1群であろう。2・3は越州窯系青磁碗の口縁部と体部小片であり、高崎城遺跡における古代集落内では初見であろう。胎土・焼成・輪調共に酷似しており、同一個体と推測される。21の高台付鉢は中世の在地製で類例が少ない。県内では陶器をモデルとしたような在地系製品が少量認められ、本品もこうした製品の一つかもしれない。

鉄製品には、鉄鎌(31)と火打金(32)がある。他に時期不詳であるが、小型腕沓も出土している。

石造物では、黒色の緑取りを施した五輪塔地輪(34)が出土している。正面には黒色で丸く塗りつぶした後に梵字を刻んでいる。この五輪塔は角閃石安山岩製のため、表面に凹凸が多く、梵字の判読が困難である。

泥流という状態であった。1区西側の烏川崖に残っていた大木の根元を観察したところ、遺構確認面より約50cm上に黒色土が観察され、深く掘り込まれた遺構のみが残存していたと考えられる。竪穴住居は非常に状態の悪い2号住居1軒のみ確認された。調査時には1号住居と呼称して調査を開始した箇所があるが、調査の進行に伴い、竪穴住居としての確証

III 確認された遺構と遺物

が得られなかったので欠番とした。

土坑（第7・26～29図、P L-10・11・34・35）

1号土坑は径50cm程の不整形小土坑で、断面形状は深さ7・8cmの皿状を呈する。埋土上部に木炭細片層があるが、底部は焼土化していない。出土遺物がなく時期不詳であるが、埋土の特徴から古代以前の可能性が高いと考えている。

2号土坑も小型円形土坑である。内部からはほぼ完形の須恵器環（第89図1・2）が正位で出土しており、内1点には「真」の墨書が認められた。小型土坑であるが、須恵器環片の出土が多く、第89図3～7の5点が図示し得た。前記1号土坑と共に竪穴住居一部であった可能性も考えられる。

3号土坑は2号堀に近い場所で確認され、浅い凹み状を呈した場所に大小の礫が廃棄されたような状態で出土した。出土遺物には古瀬戸（第89図8・9）や在地製内耳鍋形（第89図10・11）、在地製すり鉢（第89図12）がある。中世の所産である。他に、時期不詳であるが、裂鉄に伴うと思われる流出滓片が出土している。本土坑の存在意義はその位置にある。高崎城の絵図では、2号堀の南に接して土塁が描かれており、この土塁の上限を示す資料となる。また、確認はできないものの、2号堀より古い3号堀に伴う土塁が存在した可能性を考慮した際も上限資料となりうる。

4号土坑、6号土坑、8号土坑は時期不詳である。

5号土坑は長方形を呈すると推定される竪穴遺構であろう。短軸は1.3m、長軸は2.45m以上である。西側短辺の壁際にピットが1基確認されている。このピットは断面観察においても伴うものと判断された。このピットには柱痕が明瞭に観察され、掘方には礫が詰められていた。出土遺物はすべて平安時代の須恵器と土師器細片であったが、埋土や遺構の特徴から中世に構築されたと推定される。

7号土坑は楕円形を呈する土坑で、小礫などが廃棄された状態で出土している。図示可能な遺物はな

いが、細片ながら在地土器皿が2点出土しており、形態や礫の廃棄状態が2区の中世土坑に似ている点などから中世遺構と考えられる。

9号土坑は長方形を呈する竪穴遺構と考えられる。1区中最も良好な状態で確認された遺構である。壁際ではないが、5号土坑同様に西側短辺寄りで柱穴が確認された。東側短辺は壁部分に柱穴と考えられるピットが確認され、深さも大きな違いはない。短辺側隅の小ピットについては同時期か否か不明である。また、等間隔ではないが、壁際に直径4cm程の小ピットがプランで確認でき、中心を通るように断ち割りを行った。断面観察の結果、深さは10cmから30cmと幅があるが、断面Cポイント付近を除いて木根などによる攪乱ではない可能性が高いと判断された。やや平面形状が異なるが、床面状の黒色部の断ち割りも比較のために行った（P L-11）が、明らかに深さが異なっている。

壁際の下端を詳細に見ると、この小ピットの外側を廻るように波打っている。以上のことから、この小ピットは本遺構に伴うと考えられる。直径から考えて柱穴ではなく、杭状の物を打ち込んだ可能性が考えられる。南壁中央が攪乱で壊されているが、北壁と同じ場所に存在したと仮定すると16本存在したと推定される。小ピットの間隔は一様ではなく、西側側ほど間隔が密で、東側に向かう程間隔が離れている。しかし、一部を除いて北壁と南壁の小ピットは対になるような場所で確認されている。このため、当初から不均一な配置であったと考えられる。

遺物は、西側から多く出土している。遺物のほとんどは在地製土器皿（第89図14～第91図49）であり、大・中・小の3種が認められた。出土した中世遺物の99%以上が皿であり、それ以外は在地製銅形の底面小片（第91図50）が1点出土したのみである。国産陶器や中国製磁器なども出土していない。なお、出土した皿すべての器表に調整痕が明瞭に残り、明らかな使用痕も認められない。また、埋土中に焼土なども認められなかった。中世遺物に限れば、図示しなかった遺物は57点であり、すべて皿である。

10・11号土坑は近接して確認され、11号土坑内からは須恵器陶底部が出土している。両土坑は、埋土の特徴から古代以前と推定され、近接して存在することや形状から堅穴住居掘方の可能性もある。

12号土坑も1号土坑同様、木炭細片層が確認されている。鉄滓や鍛造剥片などの遺物は共に出土していない。古代以前の時期を想定している。

13号土坑は形状、時期共に不明である。礫のみで遺物は出土していない。

14・15号土坑も近接して存在し、断面形は皿状を呈する。図示しなかった遺物は、14号土坑では須恵器陶2点と羽釜1点、15号土坑では須恵器陶1点である。共に平安時代の遺物が出土しており、平安時代堅穴住居掘方の可能性がある。

堅穴住居（第29回）

2号堅穴住居は1区で確認された唯一確実な堅穴住居である。残存状態が非常に悪く、僅かでも壁の立ち上がりを確認できたのは竈部分のみであった。他は掘方の痕跡でプランが確認された状態である。竈部分も当然のことながら掘方である。竈は東側に構築されている。図示し得た遺物は第129回11の須恵器陶1点のみである。

2区

概要

盛土下畠状遺構の更に下から密集した状態で遺構が確認された。遺構は中世の柱穴と土坑が主体をなし、堅穴遺構と推定される方形土坑も認められた。土坑と柱穴は、重複関係から柱穴が土坑より新しい傾向が認められた。しかし、出土遺物が少なく、遺物から新旧関係を把握することは不可能であった。

土坑（堅穴遺構）

2区において土坑とした遺構には、性格不明の土坑と堅穴遺構と呼称した方が適切と思われる遺構の2者があるが、調査時の呼称と番号をそのまま使用して報告する。後者の堅穴遺構と考えられるのは、29号土坑、30号土坑、35土坑の3基であり、近接して構築されている。

29号土坑

遺構（第38～41図、P L-12）

29号土坑は、やや不整形な隅丸方形を呈するが、底面は平坦であり、堅穴遺構としたほうが良いかもしれない。ビット51・52との重複に関しては、ビットが新しいのは確実である。しかし、他のビットとの新旧関係は不明である。図示可能な遺物は存在しなかったが、灰軸陶器壺1点、同埴・皿1点、須恵器壺・甕22点、同埴・坏64点、土師器甕81点、古代瓦3点、羽釜5点というように古代遺物が多く出土している。中世遺物としては、在地製皿1点と内耳鍋形2点が出土しており、埋土の特徴から考えても中世の遺構と考えられる。古墳時代の遺物としては、埴輪片が8点出土している。

30号土坑

遺構（第39図・41図、P L-12・13）

30号土坑は、2区のほぼ中央、29号土坑の東約1mに位置する。一部擾乱で破壊されているが、長軸4.1m、短軸3.1m程の長方形を呈する。底面付近には高崎泥流を中心とした埋土が南側に厚く確認され、人為的埋土と推定された。遺物はこの人為的埋土状に礫と共に廃棄された状態で出土している。北西隅付近からは灰層が確認されているが、人為的埋土上の堆積層中に存在し、本土坑とは直接関係しないと考えられる。また、焼土は確認されていない。ビット59、86との新旧関係は確認できなかった。33号土坑は本土坑より古い。

遺物（第108～128図、P L-36～39・41・口絵3）

出土遺物には西壘際から落ち込み状態で出土した大塚期の皿（4）や銅若しくは合金製の円弾と推定される球形金属製品（170）、陶の殻（P L-41）等が出土している。また、平安時代の製品であるが、中国製白磁片（第129図1）も出土している。4の大塚期丸皿は、大塚編年第三期に位置付けられ、Ⅲ期でも後半の可能性が高い。また、球形金属製品は火縄銃の弾と考えられ、「和田城」に関する文献史料にも鉄砲が見受けられることから、非常に重要な資料である。遺物は北壁よりに集中しており、礫の

III 確認された遺構と遺物

分布と一致する。

図示しなかった中世遺物には内耳鍋形10点、在地製皿69点がある。古代以前では瓦2点、円筒埴輪8点、灰軸陶器9点などが出土している。

35号土坑

遺構 (第39図、P L-13)

35号土坑は30号土坑の北70cmと近接し、長軸3.75m、短軸2.2mの長方形を呈する。確認された深さは20cm程と浅い。新旧関係は、70号・72号・74号ピット、38号土坑が本土坑より新しい。また、81号ピットも灰の分布が途切れることから、本土坑より新しい。ピット89号・90号との新旧は不明であり、本土坑が新しい可能性もある。北東隅付近には図上で竈状に見える部分がある。しかし、この箇所は調査時の初見で本土坑には伴わないと判断しており、焼土・灰なども認められていない。南西隅では底面から5cm程上で灰層が認められた。しかし、付近での焼土分布は認められず、層的にも本土坑には伴わない灰層と考えている。他の土坑でも認められた埋土中層付近に堆積する灰層と同様なものと考えられる。

遺物 (第113図)

出土遺物中図示し得たのは92の内耳鍋形口縁部片1点のみである。図示しなかった遺物はすべて古代以前のもので、須恵器40点、土師器32点、灰軸陶器1点が出土している。しかし、すべて細片であるうえに埋土の特徴から、本遺構には伴わないと考えられる。

土坑

概要

性格不明の土坑は、楕円形を呈する大型土坑、小型円形土坑、長方形若しくは方形小土坑に大別される。ここでは、楕円形を呈する土坑を中心に遺構説明を行う。他の土坑に関しては特徴も少ないうえに出土遺物も少なく、時期決定も困難なものがほとんどである。したがって、円形・方形土坑などに関しては、本文説明を省いて一覽表のみとした。

楕円形を呈する土坑 (第30図参照) は、調査区西

側と南側に分布が偏っている。口縁の空中写真や第6図で明らかのように、2区の西側から南側は烏川崖であり、時期差は不明ながら地形に沿って配置されているように見受けられる。これらの土坑は、形態的な特徴のみでなく、礫や遺物の出土量が多い点も共通している。また、遺物出土層位も土坑底面ではなく、やや埋まった段階に礫や土器類が廃棄されている点や、堆積途中に灰層が認められるなどの点に共通性が見いだされる。

24・25号土坑

遺構 (第37・38・50図、P L-12)

2区北西部で確認された。遺構は西側に延びるが、烏川への土砂流出防止の観点から拡張調査は行わなかった。しかし、遺構は崖際まで延びていることが推定され、烏川の浸食によって消失している遺構の存在も推定された。24・25号土坑は、楕円形を呈する土坑が重複していると考えられるが、新旧関係は判然としなかった。しかし、24号土坑内から続く灰層 (第20図22層) が25号土坑部分まで延びていることを重視すれば、24号土坑が新しい可能性がある。規模はいずれも不明であるが、24号土坑の長軸は3.3m+、短軸は1.08m+、深さは71cmである。25号土坑の長軸は2.85m+、短軸は2.06m+、深さは94cmである。

遺物 (第108～128図、P L-36～39)

出土遺物は比較的豊富であり、灰層 (22層) 下からの出土である。他の楕円形土坑同様に河床礫を主体とした中に遺物が含まれる状態であった。礫の分布は、東壁際が密で中央に向かうに従って粗になると共に、出土レベルも低くなっている。同様な状態は後述する67号土坑でも見受けられた。埋土上層からは獣骨の一部も出土しており、解体された後に廃棄されたものと解される。

図示し得た遺物は40点にのぼり、細片であるが、大窯I期の天目碗 (1) や同時期の椀 (5) といった施軸陶器が含まれていた。量的に最も多いのは在地製土器皿 (22・27・36～39・42～44・46・47・49・51・53～55・58・63・73・76) である。内

耳鋤形片も同様に多いが、図示し得たのは5点(73・76・83・84・98)のみである。すり鉢は非常に少なく、図示し得たのは108の体部小片1点のみであった。石製品には127の硯、136、137の石臼が図示し得た。金属製品では、不明銅製品(188・190)や火打金(192)、釘(199)などが出土している。また、金属生産関連として、在地土器皿を利用した取鍋片が3点出土(160・163・164)している。図示し得なかった遺物のうち、板碑細片と思われる片岩を除くすべては古代以前の遺物である。古墳時代以前の遺物には円筒埴輪片8点と古式土師甕片1点がある。

62号土坑

遺構(第43・50図、P L-14・15)

76号土坑、9号溝と重複し、82号土坑に近接する。重複関係はいずれも本土坑が新しい。形状は不整形で、立ち上がり角度も不均一である。南側と北側には壁が内側に突き出るような部分もあり、その間の底部が浅くなっている。東西に並行するように2基の土坑が重複していた可能性が高いと推定されるが、断面観察では確認できなかった。長軸は4.42m、短軸は3.7m、深さは67cmである。埋土中層の一部に灰層が認められたが、焼土は確認できなかった。本土坑も河床礫を中心とした礫と遺物が混在して出土している。他の土坑同様、礫や遺物は中層から出土している。

遺物(第108~128図、P L-36~39・口絵3)

中国製品としては、白磁皿B群(9)、白磁小型皿(7)の2点がある。国産陶器では、古瀬戸後期の水滴(17)、大窯皿底部小片(6)、大窯I期の端反碗口縁部小片(32)などが出土している。在地製では、皿(25・30)、すり鉢(103・104・109)が出土し、石製品としては、角閃石安山岩製の球状製品(135)がある。他に、板碑と思われる片岩細片が4点出土しているが図示していない。

63号~65号土坑

遺構(第48・49・51図、P L-15・16)

63号土坑、64号土坑、65号土坑の3基は5号堀に

沿って並ぶような位置に並行して確認された。67号土坑と重複するが、重複部分の深さが少ないうえに埋土が黒色土であることから判然としなかった。並行する3基も断面図には新旧を表したが、その差は不明瞭であった。この3基においても遺物と河床礫は土坑底部から浮いた状態で出土している。特に北寄りの礫は土坑がかなり埋まった状態ではほぼ水平に分布している。本来の掘り込みは、より上部であろうが、確認面において礫が露出する状態であった。これらの礫分布は、北側が密で南ほど粗となり、出土レベルは北から南にやや下がっている傾向がある。礫や遺物が北側から廃棄されていると推測される。礫を取り除くと、個々の形状は明瞭となり、3基の楕円形土坑が並列した状態がわかる。

遺物(第108~128図、P L-36~39)

63号土坑出土遺物のうち、内耳鋤形片については3点(74・85・90)図示した。全体形状が判明するのは礫と同一レベルで潰れた状態で出土した74のみであり、口縁部がほとんど外反しない丸底を呈している。在地製すり鉢は101の口縁部小片が出土したのみである。

64号土坑も出土遺物が少なく、内耳鋤形片2点(75・88)と在地製土器皿1点(31)、在地製すり鉢1点(106)が図示できたのみである。

65号土坑出土遺物量も同様に少なく、在地製土器皿底部1点(50)、同すり鉢口縁部小片1点(99)、砥石1点(128)、茶白形下白1点(139)のみが図示可能であった。他には、図示していないが、鮑の殻(P L-41)が2点近接して出土している。

67号土坑

遺構(第48図、P L-17)

南西部は「槽台跡」の擁壁により破壊されているが、楕円形を呈すると考えられる。埋土中層には63号土坑から続くと思われる河床礫が出土している。礫同士は重ならない部分が多いが、敷かれた状態とは明らかに異なる。出土レベルも壁際がやや高く、63号土坑側からの廃棄と考えられよう。

Ⅲ 確認された遺構と遺物

遺物 (第108～128図、P L-36～39・口絵3)

遺物は、礫の間に混じる状態で中国製染付皿 (15) や在地製すり鉢体部片 (100) が出土している。なお、染付皿は72号土坑出土片と接合している。

68・69号土坑

遺構 (第48・52図、P L-17)

共に「槽台跡」擁壁で西側を破壊されている。当初は一つの大型楕円形土坑として調査を開始したが、最深部の間に高い部分が存在したため、二つの土坑として扱った。両者の新旧関係は不明である。また、壘付近に存在するピットとの新旧関係も不明である。なお、66号土坑、67号土坑、71号土坑との関係については、いずれも68号土坑、69号土坑が古い。68号土坑、69号土坑共に断面は皿状を呈し、確認面からの深さは29cm、12cmと浅い。

遺物 (第108～128図、P L-36～39)

68号土坑からは、在地製土器皿底部 (61)、粉挽き形下白 (140)、錢種不明銭貨 (179) が出土している。他には獣骨も出土している。

69号土坑からは、在地製内耳鍋形 (96) が出土している。

72号土坑、73号土坑

遺構 (第45・46・52図、P L-17・18)

73号土坑は「槽台跡」の擁壁により破壊されるが、両者共に不整形を呈すると考えられる。72号土坑の規模は、長軸3.39m、短軸2.9、深さ36cmである。73号土坑も近い規模を有していたと思われ、深さは31cmとほぼ同じである。断面では新旧を表したが、色調の違いは不明瞭であり、確証はない。

本土坑も河床礫が多く出土しており、断面B'付近を見ると壘側から中央に向かって低く礫が出土する状態が表れている。深い土坑に比べると底面と礫との比高差は少ないが、底面からは離れて出土しており、確認面からの高さを基準とすれば、他の土坑同様、ある程度埋没した段階で礫や遺物が廃棄されている状態が見受けられる。

遺物 (第108～128図、P L-36～39・口絵3)

72号土坑からは、扁平で表面が平滑な黒色小石が8点 (116～123,) まとまって出土 (P L-18) している。なお、白色の石や貝を扁平に加工したものは出土していない。他に、古瀬戸御皿口縁部片 (19)、角閃石安山岩凹み石 (133・146) などが出土している。

73号土坑からは在地土器皿 (69)、在地製内耳鍋形 (79・87・94)、砥石状の石製品 (134) が出土している。

82号土坑

遺構 (第43・53図、P L-19・20)

83号土坑より新しい。また、324号ピットは、82号土坑が完全に埋没した後に掘られている。ほぼ楕円形を呈すると思われる土坑である。規模は長軸5.17m、短軸2.3m以上、深さ85cmである。西側は烏川への土砂流出を防ぐために掘り残した土手下に続いている。他の楕円形土坑同様に壘の立ち上がりは急で底面も深い。

掘土中層には灰層が認められ、灰層上には石造物や石臼を含む多量の河床礫が廃棄されていた。

遺物 (第108～128図、P L-36～39・口絵3・4)

礫中には石臼2点 (138・143)、角閃石安山岩製五輪塔地輪3点 (154～156)、板碑片1点 (142)、凹み石1点 (147) などが含まれていた。土器類は、在地製土器皿 (48・56・57・60)、在地製内耳鍋形 (86・89・95) が出土している。金属製品では、火打金が2点 (194・195) 埋土中層から出土し、同じ鉄製品では、紡錘車 (205) と釘 (201・204) も出土している。また、不明銅製品 (187) も認められた。中世遺物ではないが、上野国分寺と同型の軒丸瓦 (第131図34) が出土している。底部付近からは、龍泉窯系青磁皿 (16) が出土した。

82・83号土坑埋土中からは、在地土器皿 (28・65・66) と在地製内耳鍋形口縁部片 (97) が出土している。また、金属生産関連遺物として在地土器皿を使用した取鍋片 (169) が出土している。

1号井戸

遺構 (第38図、P L-21)

本遺跡で唯一確認された井戸である。「和田城」二ノ郭南側郭と推定されていた場所(2区)に位置する。2区の中でもやや西側に構築されている。直径1.7m程の円形を呈し、深さは確認面から約6.9mあり、地表からでは7m以上あったと考えられる。底部付近は砂礫層まで達していた。調査が濁水期であったためか、底部でも「湿っぽい」程度で湧水は認められなかった。2区の烏川崖下には少量の湧水が同一場所で認められ、本井戸も湧水位置には達していると考えられる。確認面から1m弱の埋土には空洞が認められ、危険防止のため、断面図の作成は行わなかった。

遺物 (第108~128図、P L-36~39・40・図3)

本井戸は非常に深く掘削されており、土坑などのような調査は行えず、遺物のサンプリングエラーはかなり多いと考えている。掲載した以外にも多くの遺物が存在していたであろう。

本井戸からは、施釉陶器をはじめ、在地製の土器皿、鍋形、すり鉢や石製品が出土している。施釉陶器には大窠小型端反皿片(14)とすり鉢細片(21)があり、在地製皿には34・64、鍋形には72・80・81がある。石製品では粉挽き形臼が多く、5点(141・145・149・150・152)出土している。また、希少例としては中世の硯(126)が1点認められた。金属製品は出土していないが、在地製土器皿を使用した取鍋片2点が出土している。また、時期は不詳であるが、鉄滓と思われる細片(P L-40)も出土しており、分析を行った。

平安時代遺物も多く混入していたが、完形に近い須恵器埴1点(第130図22)のみ掲載した。

8号溝

遺構 (第43・45・53図、P L-23)

82号土坑より古く、9号溝より新しい。62号土坑との新旧関係は、断面・プラン共に判断できず不明である。不整円形・楕円形土坑同様に礫の出土が多

い。幅は0.9mから1.5mと一定せず、下端も直線的ではない。北は82号土坑、南は「槽台跡」擁壁で破壊されており、長さ6.2mのみ確認された。

遺物 (第123~128図、P L-39)

雁股型式の鉄鍬(197)や在地土器皿を転用した取鍋(167)、元豊通寶(183)などが出土している。また、石製品としては、黒色の不明石製品(124・125)、や上白(144)が出土している。

平安時代の遺構と遺物

概要

出土遺物の少ない土坑や柱痕が不明なピットに関しては中世遺構と古代遺構の区別が不可能な場合が多く、ここに記載した以上の遺構が存在した可能性は非常に高い。また、密に分布する中世遺構によって破壊されている遺構も多いと推測される。しかし、今回の調査によって、烏川崖付近にまで平安時代集落が広がっていることが確認できた。遺物に関しては、図示し得ない細片の出土量が多く、盛土内にも細片が多く含まれており、堀の掘削によってもかなりの遺構が消失していることが想像される。

出土遺物の中で最も注目されるのは、蛇の目高台を有する白磁碗(第129図2)と越州窯系青磁碗片が2点出土(第105図2・3)していることである。白磁碗は、接合しないものの同一個体と考えられる体部片(第129図1)も出土している。また、古代瓦片も数十点出土しており、高崎城域内に広く散布していることが判明した。これらの中には第131図34の上野国分寺瓦新段階の軒丸も含まれていた。

3号竪穴住居

遺構 (第36図、P L-22)

2区の北東で確認され、竈が存在すると思われる東側は調査区外に延び、国道建設に伴う擁壁工事で破壊されている。また、中央から北側を4号溝で壊されており、形状は不明である。深さは約60cmと、確認壁高は本遺跡中最も高い。住居内に図示したピットは、すべて本住居より新しく、中世の所産であろう。

遺物 (第129~131図、P L-39・40)

III 確認された遺構と遺物

床面中央付近から須恵器碗(17)や灰軸陶器碗か皿の底部(4)が出土している。なお、(36)は本住居には伴わないが、本遺跡出土遺物中特に古い時代のものであるため図示した。

4号竪穴住居

遺構(第46・48・54図、P L-24)

2区南東に位置し、東半は「槽台跡」擁壁裏込めにより破壊されている。また、北側は70号土坑により掘方まで壊されている。2区南半分の東側は、黒色土中から遺物の出土が多かったが、遺構の重複が激しいためプラン確認が困難を極め、高崎泥流面まで掘り下げて確認を行った。

本住居もプランを確認した時点で床面と推定される部分がごく一部しか残っておらず、掘方の調査から行う状態であった。南西隅付近には床下土坑と思われる円形の掘り込みがあり、平安時代の須恵器や土師器片が出土している。南壁際には壁溝が認められた。

掘方内で確認されたピットは、いずれも本住居より新しい。

遺物(第129~131図、P L-39)

図示し得た遺物は古代末の須恵器と考えられる(6)1点のみであった。

5号~7号竪穴住居

遺構(第43~46・54図、P L-24)

この部分の本遺跡中最もプラン確認が困難であった箇所である。高崎泥流自体の小さい凹凸もあり、プランは不明瞭で竈の確認により住居件数を決めた状態である。また、竈付近は10cm近い高さがあるが、他の場所では数cmと低く、断面観察によって新旧関係を確認することはできなかった。床面は不明瞭で、竈部分の灰層を確認して同一レベルで測図する状態であった。住居内で確認されたピットはすべて住居より新しく、中世の遺構と推定される。78土坑も本住居より新しい。また、7号住居竈の東側には、壁から少し突き出す状態で、埋土中に灰層が確認されたが、本住居より新しい土坑が存在したのであ

う。

遺物(第129~131図、P L-39)

須恵器碗や杯(25~28)、須恵器皿(5・10・20)などが出土しているが、個々の時期を決定するような出土状態ではない。なお、(12)の皿は混入の可能性が高い。

8号竪穴住居

遺構(第41・54図、P L-24)

2区は調査の都合で南北に分けて調査したが、その南北境で確認された。竈北部分については、北側を調査した際には確認できなかった。竈と貯蔵穴部分のみの確認であったが、本遺跡では最も良好な状態で残っていた。竈は東壁南寄りに構築され、南東隅には貯蔵穴が穿たれており、底面から須恵器碗が正位で出土している。竈には焚き口両側の石が立てられており、上部は被熱している。竈部分と貯蔵穴部分のピットは住居より新しい。

遺物(第129~131図、P L-40)

竈脇の貯蔵穴底面から須恵器杯2点(18・21)が出土している。竈内からも土師器片が出土したが、細片のため図示し得なかった。

79号土坑

遺構(第43・44図、P L-18)

89号土坑内で確認され、埋土中に焼土が多く含まれていた。しかし、土坑底面が焼けておらず、この場所で生成された焼土ではないと考えられた。長軸1.8m、短軸1.2mの小さい土坑である。

遺物(第129~131図、P L-40)

出土遺物は多く、須恵器壺(第131図37・38)や灰軸陶器碗(第129図3)や瓶(第130図31)などが出土している。中世遺物は認められず、平安時代の土坑であろう。

IV 調査成果のまとめ

調査成果について、本文との重複を避け、時代順に簡略に記してまとめとした。

1. 古代

調査により、高崎城三の丸から烏川岸に至るまで集落が広がっていたことが確認できた。古代瓦小片は40点ほど出土したが、上野国分寺新段階の軒丸瓦のみ図示した。瓦は接合率が悪く分布の中心域から外れていると考えている。他には、越州窯系青磁、定・那窯系白磁碗の出土が目される。初期貿易陶磁は、国府・国分寺周辺域を中心に分布するが、通常の小規模集落からの出土⁽¹²⁾も確認されている。本遺跡の場合、瓦との関連が不明であり、今後の周辺調査結果に期待したい。

2. 中世

畠状遺構下の遺構群(和田城)

遺構の密集度や陶磁器の質や量、鉢の出土などから、通常の集落とは考えにくく、興禪寺絵図から考えても本遺跡が和田城であった可能性は高い。和田城は、その名のとおり「和田氏」の居城として応永から正長年間(15世紀前半)に築城されたと推定されている。しかし、調査地点において15世紀前半に遡る資料はなく、中頃以降になると少量の古瀬戸や中国磁器、内耳鍋形が認められるが、中心は16世紀代である。遺構の年代に関しては、埋土中層や上層からの出土遺物が主体を占めることから困難である。しかし、堅穴遺構や土坑と柱穴との重複関係では柱穴が新しい例が多く、堅穴遺構・土坑から掘立柱建物主体へと変化している状況が看取できる。また、底部付近から16世紀の遺物が出土している土坑も存在し、遺構の中心も16世紀代であった可能性が高い。終末に関しては、最新遺物が大暦3期後半と考えられる。従って、今回の調査では和田城が廃城したとされる天正18年(1590)頃の遺物は含まれていないが、上杉氏の度重なる攻撃を受け、武田信玄が鉄砲の準備を命じた永禄7年(1564)頃に関して

は、円形の出土や土器・陶磁器の年代から、本遺構面が該当することは間違いない。縄張りに関しては、同時期の堀が確認できず不明である。

その後の盛土造成は武田氏滅亡後(天正10年)か慶長3年の高崎城築城時に行われたことになる。しかし、後に旧表土が畠として利用されていた可能性が高いことや、盛土上に明確な遺構がないことを考え合わせると、後者の可能性が高いのではないだろうか。

堀

新知見は、高崎城絵図に描かれていない堀(3号堀)を確認したことである。3号堀はかつて和田城主郭を区画する堀と考えられていた2号堀の延長線上で発見され、高崎城本丸堀の東側にまで延びていた可能性が非常に高い。これに対し、かつて和田城主郭を区切るとされていた北側の2号堀と南側の4号堀は、埋土が高崎城本丸堀と同一であり、高崎城構築時に掘削若しくは掘り直された堀であると判断された。4号堀に関しては、調査範囲が狭いことや畠状遺構や最下層の中世柱穴が堀に壊されていることから、新たな掘削か掘り直しかは定かではない。和田城の縄張りに関しては、茂木渉氏⁽¹³⁾が酒井氏期の前橋城本丸と和田城の遺構とされていた部分の比較から、大永年間から天文年間の約30年間に基本の縄張りが完成したとの考えを示されている。この意見は、今回確認された遺物の中心が16世紀前半から後半であることも関連して興味深い。この点からすると、4号堀は高崎城築城に際して拡張して掘り直されていたのかもしれない。

推測に推測を重ねることになるが、1区において4号堀先端が確認されず、高崎城本丸西側堀(1号堀)の括れ部が和田橋交差点付近で確認されており、従来想定されていた位置(第137図参照)に比して、4号堀先端が北に延びていないことと括れ部(かつて木橋が架かっていた)がかなり南側に位置してい

たことが判明した。また、3号堀が高崎城本丸堀の東にまで達していた可能性が高いことも解っている。これらの点を考慮し、改めて前橋城と高崎城の縄張り図を見ると、酒井期前橋城との共通点がいっそう増してきたように思われる。いずれにしても、和田城に関しては近接地の調査を待たなければ結論は出せない。

盛土（石列）

2区は「和田城槽台址」として高崎市の史跡に指定されており、後世の平賀や権乱を免れてきた。そのため、1mにも及ぶ盛土が良好に保たれてきた。この盛土は当初予想していなかったが、盛土の存在により、4号堀に対する土塁が存在しない（残土処理）という疑問はなくなった。

盛土内には石列が存在し、ほぼ長方形の区画を成していた。この石列区画を単位に盛土が成されたことは断面観察からも伺える。また、部分的であるが、高崎泥流塊を石の代用として使用していることも確認された。石を積みながらの盛土法は、堤が知られ

ている⁽¹⁴⁾が、堤ほど強固な石積みではなく、築築造技法との関連は薄い⁽¹⁵⁾と推定している。時代は異なるが、古墳のマウンド築造に際しても石列で区画する技法⁽¹⁶⁾が注目されており、現段階では盛土の一技法と考えておきたい。

3. 江戸時代

江戸時代の確実な遺構は堀のみである。遺物も歩兵第十五連隊のゴミに混じって廃棄されたものが少量出土した程度である。しかし、幕末頃の三田青磁小片は最東端の遺物⁽¹⁶⁾として注目される。

4. 近代

1号堀上層から出土した良好な近代遺物は、遺物説明中に触れた以外にも、生産者番号が記された磁器や防衛食器がすべて2区から出土していることから、明治末から歩兵第十五連隊が衛戍した昭和15年頃の一括資料と考えている。兵営生活を如実に物語る一括資料は、今後の近代考古学研究にとって意義深いものになるであろう。

註

- (1) 庄司太一「謎の完栗『神楽』硝子燗発書（第一部）」『横浜青重ワールドガイドブックVol.3』横浜青重ワールド事務局 2003
 - (2) 庄司太一「謎の完栗『神楽』硝子燗発書（第二部）」『横浜青重ワールドガイドブックVol.5』横浜青重ワールド事務局 2004
 - (3) 概要は、西野嘉幸編『プロバガンダ1904-45新聞紙新聞誌新聞史』東京大学コレクションXⅧ 東京大学総合研究博物館 2005
による。詳細は東京大学総合研究博物館データベースにより確認できる。
 - (4) Y.道具学研究所「暮らしの中のガラスびんーびんからのぞいた生活誌ー」 東洋ガラス株式会社 1994
 - (5) 『完栗製法全書』神楽新聞社 1917
 - (6) 早稲田大学図書館蔵、西屋文庫
 - (7) ヤマト100周年記念誌編集委員会編「心をこめて感謝します」ヤマト株式会社 平成12年 及びヤマト株式会社研究開発室長谷部邦夫氏の御教示による
 - (8) 『ビール百科』ビール酒造組合 平成11年
 - (9) 『大日本酒造株式会社三十年史』大日本酒造株式会社 1936
 - (10) 『東北大学埋蔵文化財調査年報11』東北大学埋蔵文化財調査センター 1999
 - (11) 『龍崎の歴史』株式会社小林書店 1935
 - (12) 谷津三雄「考古学資料調査一日で見る龍崎史一」医歯書出版株式会社 1976
 - (13) 『鶴島川埋蔵文化財調査報告』『先井中屋敷遺跡』共に（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997
 - (14) 茂木 渉「和田城の縄張りについて - 復元への試み - 」『高崎市 市史編さんだより』第20号 2000
 - (15) 堀に関する文献は原真氏にご教示いただいた。
 - (16) 石島和夫・土生田純之・曹 永紅・吉井秀夫「古墳構築の復元的研究」 旭山館 2003
 - (17) 黒澤源弘「群馬県内の三田青磁」『研究紀要22』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004
 - (18) 『三田城に関する基礎調査・史料調査事業報告書』《本文編》、《図版・文献資料》三田市教育委員会 2004
- 参考文献
- ・秋本太郎「上野と周辺地域との関係ー在土地土の分布論から探るー」『湯なき国々のモノとヒトの動き』第1回内陸断層研究会シンポジウム 資料集 内陸断層研究会 2005
 - ・浅川龍之「旧日本陸軍における飲食器使用」『メタ・アーケオロジー』第2号 メタ・アーケオロジー研究会 2000
 - ・大谷広明監修『新書プラチナ辞典』学芸出版社 2001
 - ・小野正敏「15～16世紀の金付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2 1982
 - ・小倉良太・岡野邦夫「ビストルと銃の図鑑」池田書店 1972
 - ・小林謙一・渡辺貴子「物質文化研究としての近代考古学の課題」『東京考古20』東京考古談話会 2002
 - ・山崎 一「群馬古城址の研究 下巻」群馬県文化振興事業団 1978
 - ・第13回特別展開図録「高崎藩の考古学ー近世城郭、城下町を讀み解くー」 かんづけの星博物館 2005
 - ・『龍足堂字一巻書完一』旭山館蔵 木耳社 1974
 - ・『新編高崎市史 資料編5 近世1』高崎市 2002
 - ・『新編高崎市史 通史編2 中世』高崎市 2000
 - ・『新編高崎市史 資料編3 中世1』高崎市 1996
 - ・特別企画展図録「大正二年のせともの屋」瀬戸市歴史民俗資料館 2002
 - ・『財』瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第5報（財）瀬戸市埋蔵文化財センター 1997
 - ・『財』瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第10報（財）瀬戸市埋蔵文化財センター 2002

表1 土坑・溝一覧表

番号	調査区	平面掲載 区番号	断面掲載 区番号	形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	重複	出土遺物
1	1	26	26	不整	2.48	1.4~2	30		
2	1	26	26	楕円	2.08	1.88	50		89001~7
3	1	26	26	楕円	3.35	1.95	16		89008~13
4	1	26	26	長方形	1.9	0.76~1	95		
5	1	27	27	楕丸長	2.45(+)	1.32	18		
6	1	27	27	楕円	5.19	1.27	37		
7	1	27	27	楕円	4.24	1.8~2	30		
8	1	27	27	不整形	1.48(+)	0.96(+)	7		
9	1	28	28	長方形	5.36	2.35	30		89014~22・90023~37・91038~50
10	1	29	29	楕円	0.48	0.34	13		
11	1	29	29	不整円	0.6	0.45	10		
12	1	29	29	楕円	0.59	0.5	8		
13	1	29	29	不整形	3.48(+)	1.18~1	22		
14	1	29	29	楕円	1.34	0.78	4		
15	1	29	29	不整円	1.42	0.45~1	7		
16	欠番	なし							後に右列の一部であることが判明。
17	2								
18	2								
19	2								
20	2	なし	なし	方形					衛生食器、愛知トマト瓶、インク瓶
21	2	34・37		不整形	2.73	0.5(+)	14		1260196
22	2	38	58	楕円	0.74	0.63	10		1260171
23	2	32	58	円	0.5		25		
24	2	38・50		不整形	3.3(+)	1.08(+)	71		108027
25	2	37・38・50	50	不整形	2.85(+)	1.3~2	94		109036~39・110059・1260160・163・129001
24・25	2								108001・5・22・109042~44・46・47・49 ・51・53・110054・55・58・63・111073 ・112076・113083・84・114098・11508 108・1160127・1170136・137・1260164 ・172・173・1280188・190・192・199
26	2	40		不整形	1.51(+)	1.06(+)	21		
27	2	38	58	不整円	0.98	0.75	39	37・38Pとの 新旧不明	
28	2	38		楕丸方	0.78	0.62	25		112078
29	2	38・39・40・41	58	楕丸方	3.95	3.5	40		
30	2	39	58	長方形	4.1	3.08	50		108004・8・13・23・33・111070・11500 113・1160129・1260170・174・1270175 ・176・1280189・193・200・202・129002
31	2	40	58	不整形	1.45(+)	0.51(+)	19	29土より古	
32	2	36・56	58	不整形	1.1(+)	0.5(+)	25	4溝より新	
33	2	39	58	長方形	1.95	0.5(+)	16	30土より古	
34	2	39		楕円?	0.79	0.49	8		
35	2	39	58	長方形	3.77	2.15	20		1130092
36	2	38・40		不整形	3.84(+)	2.08(+)	7		
37	2	32・33	58	楕円	0.98	0.85	16	80土との新 旧不明	
38	2	39	58	不整円	0.91	0.8	28	35土より新	
39	2	33・36	58	不整円	0.92	0.75	14		
40	2	35	58	楕円	2.14	1.83	28		129007
41	2	34	58	楕円	0.69	0.5	13		
42	2	31・34	58	楕丸長	1.42	1.0	23		1090845
43	2	31	58	方形	1.2	1.1	49		
44	2	38	59	不整形	2.88	2.1(+)	24		
45	2	38	59	楕丸長	3.5	2.14	33		108010・11・26・1120877・1140102・ 105・1270177・1300030

V 図 表

番号	調査区	平面図載 図番号	断面図載 図番号	形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	重複	出土遺物
46	2								
47	2	31	59	不整形	0.93	0.65(+)	17		
48	2	38	59	隅丸方	1.19	1.11	39		
49	2	34・35・ 38	59	楕円	4.35	1.7	20		1108962
50	2	34	59	楕円	0.75	0.54	10		
51	2	34	59	不整形	2.14	1.45	24		108824・109340・130833
52	2	34	59	不整形	0.75	0.6	18		
53	2	34		不整形	1.78(+)	0.55	27		
54	2	31		不整形	1.13	0.78(+)	34		225Pより古
55	2	34	59	不整形	1.64	1.5	7		55土より新
56	2	34		不整形	0.54(+)	0.52(+)	9		
57	2	34		不整形	1.35(+)	0.23(+)	53		
58	2	34	59	楕円	0.59(+)	0.5(+)	5		
59	2	34		不整形	0.78	0.5	22		129613
60	2	34		隅丸方	0.65	0.43(+)	18		
61	2	34		不整形	1.1(+)	0.2(+)	21		
62	2	42・50	50	隅丸長	4.42	3.7	67		9溝・76土より新 108806・7・9・17・25・30・32・1148103 ・104・1158106・115・1168135
63	2	48・51	51	不整形	3.3	1.8	32		64土と新旧 不明瞭 111874・1138585・90・1148101
64	2	48・51	51	楕円	3.82	1.3	38		63・65土と 新旧不明瞭 108831・111875・113888・1148106
65	2	48・51	51	楕円?	3.22	1.58	37		64土と新旧 不明、7溝 より新 109850・1148099・1168128・1188139
66	2	48・52	52	長方形	1.6	1.2	28		69土より新 1278178
67	2	48・51	51	楕円?	2.83(+)	2.46	65		69土より新 1138082・1148100
68	2	47・48・ 52	52	不整形	3.0(+)	1.85(+)	29		69土と新旧 不明 1108061・1188140・1278179
69	2	48・52	52	不整形	3.58(+)	3.25(+)	12		68土と新旧 不明 1148096
70	2	46		不整形	3.3	0.8(+)	9		1278180
71	2	48・52	52	隅丸長	2.11	1.25	18		69土より新
72	2	45・52	52	不整形	3.39	2.9	36		73土と新旧 不明 108815・19・1168116~123・131・133・ 1288146・1288203
73	2	45・52	52	不整形	2.17(+)	1.9(+)	31		72土と新旧 不明 108803・1108869・1138887・1148094・ 1168134・122879
74	2	45・50	50	長方形	1.76	1.3	32		
75	2	45・50	50	不整形	—	—	—		
76	2	45・50	—	不整形	—	—	12		62・76土と の新旧不明
77	2	42		楕円?	3.57	1.3(+)	58		62土より古 130832
78	2	54	59	不整形	0.9	0.7(+)	14		71土より古
79	2	42	59	隅丸長	1.9	1.35(+)	25		89土より新 12983・15・16・130831・131837・38
80	2	45	59	不整形	1.86(+)	0.6(+)	22		73土より古
81	2	54		楕円	0.68	0.53	40		261Pより古

1 土坑・溝一覧表

番号	調査区	平面掲載 図番号	断面掲載 図番号	形状	長さ (m)	短径 (m)	深さ (cm)	重複	出土遺物
82	2	42・53	53	不整形	5.17	2.3(+)	85	83土より新	108図16・109図48・110図56・57・60・ 113図86・89・114図95・116図130・132 ・117図138・118図142・119図143・120 図147・121図151・122図154・123図155・ 124図156・127図181・128図187・194・196 ・201・204・205・131図34
83	2	42・53	53	不整形	—	—	27	82土より古	
82・83	2								108図28・110図65・66・113図91・114図97 ・126図169
84	2	46		不整形	0.9	0.65(+)	18	72土より古	
85	2	41		不整形	0.76	0.58(+)	5	16溝より古	
86	2	41		不整形	—	—	16		
87	2	45	59	不整形	0.99	0.6	22	住居下灰遺 構	
88	2	43・46		不整形	—	—	—		
89	2	41・42・ 43・44	59	不整形	6.8(+)	2.9(+)	55	7住より 古?	129図19・130図23・131図36
90	2	41・42		楕円	1.65	1.4	24	10溝より古	
91	2	41	59	不整形	1.08(+)	0.76(+)	68		
92	2	41		楕丸長	0.79	0.63	9		
93	2	41		不整形	1.3	1.14(+)	8		
94	2	41		楕丸方	0.7(+)	0.68(+)	13		
95	2	41		楕円?	0.93(+)	0.79	13		

番号	調査区	平面掲載 図番号	断面掲載 図番号	形状	長さ (m)	短径 (m)	深さ (cm)	重複	出土遺物
1溝	2								
2	2								
3	2								
4	2								127図182
5	2	なし						近現代	盛土上
6	2								115図114
7	2							65土より古	115図107
8	2	53			5.7(+)	1.08~ 1.45		9溝より新	108図20・35・114図93・116図124・125・ 119図144・126図167・127図183・128図191 ・197
9	2							8溝より古	128図198・129図68・9・14・130図24
10	2							90土より新	
11	2								

V 図 表

表2 ビット一覧表

番号	調査区	柱状平面 図番号	断面掲載 図番号	平面掲載図 番号	重複	長径(軸) (cm)	短径(軸) (cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	1								
2	1								
3	1								
4	1								
5	1								
6	1								
7	1		29	29		34	28	42	
8	1			29		50	37	24	
9	1								
10	1								
11	1								
12	1								
13	1								
14	1								
15	1		29			30	29	25	
16	1								
17	1		29	29		38	30	40	
18	1								
19	1								
20	1			29		50	36	40	
21	1			29		40	34	-	
22	1								
23	2								
24	2		60	34		30	28	41	
25	2		60	34		40	35	50	
26	2		60	34		30(+)	30	56	
27	2		60	34		35	30	26	
28	2		60	34・37		30	30	19	
29	2		60	37		41	37	35	
30	2		60	34		42	35	42	
31	2	55	60	34		27	25	66	
32	2		60	34		54	48	93	
33	2		60	34	33 P との新旧不明	35	30	66	
34	2		60	34	34 P との新旧不明	30	26	18	
35	2		60	34		27	27	24	
36	2		60	34		35	35	37	
37	2		60	38・40	27土より新	27	26	19	
38	2		60	38	27土より新	40	35	14	
39	2		60	38		45	41	28	
40	2			38		37	30	-	
41	2			40		52(+)	45	38	
42	2			40		57	45	43	
43	2			40		50	40	53	
44	2			40		38(+)	19	50	
45	2			38・40		30	17(+)	30	
46	2			38		30	25	30	
47	2		60	38		45(+)	42	49	
48	2			38		35	31	40	
49	2			40		37	30	17	
50	2		58	40	29土より新	30	20	27	
51	2		58	40	29土より新	40	35	45	
52	2		58	41	29土より新	41	35	48	
53	2		60	39	29土より新	35	31	59	
54	2		60	41		36	30	77	
55	2		60	40		55	50	37	
56	2			40・41		42	37	4	

番号	調査区	柱状平面 図番号	断面図載 図番号	平面図載 図番号	重複	長さ(軸) (cm)	短径(軸) (cm)	深さ (cm)	出土遺物
57	2	56	60	39・41	29土より新	50	45	29	
58	2		60	41		35	30	38	
59	2	56	60	39	30土より新	45	40	27	
60	2	56	60	39		57	51	72	
61	2	56	60	39		47	40	23	
62	2	56	60	39		59	54	27	
63	2			38		27	22	18	
64	2		60	39		42	40	33	
65	2	56	60	39		67	60	34	
66	2	56		39		-	-	25	
67	2	56	60	39		60	58	25	110966
68	2		60	41	69Pより古	55	37	40	
69	2		60	41	68Pより新	40	25	39	
70	2	56	58	39	35土より新	47	40	61	
71	2	56	60	39		68	56	82	1259157
72	2	56	60	39		61	54	25	
73	2	56	60	36		68	52	96	
74	2	56	60	39		45	44	26	
75	2			38		40	30	8	
76	2			40		35	27(+)	34	
77	2		60	39		47	45	30	
78	2			41		25	20	21	
79	2		60	39		45	37	41	
80	2		58	33	37土との新旧不明	30	27	26	
81	2	56		39		45	45	25	
82	2	56	60	36		55	46	72	
83	2		60	33		42	37	30	
84	2	55	60	38		42	32	60	1096041・52・132B04
85	2		60	33		55	45	63	
86	2	56	60	39		57	50	73	1156012・1276184
87	2	56		33		57	50	25	
88	2	56	60	32	91Pより古	70	35(+)	40	
89	2		60	39		48	40	54	1086118・1156111
90	2		60	39		43	40(+)	36	
91	2		60	32	88Pより新	35	26(+)	37	
92	2			36		36	32	33	
93	2	56	60	32		52	48	57	1276185
94	2	56	60	32・33・35 ・36		52	51	37	
95	2	56	60	32		38	36	68	
96	2	56	60	35		46	36	45	
97	2	56	60	35		45	35	45	
98	2	56	60	35・36		47	46	45	
99	2	56	60	35		45	39	28	
100	2	56	60	33	2溝より新	36	26	37	
101	2		60	33	2溝より新	65	55	29	
102	2	56	60	36		60	56	38	
103	2		60	36		20	18	22	
104	2	56	60	36		41	28	25	
105	2	56	60	36・39		55	41	52	
106	2	56	60	32		38	35	41	
107	2	56	60	35		30	28	27	
108	2		60	36		55	35(+)	37	
109	2		60	36		50(+)	35	20	
110	2	56	60	36		55	45	88	
111	2	56	60	32		45	30	67	
112	2	56	60	33		35	25	27	
113	2			33		35	25	19	

V 図 表

番号	調査区	柱状平面 図番号	前面掲載 図番号	平面掲載図 番号	重複	長さ(軸) (cm)	径径(軸) (cm)	深さ (cm)	出土遺物
114	2		60	33		45	37	20	
115	2		60	36	3住より新	38	29	34	
116	2	56	60	33		60	55	43	
117	2	56	60	36		100	65	73	
118	2	56	61	36		40	35	74	
119	2	56	61	36		57	47	60	
120	2	56	61	35		28	25	28	
121	2	56	61	35		40	40	30	
122	2	56	61	36		55	42	56	
123	2	56	61	36		43	30	27	
124	2		61	35		35	32	31	
125	2	56	61	36		40	37	56	
126	2	56	61	36		35	30	25	
127	2	56	61	35・38		54	45	73	
128	2	56	61	36		78	55	92	
129	2	56	61	36		55(+)	50	87	
130	2	56	61	36		50	45(+)	37	
131	2	56	61	32		35	27	49	
132	2	56	61	35		59	52	50	
133	2	56	61	36	134Pより新	42	40(+)	47	
134	2	56	61	36	133Pより古	40	35	26	
135	2	56	61	35	135P	62	45	24	
136	2	56	61	35	136P	40	40	53	
137	2	56	61	36		50	45	40	
138	2	56	61	35		26	22	22	
139	2	56	61	--		--	--	82	
140	2	56	61	33		45	36	51	
141	2	56	61	35	169Pより新	50	40	55	
142	2	56	61	36	143Pより古	42	37	35	
143	2	56	61	36	142Pより新	42	37(+)	25	
144	2		61	36		36	30	5	
145	2	56	61	36		55	43	27	
146	2		61	38		25	24	15	
147	2	56	61	39		32	25	20	
148	2	56	61	39	新旧確認	47(+)	40	87	
149	2	56	61	39	新旧確認	50	47(+)	49	
150	2			36・39		30(+)	10(+)	35	
151	2	56	61	36	152Pより古	45	26(+)	42	
152	2	56	61	36	151Pより新	55	50	68	
153	2	56	61	36		50	36	25	
154	2	56	61	36		75	50	55	
155	2		61	38	182Pとの新旧不明	45(+)	45	64	
156	2		61	36		15	12	15	
157	2	56	61	36		55	35	64	
158	2	56	61	36		43	36	79	
159	2			36		20	15(+)	14	
160	2	56	61	36	161Pより古	43	35	20	
161	2		61	36	160Pより新	45	40	30	
162	2	56	61	38・39	163Pより新	50	40	65	106029
163	2		61	38	162Pより古	58	38(+)	32	
164	2	56	61	38		40(+)	40	55	
165	2	56	61	38		50	45	43	
166	2	56	61	--		--	--	45	
167	2	56	61	--		--	--	20	
168	2	56	61	--		--	--	22	
169	2	56	61	35	141Pより古	52	30	49	
170	2	56	61	38	171Pより新	50	45	78	
171	2		61	38	170Pより古	55	37(+)	35	
172	2	56	61	38	173Pより新	30(+)	30	30	1110071

2 ビット一覧表

番号	調査区	柱状断面 図番号	断面掲載 図番号	平面掲載図 番号	重複	長さ(軸) (cm)	直径(軸) (cm)	深さ (cm)	出土遺物
173	2		61	38	172Pより古	55	45	37	
174	2		61	-		-	-	25	108882
175	2		61	38		30	29	36	
176	2		61	38		45	38	42	
177	2		94	33		68	52	62	
178	2	56	61	35		50	37	62	
179	2	56	61	35		31	31	33	
180	2	55	61	31		42	36	45	
181	2	56	61	35・38		35	32	41	
182	2	56	61	38	155Pとの新旧不明	45	40(+)	41	
183	2	56	61	38・39	184Pより新	50	45	53	
184	2	56	61	38・39	183Pより古	45	37	60	
185	2	56	61	38	185Pより古	35	26	34	
186	2	56	61	35	187Pより古	50	40	40	
187	2	56	61	35	186Pより新	41	35	60	
188	2		61	35		30	25	12	
189	2	56	61	38		40	35	68	
190	2			34		45	42	47	
191	2	56	61	38		80	40	60	
192	2	56	61	38		40(+)	32(+)	45	
193	2	56	61	38		40	32	20	
194	2	56	61	38		48	45	32	
195	2	56	61	38	185Pより新	35	30	36	
196	2	55	61	38	206Pとの新旧不明	65	50	35	
197	2			38		45	32	-	
198	2	56	61	38		68	32(+)	18	
199	2	55	61	38		31	30	18	
200	2	55	61	38		30	30	32	127図186
201	2		61	38		45	42	20	
202	2	55	61	38		30	25	37	
203	2		61	38		42	32	50	
204	2	56	61	35		27	25	16	
205	2		61	35		80	30	20	
206	2		61	38	196Pとの新旧不明	42(+)	32(+)	38	
207	2		61	-		-	-	60	
208	2		61	38		60	50	10	
209	2		62	38		47	40	40	
210	2		62	38		42	36	26	
211	2		62	38		25	24	16	
212	2		62	34		23	12	7	
213	2	55	62	34		36	20(+)	31	
214	2	55		34		52	40	34	
215	2	55	62	34		75	55	26	
216	2	55	62	34		27	27	54	
217	2		62	34		35	30	20	
218	2		62	35		32	30	18	
219	2	55	62	34		36	25	47	
220	2		62	37		27	15(+)	42	
221	2	55	62	37		55	45	32	
222	2		62	35		40	30	48	
223	2		62	32		45	43	65	
224	2		62	34		31	27	30	
225	2	55	62	31	54土より新	28	21(+)	40	
226	2	55	62	34		40	30	40	
227	2	55	62	34		55	35	55	
228	2		62	34		50(+)	38	25	110図67
229	2	55	62	34		46	41	78	
230	2	55	62	34	55土より新	35	34	26	
231	2	55	62	31・34		36	26	54	

V 図 表

番号	調査区	柱状平面 図番号	断面掲載 図番号	平面掲載図 番号	重規	長径(軸) (cm)	短径(軸) (cm)	深さ (cm)	出土遺物
233	2		62	34		35	23	8	
234	2		62	34		33	31	8	
236	2	55	62	34		37	31	5	
237	2	55	62	34		44	31	0	
238	2	55	62	34		30	24	3	
239	2		62	34		45	25	3	
240	2	55	62	34		48	45	5	
241	2	55	62	34		37	30	5	
242	2		62	34		30	30	3	
243	2		62	34		25	24	9	
244	2	55	62	34	245Pより古	32	25	7	
245	2	55	62	34	244Pより新	20	15(+)	6	
246	2		62	34		30	26	9	
247	2			34		34(+)	20(+)	3	
248	2	57	62	48		52	51	4	
249	2		62	48		56	46	9	
250	2	57	62	48		45	39	3	
251	2		62	48		42	35	0	
252	2		62	48		44	35	0	
253	2	57	62	48		29	25(+)	0	
254	2	57	62	48		38(+)	30	8	
255	2		62	48		30	23	2	
256	2		62	48		28	16	0	
257	2		62	48		25	19	5	
258	2	57	62	48・52		30	25	4	
259	2		62	45・46・52		64	45	9	
260	2	57	62	45・50		54	48	7	
261	2	57	62	46		32	31	6	
262	2	57	62	-	81土より新	55	-	3	
263	2		62	46・48・52	71土より古	37	31	7	
264	2		62	46・54		25	25	3	
265	2		62	46		34	30	5	
266	2		62	48		31	27	0	
267	2		62	48		24	22	4	
268	2		62	48		31	28	0	
269	2		62	48・52		40	34	4	
270	2		62	-		30	-	2	
272	2		62	54		80	50	2	
273	2		62	48		25	24	2	
274	2	57	62	54		39	36	4	
275	2	57	62	45・50		70	59	4	
276	2		62	45・50		20	17	0	
277	2		62	45・50		27	24	5	
278	2		62	48		25	24	8	
279	2	57	62	41・52	11溝より新	45	40	5	
280	2	57	62	41	新旧不明	45	40	0	
281	2		62	41	新旧不明	37(+)	35	0	
282	2		62	41	11溝より新	42	30	2	
283	2		62	54		58	40(+)	8	
284	2	57	62	46・54		60	53	9	
285	2		62	46		28	23	0	
286	2		62	46・54		20	20	5	
287	2		62	46・54		37	26	1	
288	2		62	46・54		45	36	4	
289	2		62	-		-	-	2	
290	2		62	48・52		22	22	0	
291	2		62	48		32	30	7	
292	2		62	42・54	62土より古	47	38	2	
293	2		62	42	62土より古	53	40	5	

2 ビット一覧表

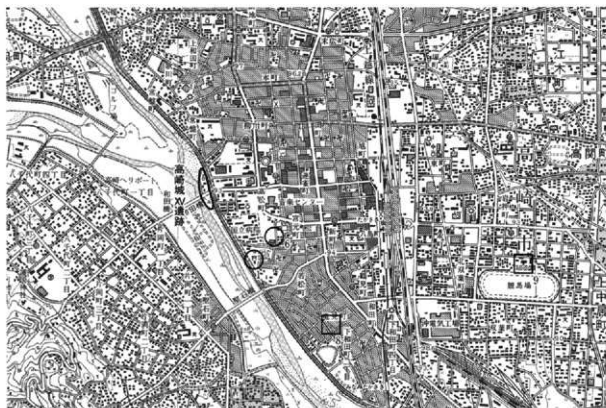
番号	調査区	社成平面 図番号	断面図 図番号	平面図 図番号	取巻	長径(軸) (cm)	短径(軸) (cm)	深さ (cm)	出土遺物
294	2	57	62	45		35	25	1	
295	2	57	62	46・54	5住より新	65	43	0	
296	2		59	54	5住より新	24	22	9	
297	2		62	46・54	71土より古	28	26	5	
298	2		62	54	5住より新	42	38	3	
299	2		63	54	5住より新	28	26	2	
300	2		63	46・54	5住より新	41	35	5	
301	2		63	54	5住より新	27	22	8	
302	2		63	—		—	—	8	
303	2	57	63	45	304Pより古	40(+)	30	2	
304	2		63	45	303Pより新	40(+)	27(+)	0	
305	2		63	42		52	40	7	
306	2	57	63	45		43	30(+)	9	
307	2		63	45		55	50	0	
308	2		63	41・54	8住より新	52	50	1	
309	2	57	63	42・43		52(+)	40(+)	6	
310	2		63	46		37	32	3	
311	2		63	45		27	24	2	
312	2		63	45		25(+)	25	6	
313	2	57	63	43		63	60	9	
314	2	57	63	43		50	40	8	
315	2			42		42	35	6	
316	2	57	63	54		40	32	9	
317	2	57	63	43・54		70(+)	46	8	
318	2			42		75	55	9	
319	2	57	63	42		53	48	7	
320	2	57	63	41	90土より新	52	50	6	
321	2	57	63	41		53	47	0	
322	2	56	63	41	343Pより新	50	43	2	
323	2	57	63	41		60	50	6	
324	2		63	42・53		43	35	6	
325	2	57	63	46		45	38	5	
326	2	57	63	46		60	54	2	
327	2		63	45		45	35	0	
328	2		63	43	329Pより新	42	31	5	
329	2		63	43	328Pより古	23	20(+)	8	
330	2		63	43		30	23	0	
331	2		63	42	89土との新旧不明	35	31	1	
332	2	57	63	42		57	52	7	
333	2	57	63	42		35(+)	20(+)	1	
334	2	57	63	41		72	60	7	
336	2		63	46		25	22	5	
337	2		63	43		30	27	5	
338	2			43		42	25(+)	1	
339	2		63	43		43(+)	15(+)	7	
340	2		63	43		35	28	5	
341	2		63	41		55	54(+)	2	
342	2		63	41		58	55	4	
343	2	56	63	41	322Pより古	31	22(+)	6	
344	2	56	63	41		50	42	4	
345	2	57	63	41		51	43	2	
346	2	57	63	44		50	43	7	
347	2		63	41		50	39	4	
348	2		63	41		31	24	5	
349	2		63	41		43	32	2	
350	2	56	63	41		45	30	5	
351	2		63	41		52	45	0	
352	2	56	63	41	94土より新	38	32	7	
353	2	56	63	41	93土より新	38	36	6	

V 図 表

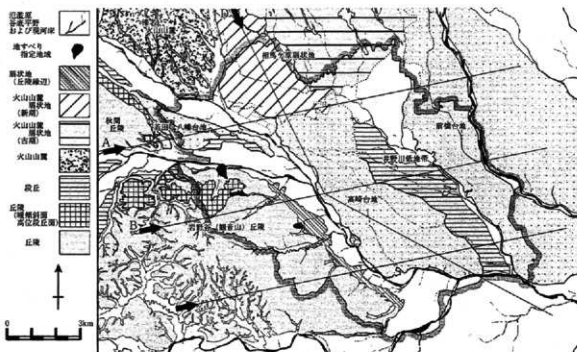
番号	調査区	柱状平面 図番号	断面掲載 図番号	平面掲載図 番号	重複	長径(軸) (cm)	短径(軸) (cm)	深さ (cm)	出土遺物
354	2		63	41		81	80	0	
355	2	56	63	41		39	33	4	
356	2	56	63	41		40	36	8	
357	2	57	63	45	8溝より古	48	31(+)	5	
358	2	56	63	41		39	36	7	
359	2	57	63	41	93土より新	47	47	0	
360	2	57	63	41		32	30	0	
361	2	57	63	-		-	-	5	
362	2	57	63	41・42	82土より古	40	33	3	
363	2	57	63	45	8溝より古	89(+)	55(+)	5	
364	2		63	41		30	21	1	
365	2			41	新旧不明	22	20(+)	5	
366	2			41	新旧不明	41	35(+)	5	
367	2		63	41		36	27	5	
368	2		63	41		30	26	0	
369	2		63	41		43	38	3	
370	2		63	41		36	27	5	
371	2		63	42・45		52	41	0	
372	2		63	42	83土より古	30	26	0	
373	2		63	41		47	35	3	



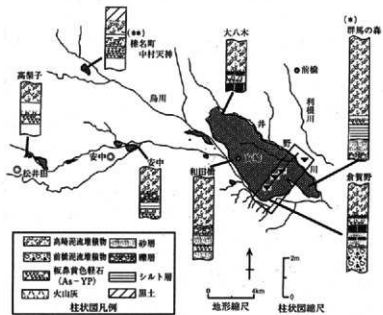
第1図 遺跡位置図 (国土地理院発行20万分の1地勢図「宇都宮」を使用)



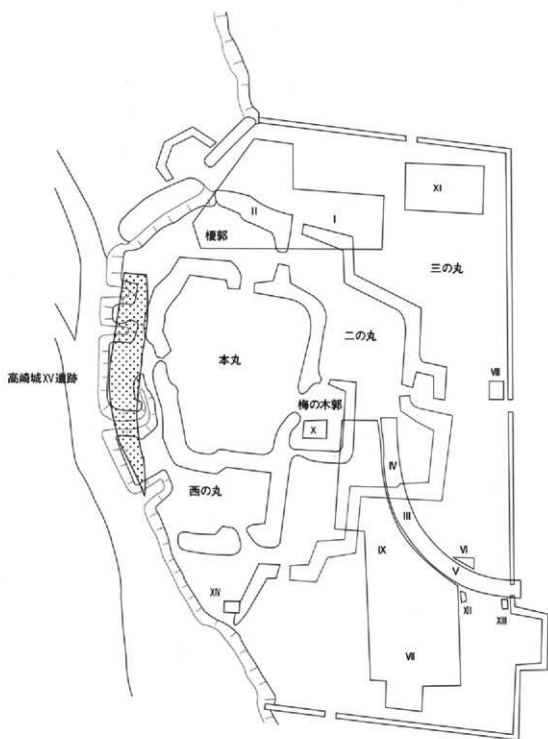
第2図 周辺の遺跡 (国土地理院発行2.5万分の1地形図「高崎」「富岡」を使用)
○古墳時代 □弥生時代



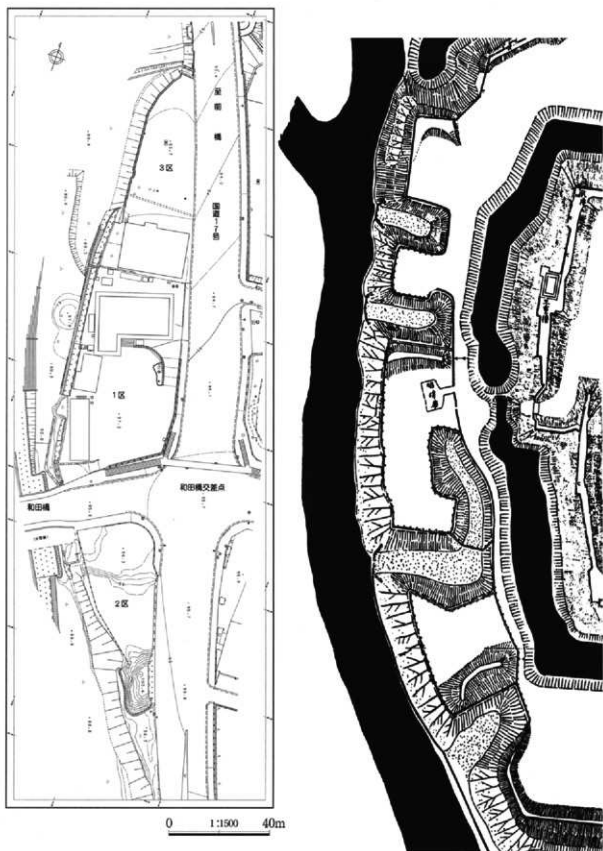
第3図 高崎市域と地形区分図 (『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』より)



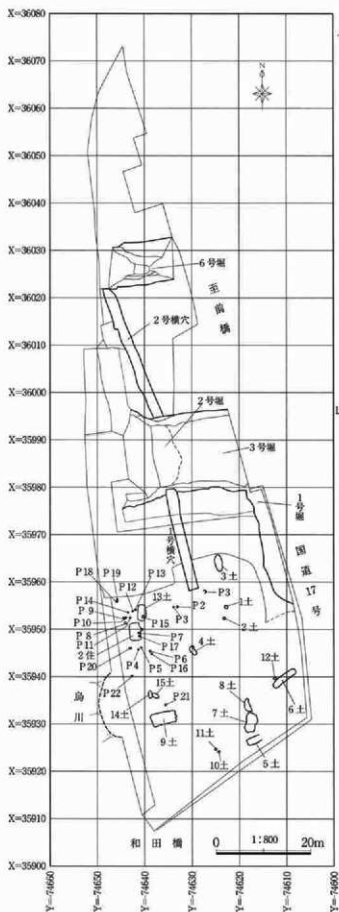
第4図 高崎泥流分布範囲 (『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』より)



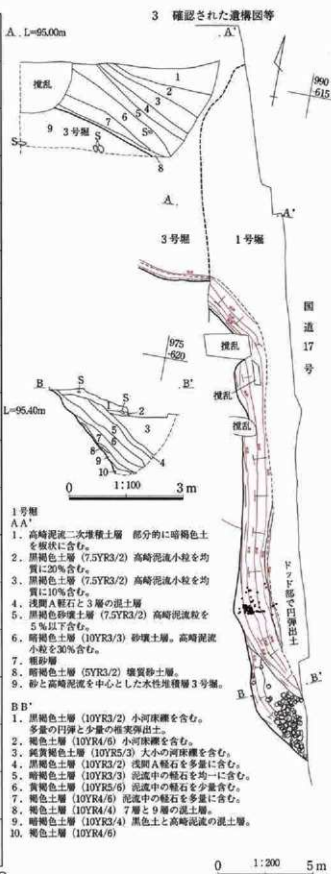
第5図 高崎城遺跡調査地点位置図



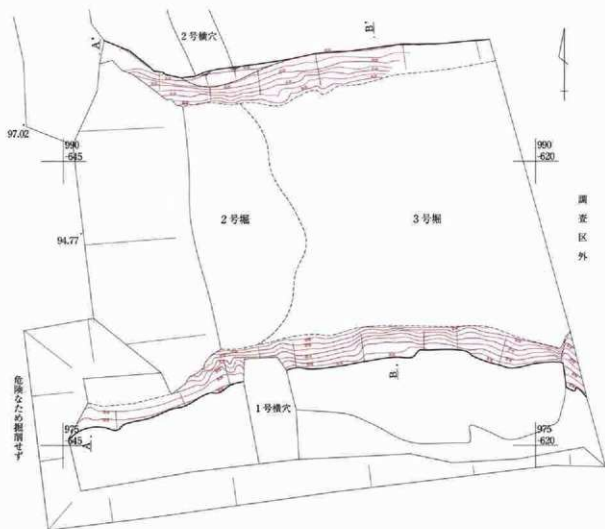
第6図 調査前現況図、高崎城縄張り図（部分）



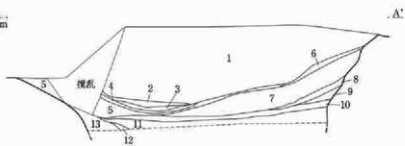
第7図 1区・3区全体図、1号堀平面、断面図



V 图 表



A-A'
L=95.20m

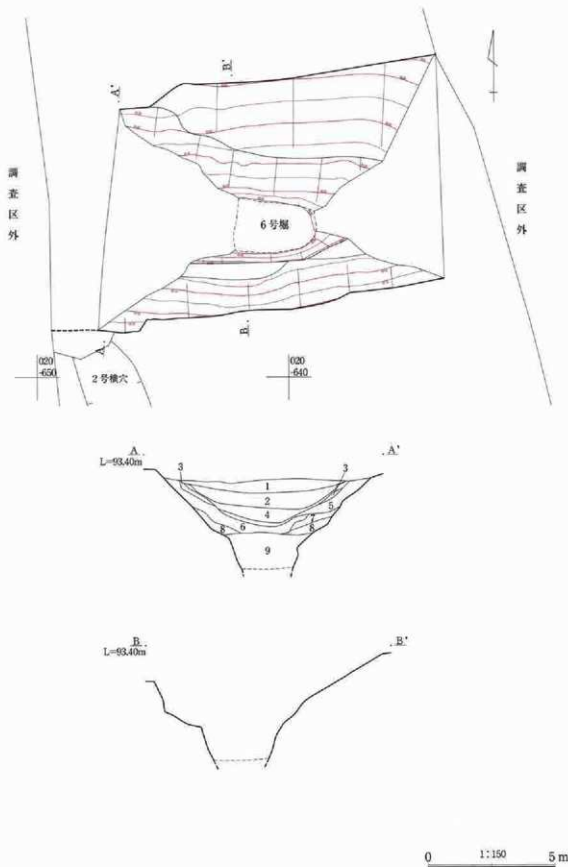


B-B'
L=93.40m



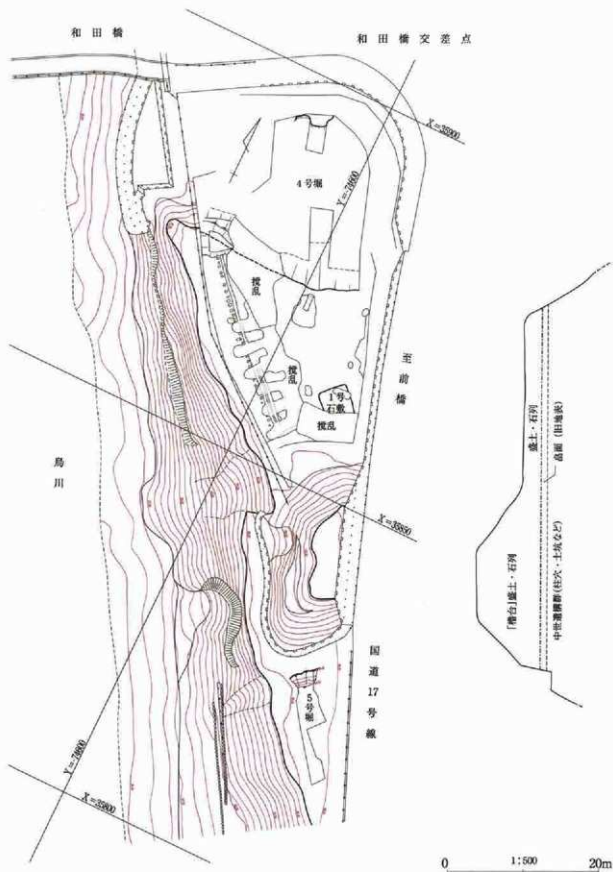
0 1:200 5 m

第8图 2号堀・3号堀



第9図 6号堀

V 图 表

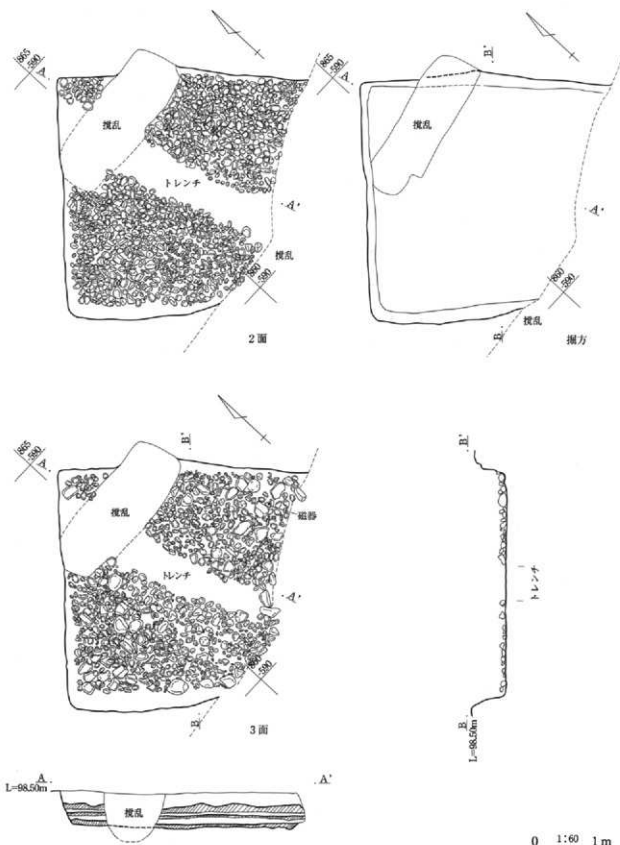


第10图 2区盛土上全体图、断面模式图

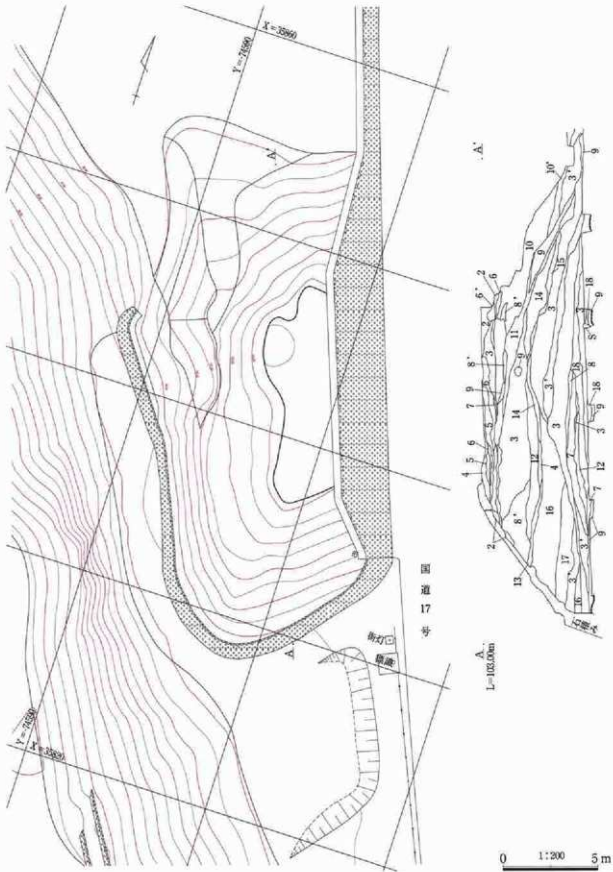


第11図 4号堀・5号堀

V 図 表



第12図 1号石敷遺構



第13図 「和田城櫓台跡」現況図、土層断面図

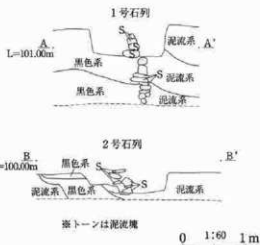
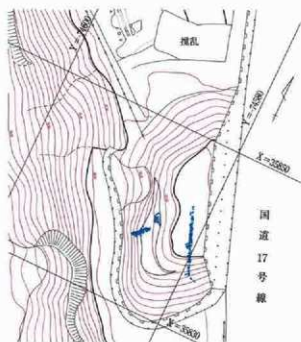


槽台土層注記

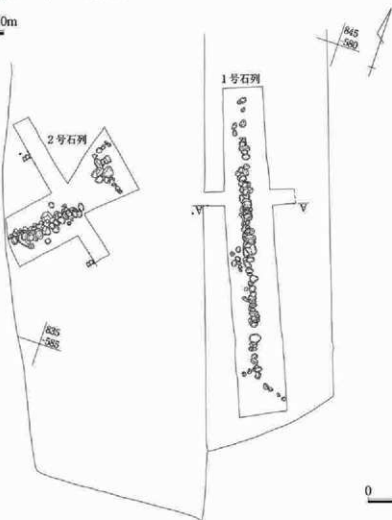
1. 表土層
2. 純黄褐色土層 (10YR4/3) 本根の影響が稀まきなく柔らかい。
3. 紫色土層 (7.5YR6/6) 高崎泥流の色の濃い部分。やや黄色味が強い。
- 3'. 3層に直径5~20cmの円礫を10%、黒色土を10%不均質に含む。この円礫は石列ではない。
4. 高崎泥流中に含まれる砂層 軽石含む。泥流粒「中〜大」を10%含む。
5. 褐色砂壤土層 (10YR4/4) 部分的に砂層を塊状に含む。
6. 暗褐色土層 (7.5YR5/8) 高崎泥流中の色の濃い部分。泥流下部の土であらう。
- 6'. 塊状をなす6層を使用した盛土。
7. 暗褐色土に高崎泥流を5~10%含む。
8. 紫色土層 (7.5YR6/6) 高崎泥流を主体とし、暗褐色土を5~10%含む。
- 8'. 8層と同様であるが、暗褐色土をやや多く含む。
9. 明褐色土層 (7.5YR5/8) 高崎泥流中の色の濃い部分に暗褐色土を少量含む。
10. 紫色土層 (7.5YR6/6) 高崎泥流を主体とし、暗褐色土を5~20%較粒に含む。
- 10'. 高崎泥流を主体とし、河床礫を含む。
11. 高崎泥流の紫色部分と黒色土が数cmの板状互層をなす。
12. 紫色土層 (7.5YR6/6) 高崎泥流が塊状をなす。軽石と礫を30%含む。しまりなく崩れやすい。
13. 暗褐色土と高崎泥流の混土層
14. 高崎泥流の明褐色部分と泥流中の砂と軽石部分が数cmから10cm厚の互層をなす。
15. 高崎泥流中の砂層と軽石層を使用した盛土層
16. 暗褐色砂壤土層 (10YR3/4) 泥流粒「小〜大」を含む。壤土質の部分あり。河質の土を10~20cm厚の板状に盛る。
17. 10層に似るが砂壤土部分が60%を占める。河質の土を10~20cm厚の板状に盛る。
18. 高崎泥流の明褐色部分と塊状の紫色部分の混土層

第14図 「和名城槽台跡」 残存状態

3 確認された遺構図等



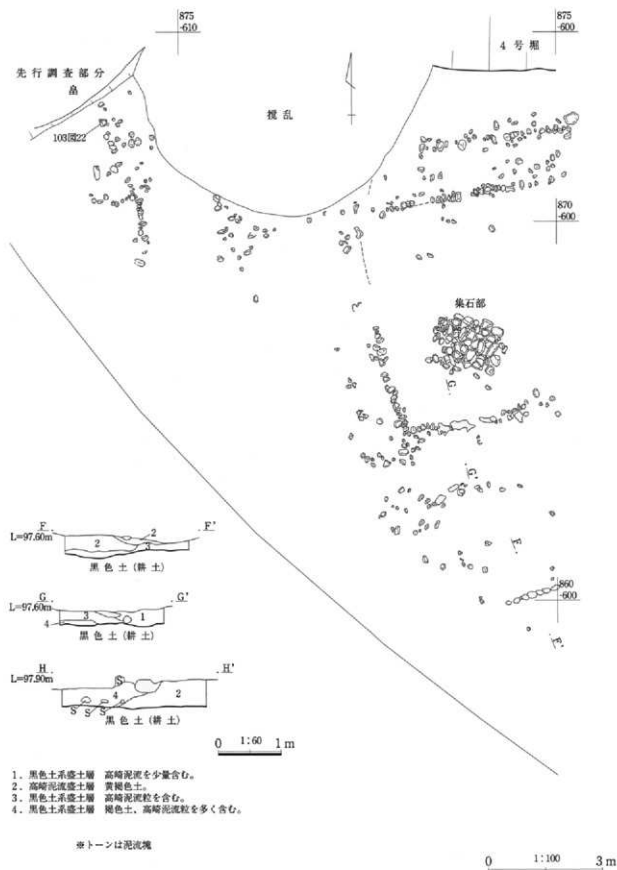
0 1:400 10m



第15図 【和田城櫓台跡】盛土内石列



第16図 2区盛土内石列全体図、集石部部分図

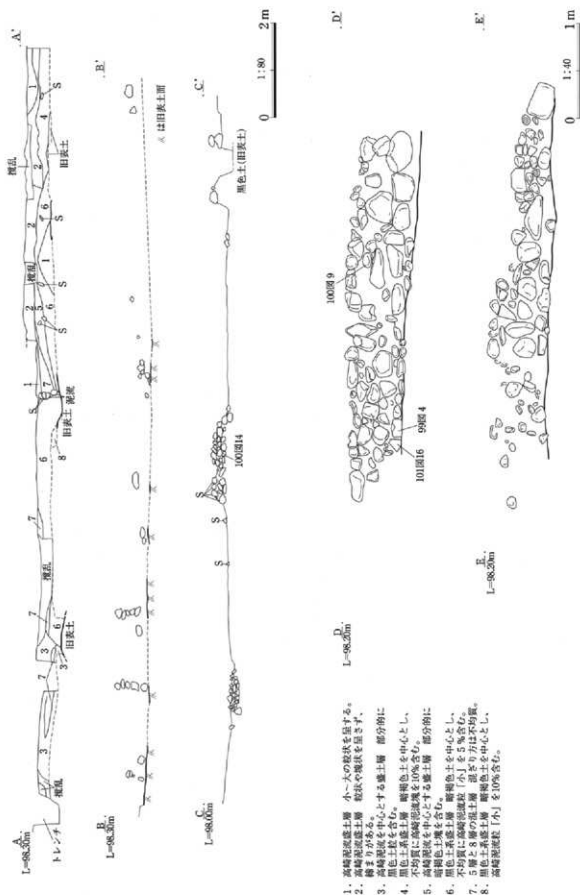


第17図 2区盛土内石列平面図(1)、土層断面図

V 図 表



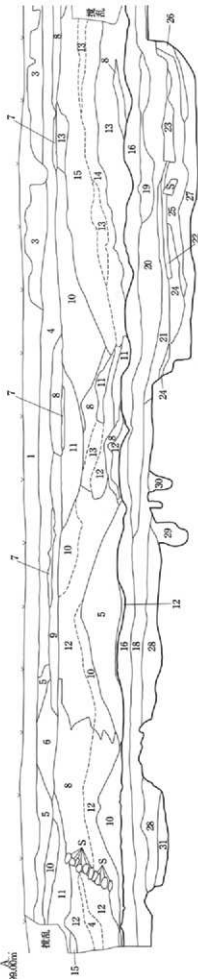
第18図 2区盛土内石列平面図(2)



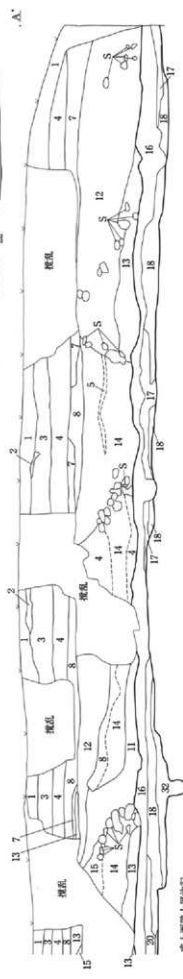
第19図 2区盛土内石列土層断面図・断面図・断面図

1. 高崎型高盛土層 小～大の粒状を混する。
2. 高崎型高盛土層 粒状や塊状を混する、棒まじりがある。
3. 高崎型盛土を中心とする盛土層 部分的に黒色土粒を含む。
4. 黒色土高盛土層 黒褐色土を中心とし、不均質に高崎型盛土を10%含む。
5. 高崎型高盛土層 黒褐色土を中心とし、黒色土高盛土を含む。
6. 高崎型高盛土層 黒褐色土を中心とし、不均質に高崎型盛土を10%含む。
7. 5層と6層の混土層 黒褐色土を中心とし、黒色土高盛土層 黒褐色土を中心とし、高崎型盛土(小)を10%含む。

L=500m



.A'



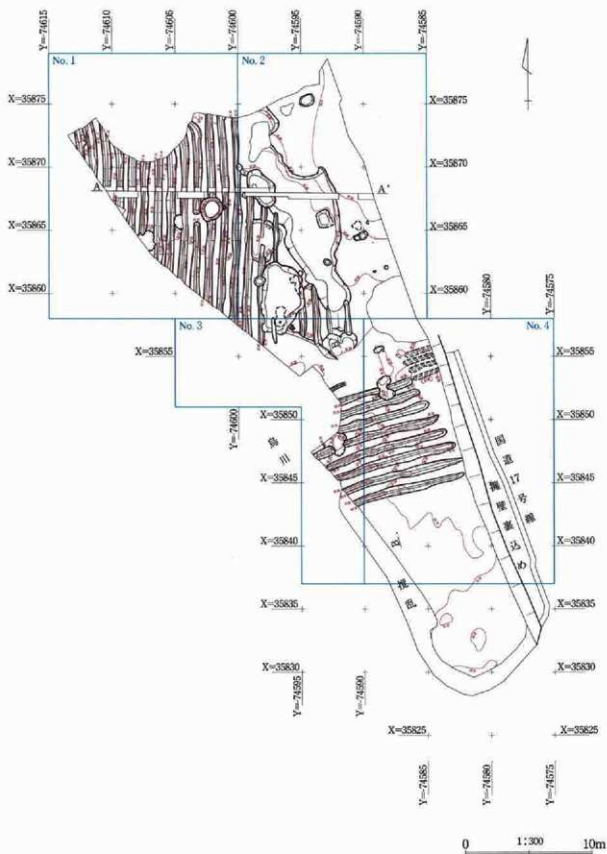
盛土河盛土層注記

1. 表土層
2. 浸出A層石の二次埋積層
3. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 高砂泥流を主体とし、粘褐色土を5~10%含む。盛土。
4. 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 高砂泥流を主体とし、粘褐色土を5~10%含む。盛土。
5. 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 高砂泥流を主体とし、粘褐色土を5~10%含む。盛土。
6. 暗褐色土に高砂泥流を20~30%含む。盛土層
7. 高砂泥流中の砂層と軽石層を主体とし、高砂泥流を5~10%含む。
8. 盛土下層積作土を中心とし、高砂泥流を5~10%含む。
9. 4層と5層の混成土層 盛土。
10. 暗褐色土層 (7.5YR3/6) 高砂泥流の濃い部分。やや黄色味が強い。
11. 暗褐色土層 (7.5YR3/6) 高砂泥流を主体とし、暗褐色土を5~20%含む。
12. 暗褐色土層 (7.5YR3/6) 高砂泥流が塊状をなす。軽石と礫を30%含む。埋まりなく崩れやすい。盛土。
13. 暗褐色土と高砂泥流の混成土層
14. 暗褐色土に高砂泥流を5~10%含む。
15. 盛土下層積作土を中心とし、高砂泥流を20~30%含む。
16. 暗褐色土層 (10YR2/2) 旧表土。崩層。
17. 暗褐色土層 (10YR4/6) 泥流小粒を主体とし、不均質に暗褐色土を20~30%含む。

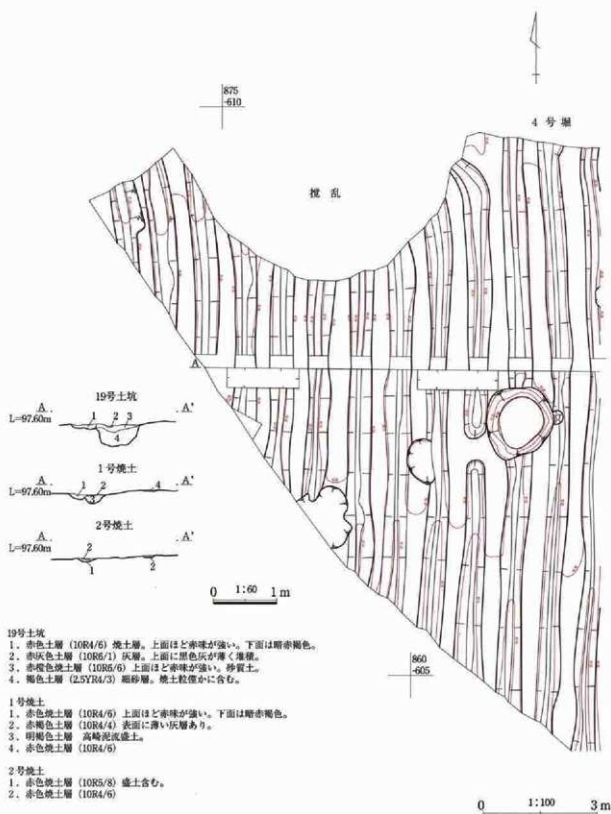
18. 暗褐色土層 (10YR2/3) 旧表土 (積作土) 層より埋まりがある。泥流小粒を5%含む。
19. 暗褐色土層 (10YR2/2) 泥流層 [中~大] を不均質に20%含む。24・25土塊。
20. 暗褐色土層 (10YR2/4) 均質な上で部の粗大土は受け付けない。24・25土塊。
21. 暗褐色土層 (10YR2/3) 均質な上で部の粗大土は受け付けない。24・25土塊。
22. 不均質に暗褐色土を主体とする。各層が不均質をなす。24・25土塊。
23. 不均質に暗褐色土を10~20%含む。24・25土塊。
24. 暗褐色土層 (10YR2/4) 盛土小粒層中に含む。24・25土塊。
25. 暗褐色土層 24・25土塊。
26. 20層と暗褐色土の混成土層 24・25土塊。
27. 20層にオリーブ褐色 (2.5Y4/4) 層砂を不均質に含む。24・25土塊。
28. 暗褐色土層 (10YR2/2) 高砂泥流状 [小~中] を不均質に20%含む。26土塊。
29. 暗褐色土層 (10YR2/3) 高砂泥流中粒20%含む。44ピット。
30. 上部に泥流層、下部に暗褐色土を含む。45ピット。
31. 20層と同質であるが、やや黒みが強い。26土塊。
32. 暗褐色土層 (10YR2/3) 高砂泥流状 [小~中] 5%含む。

0 1:60 1m

第20図 2区盛土層断面図

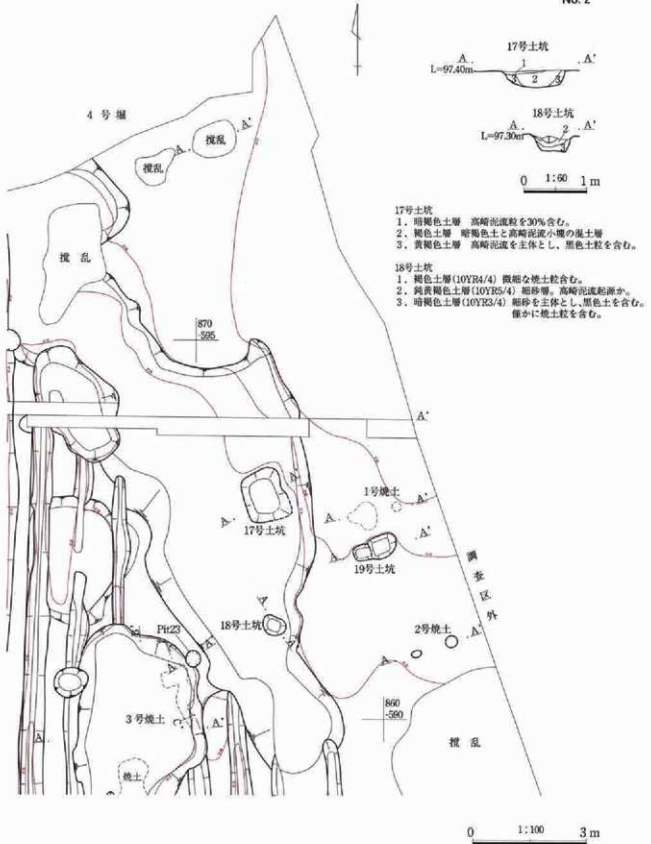


第21図 2区盛土下畠状遺構全体図

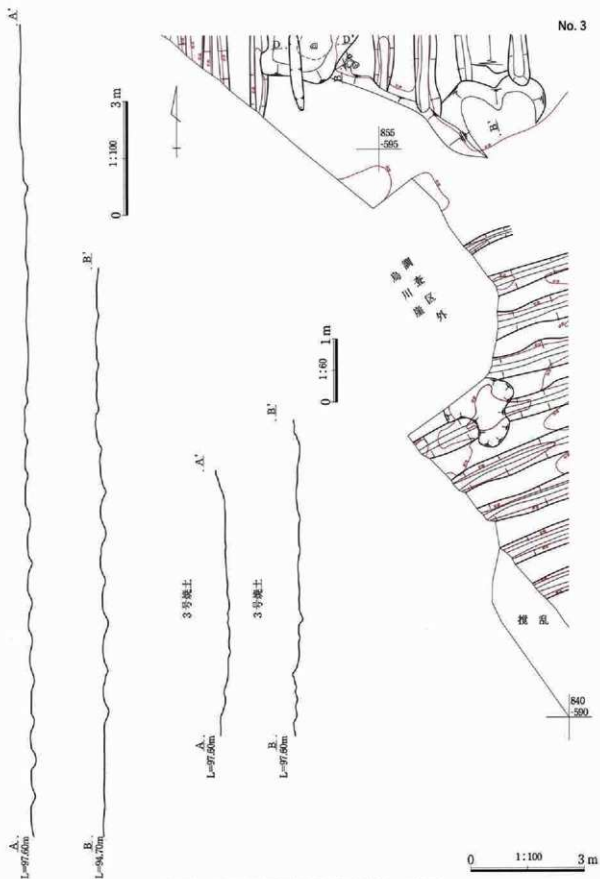


第22図 2区盛土下島状遺構平面図(1)、土層断面図

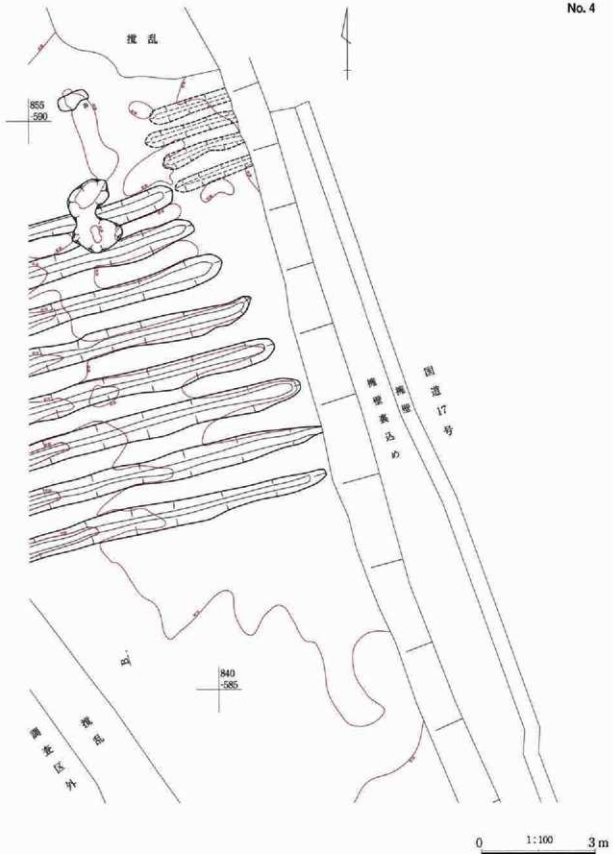
No. 2



第23図 2区盛土下高状遺構平面図(2)



第24图 2区盛土下畝状遺構平面図(3)、断面図



第25図 2区盛土下畝状遺構平面図(4)

V 図 表

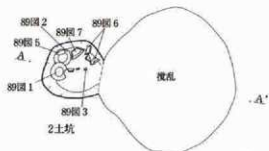


1土坑

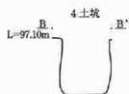
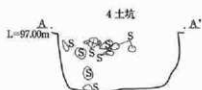
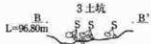
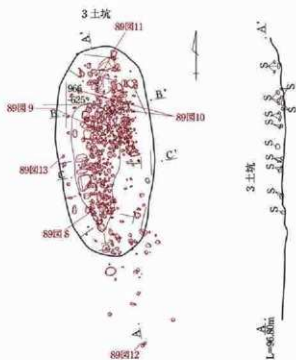
1. 黒色灰に近い木炭細片層
2. 焼土小粒と高岭泥流小粒の混土层

2土坑

1. 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 5mm程の木炭粒少量含む。

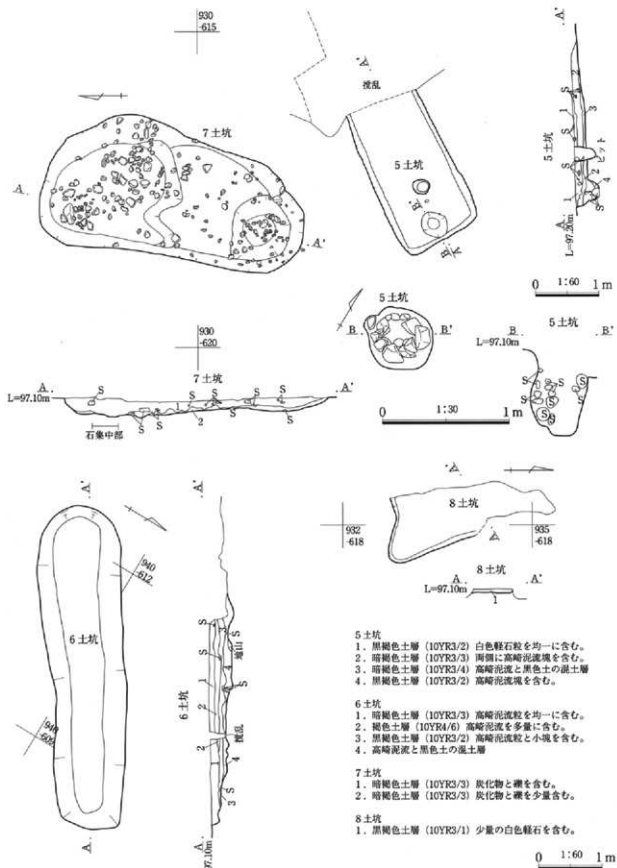


0 1:30 1m



0 1:60 1m

第26図 1号・2号・3号・4号土坑



5 土坑

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 白色軽石粒を均一に含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 両側に高矽泥流塊を含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/4) 高矽泥流と黒色の凝土層
4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 高矽泥流塊を含む。

6 土坑

1. 暗褐色土層 (10YR3/3) 高矽泥流塊を均一に含む。
2. 褐色土層 (10YR4/6) 高矽泥流を多量に含む。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 高矽泥流塊と小塊を含む。
4. 高矽泥流と黒色の凝土層

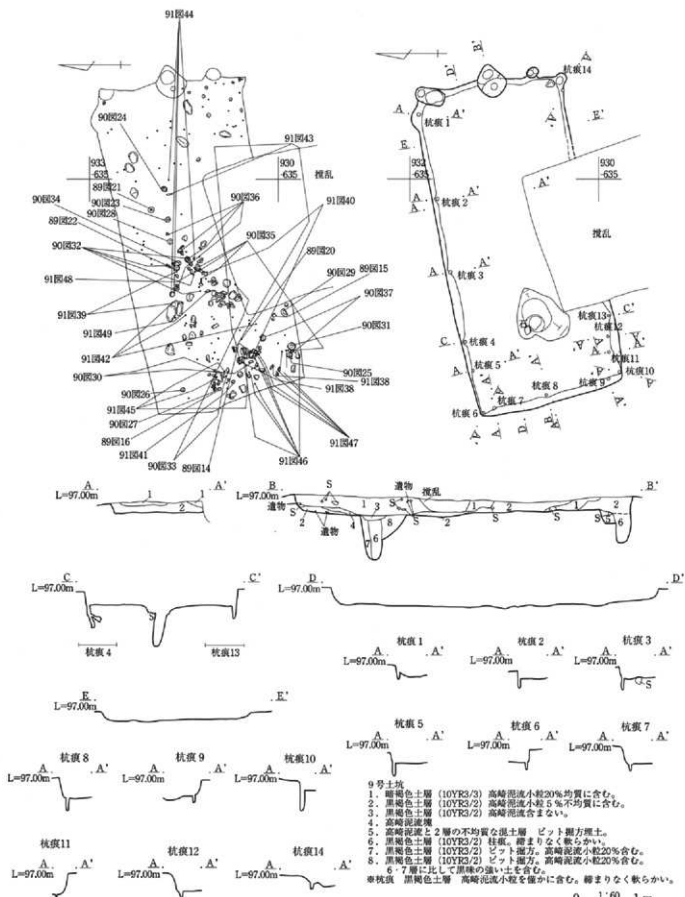
7 土坑

1. 暗褐色土層 (10YR3/3) 炭化物と礫を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 炭化物と礫を少量含む。

8 土坑

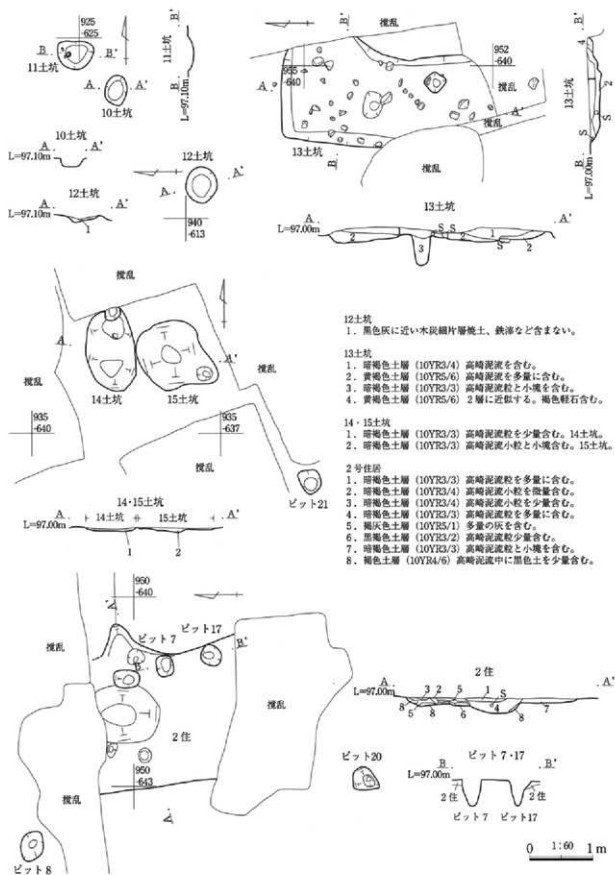
1. 黒褐色土層 (10YR3/1) 少量の白色軽石を含む。

第27図 5号・6号・7号・8号土坑



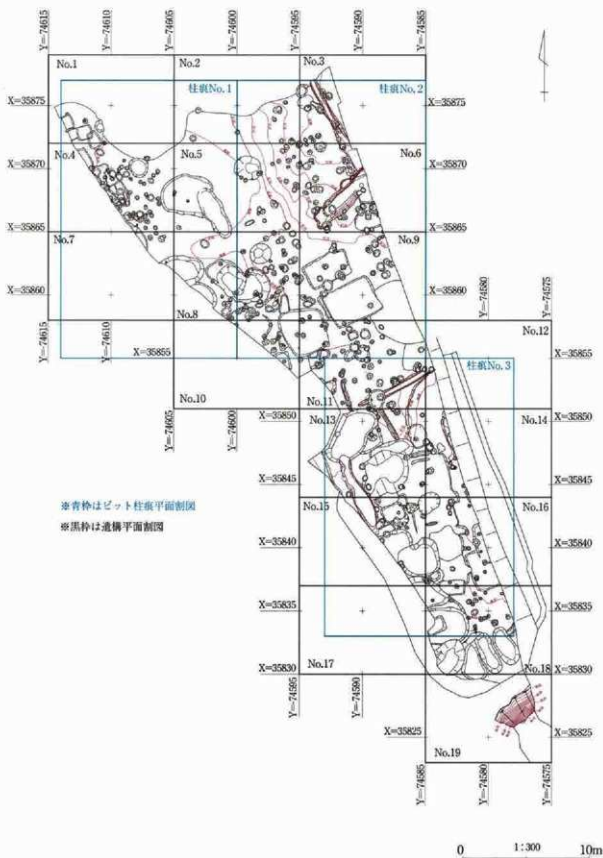
- 9号土坑
1. 黒褐色土層 (10YR3/3) 高崎泥流小粒20%均質に含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 高崎泥流小粒5%不均質に含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 高崎泥流含まない。
 4. 高崎泥流塊
 5. 高崎泥流と2層の不均質な混土層。ビット掘方埋土。
 6. 黒褐色土層 (10YR3/2) 特痕。締まりなく軟らかい。
 7. 黒褐色土層 (10YR3/2) ビット掘方。高崎泥流小粒20%含む。
 8. 黒褐色土層 (10YR3/2) ビット掘方。高崎泥流小粒20%含む。
 - 6・7層に比して黒味強い土を含む。
- ※特痕 黒褐色土層 高崎泥流小粒を僅かに含む。締まりなく軟らかい。

第28図 9号土坑

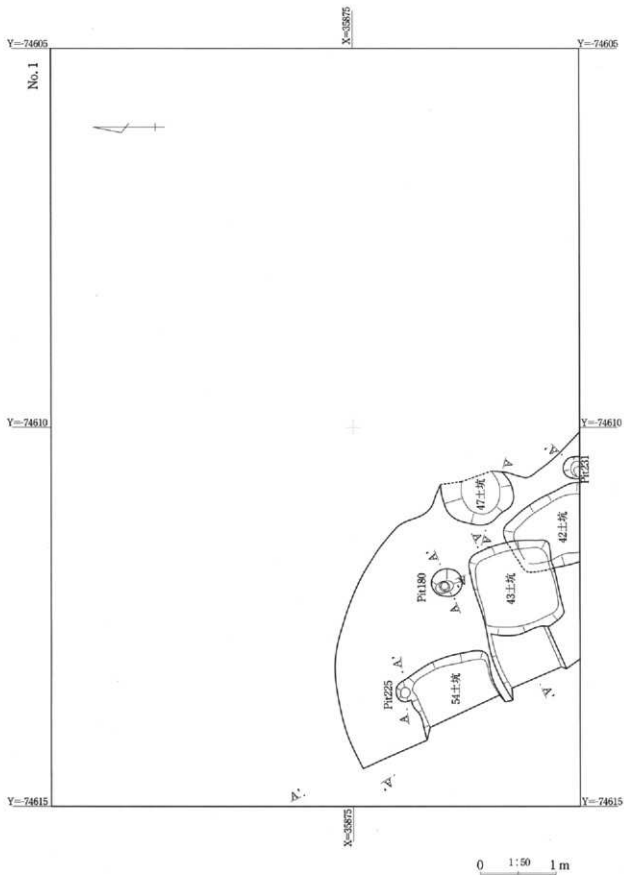


第29図 10号・11号・12号・13号・14号・15号土坑、2号駆穴住居

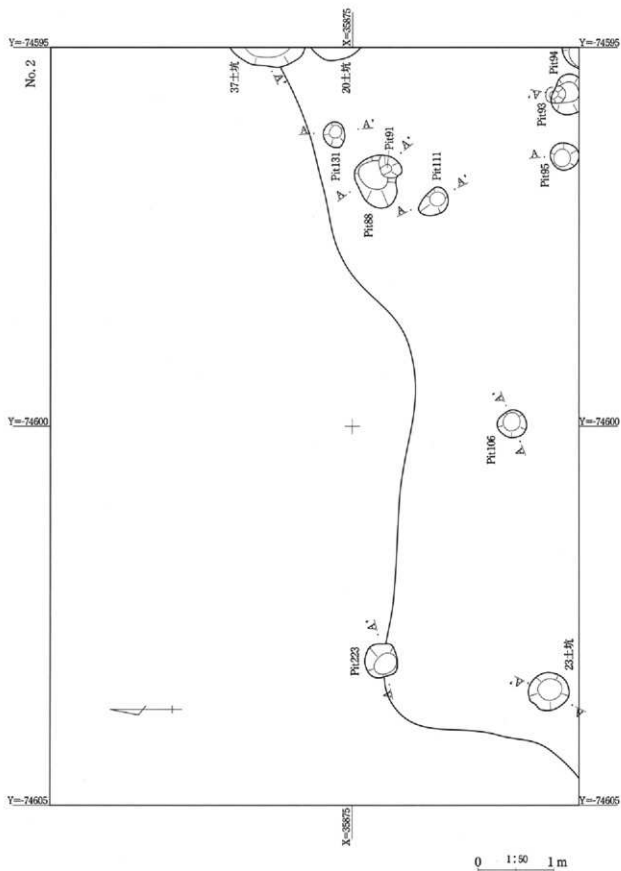
V 図 表



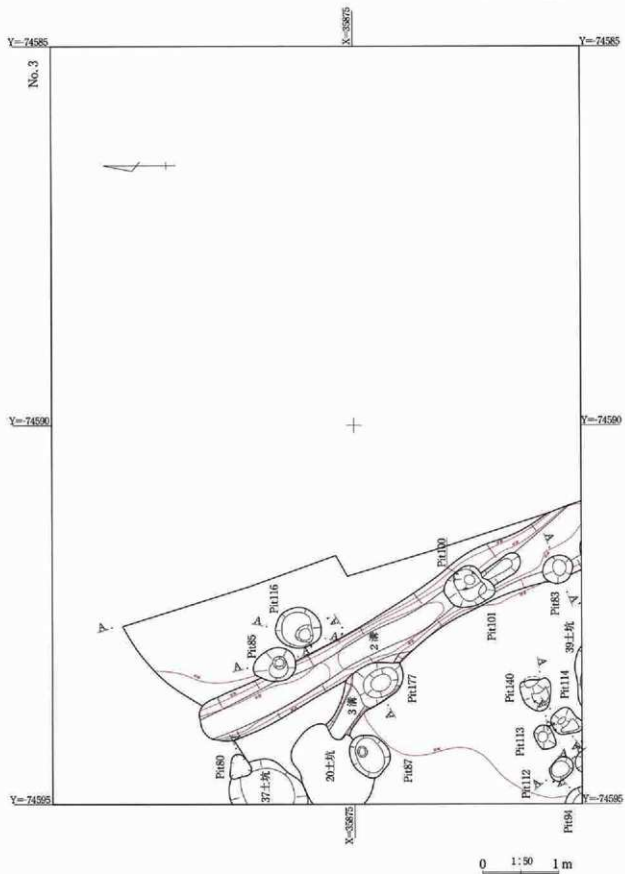
第30図 2区高伏遺構下遺構群平面制図



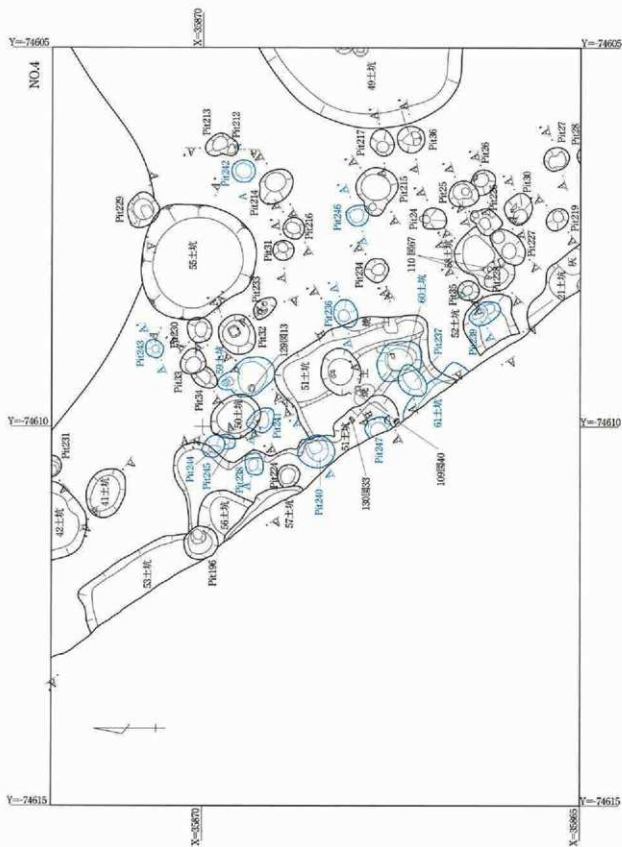
第31図 2区畠状遺構下遺構群平面図(1)



第32图 2区高状遗構下遺構群平面図(2)

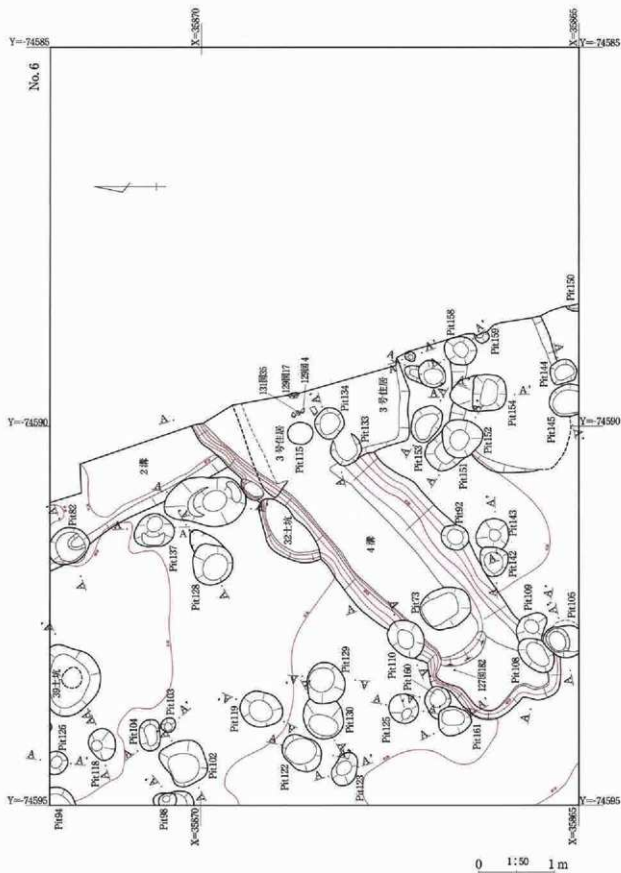


第33図 2区鳥状遺構下遺構群平面図(3)

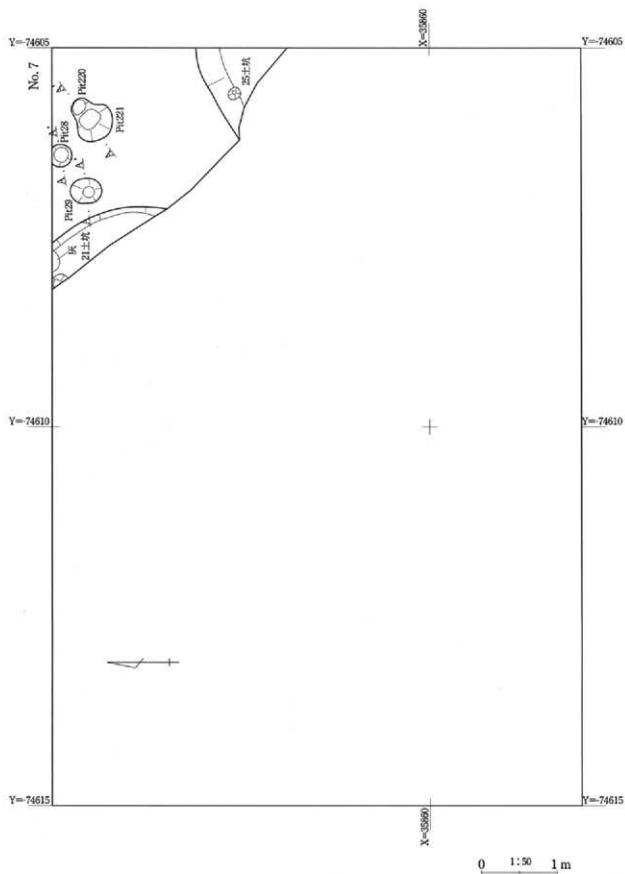


第34图 2区高状道桥下遗物群平面图(4)

V 区 表

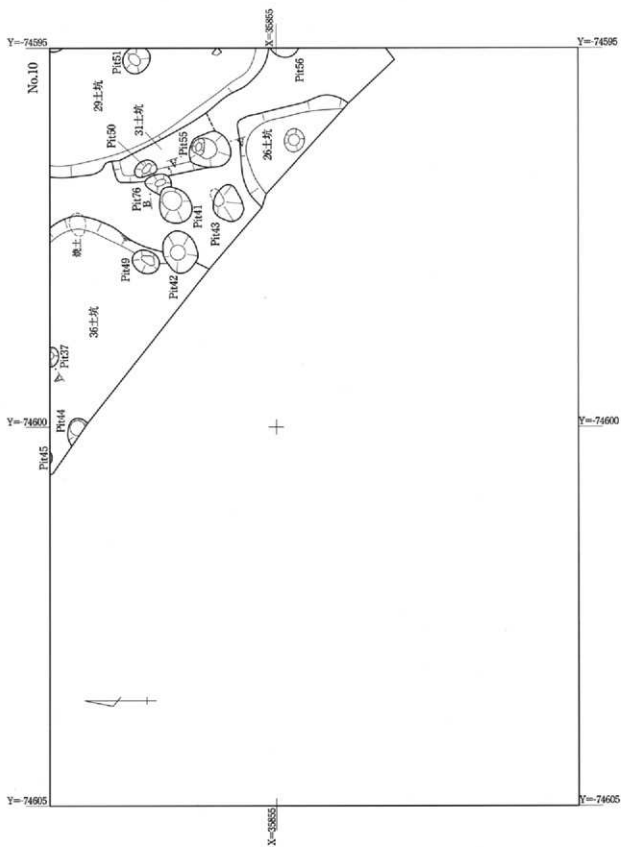


第36图 2区岛状遗構下遺構群平面图(6)



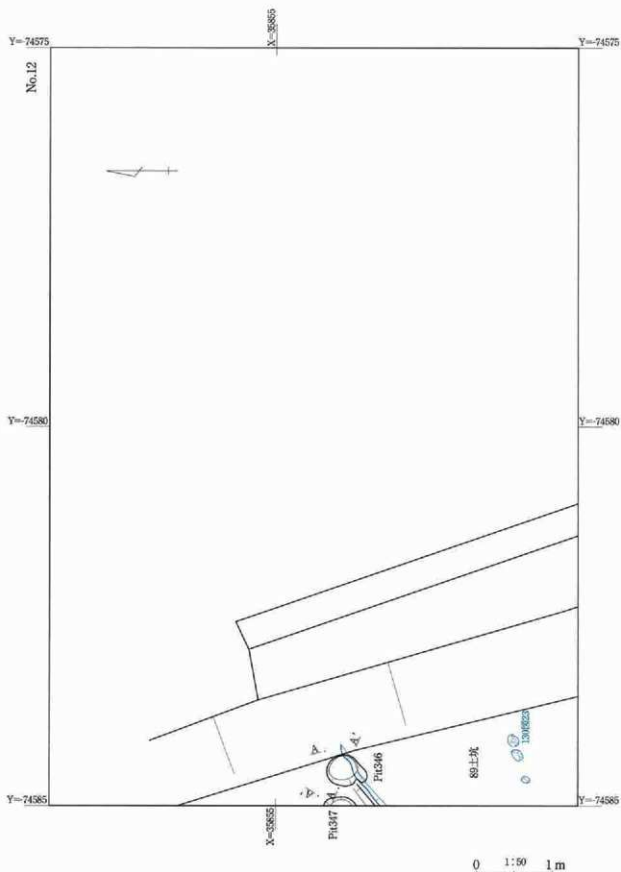
第37図 2区島状遺構下遺構群平面図(7)

V 圖 表

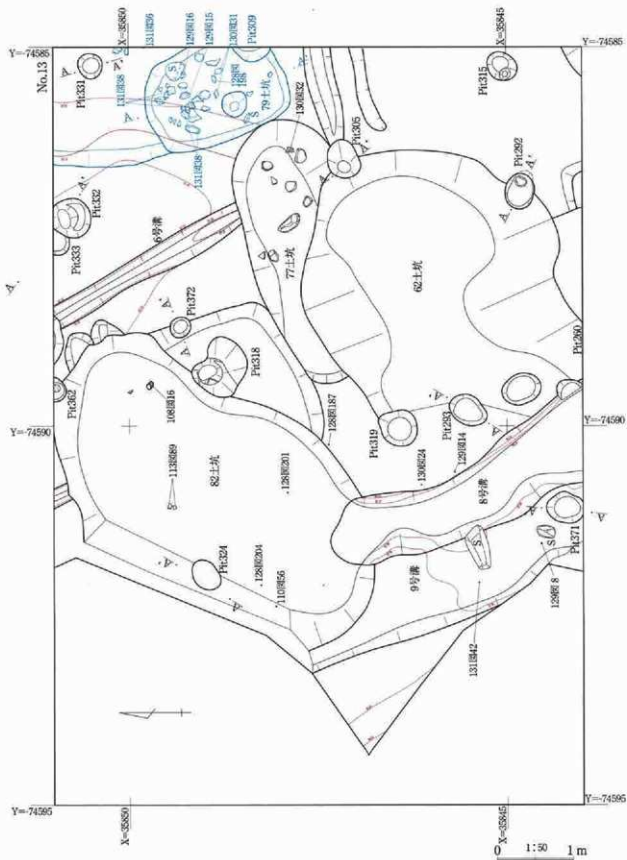


第40图 2区丘状遗址下遗物群平面图(10)

V 图 表

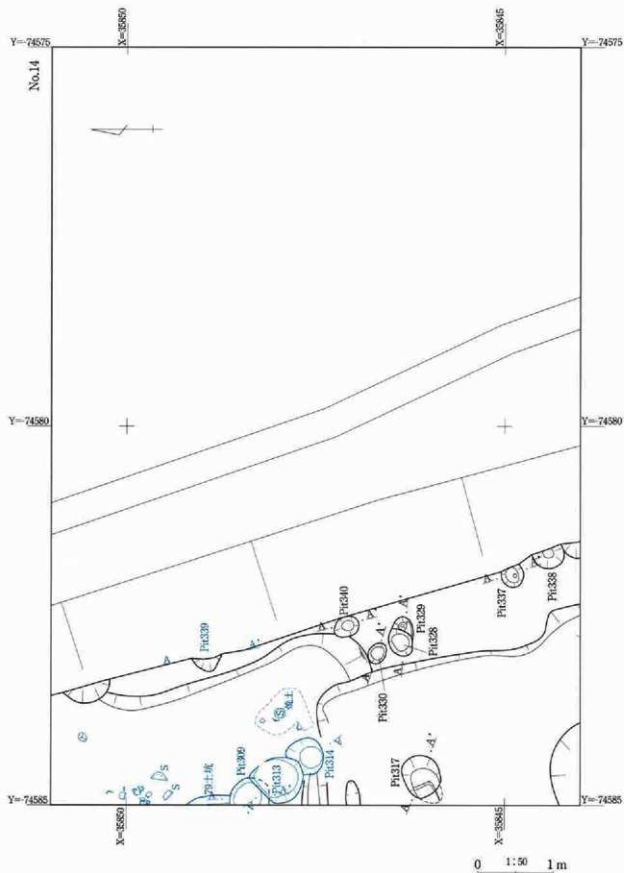


第42图 2区晶状遗物下遗物群平面图 (12)

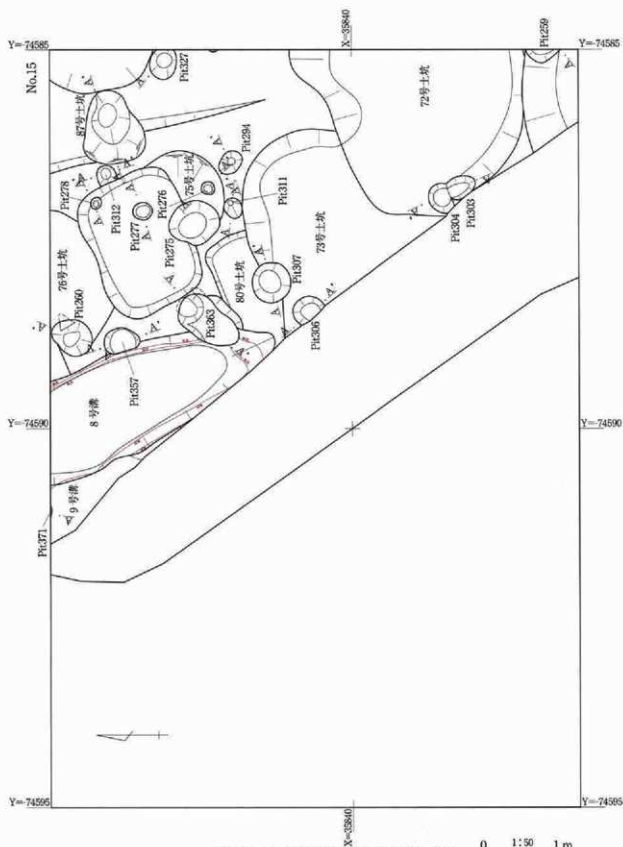


第43図 2区丘状遺構下遺構群平面図(13)

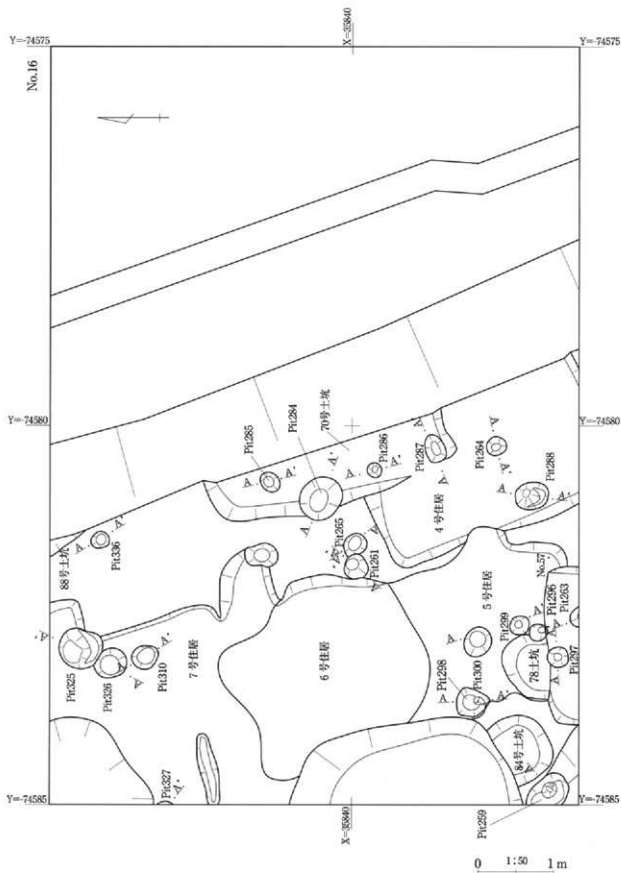
V 图 表



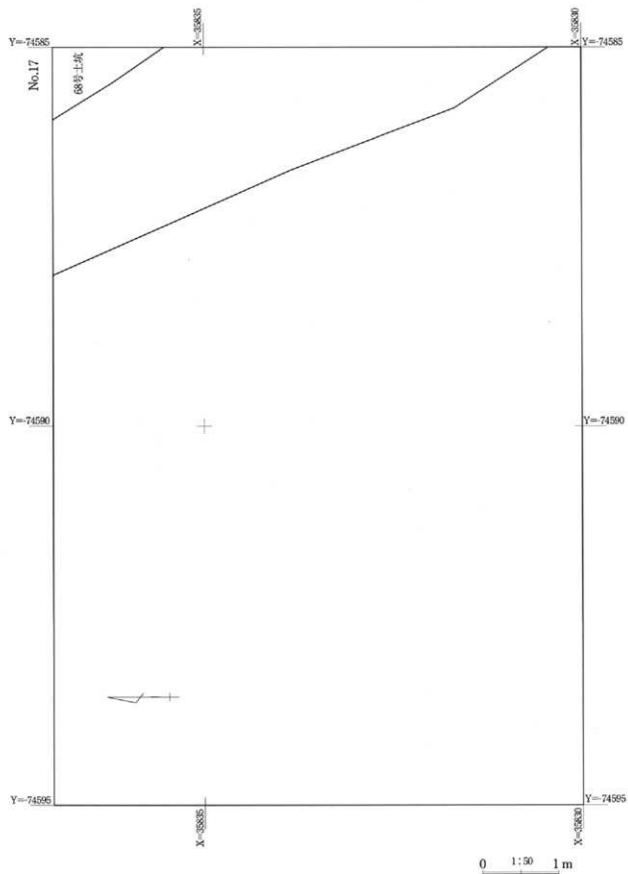
第44图 2区高状遺構下遺構群平面図 (14)



第45図 2区畠状遺構下遺構群平面図 (15)

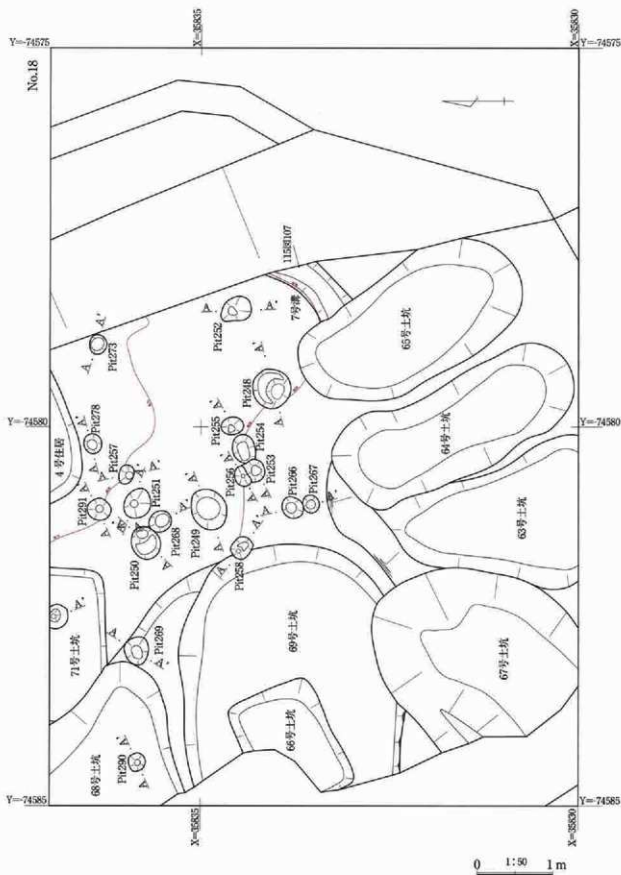


第46图 2区畠状遺構下遺構群平面图(16)

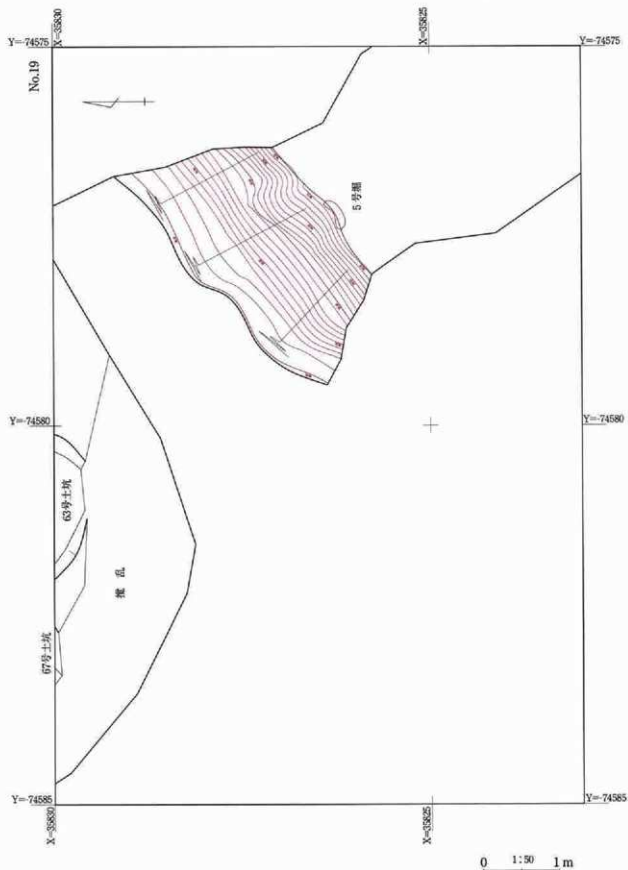


第47図 2区高状遺構下遺構群平面図(17)

V 图 表

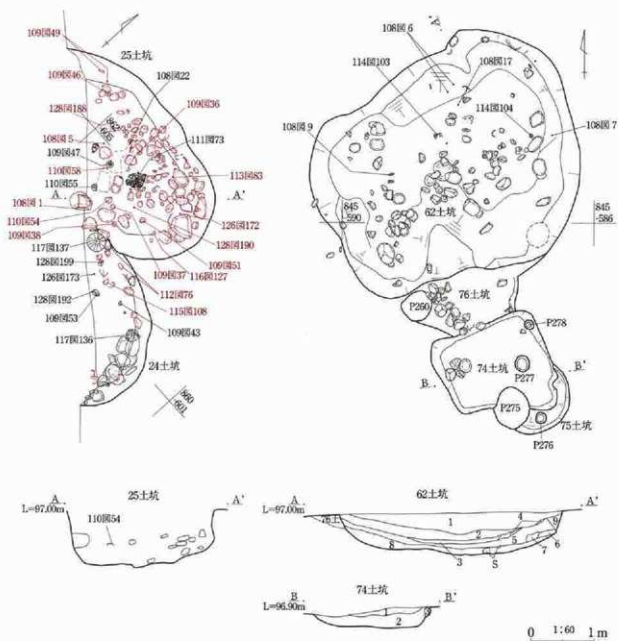


第48图 2区高状遗構下遺構群平面図(18)



第49図 2区高状遺構下遺構群平面図 (19)

V 图 表



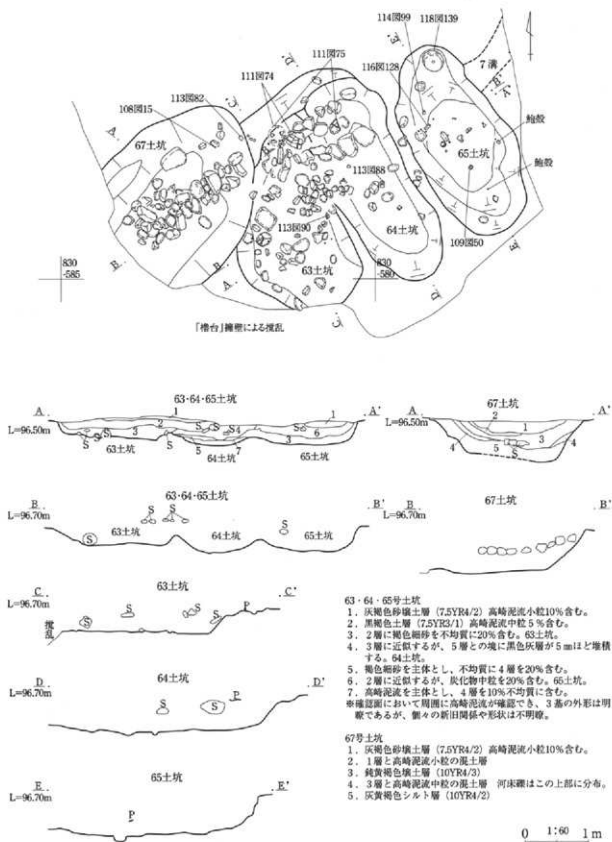
62土坑

1. 暗褐色砂壤土層 (10YR3/3) 下部部分的に磁砂含む。
2. 暗褐色砂壤土層 (10YR3/4)
3. 2層に高岭泥流小粒10%含む。
4. 灰層
5. 暗褐色壤土層 (10YR3/3) 炭化物小塊5%含む。
6. 浅間B軽石?二次堆積層 軽石を主とし、暗褐色土を5%含む。
7. 4層と6層の混土層
8. 黒褐色土層 (10YR2/3) 高岭泥流粒「小~中」20%含む。
9. 黒褐色土層 (10YR2/2) 他の層と異なり、硬く粘性がある。

74・75土坑

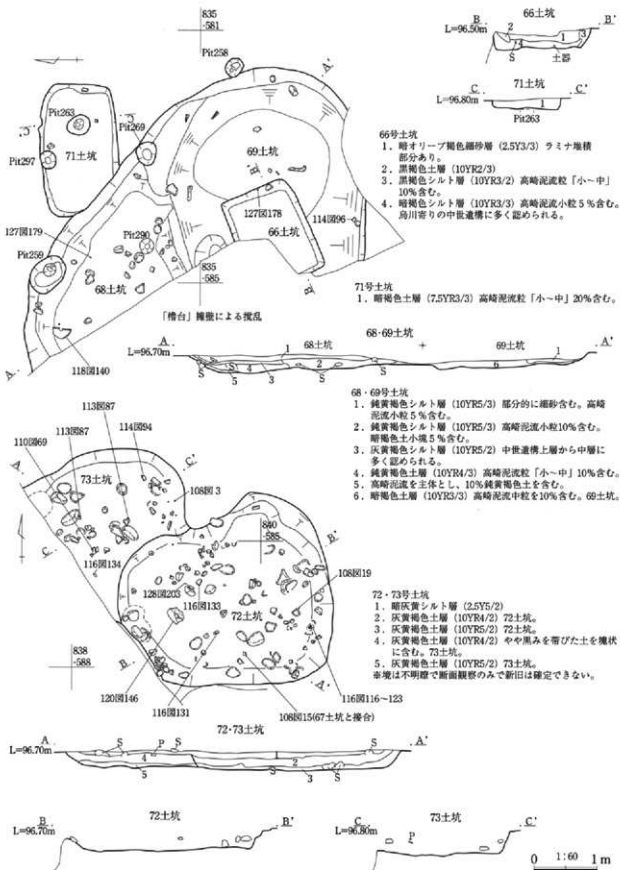
1. 黒褐色壤土層 (10YR3/2) 高岭泥流小粒10%含む。
2. 鈍黄褐色土層 (10YR4/3) 高岭泥流粒「極小~小」30%含む。
3. 暗褐色砂壤土層 浅間B軽石?を主体とし、暗褐色土を含む。75土坑。

第50図 24・25号土坑、62・74・76号土坑遺物出土状態図

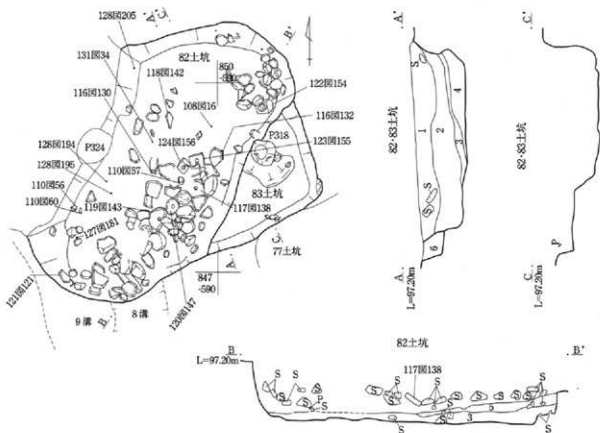


第51図 63・64・65号土坑、67号土坑遺物出土状態図

V 図 表

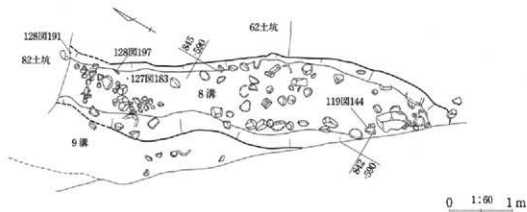


第52図 66号土坑、68・69号土坑、71・72・73号土坑遺物出土状想図



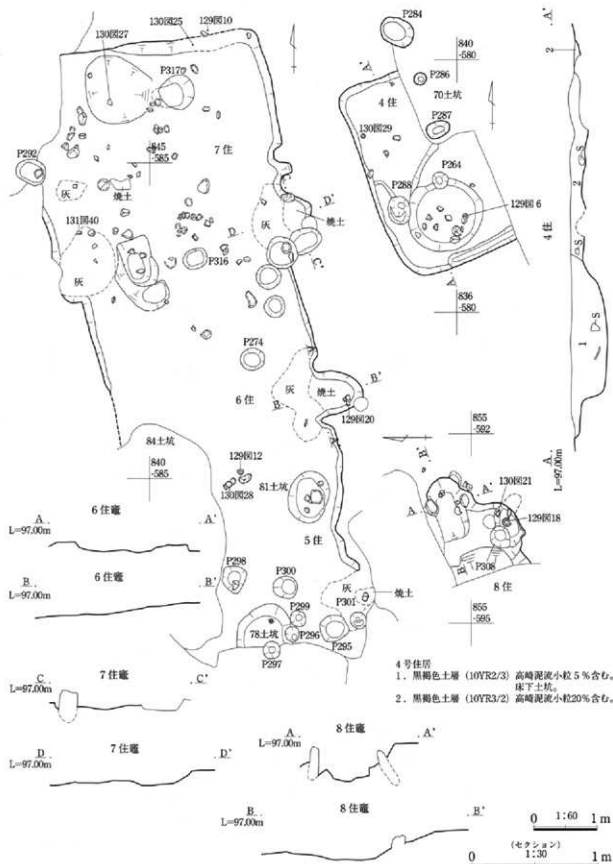
82・83号土坑

1. 純黄褐色シルト層 (10YR4/3) 高岭泥産小粒5%含む。中世遺構群西寄りに一般的に認められる堆積土。
2. 褐色砂壤土層 (10YR4/4) 炭化物小粒5%含む。
3. 黒褐色土と粒状高岭泥炭の混土層
4. 黒褐色土層 (10YR2/2)
5. 黒色灰層
6. 黒褐色砂壤土層 (10YR2/2) 纏まりあり硬い。高岭泥産粒「中」を均質に20%含む。83号土坑。

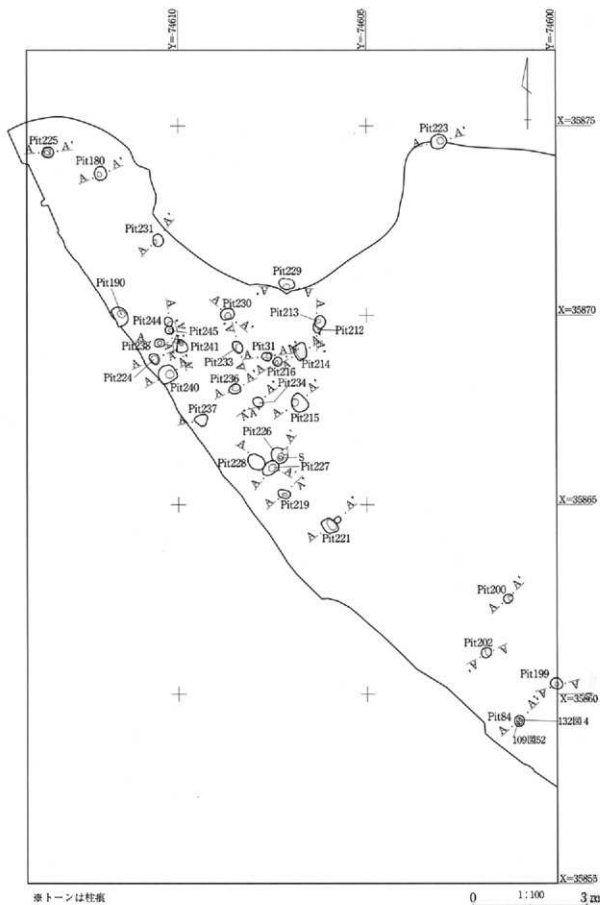


第53図 82・83号土坑、8号溝遺物出土状態図

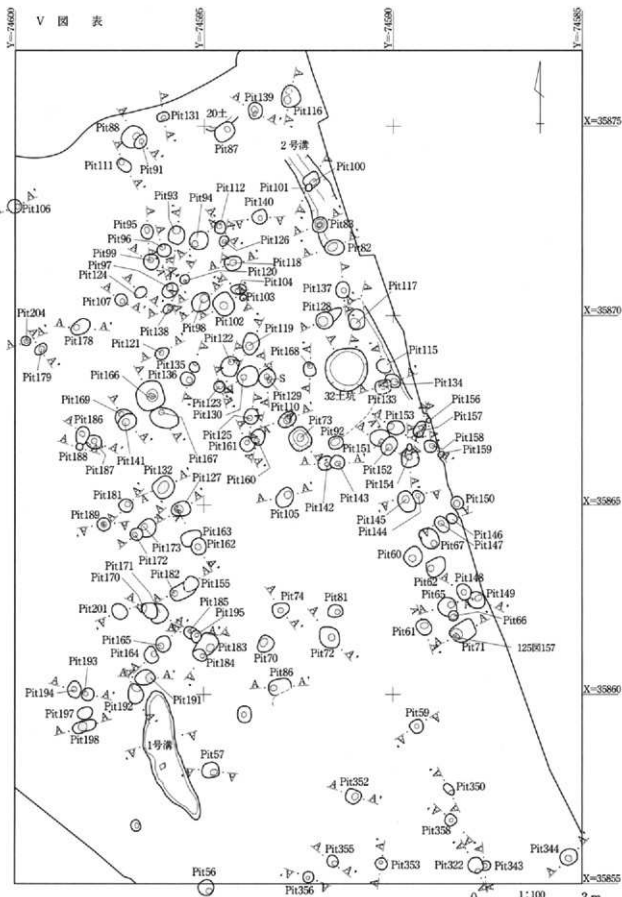
V 圖 表



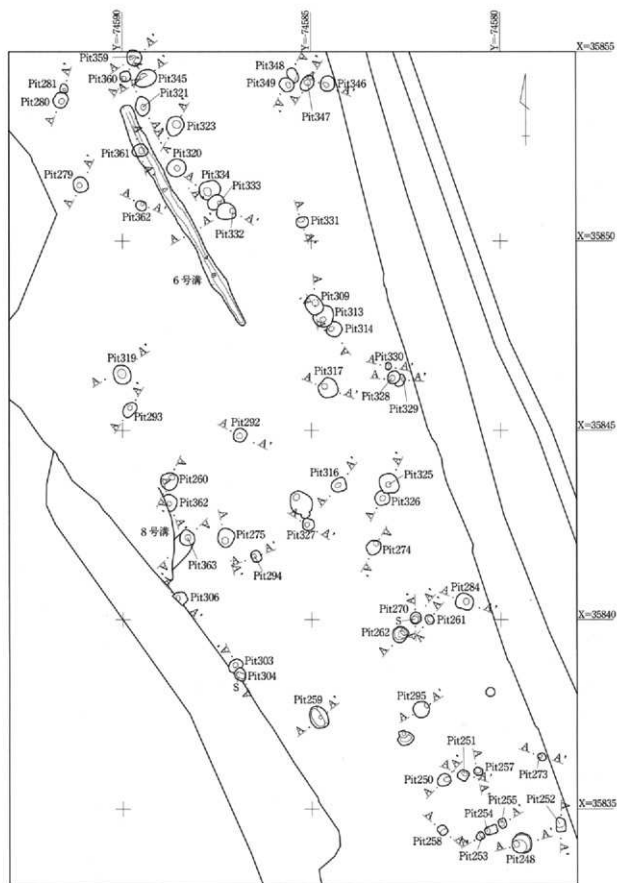
第54図 4号竪穴住居、5～8号竪穴住居遺物出土状態圖



第55図 2区晶状遺構下ピット群柱痕平面図(1)



第56図 2区島状遺構下ピット群柱痕平面図(2)

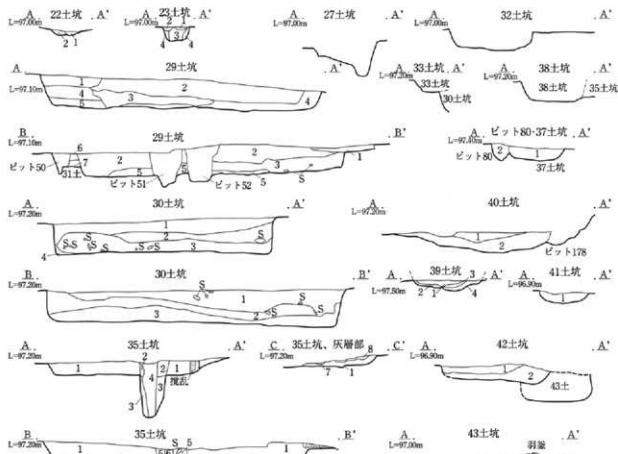


※トーンは柱痕

0 1:100 3 m

第57図 2区高状遺構下ピット群柱痕平面図(3)

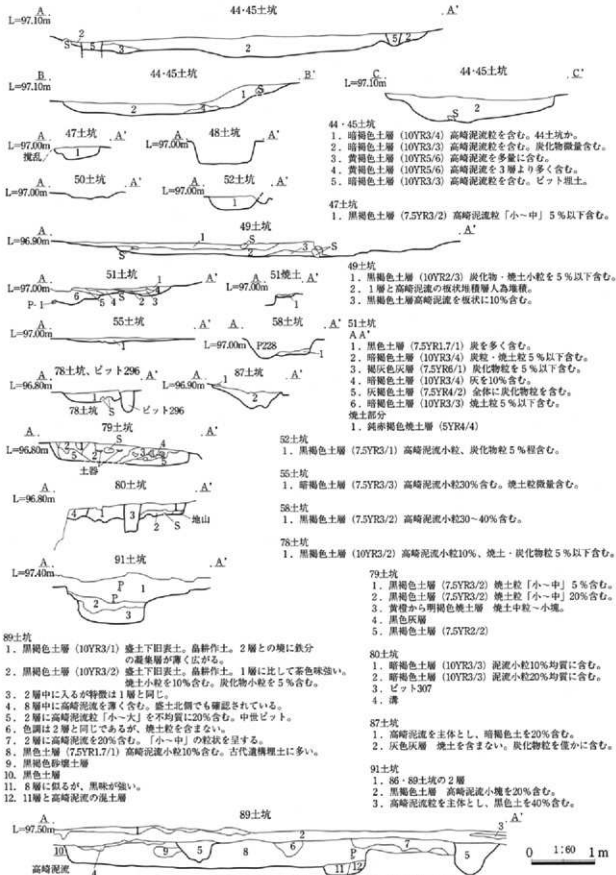
V 図 表



- 22土坑
1. 黒褐色土層 (7.5YR3/1) 高崎泥流小粒5%含む。
2. 黒褐色土層 (7.5YR3/1) 高崎泥流小粒20%含む。
- 23土坑
1. 黒褐色土層 (7.5YR3/1)
2. 高崎泥流
3. 黒褐色土層 (7.5YR3/1) 高崎泥流小粒を5-10%含む。
4. 黒褐色土層 (7.5YR3/1) 高崎泥流含まない。
- 29・31土坑
1. 暗褐色土層 (10YR3/4) 高崎泥流粒「小-中」不均質に10%含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 高崎泥流小粒30%含む。
3. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 高崎泥流中粒10%含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3) 高崎泥流粒「小-大」30%不均質に含む。
5. 3層と高崎泥流粒「小-中」の混土層
6. 暗褐色土層 (10YR3/3) 高崎泥流を含まない。31号土坑。
7. 5層に同じ。31号土坑。
ピット50・51・52
色調は5層と区別できないが、粒状をなし、締まりがない。
- 30土坑
1. 暗褐色土層 (10YR3/4) 泥流をほとんど含まない。
2. 1層に黒色土小塊を5%。灰褐色土粒を20%含む。
3. 褐色土層 (10YR4/6) 高崎泥流を主体とし、暗褐色土を10-20%不均質に含む。人為土と推定。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2)
- 35土坑
1. 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 高崎泥流粒20%不均質に含む。
2. 泥流塊。ピット70掘方。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 締まりあり。ピット70掘方。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 締まりなく、粒状を呈する。ピット70柱状。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) 高崎泥流粒10%含む。ピット74掘方。
6. 暗褐色土層 (10YR3/3) 粒状を呈し、締まりなく崩れやすい。ピット74柱状。
7. 灰色灰層 (7.5Y5/1)
8. 褐色土層 (10YR5/1) 炭少量含む。

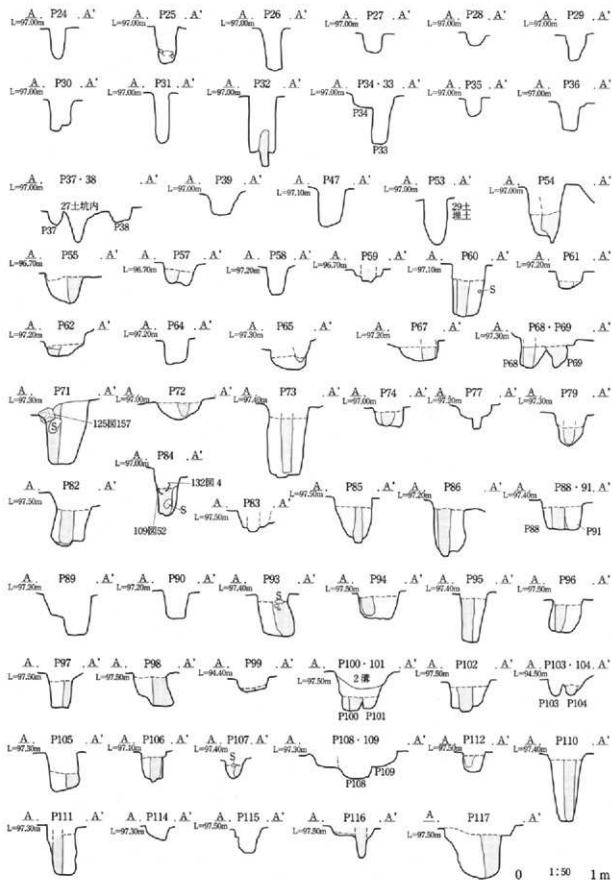
- 37土坑、ピット80
1. 黒褐色土層 (7.5YR3/1) 高崎泥流小粒を10%含む。37土坑。
2. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 高崎泥流小粒を40%含む。ピット80。
- 39土坑
1. 暗褐色土層 (5YR2/2) 粘土粒、炭化物粒を5%以下含む。
2. 褐色土層 (5YR3/1) 炭を少量含む。
3. 1層と2層の混土層
4. 暗褐色土層 (5YR3/2) 炭20%含む。
- 40土坑
1. 高崎泥流を主体とし、黒褐色土を10%不均質に含む。
2. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 高崎泥流小粒を10%含む。
- 41土坑
1. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 粘土・泥流粒5%以下含む。
- 42土坑
1. 黒褐色土層 (7.5YR3/1) 木炭片、焼土、泥流粒を含む。
2. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 高崎泥流小粒を40%含む。
- 43土坑
1. 暗褐色土層 (7.5YR3/1) 木炭片、焼土、泥流粒を含む。
2. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 高崎泥流小粒を40%含む。
3. 黒褐色土と高崎泥流粒の混土層

第58図 2区高状遺構下土坑群断面図(1)

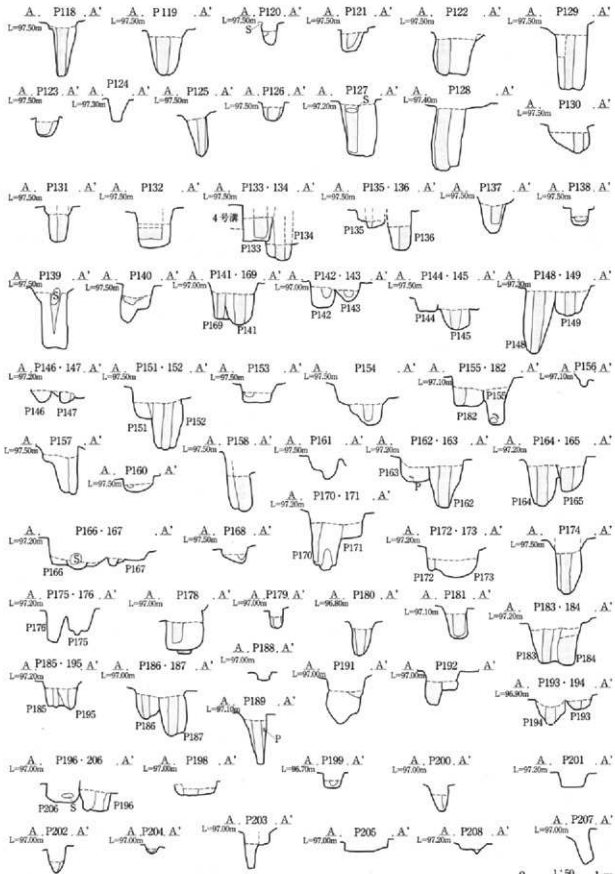


第59図 2区畝状遺構下土坑断面図(2)

V 圖 表

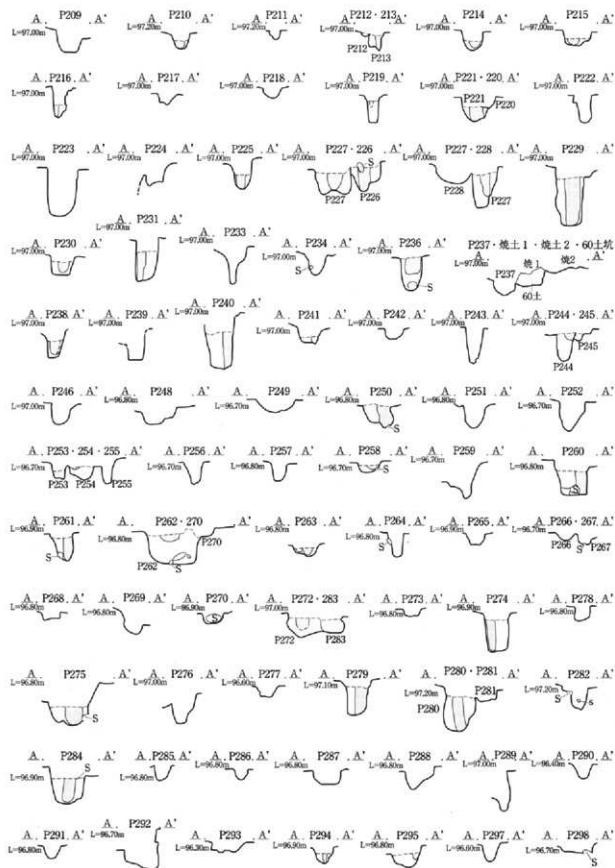


第60圖 2区丘状遺構下ピット群断面図(1)



第61図 2区畠状遺構下ピット群断面図(2)

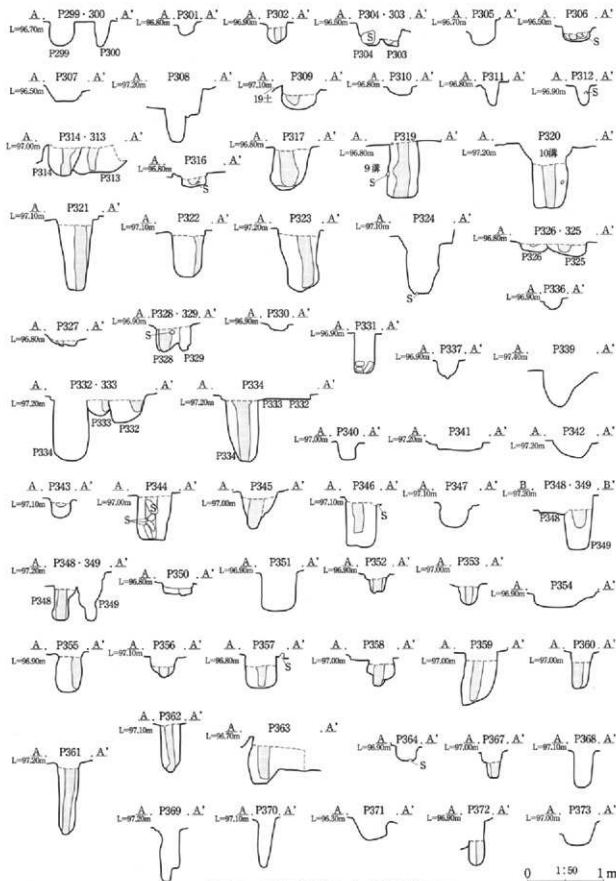
V 图 表



第62图 2区島状遺構下ビット群断面図(3)

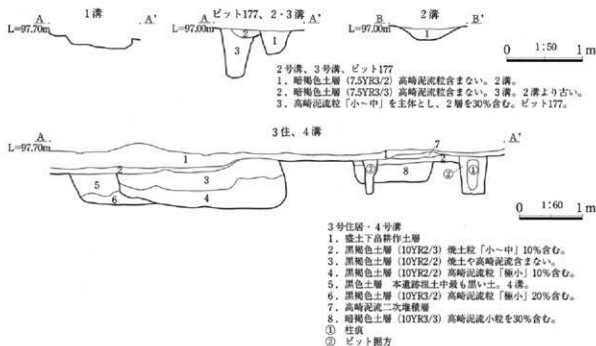
0 1:50 1m

3 確認された遺構図等

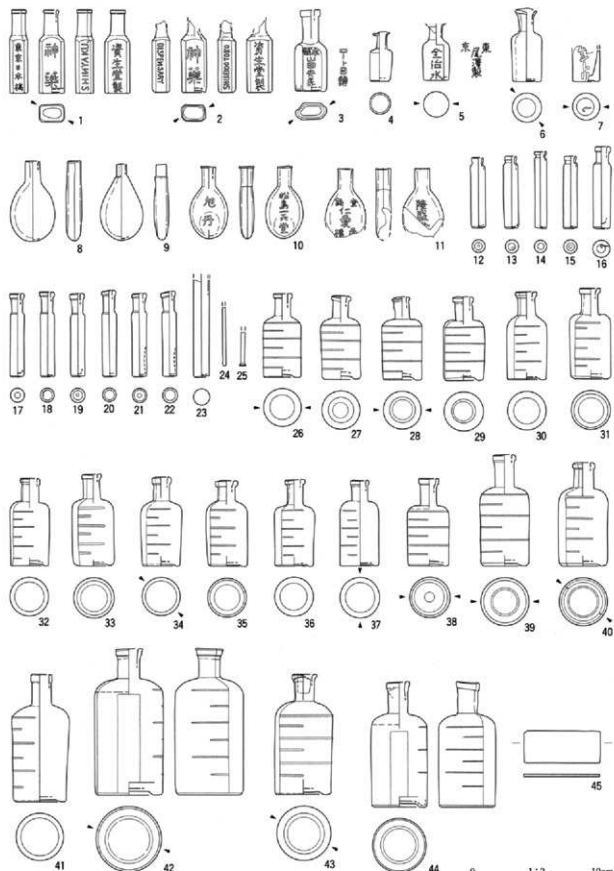


第63図 2区島状遺構下ピット群断面図(4)

V 図 表

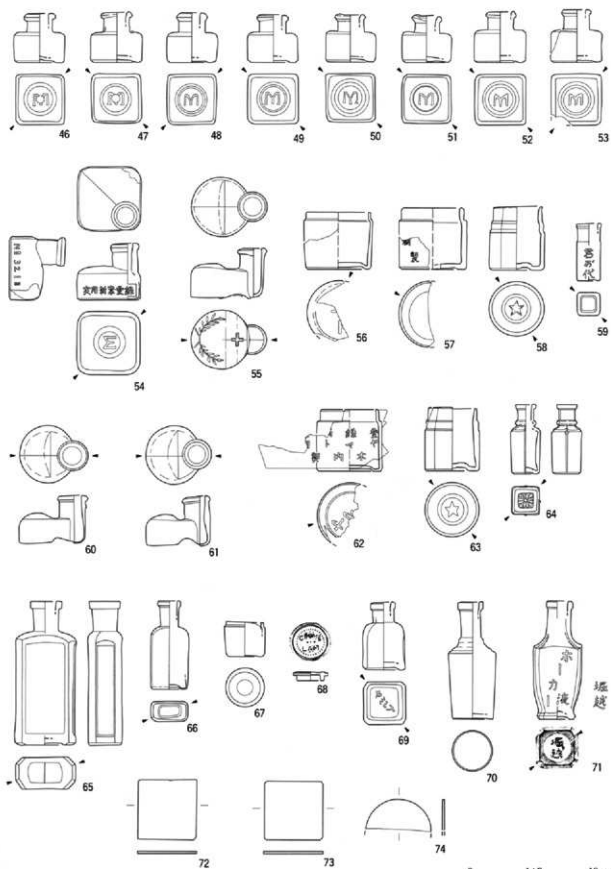


第64図 2区畠状遺構下溝、3号竪穴住居断面図

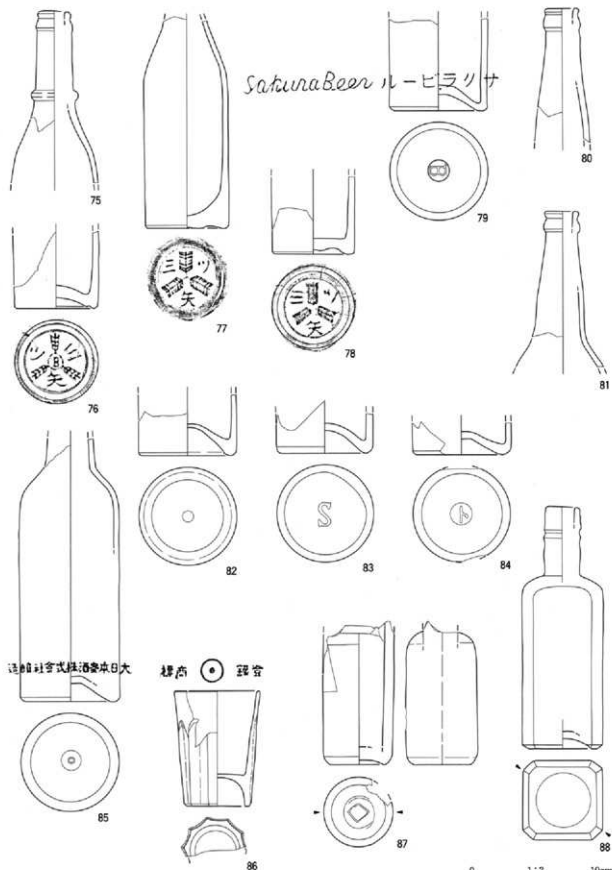


第65図 1区1号瓶上層出土遺物(1)

V 图 表

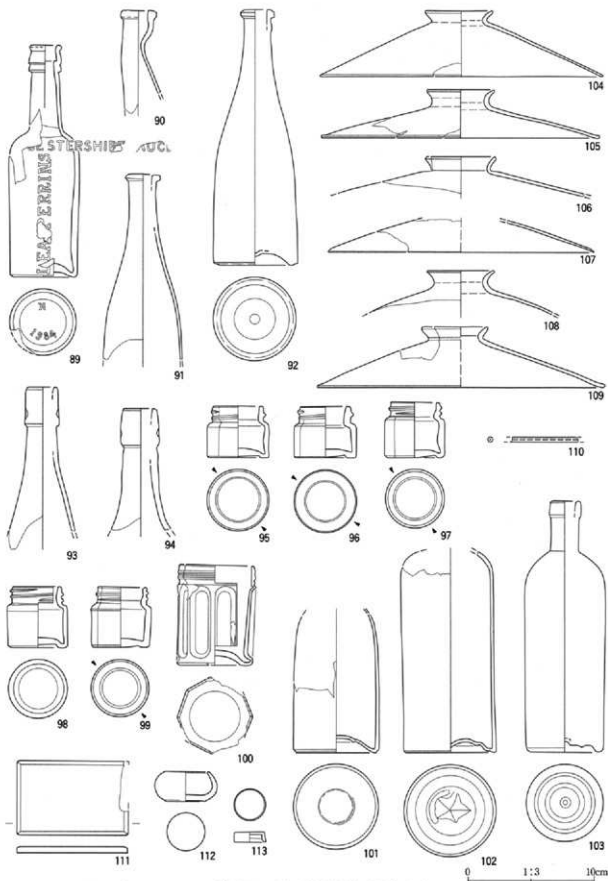


第66图 1区1号堀上層出土遺物(2)

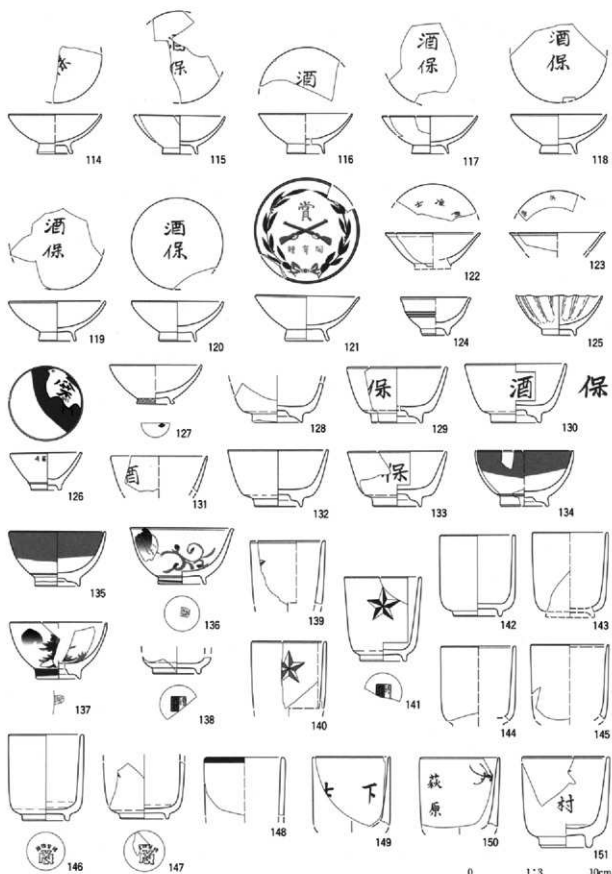


第67図 1区1号堀上層出土遺物(3)

V 图 表

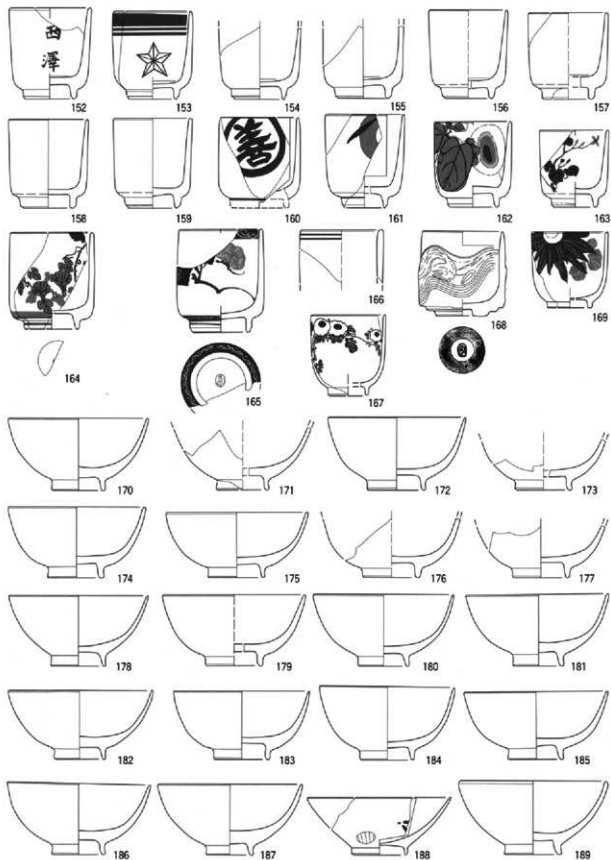


第68图 1区1号塚上層出土遺物(4)

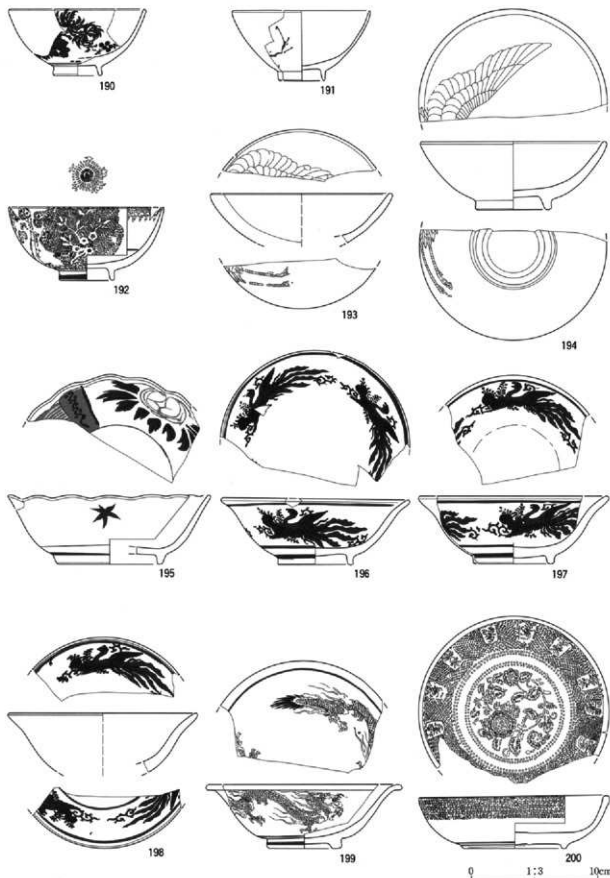


第69図 1区1号堀上層出土遺物(5)

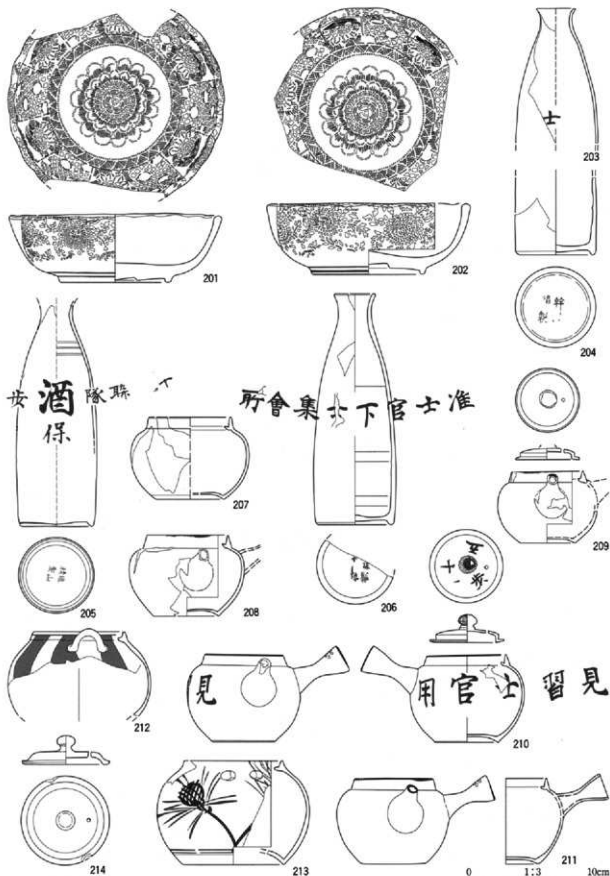
V 图 表



第70图 1区1号堀上層出土遺物(6)

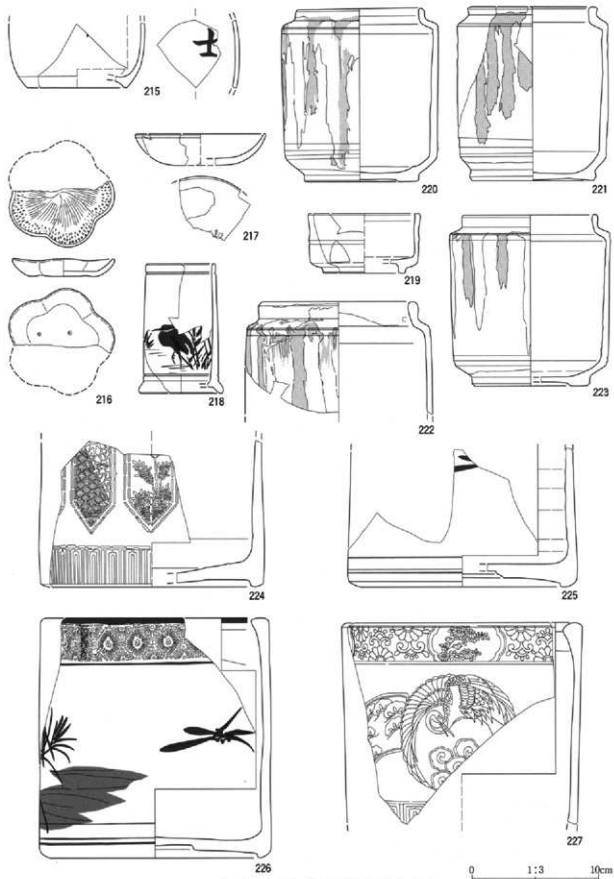


第71図 1区1号堀上層出土遺物(7)



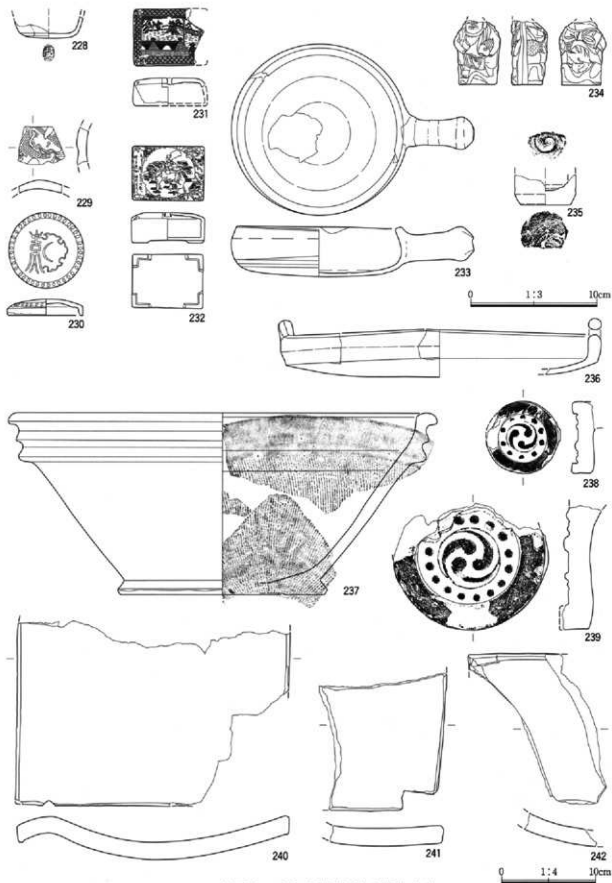
第72图 1区1号堀上層出土遺物(8)

4 確認された遺物図等



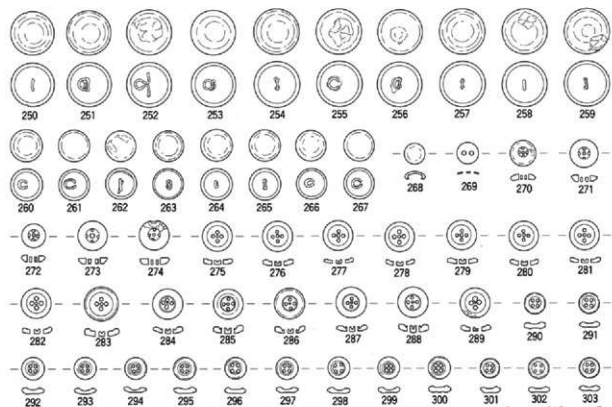
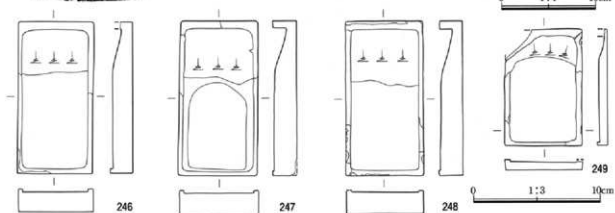
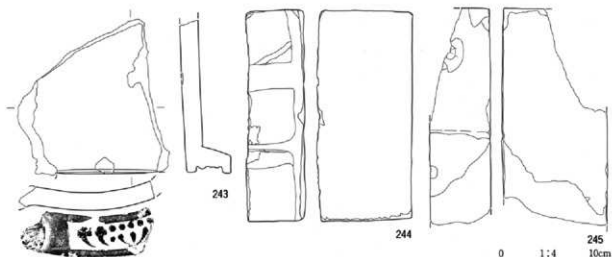
第73図 1区1号掘上層出土遺物(9)

V 图 表



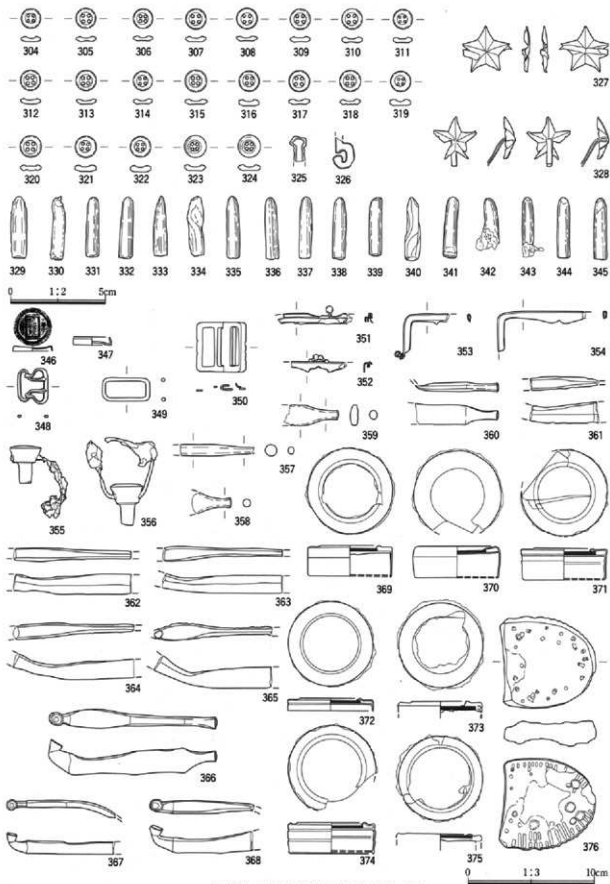
第74图 1区1号掘上层出土遗物 (10)

4 確認された遺物図等

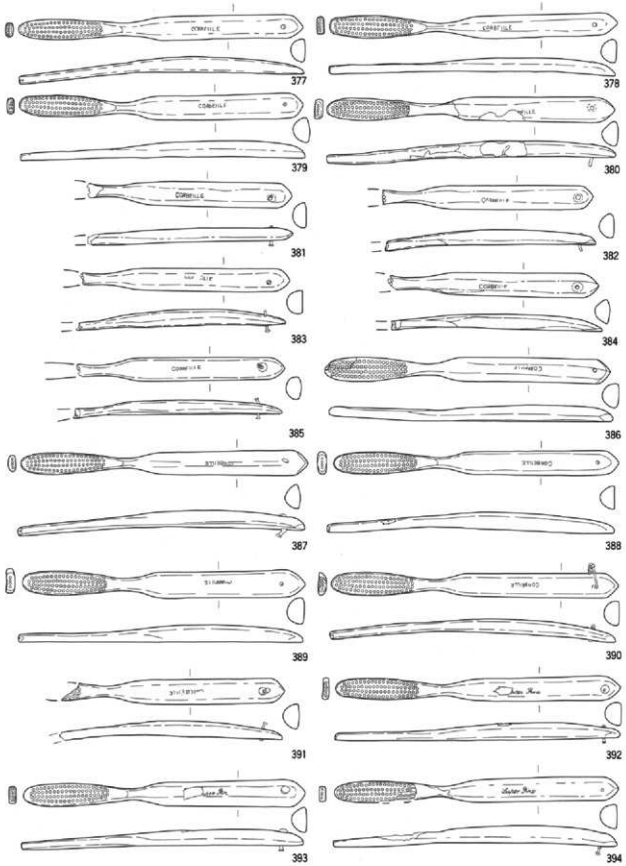


第75図 1区1号堀上層出土遺物 (11)

V 图 表



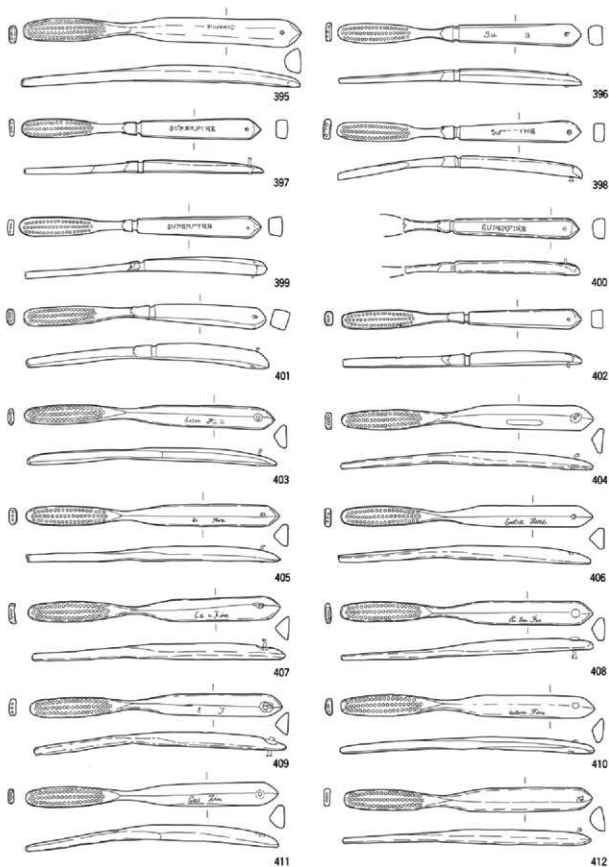
第76图 1区1号掘上層出土遺物 (12)



第77図 1区1号堀上層出土遺物 (13)

0 1:2 5cm

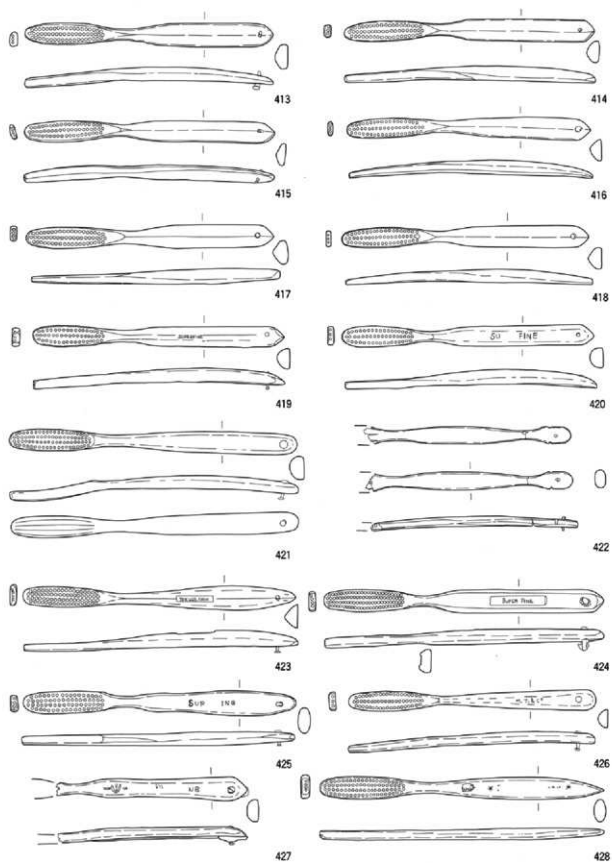
V 图 表



第78图 1区1号堀上层出土遗物(14)

0 1:2 5cm

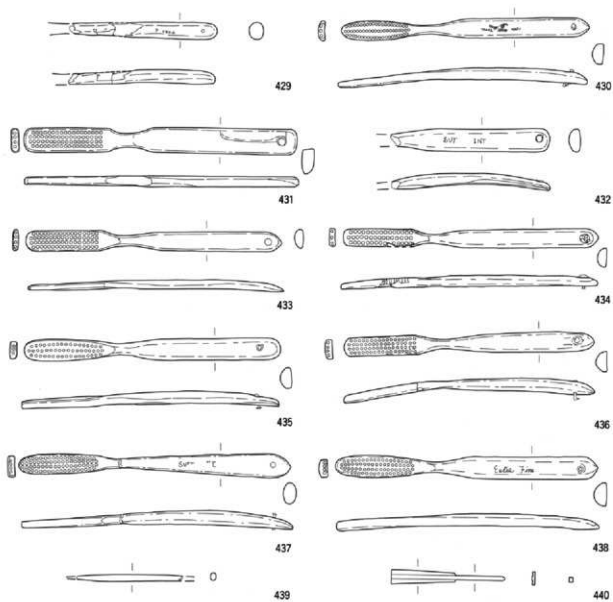
4 確認された遺物図等



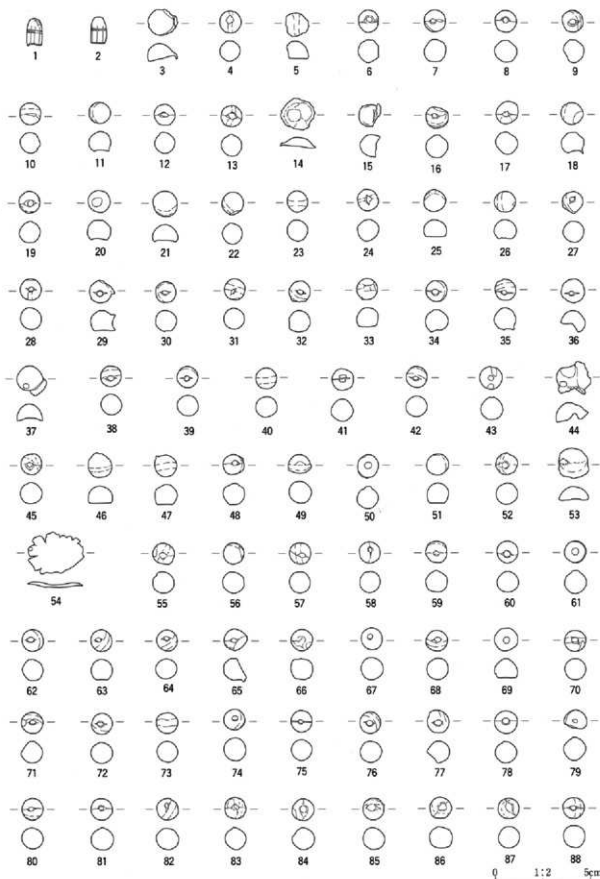
第79図 1区1号堀上層出土遺物 (15)

0 1:2 5cm

V 图 表

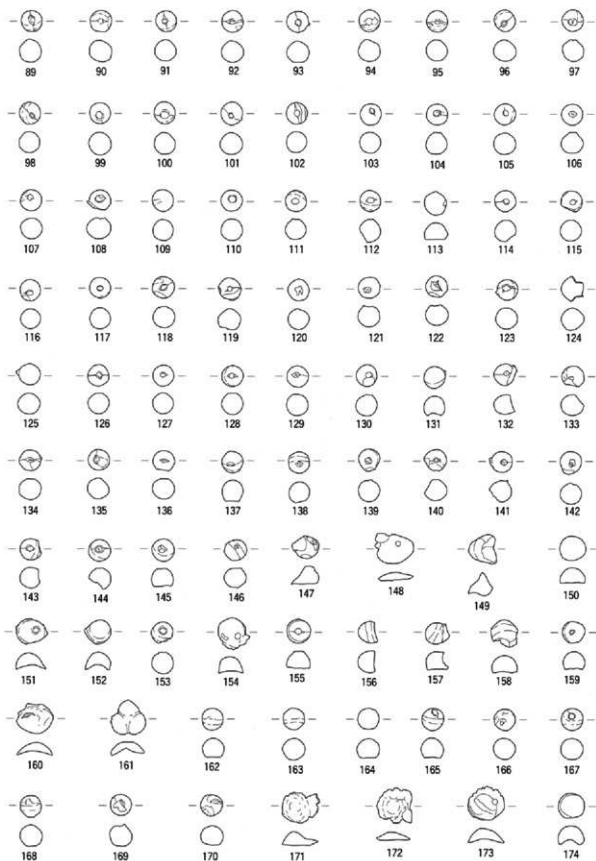


第80图 1区1号掘上层出土遗物 (16)

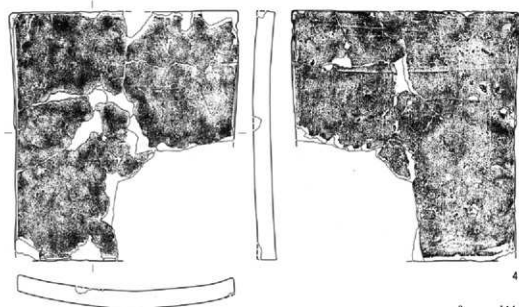
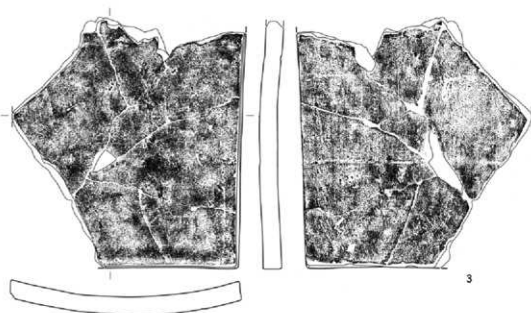
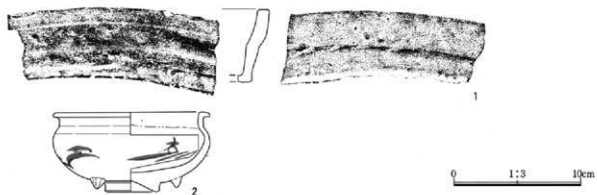


第81図 1区1号堀中層出土遺物(1)

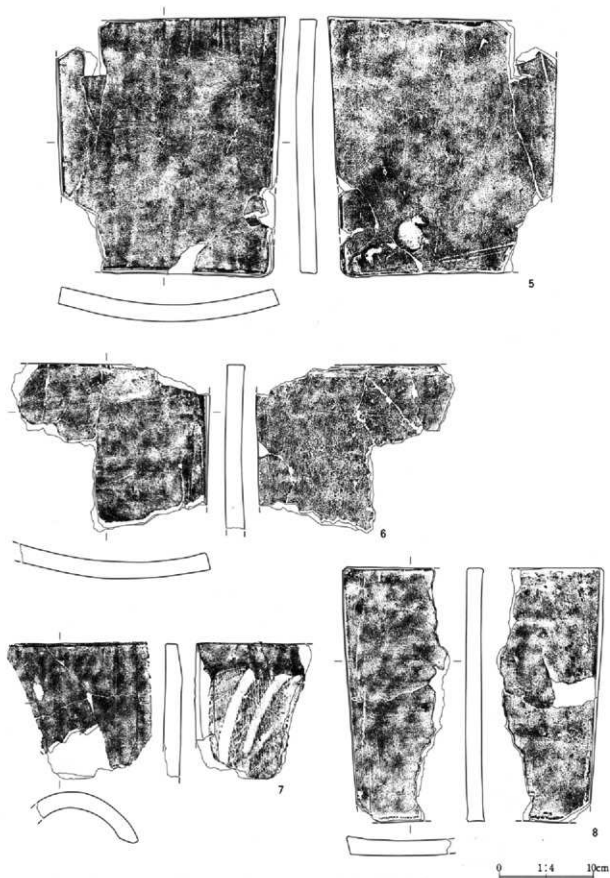
V 图 表



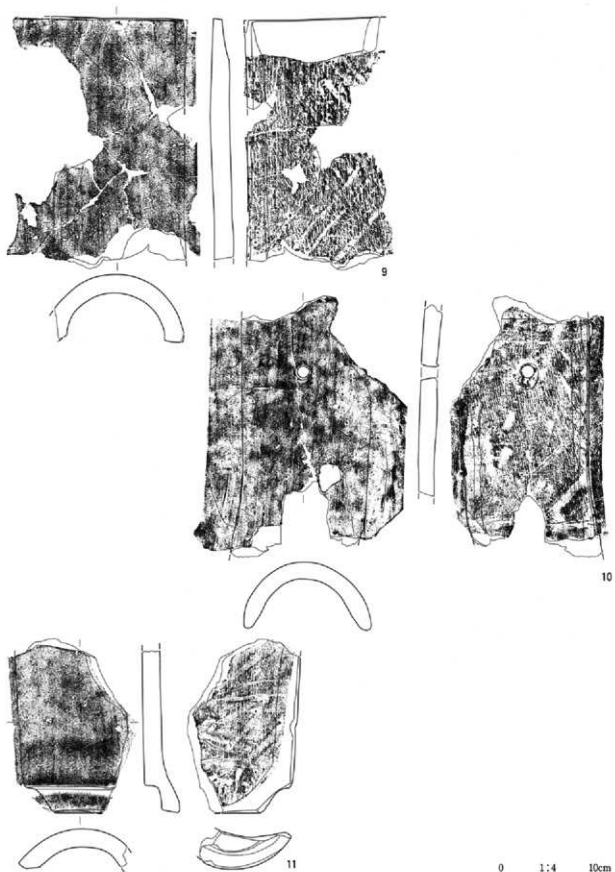
第82图 1区1号墓中層出土遺物(2)



第83図 1号堀下層から6号堀出土遺物(1)

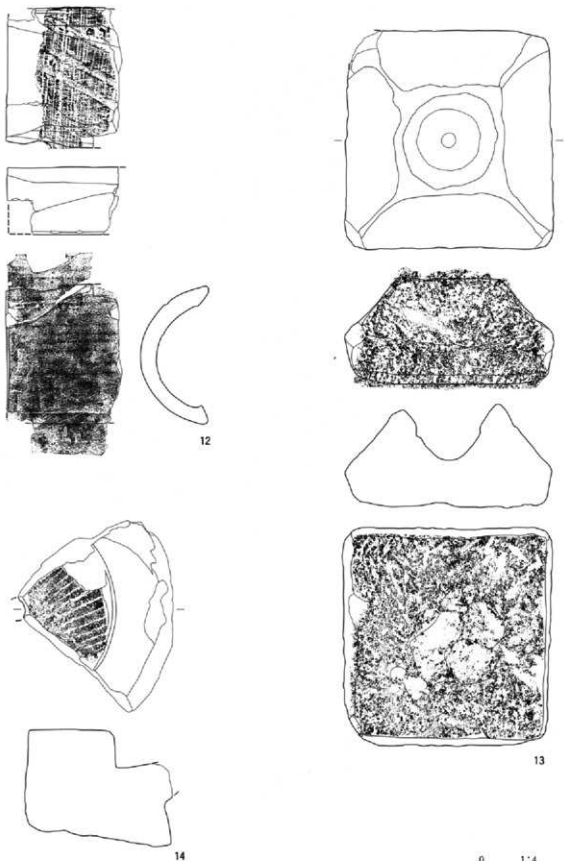


第84図 1号堀下層から6号堀出土遺物(2)

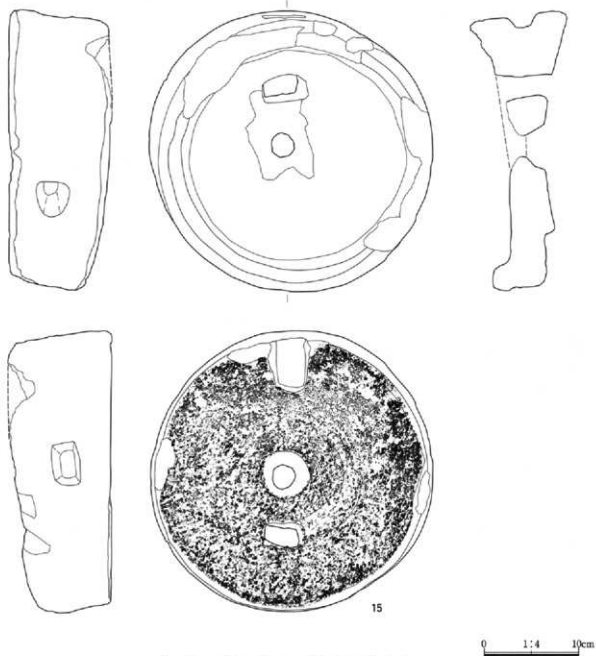


第85図 1号堀下層から6号堀出土遺物(3)

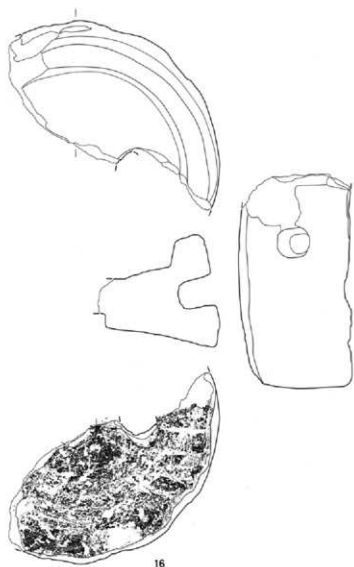
V 図 表



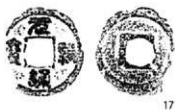
第86図 1号掘下層から6号堀出土遺物(4)



第87図 1号掘下層から6号掘出土遺物(5)



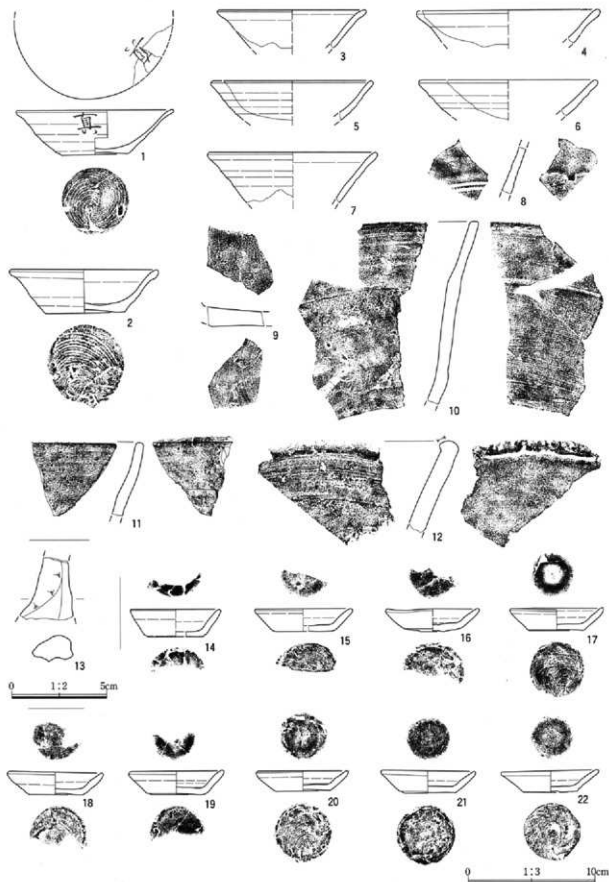
0 1:4 10cm



0 1:1 3cm

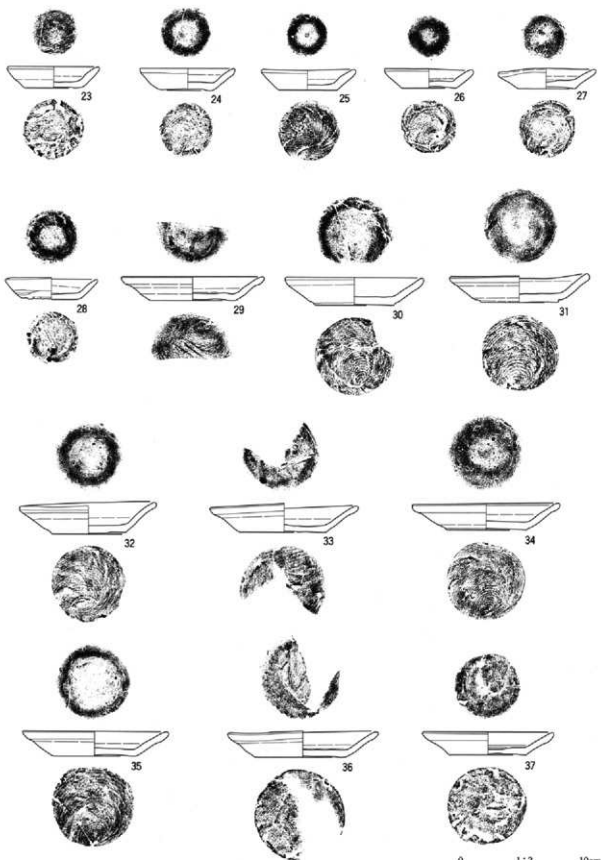
第88図 1号掘下層から6号堀出土遺物(6)

4 確認された遺物図等



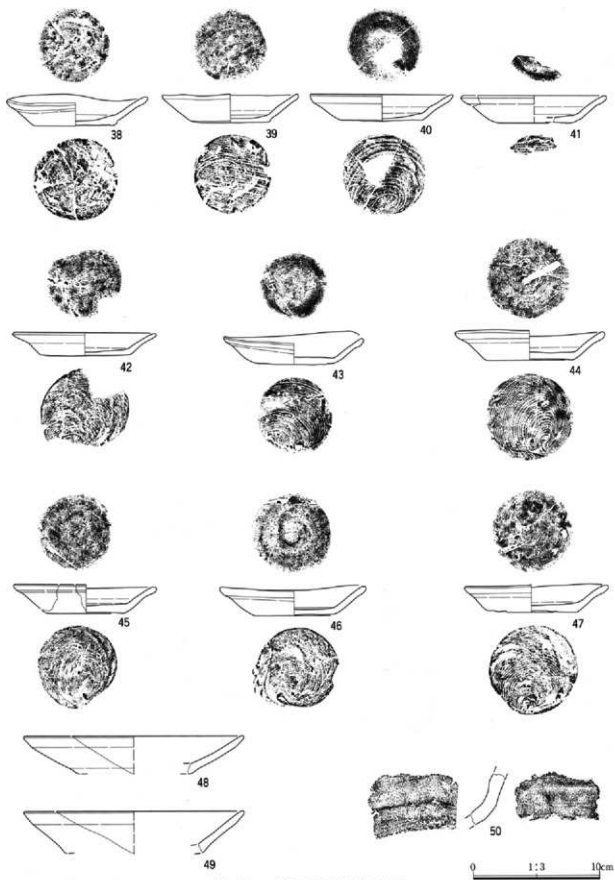
第89図 1区遺構内出土遺物(1)

V 图 表



第90图 1区遺構内出土遺物(2)

0 1:3 10cm

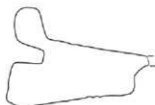
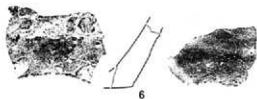
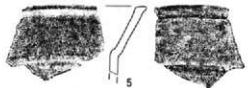
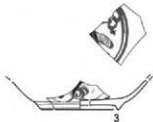
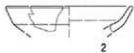
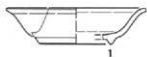
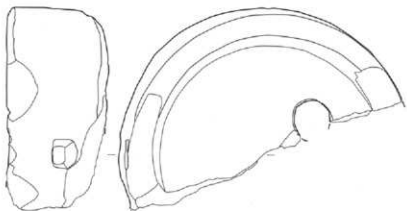


第91図 1区遺構内出土遺物(3)

V 图 表



0 1:2 5cm



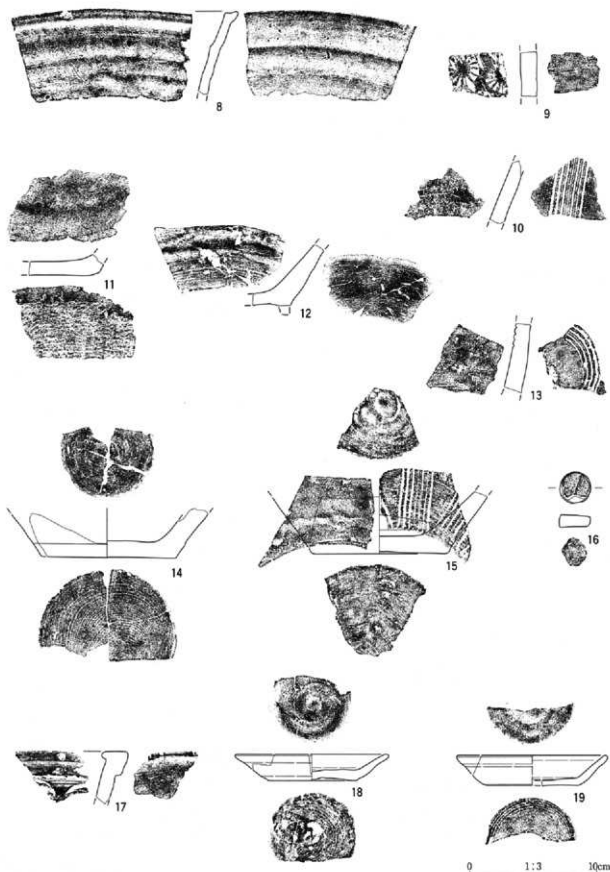
0 1:4 10cm

第92图 1区、3区遺構外出土遺物

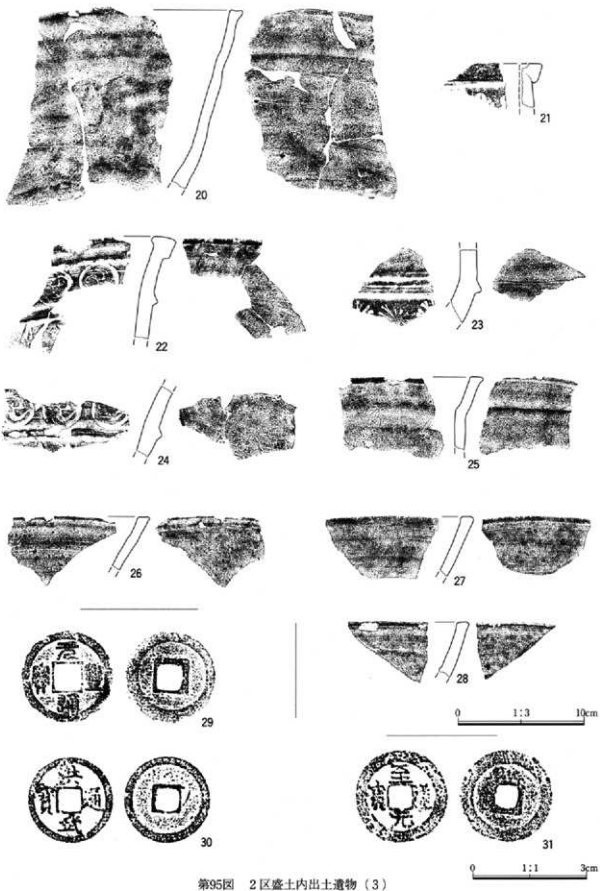


0 1:3 10cm

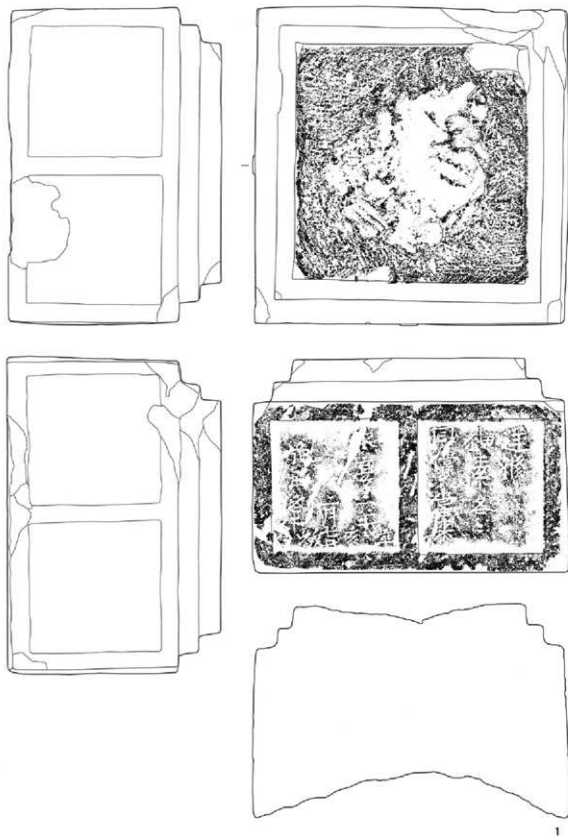
第93图 2区盛土内出土遺物(1)



第94図 2区盛土内出土遺物(2)



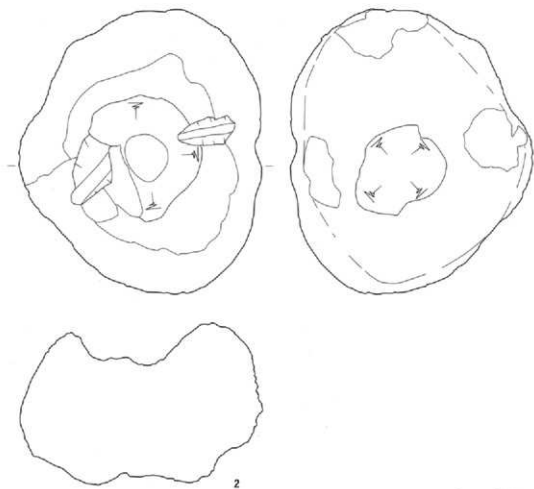
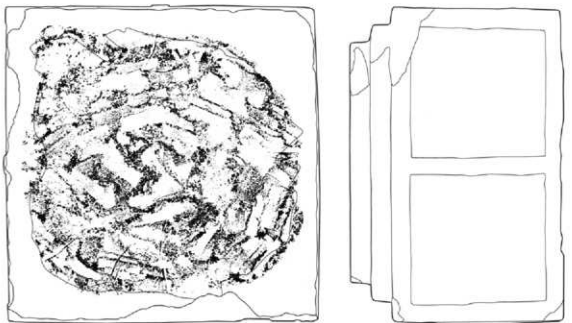
第95图 2区盛土内出土遺物(3)



1

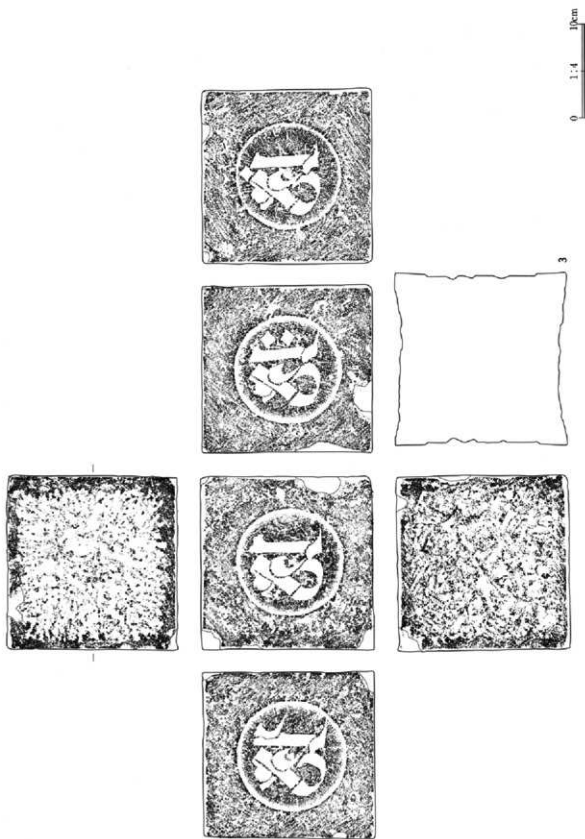
0 1:4 10cm

第96図 2区盛土内石列出土遺物(1)



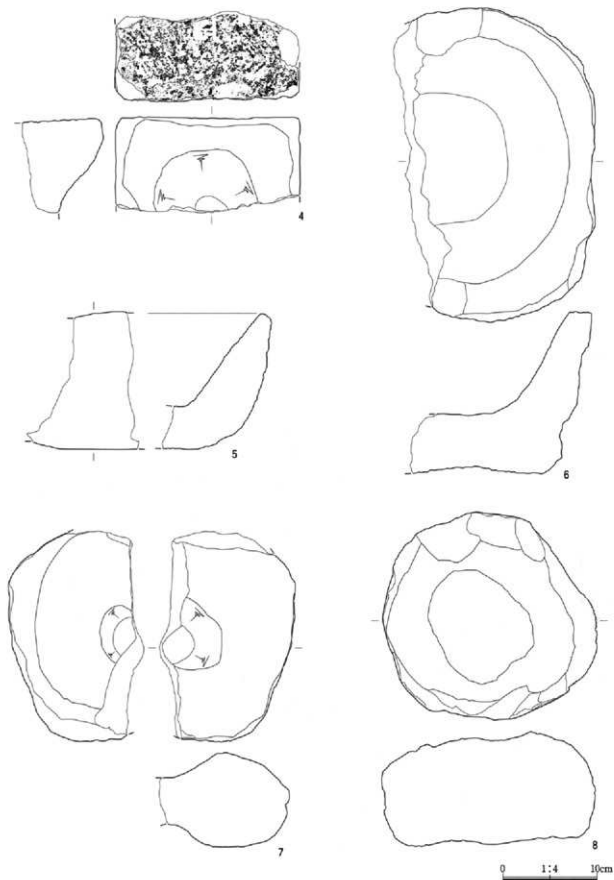
第97图 2区盛土内石列出土遺物(2)

0 1:4 10cm

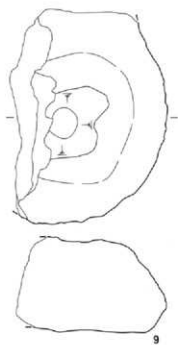


第98図 2区盛土内石列出土遺物(3)

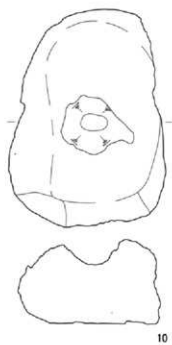
V 图 表



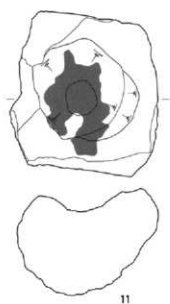
第99图 2区盛土内石列出土遗物(4)



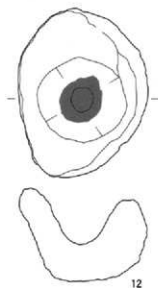
9



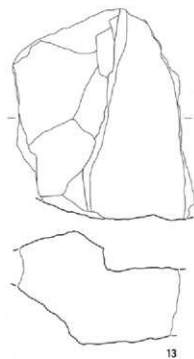
10



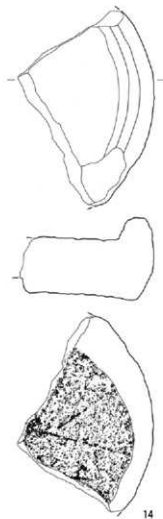
11



12



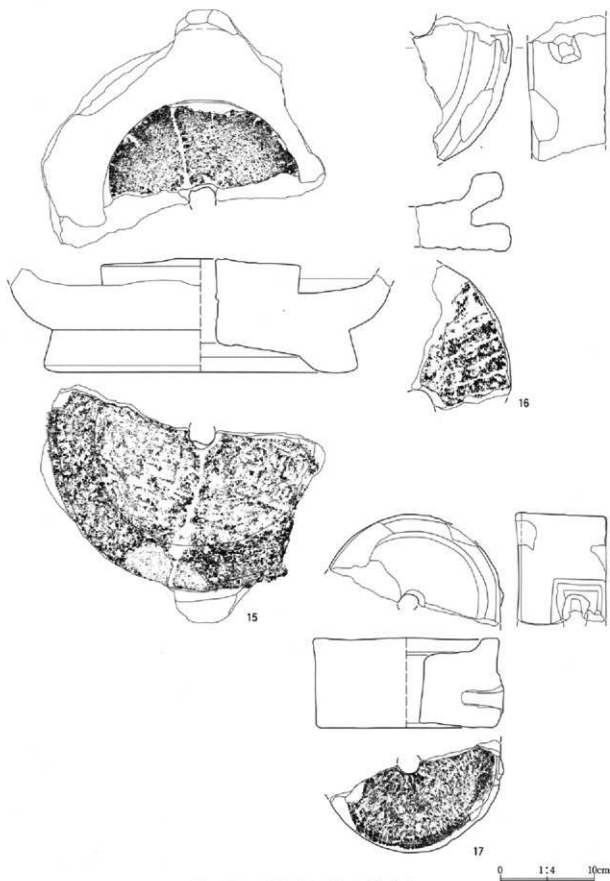
13



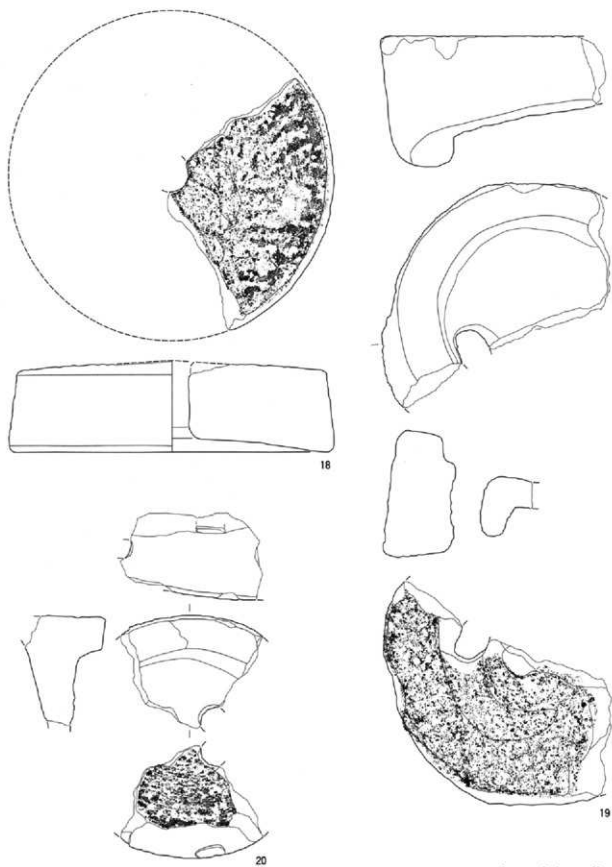
14

0 1:4 10cm

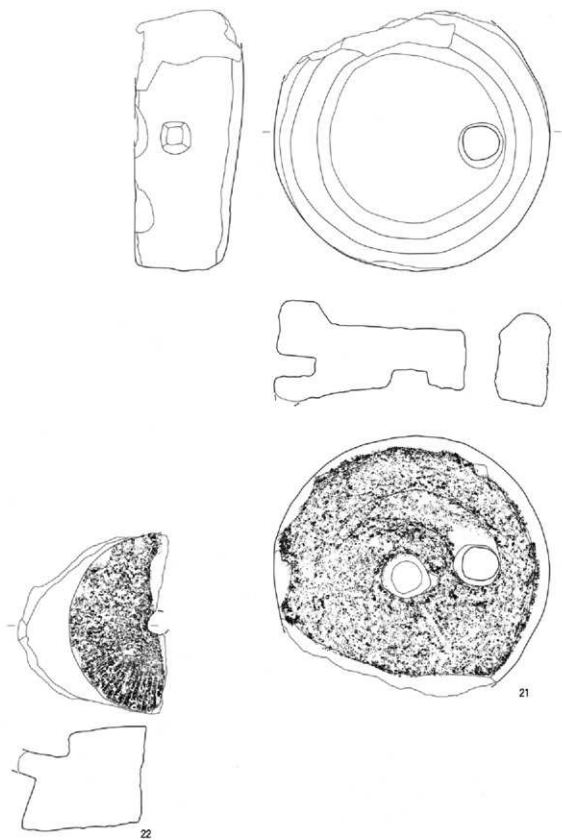
第100図 2区盛土内石列出土遺物(5)



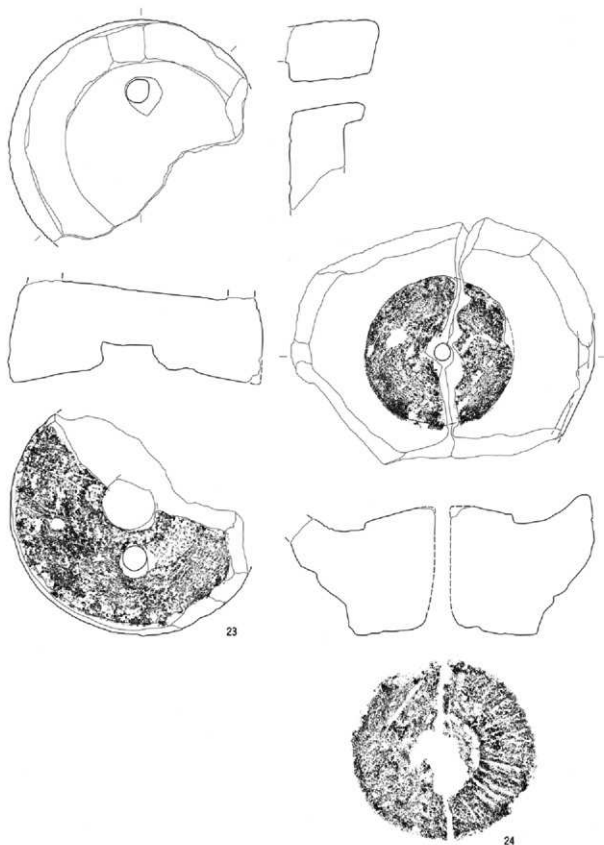
第101图 2区盛土内石列出土遗物(6)



第102図 2区盛土内石列出土遺物(7)

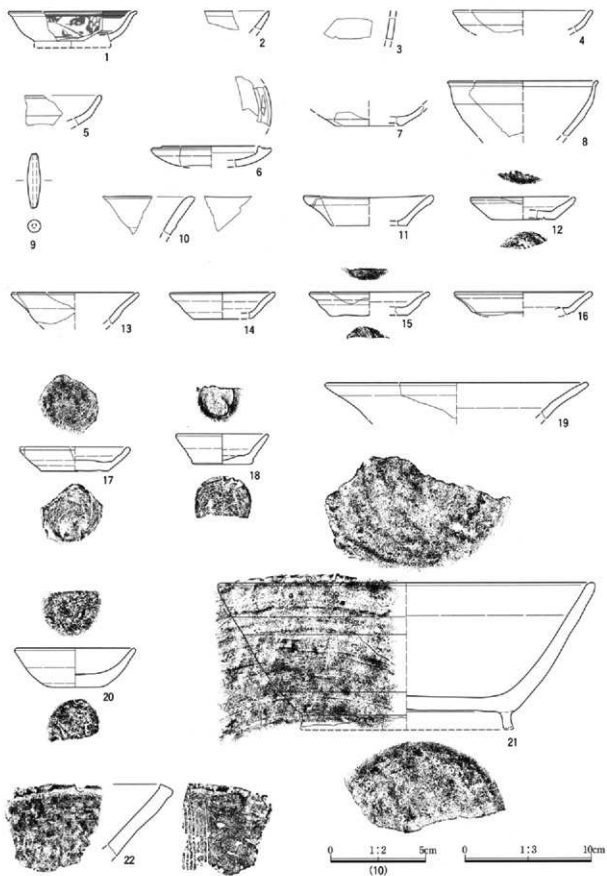


第103图 2区墓土内石列出土遗物(8)

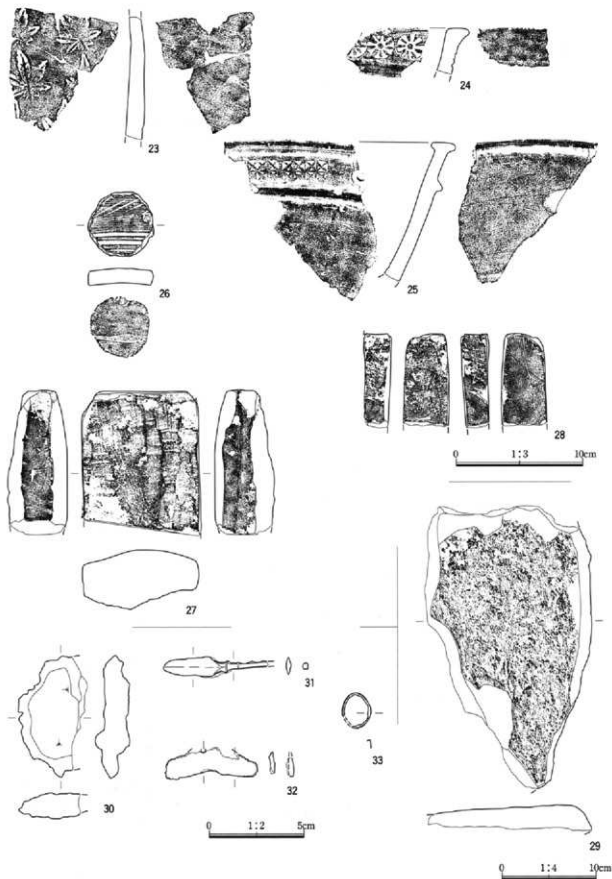


第104図 2区盛土内石列出土遺物(9)

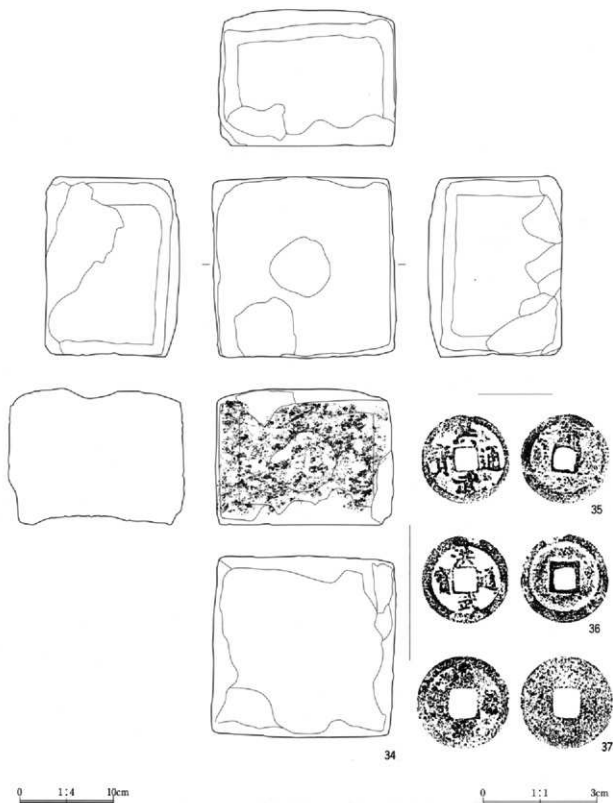
V 图 表



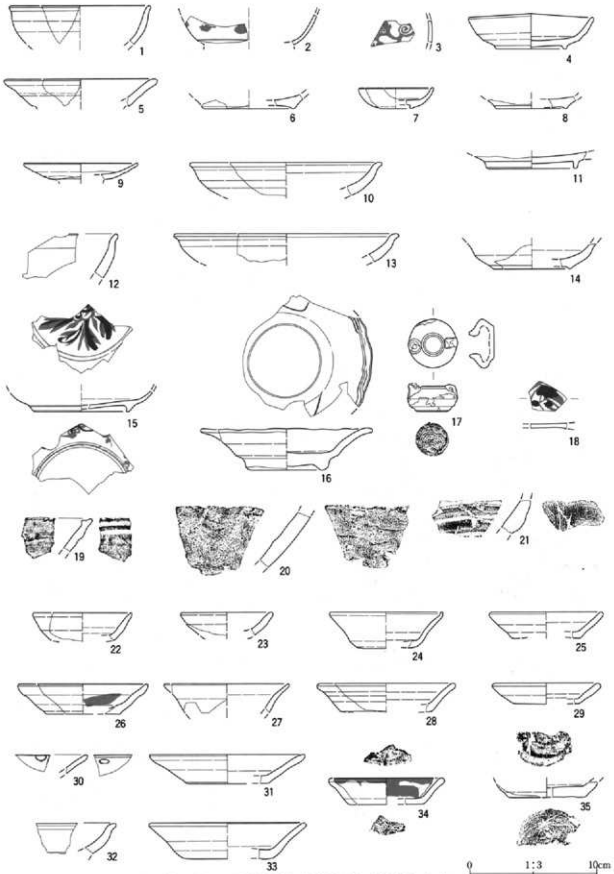
第105图 2区晶状渣槽黑色土内出土遗物(1)



第106図 2区畠状遺構黒色土内出土遺物(2)

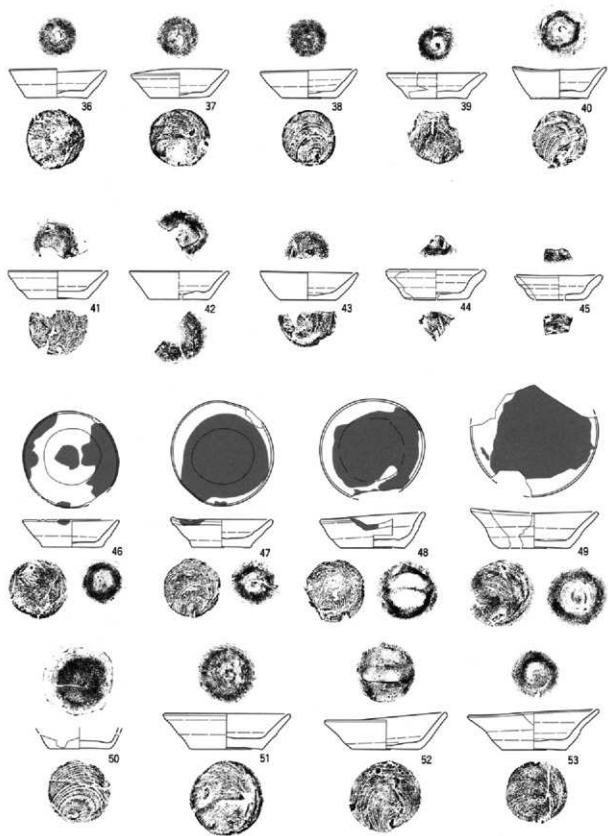


第107图 2区晶状道槽黑色土内出土遗物(3)

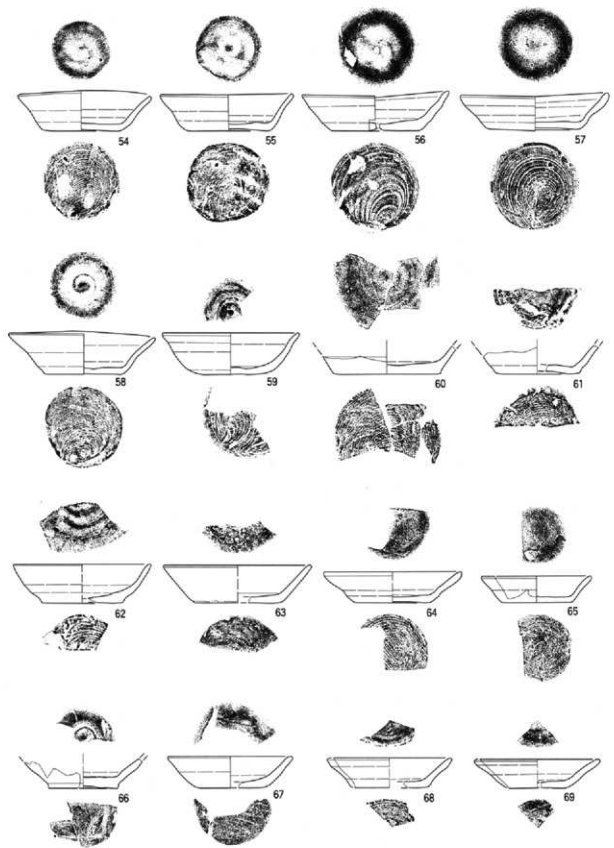


第108図 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(1)

V 图 表

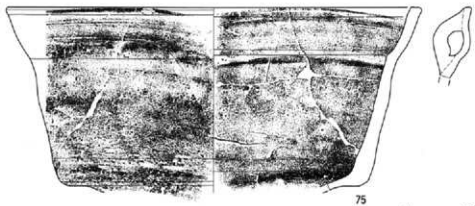
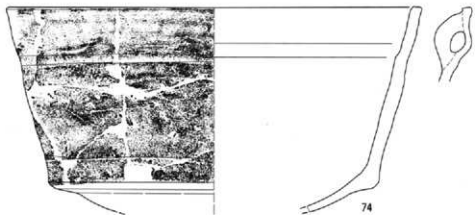
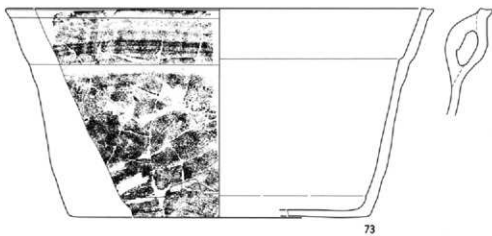
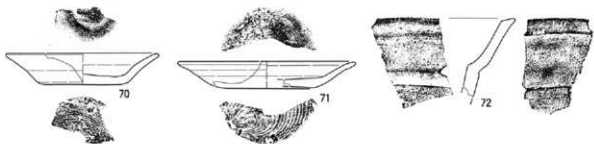


第109图 2区高状遗物下遗物群出土中世遗物(2)



第110图 2区急状遺構下遺構群出土中世遺物(3)

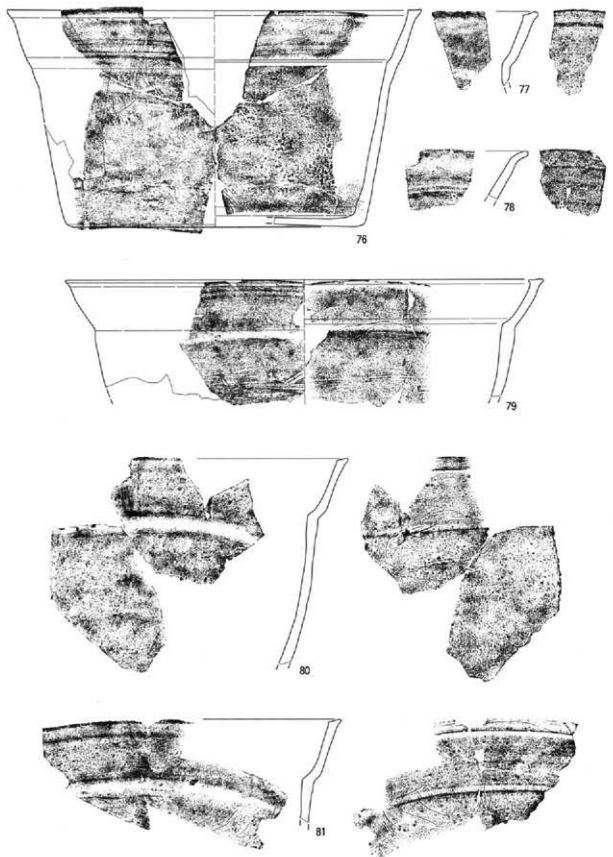
V 图 表



第111图 2区高状遗物下遗物群出土中世遗物(4)

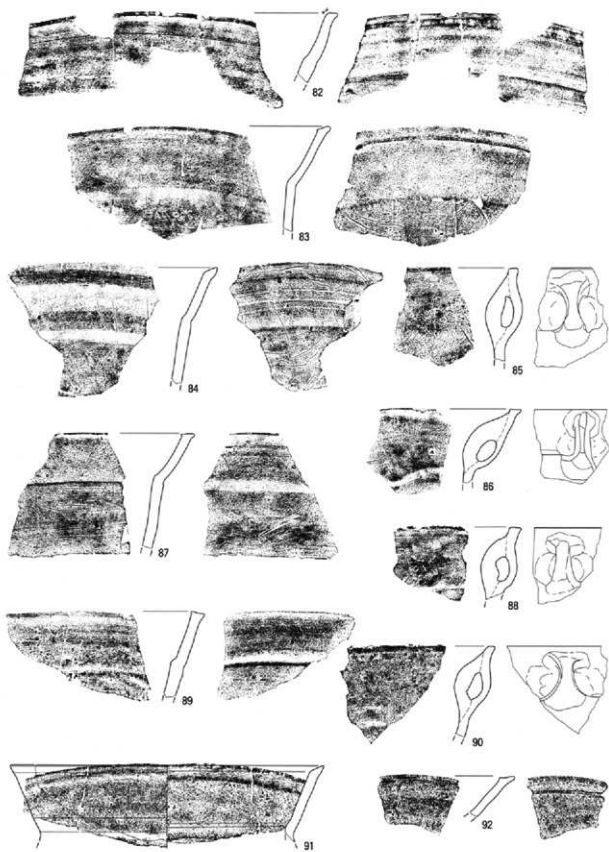
0 1:3 10cm

4 確認された遺物図等

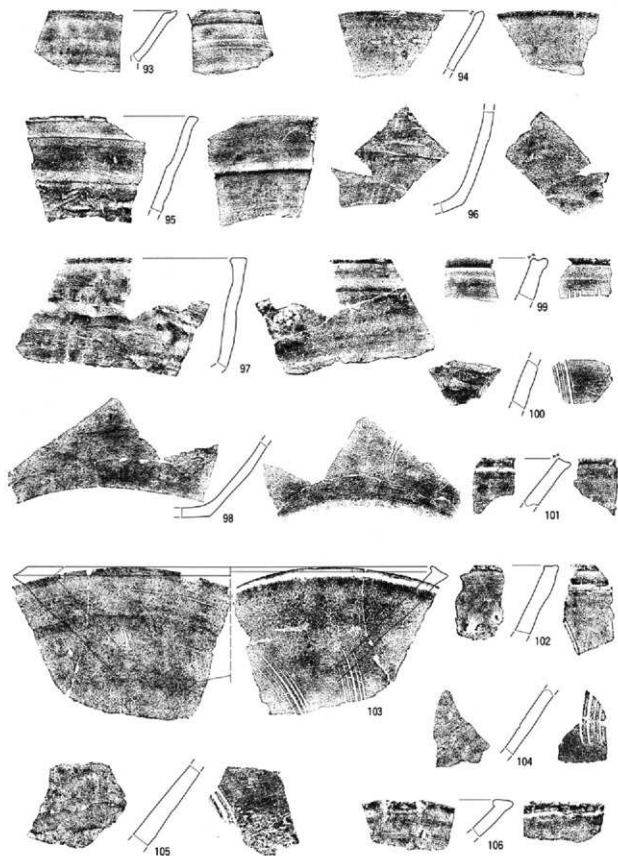


第112図 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(5)

V 图 表

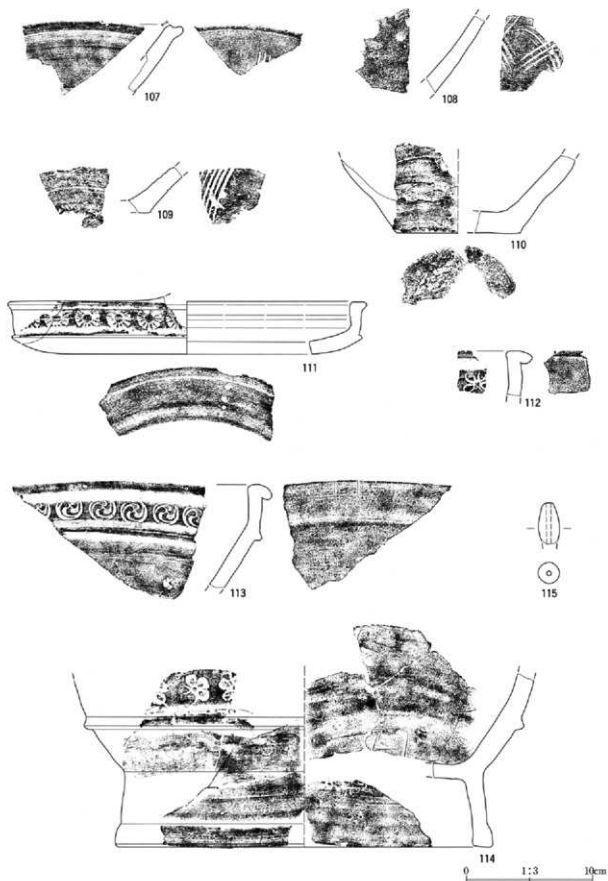


第113图 2区畚状遗構下遺構群出土中世遺物(6)



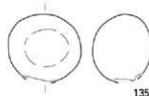
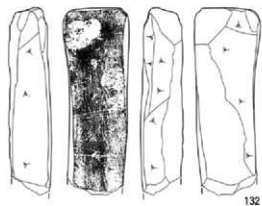
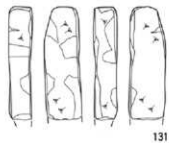
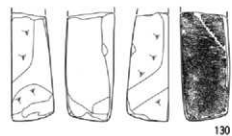
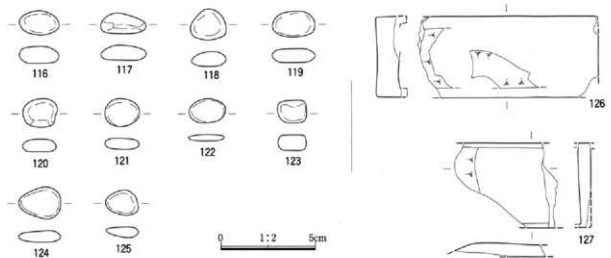
第114図 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(7)

V 图 表



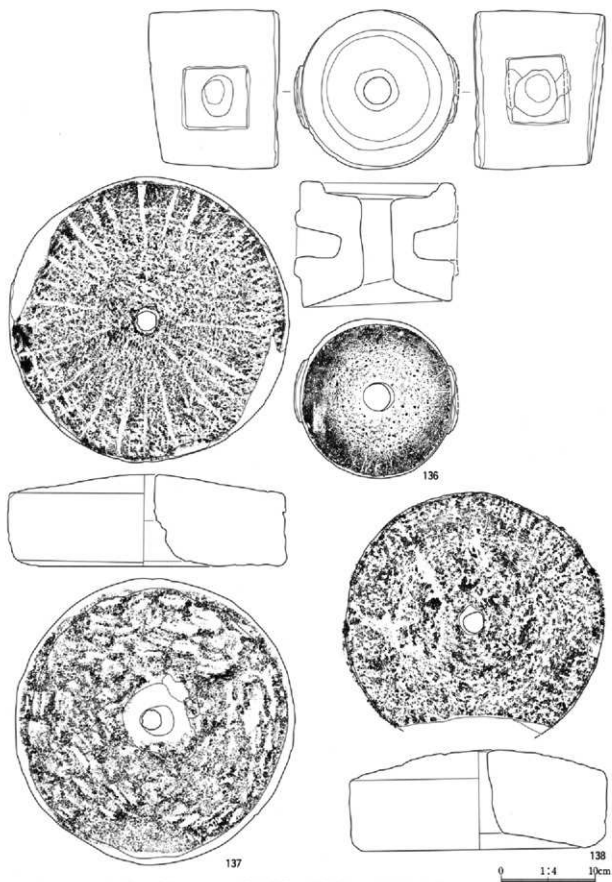
第115图 2区墓状遗構下遺構群出土中世遺物(8)

4 確認された遺物図等

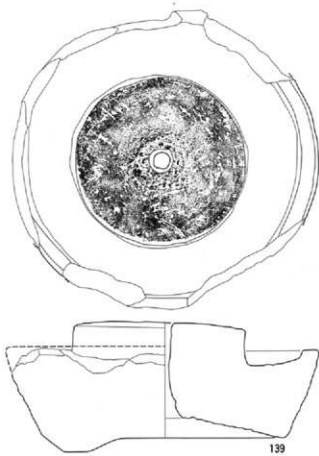


0 1:3 10cm

第116図 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物(9)



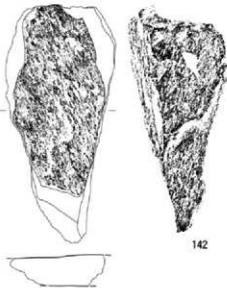
第117图 2区高状道拂下道拂群出土中世遗物 (10)



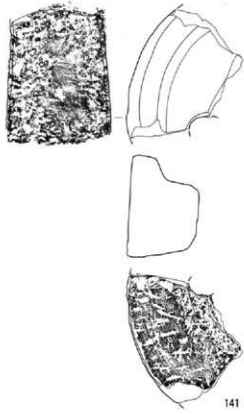
139



140



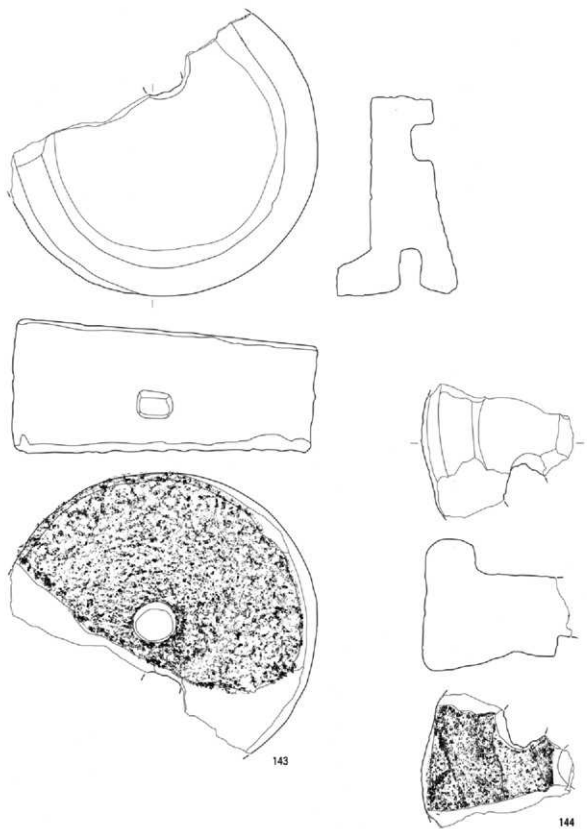
142



141

0 1:4 10cm

第118図 2区島状遺構下遺構群出土中世遺物 (11)

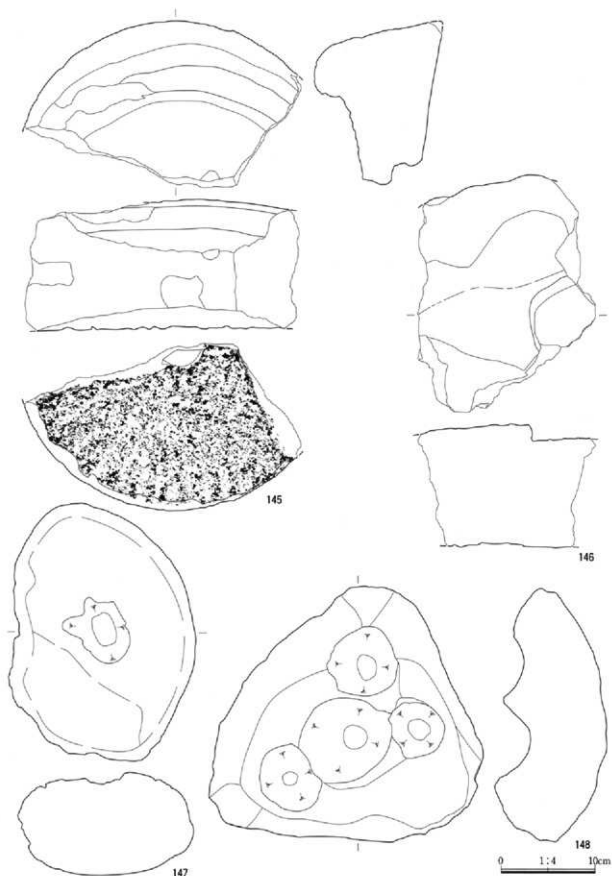


143

144

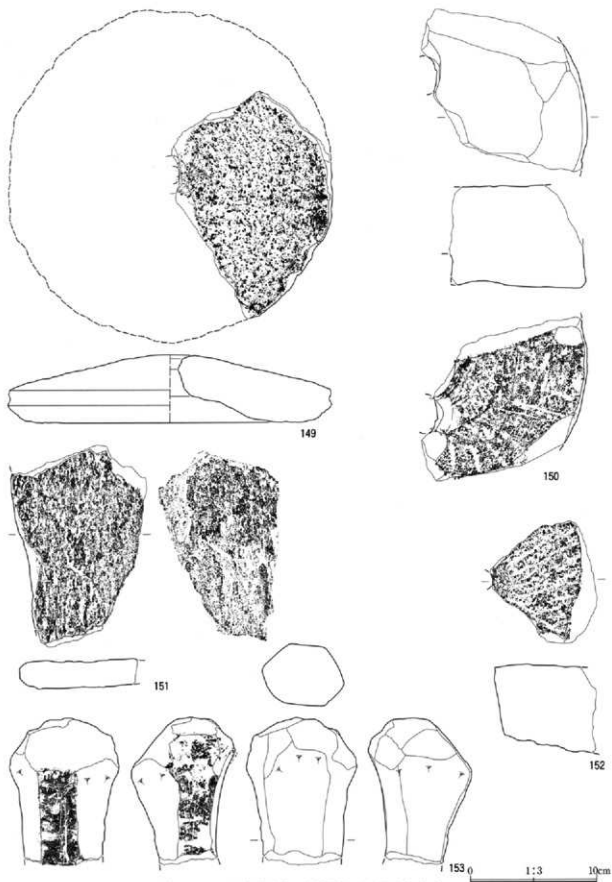
第119图 2区高状道橋下遺構群出土中世遺物(12)

0 1:4 10cm

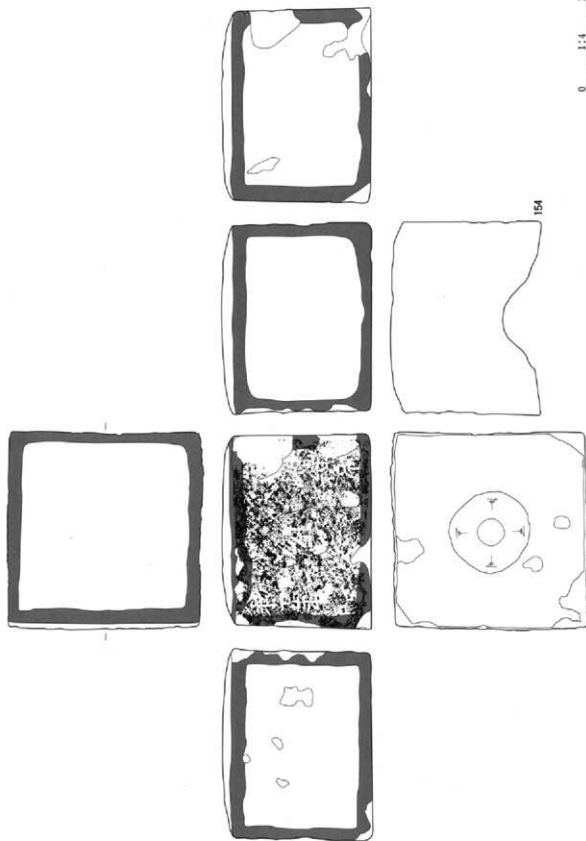


第120図 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (13)

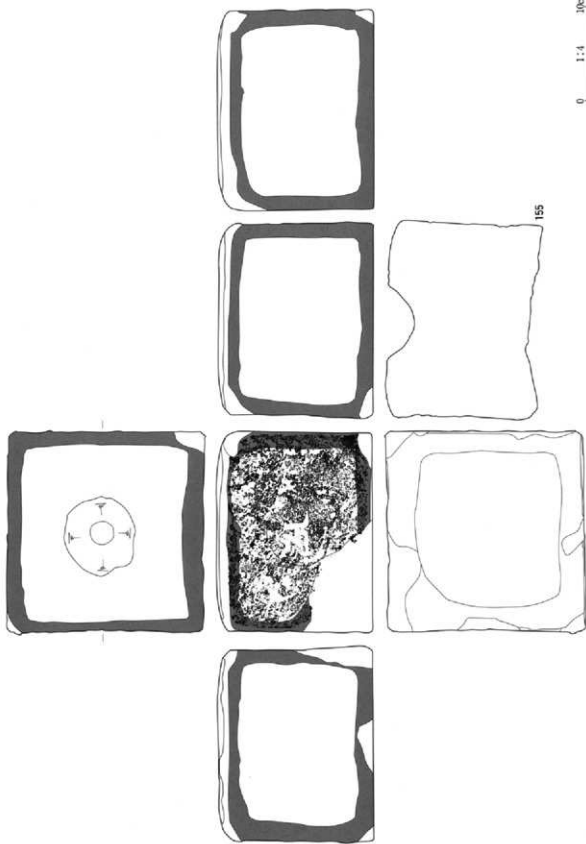
V 圖 表



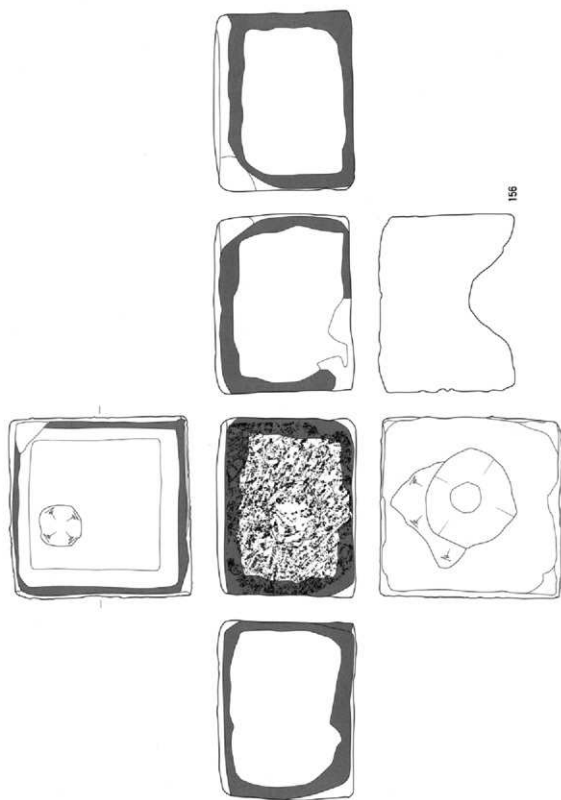
第121图 2区岛状遺構下遺構群出土中世遺物 (14)



第122図 2区高伏遺跡下遺跡群出土中世遺物 (15)

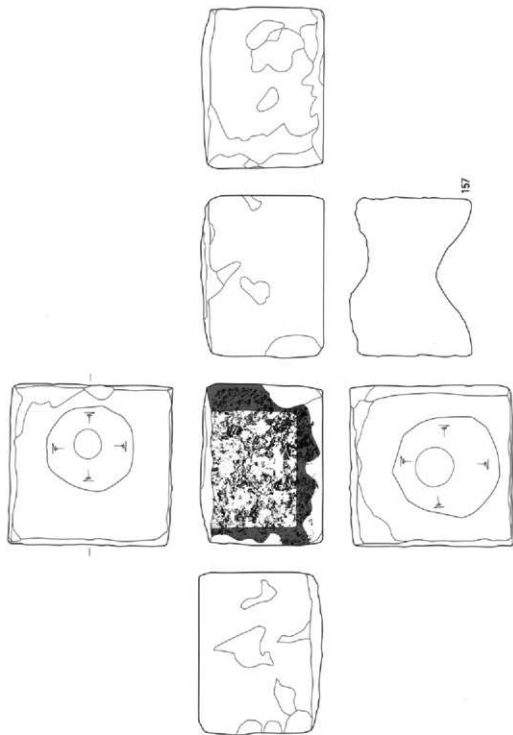


第123图 2区盒状遗物下遗物群出土中世遗物 (16)

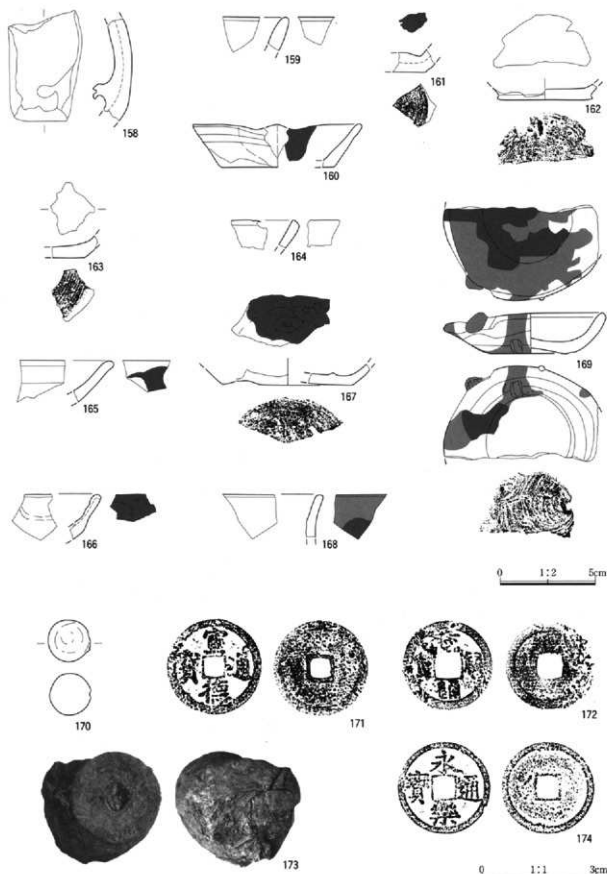


156

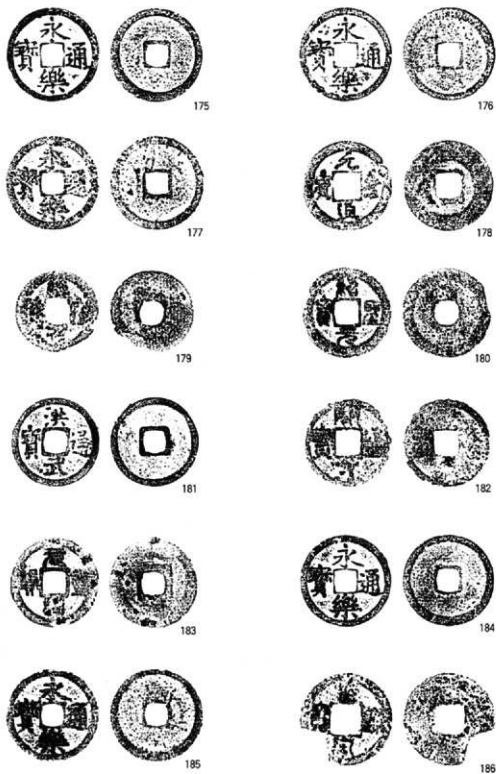
第124図 2区島状遺構下遺構群出土中世遺物(17)



第125图 2区高状遗物下遗物群出土中世遗物 (18)

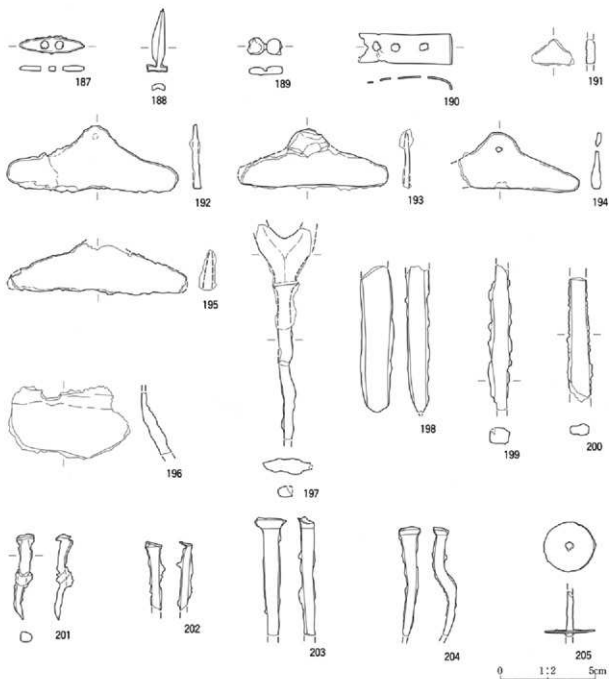


第126図 2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物 (19)



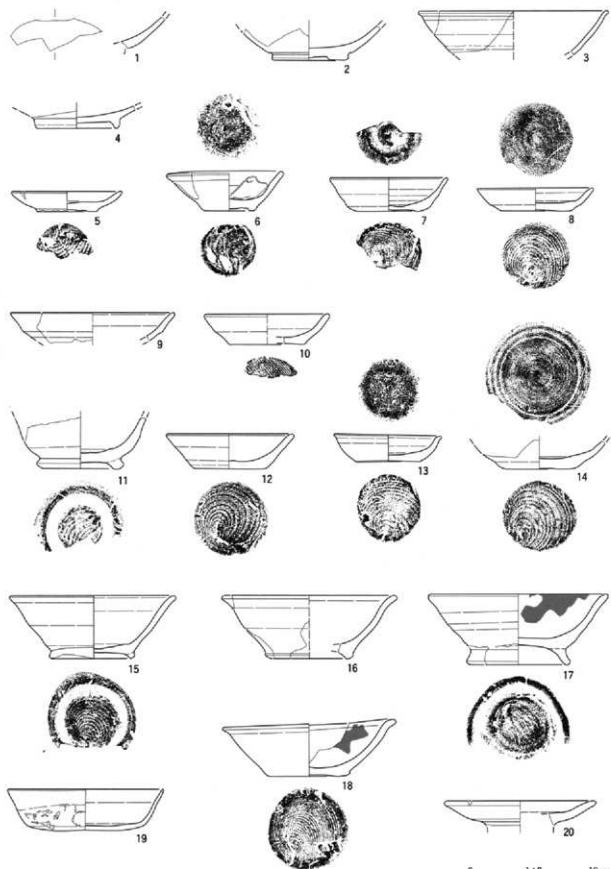
第127图 2区畚状遗構下遺構群出土中世遺物 (20)

0 1:1 3cm



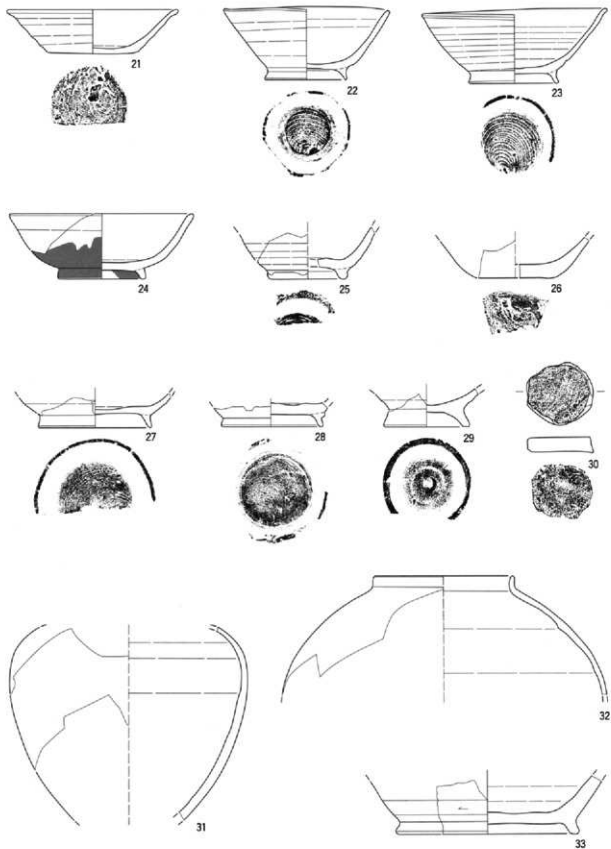
第128図 2区畚状遺構下遺構群出土中世遺物(21)

V 图 表



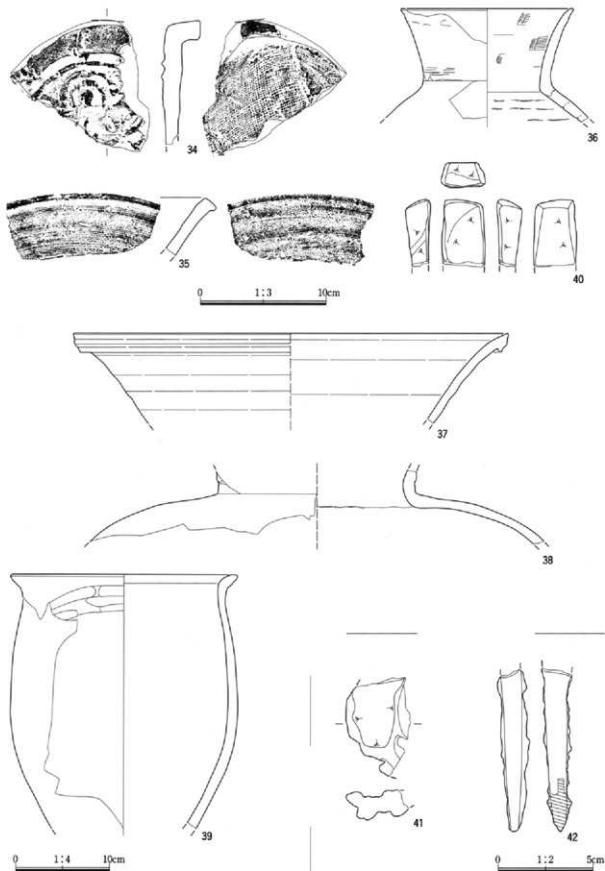
第129图 2区磊状遗構下遺構群出土古代遺物(1)

4 確認された遺物図等



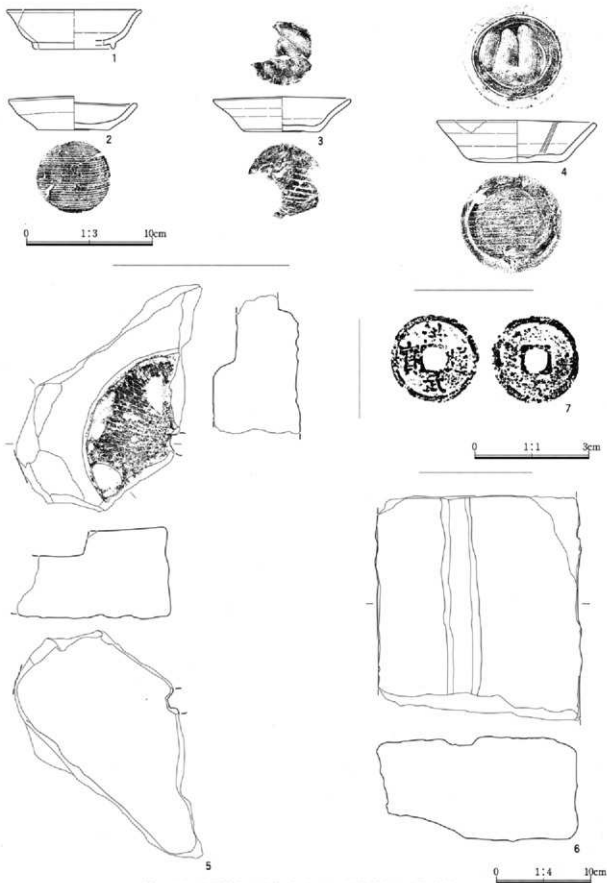
第130図 2区島状遺構下遺構群出土古代遺物(2)

V 图 表

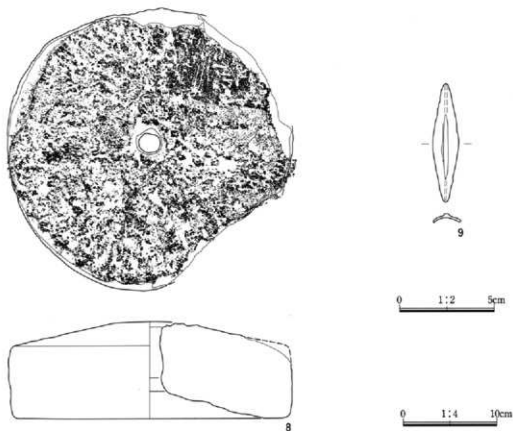


第131图 2区墓葬下道槽群出土古代遗物(3)

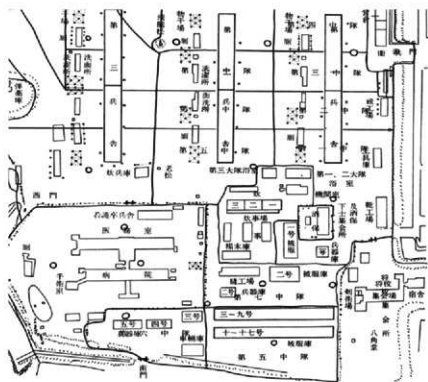
4 確認された遺物図等



第132図 遺構外出土遺物(1)及び遺構内出土遺物補遺

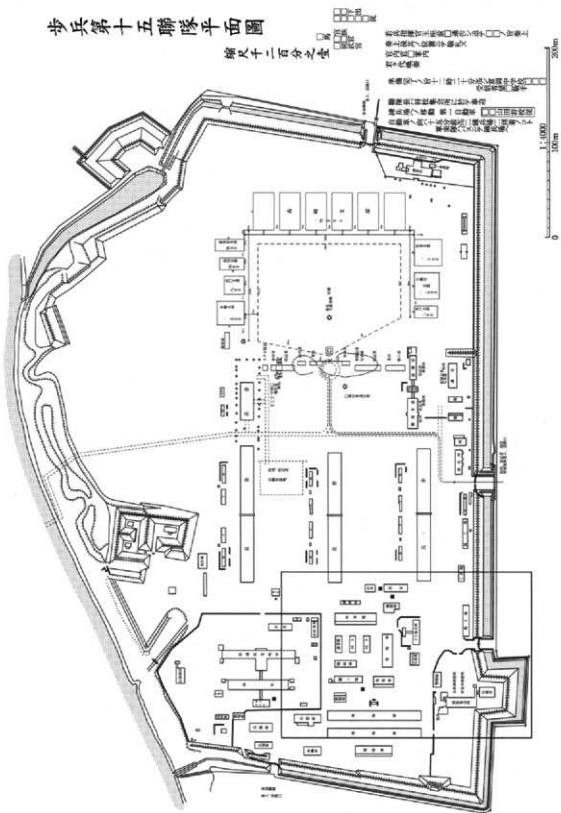


第133图 遺構外出土遺物(2)

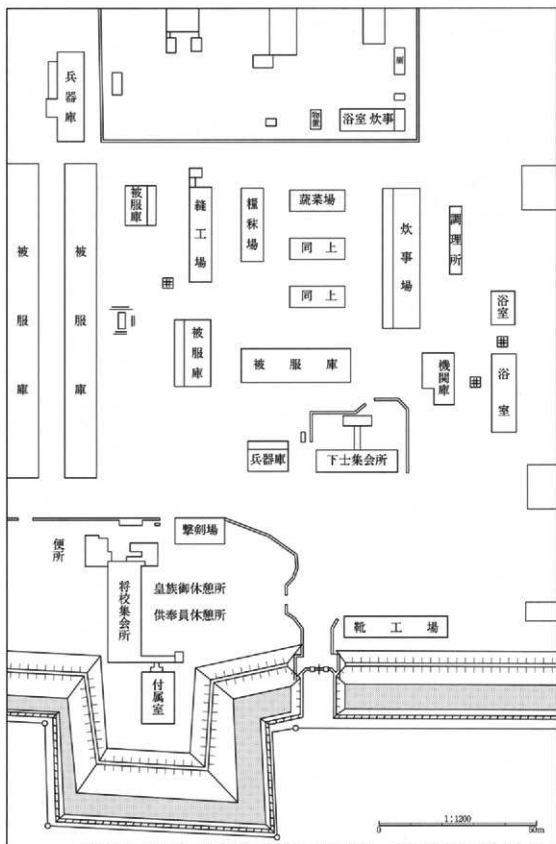


第134图 步兵第十五連隊営内図 (酒保・下土集会所部分)

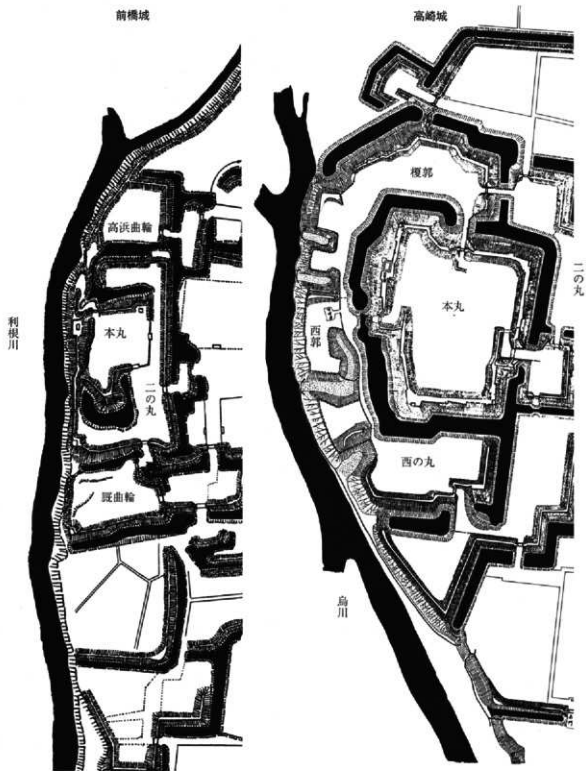
〔高崎城遺跡 Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ〕1990 高崎市教育委員会より



第135図 昭和9年 歩兵第十五連隊平面圖 群馬県立文書館蔵よりトレース



第136図 昭和9年 歩兵第十五連隊平面図(部分) 「下士集会所」が記されている



(西側部分の大きさがほぼ同じになるように縮尺を調整)

山崎 一 『群馬古城址の研究 下巻』群馬県文化振興事業団 1978より抜粋して作成

第137図 前橋城・高崎城縄張り比較図

V 図 表

表3 1号掘上層出土ガラス瓶等観察表

図番号 P L 番号	用途 色調	残存状態	①詳細 ②商品名 ③製造会社	①容高 ②口径 ③底径 (cm)	特 徴
第65図1 P L - 25	薬品 緑硝	完形	①飲み薬 ②神薬 ③養生堂	①6.6 ②1.2 ③2.0	「神薬」、「SHINYAKU」、「東京日本橋」、「養生堂製」の浮き文字。「N」が左右反転。型痕。
第65図2 P L - 25	薬品 緑硝	口縁欠損	①飲み薬 ②神薬 ③養生堂	①— ②— ③2.0	「神薬」、「SHISEIDOTOKO」、「養生堂製」、「DISPENSARY」の浮き文字。「N」が左右反転。型痕。
第65図3 P L - 25	薬品 緑硝	完形	①目薬 ②ロート目薬 ③山田安民本舗	①6.4 ②1.6 ③2.5	「ロート目薬」、「本舗山田安民」の浮き文字。スポイトかガラス棒を納める場所を窪ませる。型痕。
第65図4 P L - 25	不明 透明	完形	①— ②— ③—	①1.3 ②1.4 ③3.9	口縁部歪む。気泡少ない。型痕。
第65図5 P L - 25	薬品 透明	口縁欠損	①塗り薬 ②全治水 ③本舗尾澤豊太郎	①— ②— ③2.0	「全治水」、「本舗尾澤製」の浮き文字。型痕。
第65図6 P L - 25	不明 透明	完形	①— ②— ③—	①6.8 ②1.7 ③2.2	口縁部歪む。気泡少ない。型痕。
第65図7 P L - 25	薬品 緑硝	体部下半	①殺虫剤 ②ムシ シトリ? ③—	①— ②— ③2.1	「ムシトリ」の浮き文字。上半は欠損。型痕。
第65図8 P L - 25	薬品 透明	完形	①飲み薬 ②— ③—	①6.3 ②1.1 ③—	気泡含む。型痕。口縁部切り離し。
第65図9 P L - 25	薬品 透明	完形	①飲み薬 ②— ③—	①6.1 ②0.8 ③—	口縁部下に段を有する。気泡少ない。型痕。口縁部切り離し。
第65図10 P L - 25	薬品 透明	完形	①飲み薬 ②船丹 ③松島一天堂	①6.7 ②1.2 ③—	江州甲賀郡大原本舗松島一天堂。毒酒しの薬瓶。気泡少ない。口縁部切り離し。型痕。
第65図11 P L - 25	薬品 透明	底部欠損	①飲み薬 ②仁愛 ③隆盛堂	①— ②1.2 ③—	「登録商標仁愛」、「隆盛堂」の浮き文字。気泡少ない。口縁部切り離し。型痕。
第65図12 P L - 25	薬品? 透明	完形	①— ②— ③—	①5.1 ②0.9 ③1.0	頸部が短く、気泡ほとんど含まない。型痕不明。
第65図13 P L - 25	薬品? 透明	完形	①— ②— ③—	①5.2 ②0.9 ③1.1	頸部が短く、気泡ほとんど含まない。型痕不明。
第65図14 P L - 25	薬品? 透明	完形	①— ②— ③—	①6.1 ②1.0 ③1.0	頸部が短く、気泡ほとんど含まない。型痕不明。
第65図15 P L - 25	薬品? 透明	完形	①— ②— ③—	①5.2 ②0.9 ③1.1	頸部が短く、気泡ほとんど含まない。型痕不明。
第65図16 P L - 25	薬品? 透明	完形	①— ②— ③—	①6.5 ②1.2 ③1.4	頸部長く、気泡少ない。型痕。
第65図17 P L - 25	薬品? 透明(薄青)	完形	①— ②— ③—	①6.6 ②1.2 ③1.2	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図18 P L - 25	薬品? 透明(薄青)	完形	①— ②— ③—	①6.7 ②1.2 ③1.2	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図19 P L - 25	薬品?透 明(薄青)	完形	①— ②— ③—	①6.6 ②1.2 ③1.1	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図20 P L - 25	薬品? 透明(薄青)	完形	①— ②— ③—	①6.9 ②1.2 ③1.1	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図21 P L - 25	薬品? 透明(薄青)	完形	①— ②— ③—	①6.6 ②1.2 ③1.2	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図22 P L - 25	薬品? 透明(薄青)	完形	①— ②— ③—	①6.8 ②1.2 ③1.2	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図23 P L - 25	不明 透明	口縁一部欠 損	①— ②— ③—	①7.7 ②1.3 ③1.3	平底円筒形。気泡含まない。型痕不明。
第65図24 P L - 25	薬品 透明	上部欠損	①— ②— ③—	①— 直径0.3 ③—	直径3.0mmのガラス棒。先端は丸く残存部に白濁した薬品状の付着物残る。
第65図25 P L - 25	薬品 透明	下部	①— ②— ③—	①— 直径0.3 ③0.5	直径3.0mmのガラス棒。先端はつぶして平たく広がる。薬品を付ける際に使用するガラス棒であろう。
第65図26 P L - 25	薬品 透明(薄青)	完形	①煎薬 ②— ③—	①6.6 ②1.4 ③3.0	気泡多い。目盛り範囲は1/2・1/4。型痕明瞭。
第65図27 P L - 25	薬品 透明(薄青)	完形	①煎薬 ②— ③—	①6.6 ②1.6 ③3.1	気泡含む。厚みにややムラあり。目盛りは1/2・1/4。型痕明瞭。

図番号 P.L.番号	用途 色調	残存状態	①詳細 ②製造会社	③商品名	④器高 ⑤口径 ⑥底径 (cm)	特 徴
第658228 P.L.-25	薬品 透明(薄青)	完形	①薬瓶 ②-		④6.6 ⑤1.4 ⑥3.0	気泡多く含む。目盛りは1/2・1/4。型痕明瞭。底部傾く。
第658229 P.L.-25	薬品 透明(薄青)	完形	①薬瓶 ②-		④6.6 ⑤1.7 ⑥2.9	気泡含む。厚みのムラ多い。目盛りは1/2・1/4。型痕明瞭。器壁厚い。
第658330 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④7.0 ⑤1.7 ⑥3.1	気泡含む。目盛り範囲は1/4・1/8。型痕明瞭。
第658331 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④7.2 ⑤1.6 ⑥3.1	気泡含む。厚みのムラ多い。目盛りは1/4・1/8。型痕明瞭。
第658332 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④6.9 ⑤1.5 ⑥3.0	気泡少量含む。厚みのムラ多い。目盛りは1/4・1/8。型痕明瞭。
第658333 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④7.3 ⑤1.5 ⑥3.2	気泡少量含む。目盛りは1/4・1/8。型痕明瞭。
第658334 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④7.0 ⑤1.6 ⑥3.0	気泡多く含む。厚みにムラあり。目盛りは1/4・1/8。型痕明瞭。器壁やや薄い。
第658335 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④6.8 ⑤1.8 ⑥3.1	気泡多く含む。目盛りは1/4・1/8。器壁やや薄い。厚みにムラがある。型痕明瞭。
第658336 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④6.9 ⑤1.6 ⑥3.1	極薄い青色を呈する。気泡多い。目盛り範囲は1/4・1/8。型痕明瞭。
第658337 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④6.8 ⑤1.5 ⑥3.2	気泡含む。目盛り範囲は1/4・1/8。型痕明瞭。目盛りは右付き。
第658338 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④6.9 ⑤1.6 ⑥3.2	気泡多く含む。目盛りは、ほぼ1/2・1/4。型痕明瞭。
第658339 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④6.8 ⑤1.8 ⑥3.8	気泡少量含む。目盛り1/2・1/4。型痕。
第658340 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④8.2 ⑤1.7 ⑥3.8	気泡含む。目盛り1/4・1/8。型痕明瞭。
第658341 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④10.1 ⑤1.7 ⑥3.8	気泡多く含む。目盛り1/4・1/8。型痕明瞭。
第658342 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④11.6 ⑤2.2 ⑥5.4	気泡少ない。目盛り1/4・1/8。目盛り左側にラベル貼付箇所設ける。底部傾く。器壁薄く、最も透明度高い。
第658343 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④9.6 ⑤2.0 ⑥4.4	気泡多く含む。目盛り1/2・1/6。型痕明瞭。
第658344 P.L.-25	薬品 透明	完形	①薬瓶 ②-		④9.9 ⑤1.8 ⑥4.3	気泡少量含む。厚みにややムラあり。目盛り1/4・1/8。目盛り左側にラベル貼付箇所設ける。型痕。
第658345 P.L.-25	医療品 透明	完形	①- ②-		縦2.5 横6.0 厚0.2	厚みは均一で気泡含まない。スライドガラスであろう。
第668346 P.L.-25	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶 ②-		④3.9 ⑤2.5 ⑥3.9	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第668347 P.L.-25	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶 ②-		④4.0 ⑤2.5 ⑥4.0	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第668348 P.L.-25	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶 ②-		④4.0 ⑤1.9 ⑥4.0	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第668349 P.L.-25	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶 ②-		④3.9 ⑤2.1 ⑥4.1	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第668350 P.L.-25	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶 ②-		④3.8 ⑤2.5 ⑥3.7	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第668351 P.L.-26	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶 ②-		④3.8 ⑤2.4 ⑥3.4	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡多く含む。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第668352 P.L.-26	文具 透明	完形	①インク瓶 ②-		④4.0 ⑤2.1 ⑥4.0	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第668353 P.L.-26	文具 透明	体部1/2欠損	①インク瓶 ②-		④4.2 ⑤2.1 ⑥4.0	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第668354 P.L.-26	文具 透明	体部一部欠損	①インク瓶 ②-		④4.5 ⑤2.3 ⑥5.0	方形の体部隅に円形の口が付く。気泡含む。場所による器壁厚みの違い大きい。底部○内に「M」、横下部に「実用新案登録」No.3218 浮き文字。型痕明瞭。
第668355 P.L.-26	文具 透明	完形	①インク瓶 ②-		④4.0 ⑤2.3 ⑥4.7	円形の体部隅に円形の口を付ける。気泡少ない。底部に「+」と植物文をエンボスで表す。型痕。

V 図 表

国番号 P.L.番号	用途 色調	残存状態	①詳細 ②商品名 ③製造会社	①高さ ②口径 ③底径 (cm)	特 徴
第660806	文具 透明	1/4	①瓶瓶 ②ヤマト ③木内洋吉商店?	①4.5 ②(5.1) ③(5.0)	62と同様な瓶。体部残存部に文字なし。底部「(ヤ)マト」の浮き文字。薄黄緑色がかかる。気泡含む。型痕。
第660807	文具 透明	体部1/2、 口径部一部	①瓶瓶 ②ヤマト ③木内洋吉商店?	①4.8 ②(5.0) ③(5.4)	56・62に比して透明でやや厚い。気泡少ない。体部に「(ヤマト)ト」の浮き文字。薄黄緑色がかかる。気泡含む。型痕。
第660808 P.L.-26	文具? 透明	完形	①瓶瓶 ②- ③-	①(5.1) ②(3.8) ③4.4	口径部から肩部二段に作る。気泡少ない。口径端部切り離し。底部に「★」の浮き文字。型痕不明。薄黄緑色がかかる。
第660809 P.L.-26	化粧品 透明	完形	①白毛・赤毛染 ②君が代 ③東京山吉商店	①4.6 ②(2.0) ③1.8	体部は四角柱で頸部は一段を直径とする円柱形。器壁は小さい凹凸がありエンボス状となる。「君が代」の文字が一面に浮き文字。型痕。中身が残る。
第660860 P.L.-26	文具 透明	完形	①インク瓶 ②- ③-	①(3.8) ②(2.3) ③4.4	円形の体部横に円筒形の口を付ける。気泡少ない。器壁厚い。型痕不明。薄黄緑色がかかる。
第660861 P.L.-26	文具 透明	完形	①インク瓶 ②- ③-	①(4.0) ②(2.1) ③4.3	円形の体部横に円筒形の口を付ける。気泡少ない。器壁厚い。型痕不明。薄黄緑色がかかる。
第660862 P.L.-26	文具 透明	体部1/2、 口径部一部	①瓶瓶 ②ヤマト ③木内洋吉商店	①4.9 ②(4.7) ③(5.2)	体部に「登録商標 ヤマト 木内製」、底部に「ヤマト」の浮き文字。薄黄緑色がかかる。気泡含む。型痕。
第660863 P.L.-26	文具? 透明	口径部欠損	①瓶?瓶 ②- ③-	①(5.0) ②(3.8) ③4.3	口径部から肩部二段に作る。気泡少ない。口径端部切り離し。底部に「★」をエンボスで表す。型痕不明。薄黄緑色がかかる。
第660864 P.L.-26	不明 透明	完形	①- ②- ③-	①5.5 ②1.6 ③2.2	頸部内部がすりガラス状となる。共栓。器壁厚いが気泡はほとんどない。体部外面3方に縦位凸線。縦線のない面はラベルを貼付したのであろう。型痕。
第660865 P.L.-26	不明 透明	完形	①- ②- ③-	①(11.4) ②(2.5) ③4.8	体部の角を大きめに面取りする。4面はラベル貼付用に窪ませる。一方所ラベル面付着。底部「」をエンボスで表す。型痕。口径部から頸部内部すりガラス状。共栓。
第660866 P.L.-26	不明 透明	完形	①- ②- ③-	①(7.1) ②(1.8) ③3.0	器壁は比較的均一で気泡も非常に少ない。型痕。
第660867 P.L.-26	化粧品 白色不透明	完形	①- ②- ③-	①(2.8) ②(3.0) ③(3.1)	中にクリーム残る。蓋内面の残る。
第660868	化粧品 白色不透明	完形	①クリーム ②レオクレーム ③平尾賢平商店	①(0.7) ②(2.8) ③(2.2)	小型クリーム瓶の蓋。上面に「CREME LAIT」の浮き文字。
第660869 P.L.-26	化粧品? 透明	完形	①- ②- ③-	①(5.8) ②(2.0) ③(3.3)	体部四隅を面取りする。透明度はやや高く、気泡は少ない。底部外面に「プレミヤ」の浮き文字。内面に内容物と思われる白色物質付着。
第660870 P.L.-26	化粧品? 透明	完形	①- ②- ③-	①(9.2) ②(2.0) ③(3.2)	体部・頸部ともに円柱形の瓶。型痕なし。厚みが均一で透明度も高く、気泡少ない。化粧水か香油に代表される整髪料用瓶と思われる。
第660871 P.L.-26	化粧品 透明	完形	①化粧水 ②ホーカー液 ③堀越善太郎商店	①(9.4) ②(2.1) ③(3.0)	体部から肩部面取り。腰厚くびれる。体部に「ホーカー液」、反対側と底部に「堀越」の浮き文字。型痕。
第660872	化粧用具? 透明	完形	①- ②- ③-	縦4.7 横4.6 厚0.2	方形板ガラス。ライオン歯磨の鏡と同形・同大、歯磨の鏡の可能性あり。
第660873	化粧用具? 透明	完形	①- ②- ③-	縦4.6 横4.7 厚0.2	方形小鏡。鏡縁部分に残る。ライオン歯磨の鏡と同形・同大、歯磨の鏡の可能性高い。
第660874	化粧用具? 透明	1/2	①- ②- ③-	縦(2.4) 横(5.2) 厚0.2	円形板ガラス。気泡なく透明度高い。片方の表面に曇ったように付着物が残り、鏡の可能性もある。
第670875	飲料 緑	肩部以上	①サイダー ②三ツ矢サイダー? ③-	①- ②(2.6) ③-	色調と厚さから三ツ矢サイダー瓶であろう。王冠栓。頸部に凸帯走る。
第670876 P.L.-26	飲料 緑	底部	①サイダー ②三ツ矢サイダー ③-	①- ②- ③(6.6)	底部に三ツ矢マークと左回りに「三ツ矢」浮き文字。底部内面はドーム状を呈する。型痕不明。三ツ矢マークは細く、中心には○内に「B」の表記。
第670877 P.L.-26	飲料 緑	頸部以下	①サイダー ②三ツ矢サイダー ③-	①- ②- ③(6.6)	底部に三ツ矢マークと右回りに「三ツ矢」の浮き文字。底部内面はほぼ平坦。大小の気泡含む。型痕不明。

図番号 P L 番号	用途 色調	残存状態	①詳細 ②商品名 ③製造会社	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	特 徴
第671078 P L - 26	飲料 緑	底部	①サイダー ②三ツ矢サイダー ③-	①- ②- ③6.5	底部に三ツ矢マークと右回りに「三ツ矢」の浮き文字。底部内面はほぼ平坦。型痕不明。
第671079 P L - 26	麦酒 濃茶	底部	①ビール ②サクラビール ③帝國麦酒が振麦 酒(株)	①- ②- ③7.7	型痕明瞭。体部下位に「サクラ・ビール」、華記体で「Sakura Beer」の浮き文字。底部キック状に窪み、中央内に「B」の浮き文字。
第671080	麦酒 茶	口縁部から 頸部	①- ②- ③-	①- ②2.5 ③-	王冠栓。型痕。
第671081	麦酒 茶	口縁部から 肩部	①- ②- ③-	①- ②2.6 ③-	王冠栓。型痕。
第671082	麦酒? 茶	底部	①- ②- ③-	①- ②- ③7.8	型痕不明。残存部に浮き文字なし。底部内面キック状に窪む。
第671083	麦酒? 茶	底部	①- ②- ③-	①- ②- ③7.7	型痕。体部残存部に浮き文字なし。底部内面ドーム状に盛り上がる。底部中央「S」浮き文字。
第671084	麦酒? 茶	底部	①- ②- ③-	①- ②- ③7.8	体部下位浮き文字があるが、ごく一部のため判読不能。底部キック状に窪む。中央に「ト」浮き文字。
第671085 P L - 26	麦酒 茶	肩部以下	①ビール ②- ③大日本麦酒株式 会社	①- ②- ③7.9	型痕明瞭。縦方向に伸びる気泡含む。体部下位に「大日本麦酒株式会社醸造」、「登録商標」の浮き文字。底部キック状に窪み、中央に「O」の浮き記号。
第671086	飲食器 透明	底部1/2 口縁部一部	①- ②- ③-	①9.1 ②16.4 ③5.0	剣先コップ。器壁厚い。高台高く、ドーム状に窪む。底部内面は僅かに膨らむ。気泡含む。型痕不明。
第671087 P L - 27	飲料 青緑	体部	①ラムネ ②- ③-	①- ②- ③5.5	頸部くびれ部以下が残存。底部に菱形エンボス。器壁は非常に厚い。型痕。
第671088 P L - 26	飲料? 透明	完形	①洋酒? ②- ③-	①19.2 ②2.2 ③6.4	体部四隅面取り。透明度高く気泡少ない。底部ドーム状に窪む。型痕。
第681089 P L - 27	調味料 透明薄黄緑	肩部一部欠 損	①ソース ②リー・ペリン ③リー・&ペリン	①18.3 ②2.5 ③5.3	王冠栓。体部縦位に「LEA&PERRINS」、肩部横位に「WORCESTER SHIRE SAUCE」、底部に「K」、「1984」の浮き文字。イギリス、リー・&ペリン社のウスターソース。型痕明瞭。
第681090	不明 青	口縁部	①- ②- ③-	①- ②2.9 ③-	頸部二次比熱で変形。
第681091	調味料? 青	肩部以上	①- ②- ③-	①- ②2.8 ③-	縦方向に長い大小の気泡含む。口縁部は上方から押さえて平坦に作る。型痕不明。
第681092 P L - 27	調味料? 青	口縁一部欠 損	①- ②- ③-	①20.2 ②2.7 ③6.7	縦方向に長い気泡少量含む。型痕不明。底部内面ドーム状に盛り上がる。中央は外方に突出する。厚い内容物?が付着。
第681093 P L - 27	不明 青	口縁部	①- ②- ③-	①- ②2.5 ③-	縦方向に長い気泡含む。機械栓。型痕不明。
第681094 P L - 27	不明 青	口縁部	①- ②- ③-	①- ②2.8 ③-	縦方向に長い気泡含む。機械栓。型痕不明。
第681095 P L - 27	不明 透明	完形	①- ②- ③-	①4.1 ②3.8 ③4.9	気泡少ない。型痕明瞭。ねじ山部と体部の型痕はほぼ290°ずれる。
第681096 P L - 27	不明 透明	完形	①- ②- ③-	①4.1 ②4.1 ③5.0	気泡少ない。型痕明瞭。ねじ山部と体部の型痕はほぼ290°ずれる。
第681097 P L - 27	不明 透明	完形	①- ②- ③-	①4.5 ②3.3 ③4.8	気泡少ない。型痕明瞭。ねじ山部と体部の型痕はほぼ290°ずれる。
第681098 P L - 27	不明 透明	完形	①- ②- ③-	①4.8 ②3.9 ③4.7	底部の厚み不均質。気泡少ない。肩部に凸線1条走る。体部型痕不明瞭。ねじ山部型痕明瞭。体部型痕不明瞭。
第681099 P L - 27	不明 透明	完形	①- ②- ③-	①4.8 ②3.8 ③4.6	気泡少ない。型痕明瞭。ねじ山部と体部の型痕はほぼ290°ずれる。
第681100 P L - 27	不明 透明	口縁部1/2 欠損	①- ②- ③-	①8.0 ②5.9 ③6.0	体部九カ所窪ませる。ねじ栓。器壁薄い。体部型痕不明。ねじ山部型痕明瞭。底部ドーム状に窪ませる。
第681101	不明 緑	底部	①- ②- ③-	①- ②- ③6.8	底部付近器壁厚く、体部は薄くなる。縦方向に長い大小の気泡含む。底部は窪む。型痕不明。
第681102	不明 緑	底部完 体部1/2	①- ②- ③-	①- ②- ③7.2	器壁薄い。縦方向に長い大小の気泡含む。型痕不明。底部に星形。
第681103 P L - 27	不明 緑	完形	①- ②- ③-	①19.7 ②2.4 ③6.1	体部は円筒形で頸部は急激に細くなる。縦方向に長い気泡含む。型痕なし。底部は円形凸線中央を窪ませる。
第681104 P L - 27	電傘 白色不透明	1/2	①- ②- ③-	①5.2 ②5.4 ③22.6	外面器壁は滑らか。内面は成型時の種状が残る。

V 図 表

図番号 P.L.番号	用途 色調	残存状態	①詳細 ②商品名 ③製造会社	①器高 ②口径 ③口径 (cm)	特 徴
第68図105	電傘 白色不透明	1/8	①— ②— ③—	①3.8 ②5.4 ③22.2	外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕が残る。
第68図106	電傘 乳白不透明	上部	①— ②— ③—	①— ②5.4 ③—	外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕が残る。
第68図107	電傘 乳白不透明	傘部1/8	①— ②— ③—	①— ②— ③(21.2)	106と同質。外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕が残る。
第68図108	電傘 透明	上部	①— ②— ③—	①— ②5.4 ③—	厚みのある透明ガラス内面に白色ガラスを約0.1mm厚で合わせる。外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕が残る。
第68図109 P.L.-27	電傘 透明	2/3	①— ②— ③—	①14.8 ②7.0 ③(23.0)	108と同質。透明ガラス内面に約0.2mm厚の白色ガラスを合わせる。外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕が残る。
第68図110	不明 透明	一部	①— ②— ③—	①— 直径0.38 ③—	直径3.8mmのガラス棒中心に直径0.6mmの穴があく。透明度高く温度計か？型痕不明。
第68図111	不明 透明	完形	①— ②— ③—	縦5.9 横8.8 厚0.5	薄い長方形板ガラス。片面の周囲を斜めに面取りする。透明度高く気泡含まない。
第68図112 P.L.-27	不明 透明	口縁一部欠損	①— ②— ③—	①2.4 ②3.6 ③3.0	口縁部内面ざらつきがあり、共栓と考えられる。器壁厚く、気泡少ない。透明度高い。型痕なし。
第68図113	不明 透明	完形	①— ②— ③—	①0.8 ②2.3 ③2.5	器壁均一で気泡は含まない。透明度高く、医療用もしくは実験用器の蓋か。口縁部内面の半分ほどを斜めに削る。

表4 1号塚上層出土陶磁器類観察表

図番号 P.L.番号	種 別 器 種	残存状態	①器高 ②口径 ③口径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第69図114	磁器 蓋	1/4	①3.2 ②(7.4) ③(2.7)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「(酒)保」。
第69図115	磁器 蓋	1/2	①3.1 ②7.3 ③2.8	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒保」。
第69図116	磁器 蓋	1/2	①3.2 ②(7.5) ③(3.0)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「(酒)保」。
第69図117	磁器 蓋	底部完 口縁部一部	①3.0 ②(7.6) ③3.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒保」。
第69図118 P.L.-27	磁器 蓋	底部完 口縁部1/2	①3.1 ②7.8 ③3.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒保」。
第69図119 P.L.-27	磁器 蓋	底部完 口縁部一部	①3.1 ②7.7 ③3.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒保」。
第69図120 P.L.-27	磁器 蓋	口縁一部欠 損	①3.1 ②7.3 ③3.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒保」。
第69図121 P.L.-27	磁器 蓋	口縁一部欠 損	①3.6 ②8.3 ③3.6	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。口縁部部に「賞」、「開寄贈」、紙とリボンを金の上絵。植物の葉と茎を緑、実を赤の上絵具で描く。
第69図122	磁器 蓋	1/3	①— ②(7.5) ③—	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部内面に「…所准士…」上絵痕。上絵具の色は不明。「准士官下士官集会所」か。
第69図123	磁器 蓋	1/4	①— ②(7.6) ③—	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。口縁部内面に黒色上絵具で「…兵部…」。「歩兵第十五連隊」であろう。
第69図124 P.L.-28	磁器 蓋	1/3	①3.0 ②(5.5) ③(2.0)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部外面3条の染付模様。
第69図125 P.L.-28	磁器 蓋	1/2	①3.1 ②(6.8) ③2.7	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。口縁部菊花。白磁か。
第69図126 P.L.-28	磁器 蓋	完形	①3.0 ②5.7 ③2.4	①不明 ②良好③白色	制作地不詳。口縁部外面に金で「磨崎」。内面は吹き墨と筆で千鳥の染付。赤の上絵具で「フジサキ印」、黒の上絵具でフジサキ印を描く。
第69図127 P.L.-28	磁器 蓋	1/2	①3.1 ②7.4 ③3.1	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部外方に広がる。高台外面に雲雀状文・高台内不明染付。
第69図128	磁器 碗	底部1/2	①— ②— ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無輪。体部外面に背の上絵具で「酒保」か。
第69図129	磁器 碗	1/2	①3.9 ②(8.0) ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無輪。体部外面に背の上絵具で「(酒)保」。

図番号 P L番号	種別 器種	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第69図130 P L-28	磁器 碗	口縁部1/3 欠損	①4.7 ②8.0 ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無軸。外部外面に青の上絵具で「酒保」。文字の配置は表裏の関係。
第69図131	磁器 碗	口縁部小片	①— ②(7.6) ③—	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。外部外面に青の上絵具で「酒(保)」。
第69図132 P L-28	磁器 碗	2/3	①4.5 ②8.0 ③3.9	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無軸。外部外面に青の上絵具で「酒保」か。
第69図133 P L-28	磁器 碗	口縁1/3 底部2/3	①4.4 ②(8.0) ③3.8	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無軸。外部外面に青の上絵具で「酒(保)」。
第69図134	磁器 小碗	口縁1/4 底部2/3	①4.4 ②(7.8) ③3.8	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無軸。下部下位外面2条の染付界線。口縁部吹き墨。底部二次的加熱。高台一部に溶けたガラス付着。
第69図135 P L-28	磁器 小碗	2/3	①4.3 ②7.8 ③3.7	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無軸。下部下位外面2条の染付界線。口縁部吹き墨。
第69図136 P L-28	磁器 小碗	完形	①4.5 ②8.2 ③3.9	①不明 ②良好 ③不明	制作地不詳。外面手掻きの菱型植物文を3方に染付する。高台内不明跡。透明釉青みがかる。
第69図137 P L-28	磁器 小碗	1/2	①4.5 ②(7.8) ③3.6	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無軸。外面赤絵具で夕日？、緑と黄色で植物、高台外面黒絵具で線付け。体部に金で不明跡。
第69図138 P L-28	硬質陶器 湯飲み	1/3	①— ②— ③3.8	①緻密 ②良好 ③乳白色	制作地不詳。吊り焼き。高台端部まで施軸。透明釉に細かい貫入。高台内に銅版転写？による方形状内に篆書風「硬陶」銘。
第69図139	硬質陶器 湯飲み	1/4	①— ②(6.0) ③—	①緻密 ②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に細かい貫入。外部外面銅版転写？による「☆」マーク染付。
第69図140 P L-28	硬質陶器 湯飲み	1/6	①— ②(6.0) ③—	①緻密 ②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に細かい貫入。外部外面銅版転写？による「☆」マーク染付。
第69図141 P L-28	硬質陶器 湯飲み	1/2	①6.7 ②6.2 ③3.8	①緻密 ②良好 ③乳白色	制作地不詳。高台端部まで施軸。吊り焼き。高台端部にピン痕一カ所残る。透明釉に細かい貫入。高台内に銅版転写？による方形状内に篆書風「硬陶」銘、外部外面に「☆」マーク。☆マークは漆でやや不鮮明。
第69図142 P L-28	硬質陶器 湯飲み	口縁1/2 底部完	①6.4 ②6.0 ③3.8	①緻密 ②非常に良い ③白色	制作地不詳。透明釉に貫入なく、小片であれば磁器との区別が付きにくい。高台端部まで透明釉施軸。吊り焼き。高台端部にピン痕三カ所残る。無文。
第69図143	硬質陶器 湯飲み	1/5	①— ②(6.0) ③—	①緻密 ②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に細かい貫入。現存部無文。外面半分ほど二次的焼色により軸が溶立つ。
第69図144	硬質陶器 湯飲み	1/3	①— ②(6.0) ③—	①緻密 ②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に細かい貫入。現存部無文。
第69図145	硬質陶器 湯飲み	1/3	①— ②(6.2) ③—	①緻密 ②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に細かい貫入。現存部無文。
第69図146 P L-28	硬質陶器 湯飲み	口縁1/3 底部完	①6.8 ②(6.0) ③3.7	①緻密 ②良好 ③乳白色	日本硬質陶器株式会社製。透明釉に細かい貫入。高台端部まで施軸。吊り焼き。高台端部にピン痕二カ所残る。高台端部一部欠損。高台内薄緑のN Y組み合わせマーク上に右から「硬質陶器」印。
第69図147	硬質陶器 湯飲み	体部一部 底部完	①— ②— ③3.8	①緻密 ②良好 ③乳白色	日本硬質陶器株式会社製。透明釉に細かい貫入。高台端部まで施軸。吊り焼き。高台端部にピン痕三カ所残る。高台内薄緑のN Y組み合わせマーク上に右から「硬質陶器」印。体部に「☆」マーク染付一部残る。
第69図148	磁器 湯飲み	1/3	①— ②(6.4) ③—	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。口縁部から外面金色上絵具による太い帯線。
第69図149 P L-28	磁器 湯飲み	1/3	①— ②(6.2) ③—	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。残存部外面、青色上絵具で「下土」の文字。「下土集会所」か。
第69図150 P L-28	磁器 湯飲み	1/3	①— ②(6.4) ③—	①ガラス質 ②やや良好 ③灰白色	瀬戸・美濃。外。黒・金・赤の上絵具で植物文。黒の上絵具で「萩原」の名字。
第69図151 P L-28	磁器 湯飲み	口縁部一部 底部1/2	①7.2 ②6.8 ③4.0	①ガラス質 ②やや良好 ③僅かに灰白色	瀬戸・美濃。外面青の上絵具で「?村」の名字。高台端部外面輪境に小さい殺蓋。
第70図152 P L-28	磁器 湯飲み	口縁部一部 底部完	①7.2 ②6.6 ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。外面上絵具で「西澤」の名字。上絵具すべて剥落し、色は不明。高台端部外面輪境に小さい殺蓋。
第70図153 P L-28	磁器 湯飲み	1/2	①7.0 ②(6.2) ③(3.8)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。文様はすべて金色の上絵。口縁部外面3条。高台端部1条の帯線。体部に☆マーク。高台端部外面輪境に小さい殺蓋。
第70図154	磁器 湯飲み	下半	①— ②— ③4.0	①ガラス質 ②やや良好 ③灰白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。残存部に文様ない。器壁僅かに灰色味を帯びる。高台端部外面輪境に小さい殺蓋。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種 別 器 種	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第70図155	磁器 湯飲み	下半	①— ②— ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。残存部無文。高台端部外面輪境に小さい 段差。
第70図156	磁器 湯飲み	1/3	①7.0 ②(6.4) ③(4.0)	①ガラス質 ②やや良好 ③灰白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。器壁僅かに灰白色を帯びる。残存部無文。 二次焙焼。
第70図157	磁器 湯飲み	口縁部一部 底部1/3	①6.9 ②(6.4) ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。残存部無文。高台端部外面輪境に小さい 段差。
第70図158	磁器 湯飲み	口縁部1/2 底部完	①7.0 ②6.4 ③4.4	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。残存部無文。高台端部外面輪境に小さい 段差。
第70図159	磁器 P.L.—28 湯飲み	完形	①7.1 ②6.3 ③3.8	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。残存部無文。高台端部外面輪境に小さい 段差。
第70図160	磁器 P.L.—28 湯飲み	1/6	①— ②(3.1) ③—	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。外面〇内に「善」の上絵。〇の輪郭は朱色、〇輪郭 内と文字は茶色味を帯びた赤で描く。
第70図161	磁器 湯飲み	1/8	①7.4 ②(6.3) ③(3.2)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃か。外面黄緑で植物を黒の吹き墨で月?を下絵付け。 外面の一部と高台外面の上絵具。
第70図162	磁器 湯飲み	完形	①6.8 ②(6.2) ③3.9	①— ②良好 ③白色	新作地不詳。外面一方に桃の下絵。輪郭は黒須、葉は緑色。実の 中央はピンクの吹き墨。
第70図163	磁器 湯飲み	口縁1/4 底部1/2	①6.1 ②(5.5) ③(3.6)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。外面赤と黄緑の上絵具で植物。
第70図164	磁器 湯飲み	口縁一部 底部1/2	①7.7 ②(6.7) ③(4.2)	①ややガラス質 ②良好③白色	九谷? 体部下端茶色の下絵。体部に黄緑で朝顔の葉と葉を、ピン クと青の上絵具で花を描く。輪郭は黒絵具。高台外面赤の上絵具 で圍繞。高台内赤の上絵具で不明跡。
第70図165	磁器 P.L.—28 湯飲み	口縁部一部 底部2/3	①8.1 ②(6.6) ③4.6	①ガラス質 ②良好③白色	九谷。口縁部外面と高台端・高台外面、松の幹は茶色の下絵付け。 松葉や茶色下絵部の文様は金上絵。松葉は黄緑、樹は白と黒、幹 は赤の上絵付け。高台内赤上絵で椀内に「九谷」記。
第70図166	磁器 湯飲み	1/6	①— ②(6.6) ③—	①ガラス質 ②やや良好 ③灰白色	瀬戸・美濃。口縁部外面緑色絵具下絵で2葉の圍繞。国民食器か。
第70図167	陶器? 湯飲み	1/2	①6.4 ②(6.0) ③(3.2)	①緻密 ②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に貫入。色調は硬質陶器に似る。高台端部無 釉。外面黒の下絵具で草花を描き、花の中央は緑色絵具を盛り上 げる。
第70図168	陶器 P.L.—28 湯飲み	口縁1/3 底部2/3	①6.7 ②(6.4) ③4.2	①黒色粒 ②良好 ③青灰色	相馬。内面から口縁部外面入り貫入の灰粒。口縁部外面下部金 上絵具で波状文。体部外面から高台外面鉄澱。高台内小判形の「相 馬」押印。
第70図169	陶器 P.L.—28 湯飲み	1/2	①6.0 ②(6.2) ③(3.6)	①緻密 ②良好 ③淡黄色	制作地不詳。透明釉に非常に細かに貫入。赤と緑の上絵具で花卉 文。高台端部無釉。
第70図170	磁器 P.L.—28 飯碗	口縁1/3欠 損	①6.7 ②(11.2) ③4.2	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図171	磁器 飯碗	1/4	①— ②— ③(4.0)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図172	磁器 飯碗	口縁部1/4 底部完	①6.8 ②(11.0) ③4.7	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図173	磁器 飯碗	底部1/2	①— ②— ③4.6	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図174	磁器 P.L.—28 飯碗	口縁部欠 損	①6.6 ②(11.0) ③4.5	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図175	磁器 P.L.—28 飯碗	口縁部1/4 欠損	①6.2 ②(11.3) ③4.5	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図176	磁器 飯碗	1/4	①— ②— ③4.5	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図177	磁器 飯碗	底部完	①— ②— ③4.6	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図178	磁器 飯碗	(ほぼ)完形	①5.6 ②(11.2) ③4.4	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図179	磁器 飯碗	1/3	①5.6 ②(11.4) ③4.5	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図180	磁器 P.L.—29 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.7 ②(11.2) ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。

図番号 P.L.番号	種別 器種	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第70図181 P.L.-29	磁器 飯碗	口縁部一部 欠損	①5.7 ②11.3 ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図182 P.L.-29	磁器 飯碗	口縁部1/2 欠損	①5.5 ②11.5 ③3.9	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図183 P.L.-29	磁器 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.9 ②10.8 ③4.4	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図184 P.L.-29	磁器 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.4 ②10.8 ③4.4	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図185 P.L.-29	磁器 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.4 ②11.4 ③4.5	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図186 P.L.-29	磁器 飯碗	口縁部一部 欠損	①5.6 ②11.4 ③4.3	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図187	磁器 飯碗	口縁部1/2 欠損	①5.6 ②11.5 ③3.7	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図188	磁器 飯碗	口縁部1/8 底部1/2	①4.6 ②10.4 ③4.4	①— ②やや焼成不良 ③灰白色	制作地不詳。平盤。高台端部を除き茶色釉。外面白色絵具と金絵具の上絵残る。底部器壁非常に薄い。
第70図189 P.L.-29	磁器 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.9 ②11.8 ③4.6	①— ②良好 ③灰白色	制作地不詳。丸碗。高台端部を除き茶色釉。
第71図190	磁器 飯碗	1/4	①5.3 ②11.0 ③4.0	①— ②やや不 良③灰白色	制作地不詳。丸みの少ない丸碗。高台端部手描き。主文様は銅板転写による発付。輪索やや白濁する。器衣も灰白色。
第71図191	磁器 飯碗	口縁部一部 底部1/2	①5.6 ②11.0 ③3.6	①— ②やや良 好③灰白色	瀬戸・美濃か。平盤。外面手描きによる発付。
第71図192 P.L.-29	磁器 鉢	口縁部1/2 欠損	①5.8 ②12.4 ③4.4	①— ②良好 ③白色	製作地不詳。大振りの型紙押し丸鉢。
第71図193	磁器 鉢	1/4	①— ②14.6 ③—	①— ②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目から外面にかけて鳥が飛翔する姿を銅板転写により施す。
第71図194 P.L.-29	磁器 鉢	1/2	①5.4 ②14.5 ③6.0	①— ②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目から外面にかけて鳥が飛翔する姿を銅板転写により施す。
第71図195 P.L.-29	磁器 鉢	1/4	①5.5 ②16.2 ③8.4	①— ②やや不 良③灰白色	製作地不詳。体部下位と下側の器壁を除きすべて上絵。蛇の目凹型高台。
第71図196 P.L.-29	磁器 鉢	口縁部1/3 底部完	①5.4 ②15.0 ③6.0	①— ②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目と外面に鳳凰を銅板転写により描く。
第71図197	磁器 鉢	1/3	①5.4 ②15.0 ③6.4	①— ②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目と外面に鳳凰を銅板転写により描く。
第71図198	磁器 鉢	1/4	①— ②15.0 ③—	①— ②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目と外面に鳳凰を銅板転写により描く。
第71図199 P.L.-29	磁器 鉢	口縁部1/3 底部1/2	①5.0 ②15.6 ③6.0	①— ②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目と外面に龍を銅板転写により描く。
第71図200 P.L.-29	磁器 鉢	口縁部2/3 底部完	①4.1 ②15.0 ③&1	①— ②良好 ③白色	肥前か。型紙押し。蛇の目凹型高台。
第72図201 P.L.-32	磁器 鉢	口縁部1/2 底部完	①17.2 ②5.4 ③&8	①— ②良好 ③白色	肥前か。型紙押し。蛇の目凹型高台。
第72図202 P.L.-32	磁器 鉢	口縁部1/4 底部完	①— ②— ③—	①— ②良好 ③白色	肥前か。型紙押し。蛇の目凹型高台。
第72図203	磁器 壺形 壺	口縁から体 部上半	①— ②3.1 ③—	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部に「土」の上絵痕。色は残らない。類品から青色か。
第72図204 P.L.-32	磁器 壺形 壺	底部	①— ②— ③&6.4	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内に「幹山精製」銘。
第72図205 P.L.-32	磁器 壺形 壺	口縁部欠損	①— ②— ③&5.6	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部に「伊(兵)第十(五)聯隊酒保」の上絵痕。「酒」に青色上絵具残る。高台内「幹山精製」銘。
第72図206 P.L.-32	磁器 壺形 壺	口縁部底部 1/2欠損	①18.3 ②3.3 ③&6.2	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部に「瀬土宮下土集會所」の上絵痕。一部に青色上絵具残る。高台内「幹山精製」銘。
第72図207	磁器 壺形 壺	2/3	①6.5 ②6.7 ③&6.4	①緻密 ②良好 ③—	制作地不詳。底部外面と周縁、内面を除き鉄釉。体部に取っ手跡り付け痕一部残る。接合しないが、同一個体で受け部あり。
第72図208	陶器 壺形 壺	蓋なし 取 っ手欠損	①&4 ②&6.5 ③&6.6	①緻密 ②良好 ③—	制作地不詳。万古風焼陶器。底部外面周縁赤灰。注ぎ口端部欠損。口縁端部薄く施釉し、光沢を有する。210と同形・同大。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 器種	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第728209 P.L.-32	陶器 急須	取っ手・つ まみ欠損	①5.2 ②5.7 ③4.4 ④0.9 ⑤口底5.1	①縞密 ②良好 ③一	制作地不詳。万古風焼締陶器。底部外面布痕。小型。注ぎ口端部欠損。口縁端部薄く施軸。
第728210 P.L.-32	陶器 急須	ほぼ完形	①7.0 ②6.3 ③6.1 ④2.3 ⑤口底5.9	①縞密 ②良好 ③一	制作地不詳。万古風焼締陶器。底部外面布痕。取っ手上面に桜花の透かし。注ぎ口・取っ手・口縁端部とつまみ上部に金彩。体部に青の上絵具で「見習士官用」夏天下井部外面に青の上絵具で「歩、十五」
第728211 P.L.-32	陶器 急須	蓋なし 身完形	①6.8 ②6.3	①縞密 ②良好 ③一	制作地不詳。万古風焼締陶器。底部外面周縁布痕。取っ手上面桜花透かし。注ぎ口・口縁・取っ手端部薄く施軸し、光沢を有する。210と同形・同大。
第728212	磁器 土瓶	口縁部1/2 体部一部	①一 ②(7.3) ③一	①一 ②良好 ③白色	制作地不詳。受け部と受け部下位無軸。外面界線内に幅広い縦線。下位には界線2条。弦受け1個残存。
第728213	磁器 土瓶	1/3	①8.2 ②7.8 ③8.0	①一 ②良好 ③白色	制作地不詳。受け部と体部下位以下を除き透明軸。体部外面簡略化した花卉文を染付する。整受け部欠損。
第728214	磁器 土瓶蓋	完形	①2.3 ②一 ③口底7.0	①一 ②やや良 好③灰白色	制作地不詳。白磁。口縁端部下面無軸。第728215の蓋か。
第730215	磁器 土瓶	小片	①一 ②一 ③(8.0)	①一 ②やや良好 ③灰白色	制作地不詳。外面高台輪以下を除き透明軸。体部外面に青の上絵具で描いた文字の一部残存。同一個体と思われる体部片に「土」青色上絵あり。
第730216 P.L.-32	陶器 皿	1/2	①1.4 ②(8.1) ③(5.2)	①一 ②良好 ③一	取っ手か。型押しで花卉状に彫作る。五弁であろう。貫入のある環状輪全面施軸。底部外面に目取二カ所残。底部外面に刻印なし。
第730217	土器 かわらけ	1/5	①2.5 ②(10.3) ③一	①尖錐物含まず ②良好 ③一	打ち型成形。体部外面下平な面残存。見込み「節?…」の浮き文字。
第730218 P.L.-32	陶器 箸立	1/4	①10.3 ②6.5 ③(6.6)	①縞密 ②良好 ③一	高台端部を除き透明軸。軸に貫入。体部外面に緑で植物、白土でギザギザするように描く。水面は呉須、サギの足と嘴、翼の輪郭は鉄絵具で描く。絵付けはすべて下絵。京・信楽系か。
第730219	磁器 段重?	1/4	①4.7 ②(9.0) ③(6.6)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部外面に中位に四輪。残存部無文。接合しないが口縁部が残存する同一個体の口縁端部と内面の輪を割。鉢・段重の身。
第730220 P.L.-33	陶器 甕	口縁部1/2 底部完	①13.7 ②(10.0) ③9.2	①一 ②良好 ③一	蓋子・笠間。口縁端部上面から内面無軸。高台内から口縁部白化粧後透明軸。口縁部から鉄軸と青緑軸流す。高台脇以下無軸。内面鉄軸薄く施軸。
第730221	陶器 甕	口縁部一部 底部完	①13.7 ②(10.3) ③9.7	①一 ②良好 ③一	蓋子・笠間。口縁端部上面から内面無軸。高台内から口縁部白化粧後透明軸。口縁部から鉄軸と青緑軸流す。高台脇以下無軸。内面鉄軸薄く施軸。
第730222	陶器 甕	口縁部1/2 体部一部	①一 ②(12.8) ③一	①一 ②良好 ③一	蓋子・笠間。口縁端部上面から内面無軸。外面白化粧後透明軸。口縁部から鉄軸と青緑軸流す。内面鉄軸薄く施軸。
第730223 P.L.-33	陶器 甕	口縁部1/5 底部完	①13.5 ②(10.8) ③9.0	①一 ②良好 ③一	蓋子・笠間。口縁端部上面から内面無軸。高台内から口縁部白化粧後透明軸。口縁部から鉄軸と青緑軸流す。高台脇以下無軸。内面鉄軸薄く施軸。
第730224	磁器 大鉢	1/5	①一 ②一 ③(17.7)	①縞密 ②良好 ③白色	体部外面透明軸。体部外面型紙による染付。
第730225	陶器 大鉢	1/2	①一 ②一 ③(18.0)	①白・黒軸物 ②やや不良 ③一	体部外面白化粧後透明軸。手描きによる染付。底部内外面産道具痕。軸に粗い貫入。
第730226 P.L.-33	陶器 大鉢	口縁部1/2 底部完	①19.1 ②(18.0) ③18.4	①白・黒軸物 ②やや不良 ③一	口縁部内面から体部外面白化粧後透明軸。軸に粗い貫入。口縁外面型紙。他は手描きによる染付。
第730227	磁器 大鉢	1/4	①一 ②(19.0) ③一	①縞密 ②良好 ③白色	口縁部内面から体部外面透明軸。外面銅板転写染付。
第740228	陶器 不詳	底部	①一 ②一 ③(3.2)	①縞砂 ②良好 ③灰白色	相馬。内面漸入り貫入の灰軸。外面1/2薄い灰軸。底部外面種円形の「相馬」押印。
第740229 口絵3	青磁 鉢?	体部小片 鉢?	①一 ②一 ③一	①ややガラス質 ②一 ③白色	幕末三田青磁鉢の小片。青磁鉢は2層で厚く厚ける。製造り。
第740230 P.L.-32	タロム青磁 蓋	完形	①1.3 ②6.0	①一 ②良好 ③一	天井部・口縁部外面タロム青磁軸。天井部内面透明軸。口縁端部と内面無軸。無軸部に朱肉付着。
第740231 P.L.-32	磁器 木満	天井部と側 面	①2.2 縦4.4 横一	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。銅板転写。文様左側に当たる側面無軸。内面天井部と側面は型に押しつけた際の指痕顯著。

図番号 P.L.番号	種別 器種	残存状態	①径高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第74図232 P.L.-32	磁器 水筒	ほぼ定形	①24 縦4.4 厚2.8	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。銅板転写。文様の下部に当たる側面無縁。下部はL字状の低い脚を付ける。内面天井部と側面は型に押しつけた際の指痕顯著。
第74図233 P.L.-32	軟質陶軸肉 手付き焙烙	定形	①4.0 ②13.2 ③-	①夾雑物含まず ②良好 ③-	口縁部内面以下と取っ手接合部に透明釉。本体は機軸成形。外面回転彫削り。
第74図234 P.L.-32	土器 人形	頭部欠損	①- 幅3.7 ③4.0	①赤色粒 ②良好 ③鈍橙	表裏の型造りで中央で貼り合わせ。下部に破裂を防ぐ小円孔。下部を除き黒変。
第74図235 P.L.-32	土器 桃塩壺	底部	①- ②- ③4.0	①金色鉱物 ②良好 ③橙	左回転機軸成形。底部厚い。胎土・器形ともに在地土器とは異なる。器形と成形直から焼塩壺とした。
第74図236	土器 焙烙	3/4	①6.0 ②34.2 ③-	①赤色粒 ②良好 ③-	型作り。口縁部横張。口縁部内面横位磨き。底部内面一方の磨き。器表黒色。底部外面は周縁を除き酸化灰で色が戻る。大きい耳を口縁端部に貼り付ける。耳は相対する位置二カ所残存する。口縁端部丸みを帯びる。
第74図237	陶器 すり鉢	口縁部1/2 底部2/3	①19.1 ②45.4 ③22.1	①黒色粒 ②良好 ③-	鉢子・空筒。口縁部内面から体部外面轉軸。口縁部は三段に作る。口縁端部丸みを帯びる。
第74図238	瓦 軒瓦	巴部分	①- ②- ③厚2.9	①黒色鉱物 ②不良 ③-	横し瓦だが横し不十分。裏面接合部カキヤブリ痕。高崎城の瓦か。
第74図239	瓦 軒丸瓦	瓦当部	①- ②- 厚2.2	①白色鉱物 ②やや不良 ③-	焼き磨りない。器表黒灰色。器表下3.0-5.0mm灰白色、中央付近黒色。高崎城の瓦であらう。
第74図240	瓦 棧瓦	2/3	①- ②- 厚1.8	①開隙あり ②良好 ③-	横し瓦。大きさはJIS規格60形に近い。足摺棧瓦。
第74図241	瓦 棧瓦	1/4	①- ②- 厚1.9	①開隙あり ②やや不良 ③-	器表3.0mm程は酸化灰気味。胎土は還元灰で青灰色。高崎城の瓦か。
第74図242	瓦 一文字軒瓦	1/6	①- ②- 厚1.7	①開隙あり ②良好 ③-	横し瓦。軒先部右上に押印。
第75図243	瓦 軒瓦	1/4	①- ②- 厚1.9	①開隙あり ②良好 ③-	横し瓦。胎土青灰色。
第75図244	煉瓦 赤煉瓦	定形	①- ②- 厚6.2	①- ②不良 ③-	焼き磨みがあり、いわゆる「焼き過ぎ」煉瓦である。幅は僅かにJIS規格外、長さは片面が規格外でもう一方は規格内、厚さは規格内である。両平面に切り難し後。
第75図245	煉瓦 赤煉瓦	2/3	①- ②- 厚6.4	①- ②良好 ③-	焼き磨りない。長さ22.0cm以上で幅、厚と共にJIS規格より大きい。規格制定以前の赤煉瓦。
第75図246 P.L.-33	石製品 硯	海側壁欠損	縦12.1 横6.0 厚1.8	①- ②- ③-	陰部の摩滅少ない。
第75図247 P.L.-33	石製品 硯	海側壁一部 欠損	縦12.3 横6.3 厚1.9	①- ②- ③-	陰部の摩滅少ない。
第75図248 P.L.-33	石製品 硯	側壁一部欠 損	縦12.3 横6.2 厚1.9	①- ②- ③-	陰部の摩滅少ない。
第75図249	石製品 硯	側壁2/3欠 損	縦9.2 横6.2 厚0.8	①- ②- ③-	厚さ7.5mmと薄い小型硯。陰部の摩滅少ない。

表5 1号堀上層出土銅類観察表

図番号 P.L.番号	種別 器種	残存状態	①直径 ②厚さ (mm)	特 徴
第75図250	銅・合金 釦(大)	定形	①23.26-23.18 ②2.7	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図251	銅・合金 釦(大)	定形	①23.71-23.66 ②3.6	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。糸留め部に糸残存。
第75図252	銅・合金 釦(大)	裏板欠損	①23.95-23.65 ②3.3	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。糸留め部は裏板に接合。
第75図253	銅・合金 釦(大)	定形	①23.20-22.28 ②3.2	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図254 P.L.-33	銅・合金 釦(大)	定形	①23.81-22.75 ②3.6	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図255	銅・合金 釦(大)	定形	①23.81-22.99 ②3.6	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 器種	残存状態	①直径 ②厚さ (mm)	特 徴
第75図256	銅・合金 鈕 (大)	完形	①24.10-24.08 ②3.8	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図257	銅・合金 鈕 (大)	完形	①22.70-22.80 ②4.4	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図258	銅・合金 鈕 (大)	完形	①24.16-24.01 ②4.4	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図259	銅・合金 鈕 (大)	完形	①23.92-22.89 ②3.5	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図260	銅・合金 鈕 (中)	完形	①17.01-17.05 ②2.0	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図261	銅・合金 鈕 (中)	完形	①16.52-16.39 ②2.4	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図262	銅・合金 鈕 (中)	裏板欠損	①16.00-16.77 ②1.5	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。糸留め部表板に貼り付ける。
第75図263 P.L.-33	銅・合金 鈕 (中)	完形	①16.53-16.45 ②2.1	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図264	銅・合金 鈕 (中)	完形	①16.66-16.76 ②1.8	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図265 P.L.-33	銅・合金 鈕 (中)	完形	①17.01-16.97 ②2.0	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図266	銅・合金 鈕 (中)	完形	①16.49-16.70 ②1.7	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図267	銅・合金 鈕 (中)	完形	①16.86-16.96 ②2.2	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図268 P.L.-33	銅・合金 鈕 (小)	糸留め部欠損	①11.93-12.01 ②0.5	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」。メッキは不明。
第75図269 P.L.-33	銅・合金 鈕 (小)	裏板	①11.79-11.63 ②0.3	薄い銅板を合わせて作る「合わせ鈕」の裏板か。メッキは不明。
図番号 P.L.番号	種別 器種	残存状態	①直径 ②厚さ (mm) ③重さ (g)	特 徴
第75図270 P.L.-33	骨製品 鈕	完形	①13.89-13.84 ②0.89 ③0.7	5穴。側面算盤玉形。表面穴のみ窪む。
第75図271 P.L.-33	骨製品 鈕	完形	①14.99-14.97 ②0.42 ③0.8	5穴。側面算盤玉形。表面穴のみ窪む。
第75図272	骨製品 鈕	完形	①12.99-12.81 ②0.88 ③0.5	5穴。側面算盤玉形。表面穴のみ窪む。
第75図273 P.L.-33	骨製品 鈕	完形	①15.89-15.66 ②0.44 ③0.8	5穴。側面池台形。表面穴のみ窪む。側面に接合痕。5穴の板とドーナツ状板の貼り合わせか。
第75図274	骨製品 鈕	一部欠損	①15.83-15.60 ②0.89 ③1.1	5穴。側面池台形。表面穴のみ窪む。側面に接合痕。5穴の板とドーナツ状板の貼り合わせか。ドーナツ状部分一部割れる。
第75図275 P.L.-33	骨製品 鈕	完形	①15.76-15.75 ②0.53 ③1.0	4穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0mmの土手状を成す。
第75図276 P.L.-33	骨製品 鈕	完形	①16.13-16.05 ②0.62 ③1.1	4穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0mmの土手状を成す。
第75図277	骨製品 鈕	完形	①16.28-16.00 ②2.70 ③0.6	4穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0mmの土手状を成す。
第75図278	骨製品 鈕	完形	①15.89-15.85 ②0.45 ③0.8	4穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0mmの土手状を成す。
第75図279	骨製品 鈕	完形	①15.86-15.77 ②0.65 ③0.9	4穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0mmの土手状を成す。
第75図280	骨製品 鈕	完形	①15.77-15.70 ②0.53 ③0.8	4穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0mmの土手状を成す。
第75図281	骨製品 鈕	完形	①15.96-15.96 ②0.34 ③0.7	4穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0mmの土手状を成す。
第75図282	骨製品 鈕	完形	①16.07-16.05 ②0.71 ③0.9	4穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0mmの土手状を成す。
第75図283 P.L.-33	骨製品 鈕	完形	①18.52-18.50 ②4.08 ③1.2	275と同形であるが、やや大きい。4穴。中心に小さい窪み。周縁は幅3.0mmの土手状を成す。

図番号 P.L.番号	種別 器種	残存状態	①直径 ②厚さ (mm) ③重さ (g)	特 徴	
第75図284 P.L.-33	骨製品 鈿	完形	①16.22~16.20 ②3.88 ③1.2	4穴。穴の位置偏る。中心に小さい窪み。穴部は平坦で周縁に小溝を巡らし、周縁は幅広く土手状を成す。	
第75図285	骨製品 鈿	完形	①16.16~16.14 ②4.20 ③1.2	4穴。中心に小さい窪み。穴部は平坦で周縁に小溝を巡らし、周縁は幅広く土手状を成す。	
第75図286	骨製品 鈿	完形	①16.83~16.81 ②4.01 ③1.1	4穴。中心に小さい窪み。穴部は平坦で周縁に小溝を巡らし、周縁は幅広く土手状を成す。	
第75図287	骨製品 鈿	完形	①16.75~16.74 ②3.36 ③1.0	4穴。中心に小さい窪み。穴部は平坦で周縁に小溝を巡らし、周縁は幅広く土手状を成す。	
第75図288	骨製品 鈿	完形	①16.24~16.16 ②4.67 ③1.2	4穴。中心に小さい窪み。穴部は平坦で周縁に小溝を巡らし、周縁は幅広く土手状を成す。	
第75図289	骨製品 鈿	一部欠損	①15.96~15.92 ②3.48 ③0.8	4穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0mmの土手状を成す。	
図番号 P.L.番号	種別 器種	残存状態	①直径 ②厚さ (mm) ③重さ(g)	色 調	特 徴
第75図290 P.L.-33	ガラス製品 鈿	完形	①10.96~10.83 ②3.05 ③0.5	純白。	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約2.0mm。
第75図291 P.L.-33	ガラス製品 鈿	完形	①10.86~10.42 ②2.75 ③0.4	灰色味帯びる白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8mm。
第75図292 P.L.-33	ガラス製品 鈿	完形	①11.49~11.47 ②2.97 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4mm。
第75図293	ガラス製品 鈿	完形	①11.37~11.31 ②2.98 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4mm。
第75図294	ガラス製品 鈿	完形	①11.38~11.34 ②2.81 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4mm。
第75図295	ガラス製品 鈿	完形	①11.70~11.69 ②2.99 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4mm。
第75図296	ガラス製品 鈿	完形	①11.60~11.49 ②3.01 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2mm。
第75図297	ガラス製品 鈿	完形	①11.70~11.63 ②3.01 ③0.5	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4mm。
第75図298	ガラス製品 鈿	完形	①11.22~11.11 ②2.75 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4mm。
第75図299	ガラス製品 鈿	完形	①11.57~11.49 ②3.12 ③0.5	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4mm。
第75図300	ガラス製品 鈿	完形	①11.47~11.43 ②3.17 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2mm。
第75図301	ガラス製品 鈿	完形	①10.58~10.59 ②2.84 ③0.4	灰色味帯びる白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0mm。
第75図302	ガラス製品 鈿	完形	①10.82~10.92 ②2.73 ③0.4	灰色味帯びる白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0mm。
第75図303	ガラス製品 鈿	完形	①10.63~10.58 ②2.76 ③0.3	灰色味帯びる白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0mm。
第75図304	ガラス製品 鈿	完形	①10.60~10.45 ②2.79 ③0.3	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2mm。
第75図305	ガラス製品 鈿	完形	①10.51~10.46 ②2.61 ③0.3	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0mm。
第75図306	ガラス製品 鈿	完形	①10.57~10.56 ②2.72 ③0.3	灰色味帯びる白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8mm。
第75図307	ガラス製品 鈿	完形	①10.69~10.67 ②2.71 ③0.3	灰色味帯びる白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0mm。
第75図308	ガラス製品 鈿	完形	①10.96~10.85 ②2.49 ③0.3	灰色味帯びる白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8mm。
第75図309	ガラス製品 鈿	完形	①10.75~10.73 ②2.81 ③0.4	灰色味帯びる白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0mm。
第75図310	ガラス製品 鈿	完形	①10.94~10.93 ②2.67 ③0.4	灰色味帯びる白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2mm。
第75図311	ガラス製品 鈿	完形	①10.37~10.33 ②2.95 ③0.3	光沢のある白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8mm。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種類 器種	残存状態	①口径 ②厚さ (mm) ③重さ(g)	色 調	特 徴
第76図312	ガラス製品 鉤	完形	①10.78~10.71 ②2.76 ③0.4	灰色味帯びる白 色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2mm。
第76図313	ガラス製品 鉤	完形	①10.68~10.65 ②2.70 ③0.3	灰色味帯びる白 色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8mm。
第76図314	ガラス製品 鉤	完形	①10.44~10.40 ②2.72 ③0.3	灰色味帯びる白 色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8mm。
第76図315	ガラス製品 鉤	完形	①11.67~11.66 ②2.95 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0mm。
第76図316	ガラス製品 鉤	完形	①10.92~10.89 ②3.05 ③0.4	純白。	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4mm。
第76図317	ガラス製品 鉤	完形	①11.11~10.98 ②2.96 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0mm。
第76図318	ガラス製品 鉤	完形	①11.04~11.01 ②2.97 ③0.4	灰色味帯びる白 色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8mm。
第76図319	ガラス製品 鉤	完形	①10.72~10.70 ②2.99 ③0.4	純白。	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4mm。
第76図320	ガラス製品 鉤	完形	①11.29~11.26 ②3.13 ③0.4	灰色味帯びる白 色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2mm。
第76図321	ガラス製品 鉤	完形	①10.87~10.86 ②3.12 ③0.5	純白。	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.8mm。
第76図322	ガラス製品 鉤	完形	①10.72~10.70 ②3.06 ③0.4	純白。	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.6mm。
第76図323	ガラス製品 鉤	完形	①11.42~11.38 ②2.89 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2mm。
第76図324	ガラス製品 鉤	完形	①11.52~11.52 ②3.01 ③0.4	白色	4穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4mm。

表6 1号期上層出土金属製品類等観察表

図番号 P.L.番号	種類 器種	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	特 徴
第76図325 P.L.-33	銅・合金 鍍金 細線	1/2	①- ②- ③-	帯用連隊番号「1」の上部片。
第76図326 P.L.-33	銅・合金 鍍金 細線	2/3	①- ②- ③-	帯用連隊番号「5」の下部片。
第76図327 P.L.-33	銅・合金 鍍金	ほぼ完形	①- ②- ③-	帯もしくは肩釧の陸軍星マーク。裏面留め具は開いた状態。
第76図328 P.L.-33	銅・合金 鍍金	一部欠損	①- ②- ③-	帯もしくは肩釧の陸軍星マーク。327に比して高さもあり、シャープな星マーク。
第76図329	銅・合金 ライフル弾	被甲	径7.60 径7.55 長32.56 重2.4 (g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せたものと思われる。二次被熱のためか弾芯がなく空洞。
第76図330 P.L.-33	銅・合金 ライフル弾	一部欠損	径7.44 径7.16 長32.46 重10.3 (g)	頭部変形のため測定できないが、円頭と思われる。鉛弾芯に銅の被甲を被せる。頭部付近曲がる。胴部から尾部に旋状状残る。
第76図331 P.L.-33	銅・合金 ライフル弾	完形	径7.35 径7.74 長31.63 重10.1 (g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に不明瞭な旋状状残る。
第76図332 P.L.-33	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.95 径6.89 長32.37 重10.3 (g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状状残る。
第76図333 P.L.-33	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.64 径6.99 長31.76 重2.1 (g)	頭部は尖頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せたものと思われる。二次被熱のためか弾芯がなく空洞。胴部から尾部に旋状状残る。やや変形。
第76図334	銅・合金 ライフル弾	完形	径7.50 径6.26 長31.06 重10.2 (g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状状残る。中央と尾部は叩きつぶされたように変形。胴部僅かに潰れる。
第76図335	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.88 径6.85 長32.46 重10.4 (g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状状残る。
第76図336	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.86 径7.15 長32.56 重2.6 (g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せたものと思われる。二次被熱のためか弾芯がなく空洞。胴部から尾部に旋状状残る。
第76図337	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.67 径7.08 長32.55 重10.2 (g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状状残る。

図番号 P.L.番号	種別 器種	残存状態	①身長 ②口径 ③底径 (cm)	特 徴
第76図338 P.L.-33	銅・合金 ライフル弾	定形	径6.44 径7.07 長32.40 重9.7 (mm) (g)	頭部は凹頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。胴部僅かに潰れる。
第76図339 P.L.-33	銅・合金 ライフル弾	定形	径6.65 径6.71 長31.36 重10.1 (mm) (g)	頭部は凹頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。胴部潰れる。二次被熱のためか、弾芯に空洞が生じる。
第76図340	銅・合金 ライフル弾	定形	径5.25 径7.86 長33.13 重9.5 (mm) (g)	頭部は凹頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。尾部潰れる。
第76図341	銅・合金 ライフル弾	定形	径5.28 径7.58 長1.84 重10.1 (mm) (g)	頭部は凹頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。旋状痕不明瞭。頭部と尾部潰れる。
第76図342	銅・合金 ライフル弾	尾部欠損	径5.96 径7.21 長26.71 重6.0 (mm) (g)	頭部丸い。胴部は叩かれたような凹みや潰れがあり、尾部は破れている。弾芯は湧け出していないが、二次被熱あり。
第76図343	銅・合金 ライフル弾	尾部欠損	径6.72 径7.19 長32.10 重9.3 (mm) (g)	頭部丸い。尾部破れて弾芯見える。尾部は横から潰されたような痕跡あり。
第76図344	銅・合金 ライフル弾	定形	径6.77 径6.97 長31.90 重10.0 (mm) (g)	頭部は凹頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。旋状痕不明瞭。
第76図345	銅・合金 ライフル弾	定形	径7.12 径7.01 長32.22 重10.3 (mm) (g)	頭部は凹頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。
第76図346 P.L.-34	金属製品 蓋容器蓋	定形	①0.4 ②3.1 ③3.0	天井部外面に「登録商標」、方形区画に「龍角敷」の浮き文字。
第76図347	金属製品 蓋容器身	定形	①0.6 ②2.9 ③3.0	土丘等で進むが、円形筒形の容器。金属の種類や大きさ・形状から「龍角敷」容器(346)の身と考えられる。
第76図348 P.L.-34	銅・合金 尾錠	一部欠損	①— ②— ③—	枠が遺壊となり、前先端になった部分(2本)を孔に通すのではなく突き刺すタイプのバックル。
第76図349	銅・合金 不明	定形	①— ②— ③—	断面円形、平面形長方形。ベルト金具であろう。
第76図350 P.L.-34	銅・合金 尾錠	定形	①— ②— ③—	板状のバックル。断面「U」字状に折り返した部分が可動部。
第76図351	銅・合金 財布金具	一部	①— ②— ③—	がま口金具の留め具付近破片。留め具は1個のみの残存だが、二つの金具が合わさっており、閉まった状態での廃棄であろう。銀色のメッキ一部残る。蓋が一部残る。
第76図352	銅・合金 財布金具	一部	①— ②— ③—	がま口金具の留め具付近破片。留め具は閉まった状態。銀色のメッキ一部残る。
第76図353	銅・合金 財布金具	一部	①— ②— ③—	がま口金具の横番から上部にかけての破片。横番に円形小遺壊。銀色のメッキ一部残る。354と同一個体の可能性高い。
第76図354	銅・合金 財布金具	一部	①— ②— ③—	がま口金具の角から上部にかけての破片。銀色のメッキ一部残る。353と同一個体の可能性高い。
第76図355 P.L.-34	磁器/鉄 機械栓	針金部1/2 欠損	①— ②— ③—	蓋は磁器製。閉鎖時外気に触れる部分に透明釉。コルクもしくはゴムのパッキンは残らない。
第76図356 P.L.-34	磁器/鉄 機械栓	一部欠損	①— ②— ③—	蓋は磁器製。閉鎖時外気に触れる部分に透明釉。コルクもしくはゴムのパッキンは残らない。
第76図357	銅・合金 煙管	吸い口	①— ②— ③—	断面円形の吸い口。
第76図358	銅・合金 煙管	吸い口	①— ②— ③—	吸い口付近扁平。刀豆煙管。
第76図359	銅・合金 煙管	吸い口	①— ②— ③—	扁平な胴部から吸い口に至る。刀豆煙管。
第76図360	銅・合金 煙管	吸い口付近	①— ②— ③—	扁平な胴部から吸い口に至る。刀豆煙管。
第76図361	銅・合金 煙管	胴部	①— ②— ③—	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。刀豆煙管。
第76図362	銅・合金 煙管	胴部	①— ②— ③—	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。側面中央接合痕。刀豆煙管。
第76図363	銅・合金 煙管	胴部	①— ②— ③—	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。側面中央接合痕。刀豆煙管。
第76図364 P.L.-34	銅・合金 煙管	胴部	①— ②— ③—	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。刀豆煙管。
第76図365	銅・合金 煙管	胴部	①— ②— ③—	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。側面中央接合痕。刀豆煙管。
第76図366 P.L.-34	銅・合金 煙管	定形	①長13.5 ②— ③—	刀豆煙管。胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 器種	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	特 徴
第76E3367 P.L.-34	銅・合金 煙管	火皿、胴部	①— ②— ③—	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。胴面中央接合部。胴部と比して火皿小さい。刀豆煙管。
第76E3368 P.L.-34	銅・合金 煙管	吸い口欠損	①— ②— ③—	小型刀豆煙管。胴部扁平で頸部との境に僅かな段差。胴部上面の頸部付近を一段高く、厚くする。
第76E3369 P.L.-34	金属製品 歯磨粉缶	1/2	①2.4 ②6.7 ③6.7	蓋を閉じた状態で腐食。蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に製品がある。
第76E3370	金属製品 歯磨粉缶	底部欠損	①2.5 ②6.6 ③6.6	蓋を閉じた状態で腐食。蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に製品がある。
第76E3371	金属製品 歯磨粉缶	底部欠損	①2.5 ②6.8 ③6.5	蓋を閉じた状態で腐食。蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。状態の良い箇所の側面の断面観察から、蓋面は身に被り、1.2cm程の高さと推定される。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に製品がある。
第76E3372	金属製品 歯磨粉缶	蓋部分	①1.0 ②6.8 ③—	蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に製品がある。
第76E3373	金属製品 歯磨粉缶	蓋部分	①— ②6.7 ③—	蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に製品がある。
第76E3374	金属製品 歯磨粉缶	蓋一部と底部欠損	①2.5 ②6.9 ③6.8	蓋を閉じた状態で腐食。蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に製品がある。
第76E3375	金属製品 歯磨粉缶	天井部	①— ②6.8 ③—	蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に製品がある。
第76E3376	皮革製品 革靴紐		①— ②— ③—	革製軍靴の踵部分。裏に金属釘等が打ち込まれている。6枚貼り合わせ。踵外側には鉄板が貼られていた可能性あり。

表7 1号堀出土歯ブラシ等観察表

図番号 P.L.番号	種別 器種	植毛行数 (頭部を上にして左から)	①全長 ②頭部幅 ③把柄幅 ④把柄 総厚 (cm)	刷印状態	特 徴
第77E3377 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.1 ②1.1 ③0.75 ④0.8	CORBELLE 鮮明	頭部先端に4列穿孔。把柄部横断面形は薄錐形。把柄尻孔に緑青付着しないうち、金具は欠損しているであろう。
第77E3378 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.2 ②1.2 ③1.15 ④0.8	CORBELLE やや不明瞭	頭部先端4列穿孔。頭部細い。把柄部僅かに外湾。把柄部横断面形は薄錐形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。
第77E3379 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.1 ②1.2 ③1.4 ④0.9	CORBELLE 上部欠損	頭部先端4列穿孔。頭部と把柄部境は明瞭。把柄部横断面形は薄錐形。把柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具なし、緑青付着せず。
第77E3380 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.25 ②1.15 ③1.3 ④0.8	CORBELLEか ILLE鮮明	頭部先端4列穿孔。頭部細い。把柄部横断面形は薄錐形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。後面、金具端部の当たり痕あり。背面は金具を中心に半径6.0mm範囲に円形磨り痕あり。
第77E3381	骨製品 歯ブラシ	不明	①— ②— ③1.3 ④0.7	CORBELLE 鮮明	把柄部横断面形は薄錐形。把柄尻孔に金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周辺に吊り金具端部当たり痕。背面は表面が荒れており磨り痕不明。
第77E3382	骨製品 歯ブラシ	不明	①— ②— ③1.3 ④0.75	CORBELLE 下部不鮮明	把柄部横断面形は薄錐形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周辺に吊り金具端部当たり痕。背面吊り金具を中心に半径5.0mmの範囲に磨れ痕。
第77E3383	骨製品 歯ブラシ	不明	①— ②— ③1.2 ④0.85	CORBELLE 一部不鮮明	把柄部横断面形は薄錐形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背面吊り金具を中心に半径7.0mmの範囲に磨れ痕。
第77E3384	骨製品 歯ブラシ	不明	①— ②— ③1.3 ④0.8	CORBELLE 鮮明	把柄部横断面形は薄錐形。把柄尻孔に金具なし。腹側尻孔周辺に吊り金具端部当たり痕。背面吊り金具を中心に半径7.0mmの範囲に磨れ痕。
第77E3385 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	不明	①— ②— ③1.2 ④0.8	CORBELLE 下部不鮮明	把柄部横断面形は薄錐形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周辺に吊り金具端部当たり痕。背面吊り金具を中心に半径7.0mmの範囲に磨れ痕。

図番号 P.L.番号	種別 器種	横毛行数 (頭部を上にして 左から)	①全長 ②頭部幅 ③把柄幅 ④把柄 部厚 (cm)	形印状態	特 徴
第77図386 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.1 ②1.3 ③1.3 ④0.85	CORBEILLE BEILL.下半 不鮮明	頭部先端欠損するが、4列穿孔であらう。把柄部横断面は薄錐形。把柄尻孔に吊り金具と周辺の緑青付着なし。腹側尻孔周縁2.0mmに僅かな円形傷跡。頸部内湾するが背側のヒビによる変形であらう。
第77図387 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.2 ②1.2 ③1.3 ④0.8	CORBEILLE LLE.鮮明	頭部先端4列穿孔。把柄部横断面は薄錐形。把柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。
第77図388 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.1 ②1.2 ③1.3 ④0.7	CORBEILLE 鮮明	頭部先端4列穿孔。把柄部横断面は薄錐形。把柄部僅かに外反。把柄尻孔に吊り金具なし、周囲に緑青付着なし。横毛面一部欠損。
第77図389 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.1 ②1.3 ③1.35 ④1.0	CORBEILLE 下部1/3不鮮明	頭部先端4列穿孔。把柄部横断面は薄錐形。頸部くびれる。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径6.0mm円形擦れ痕。
第77図390 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.15 ②1.2 ③1.3 ④0.7	CORBEILLE 鮮明	頭部先端4列穿孔。把柄部横断面は薄錐形。把柄尻孔鋼製針金を通して吊り金具の代用とする。周囲緑青付着。背側尻孔を中心に半径7.0mmの範囲に擦れ痕。この痕跡から、針金は当初吊り金具破損後に付けたものと解される。
第77図391 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	不明	①— ②— ③1.3 ④0.8	CORBEILLE 一部不鮮明	把柄部横断面は薄錐形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周縁に吊り金具端部当たり痕。背側吊り金具を中心に半径9.0mmの範囲に擦れ痕。
第77図392 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.1 ②1.1 ③1.5 ④0.85	Super Fine S欠損、他 は鮮明	頭部先端4列穿孔。把柄部横断面は薄錐形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。吊り金具両端欠損。腹側尻孔周縁2.0mmに円形くぼみ、ドーム状端部の痕跡か。背側は7.0mm程の円形擦れ痕。
第77図393 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①14.9 ②1.2 ③1.35 ④0.8	Super Fine S欠損、他 は鮮明	頭部先端4列穿孔。把柄部横断面は薄錐形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。吊り金具腹側端部はドーム状をなし、背側端部は平坦に仕上げる。背側吊り金具周縁7.0mm程の円形擦れ痕。
第77図394 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	19:20:20:19	①15.0 ②1.1 ③1.25 ④0.9	Super Fine 鮮明	頭部先端4列穿孔。把柄部横断面は薄錐形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周縁に金具端部当たり痕。背側吊り金具を中心に半径8.0mmの範囲に明瞭な擦り痕。
第78図395 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	20:21:21:20	①14.3 ②1.2 ③1.3 ④0.9	CORBEILLE 鮮明	頭部先端4列穿孔。把柄部横断面は薄錐形。把柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具なし、緑青付着せず。
第78図396 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①12.9 ②1.0 ③1.2 ④0.75	SUPERFINEの SU INE判 読可能	頭部先端3列穿孔。把柄部横断面は方形。頸部と把柄部境3面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄部僅かに外反。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径6.0mmほどの範囲に明瞭な擦り痕。
第78図397 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①12.7 ②1.0 ③1.0 ④0.6	SUPERFINE 鮮明	頭部先端3列穿孔。頸部と把柄部境3面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄部横断面は方形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径6.0mmほどの範囲に明瞭な擦り痕。
第78図398 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①12.9 ②1.0 ③1.1 ④0.6	SUPERFINE 不鮮明	頭部先端3列穿孔。頸部と把柄部境3面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄部横断面は方形。頸部外反。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径6.0mmほどの範囲に明瞭な擦り痕。
第78図399 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①12.8 ②1.0 ③1.0 ④0.7	SUPERFINE 鮮明	頭部先端3列穿孔。頸部と把柄部境3面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄部横断面は方形。頸部外反。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径5.0mmほどの範囲に明瞭な擦り痕。
第78図400 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	不明	①— ②— ③1.1 ④0.7	SUPERFINE 鮮明	把柄部横断面は方形。頸部と把柄部境3面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄部僅かに外反。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径9.0mmの範囲に擦り痕。
第78図401 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①12.9 ②1.0 ③1.1 ④0.9	なし摩滅か	頭部先端3列穿孔。頸部と把柄部境、背側を除き段差と「U」字状溝を付ける。把柄部横断面は方形。全体に外湾。把柄尻孔に吊り金具、周囲に緑青付着。
第78図402 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①12.7 ②1.0 ③0.9 ④0.6	なし摩滅か	頭部先端3列穿孔。把柄部横断面は方形。頸部と把柄部境3面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径6.0mmほどの範囲に擦り痕。
第78図403 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①13.2 ②1.1 ③1.2 ④0.7	Extra Fine EF以外は不明	頭部先端に3列穿孔。把柄部中央に種痕。把柄尻孔に吊り金具、周囲緑青付着。把柄部外湾。

V 図 表

国番号 P.L.番号	種別 器種	植毛行数 (頭部を上にして 左から)	①全長 ②頭部幅 ③把柄幅 ④把柄 部厚 (cm)	列印状態	特 徴
第780404	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①13.3 ②1.0 ③1.3 ④0.7	Extra Fine 上部不鮮明	頭部先端3列穿孔。把柄部中央に明瞭な稜線。把柄尻孔に鋼製 金具、周囲に緑青付着。
第780405	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①13.4 ②1.1 ③1.2 ④0.8	Extra Fine Ex Finが判 読可能	頭部先端3列穿孔。把柄部中央に明瞭な稜線。把柄尻孔に吊り 金具、周囲に緑青付着。
第780406	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①13.4 ②1.1 ③1.15 ④0.8	Extra Fine tra 不鮮明	頭部先端3列穿孔。把柄部稜線明瞭。頭部僅かに外湾。把柄尻 孔に金具と緑青の付着なし。両面の尻孔周縁2.0mmに凹形磨跡。
第780407 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①13.3 ②1.1 ③1.2 ④0.7	Extra Fine tra 不鮮明	頭部先端3列穿孔。頭部くびれる。把柄部中央明瞭な稜線。把 柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。柄部に 比して頭部大きい。
第780408	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①13.4 ②1.05 ③1.25 ④0.7	Extra Fine x不鮮明	頭部先端3列穿孔。把柄部中央明瞭な稜線。把柄尻孔吊り金具、 周囲に緑青付着。吊り金具腹側端部はドーム状をなし、背側端 部は平坦に仕上げられる。ドーム状をなす金具端部は把柄部に食い 込む。背側吊り金具周辺幅7.0mm程度の凹形磨跡。
第780409	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①13.3 ②1.0 ③1.2 ④0.7	Extra Fine か Eのみ鮮 明	字体と形態から形印はExtraFineであろう。頭部先端3列穿孔。 頭部くびれる。把柄部中央稜線明瞭。頭部外反。把柄尻孔吊り 金具、周囲に緑青付着。背側緑青付着範囲は金具を中心に半径 4.0mmの円形。吊り金具腹側端部はドーム状をなし、背側端部は 平坦に仕上げられる。ドーム状をなす金具端部は把柄部に食い込む。
第780410 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①13.4 ②1.15 ③1.2 ④0.55	Extra Fine Extra上半不 鮮明	頭部先端3列穿孔。把柄部中央明瞭な稜線。把柄尻孔に吊り金 具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径5.0mm範囲に磨 れ痕。
第780411 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	18:19:18	①13.4 ②1.1 ③1.2 ④0.8	Extra Fine 鮮明	頭部先端3列穿孔。把柄部中央明瞭な稜線。頭部から把柄部外 湾。把柄尻孔吊り金具なく、周囲に緑青も付着しない。しかし、 腹側尻孔周囲には金具端部の当たり痕らしき凹形磨痕あり。背側 尻孔周縁半径5.0mm範囲に凹形磨り痕があり、吊り金具は存在し たと考えられる。
第780412	骨製品 歯ブラシ	19:20:19	①13.1 ②1.1 ③1.3 ④0.8	なし	頭部先端3列穿孔。把柄部中央鈍い稜線。頭部僅かに外反。把 柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。
第790413	骨製品 歯ブラシ	19:20:19	①13.2 ②1.1 ③1.3 ④0.7	なし	頭部先端3列穿孔。把柄部中央鈍い稜線。把柄尻孔吊り金具、 周囲に緑青付着。全体に緩く外湾。
第790414	骨製品 歯ブラシ	19:20:19	①13.2 ②1.1 ③1.2 ④0.7	なし	頭部先端3列穿孔。頭部と把柄部境や明瞭。把柄部中央鈍い 稜線。頭部から把柄部僅かに外湾。把柄尻孔に吊り金具なし。 周囲に緑青付着なし。
第790415	骨製品 歯ブラシ	19:20:19	①13.3 ②1.1 ③1.2 ④0.5	なし 摩滅か	頭部先端3列穿孔。把柄部中央鈍い稜線。僅かに外湾。把柄尻 孔に吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周縁から2.0mm凹形 磨れ痕、背側に幅広の弧状磨れ痕。
第790416	骨製品 歯ブラシ	19:20:19	①12.9 ②1.05 ③1.1 ④0.6	なし	頭部先端3列穿孔。把柄部中央鈍い稜線。把柄尻孔に吊り金具 なく、緑青も付着せず。全体に緩く外湾。背側尻孔周縁凹光沢 があるが磨り痕はない。
第790417	骨製品 歯ブラシ	19:20:19	①13.1 ②1.1 ③1.2 ④0.8	なし	頭部先端3列穿孔。把柄部中央明瞭な稜線。把柄尻孔に吊り金 具なく、緑青も付着せず。背側尻孔周縁の磨れ痕なし。腹側 には歯部の当たり痕らしき凹形磨痕あり。
第790418	骨製品 歯ブラシ	19:20:19	①13.1 ②1.1 ③1.2 ④0.7	なし	頭部先端3列穿孔。把柄部中央鈍い稜線。頭部付近緩く外湾。 把柄尻孔吊り金具なく、緑青の付着もなし。把柄尻孔周縁の磨 れ痕などもない。
第790419 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	17:18:17	①13.3 ②1.1 ③1.1 ④0.7	SUPERFINE 鮮明	頭部先端3列穿孔。植毛孔間隔不揃い。把柄部僅かに外湾。把 柄部横断面は薄錐形。把柄尻孔に吊り金具、周囲に緑青付着。
第790420	骨製品 歯ブラシ	17:18:17	①13.4 ②1.1 ③1.1 ④0.7	SUPERFINEか SU FINE判 読可能	頭部先端3列穿孔。把柄部横断面は薄錐形。把柄部僅かに外湾。 把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。吊り金具先端は欠損。背 側金具を中心に半径8.0mmの凹形に磨れ痕。
第790421 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	20:21:21:20	①15.2 ②1.2 ③1.1 ④0.8	なし	頭部背側に4列の溝。頭部外反。植毛面は凹湾。把柄部僅かに 外湾。把柄部横断面は薄錐形。把柄尻孔に吊り金具、周囲に緑 青付着。頭部も薄く緑青付着。
第790422 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	3列植毛	①— ②— ③0.95 ④0.5	なし	頭部背側に3列の溝。把柄部中央が陥り、頭部と把柄部く びれる。把柄尻部に両面から切り込み入る。把柄尻孔吊り金 具、周囲に緑青付着。背側吊り金具から半径6.0mm範囲に磨れ痕。

図番号 P.L.番号	種別 器種	横毛行數 (頭部を上にして 左から)	①全長 ②把柄幅 ③把柄 部厚 (cm)	刷印状態	特 徴
第7908423 P.L.-30	骨製品 歯ブラシ	18 : 19 : 19 : 18	①14.4 ②1.1 ③1.3 ④0.7	TORUSSEHN 鮮明	頭部先端4列穿孔。把柄部横断面形は三角形。把柄部後縁部を平坦に削り刷印を施す。把柄尻孔吊り金具、周辺に緑青付着。
第7908424 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	25 : 26 : 26 : 25	①14.8 ②1.2 ③1.2 ④0.6	SUPER FINE 鮮明	頭部先端4列穿孔。頭部明瞭にくびれる。把柄部横断面形は台形。把柄部中央長方形に窪ませ、刷印を打つ。把柄尻孔に吊り金具、周囲に緑青付着。出土資料中最も多毛束様である。
第7908425 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	17 : 18 : 18 : 17	①14.4 ②1.15 ③1.3 ④0.7	SUPERFINE SINEは鮮明	頭部先端4列穿孔。把柄部横断面形は楕円形。頭部にくびれる。把柄部が長くくびれる唯一の例。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。把柄部に比して頭部大きい。
第7908426 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	19 : 20 : 19	①13.1 ②1.05 ③1.1 ④0.5	M.T.&C 鮮明	刷印「C」の右に円形くぼみがあるが、中が白く傷の可能性もある。頭部先端3列穿孔。把柄部細く、頭部から尻部に向かうにしたがい太くなる。把柄部横断面形は楕円形。
第7908427 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	不明	①— ②— ③1.2 ④0.6	— — —	草花状マーク左にTRADE, 右にMARKか。把柄中央刷印は判読不能。
第7908428 口輪4	骨製品 歯ブラシ	30 : 21 : 21 : 20	①15.1 ②1.25 ③1.2 ④0.6	— — —	頭部に像マーク、把柄中央に「米AR米」不鮮明
第8008429 口輪4	骨製品 歯ブラシ	不明	①— ②— ③0.9 ④0.75	— — —	判読不能
第8008430	骨製品 歯ブラシ	21 : 22 : 21	①13.1 ②1.0 ③1.0 ④0.6	TRADE MARK 間に鳥飛翔マーク	把柄部横断面形は楕円形。把柄尻孔なし。把柄尻尖る。把柄部中央刷印は米マーク間に最低12文字であるが、最後の3文字目と2文字目のみ判読可能。像マークは、鼻を巻いた像の側面。
第8008431 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ?	18 : 18 : 18 : 18	①14.5 ②1.3 ③0.6 ④0.6	なし	把柄部横断面形はほぼ円形。把柄尻孔吊り金具なく、緑青の付着もない。しかし、後縁尻孔周囲に金具痕跡と思われる当たり痕。背側の尻孔を中心とした半径6.0mm範囲には擦れ痕があり、吊り金具が存在した可能性が高い。
第8008432	骨製品 歯ブラシ	不明	①— ②— ③1.25 ④0.85	— — —	判読不能
第8008433	骨製品 歯ブラシ	17 : 17 : 17 : 17	①13.5 ②1.1 ③1.0 ④0.5	SUPERFINEか SUINE鮮明	把柄部横断面形は薄いつぼみ。把柄部外湾。直径4.0mmの把柄尻孔に円筒形金具残る、周囲緑青付着。後縁の尻孔周囲に金具端部当たり痕。
第8008434 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	15 : 15 : 15	①13.5 ②1.0 ③1.0 ④0.5	なし	頭部先端4列穿孔。頭部は細くくびれ、境が明瞭。頭部は大きい。全体は薄い。把柄尻孔大きい。吊り金具が残存しないが、周囲に緑青付着。
第8008435 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	17 : 18 : 17	①13.6 ②1.15 ③1.2 ④0.6	なし	頭部先端3列穿孔。穿孔部同一素材で塞ぐ。頭部くびれる。把柄部横断面形は低い楕円形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。吊り金具後縁部はドーム状をなす。背側は楕円の円形擦れ痕明瞭。
第8008436 P.L.-31	骨製品 歯ブラシ	17 : 17 : 17 : 17	①13.2 ②1.0 ③1.05 ④0.55	なし	頭部先端3列穿孔。把柄部横断面形は薄いつぼみ。把柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。後縁の尻孔に金具にフッシャー状の金属痕残る。
第8008437	骨製品 歯ブラシ	18 : 19 : 19 : 18	①14.4 ②1.05 ③1.2 ④0.7	SU E SUPER FINE か	頭部先端4列穿孔。刷印明瞭。頭部くびれる。把柄部横断面形は楕円形。把柄部細く外湾。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心とした半径5.0mm範囲に円形擦り痕。

V 図 表

国番号 P.L.番号	種別 器種	横毛行数 (頭部を上にして 左から)	①全長 ②頭部幅 ③把柄幅 ④把柄 部厚 (cm)	顔印状態	特 徴
第80図438	骨製品 両ブラシ	18:19:19:18	①13.9 ②1.2 ③1.2 ④0.7	Extra Fine	頭部先端4列穿孔。頭部くびれる。把柄断面形状は逆錐形。把柄尻孔に吊り金具なし。緑青付着せず。両面の孔周囲に円形の擦れ痕。
第80図439 P.L.-31	骨製品 棒杖?	—	①— ②— ③0.3 ④0.3	—	片側の尖り気味にする。先端と尾部欠損。
第80図440 P.L.-31	骨製品 棒杖?	—	①6.0 ②0.7 ③0.25 ④0.2	なし	厚さ2.0mm程の羽子板状を呈す。中央は0.5mm厚く、棒状をなす。先端は両面から斜めに削るが完全には尖らず、端部は1.0mm水平面を残す。また、厚みはそのままで薄くは削らない。

表8 1号掘中層出土鉛弾観察表

国番号 P.L.番号	種別 名称	出土位置	①—③直径・長さ (mm) ④重さ (g)	特 徴
第81図1 P.L.-34	鉛製品 棒実弾	1号掘中層	①7.78 ②7.78 ③13.60 ④5.2	頭部側面変形。旋状痕明瞭。
第81図2 P.L.-34	鉛製品 棒実弾	1号掘中層	①8.08 ②8.02 ③13.80 ④5.3	頭部小さい当たり痕。旋状痕明瞭。
第81図3	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.81 ②12.01 ③— ④7.1	半球状をなす。1g程度いため、一部欠損か。
第81図4	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.43 ②11.50 ③11.25 ④8.2	溝口0.45mm突出。
第81図5	鉛製品 円弾	1号掘中層	①12.08 ②— ③— ④8.3	二カ所平らに潰れる。
第81図6	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.71 ②11.69 ③11.92 ④8.2	溝口痕明瞭、0.85mm突出。二カ所小さく潰れる。
第81図7	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.36 ②11.52 ③12.31 ④8.4	溝口痕明瞭、0.82mm突出。型痕一部残る。一カ所潰れる。
第81図8	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.38 ②11.51 ③11.65 ④8.2	溝口痕明瞭、0.31mm突出。溝口付近型痕残る。変形なし。
第81図9	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.82 ②11.83 ③12.04 ④8.1	溝口0.29mm突出。一カ所平らに潰れる。
第81図10	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.45 ②11.33 ③11.21 ④8.2	溝口不明瞭、0.18mm突出。二カ所小さく潰れる。
第81図11	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.46 ②11.69 ③— ④8.3	一カ所やや大きく潰れる。
第81図12	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.44 ②11.50 ③11.51 ④8.1	溝口0.37mm突出。形状は乱れる。一カ所小さく潰れる。
第81図13	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.53 ②11.52 ③11.75 ④8.1	溝口痕明瞭、0.74mm突出。変形なし。
第81図14	鉛製品 円弾	1号掘中層	①— ②— ③— ④7.7	厚さ6.7mm程に大きく潰れる。
第81図15 P.L.-34	鉛製品 円弾	1号掘中層	①12.19 ②11.98 ③10.18 ④—	型合わせ目明瞭。幅2.0~3.0mmの平坦面返る。射出痕か? 一方潰れてやや変形。
第81図16	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.41 ②— ③11.87 ④8.2	溝口痕0.47mm突出。一カ所平らに変形。
第81図17	鉛製品 円弾	1号掘中層	①12.31 ②11.68 ③11.58 ④8.2	溝口不明瞭、0.23mm突出。複数箇所小さく変形。
第81図18	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.67 ②12.10 ③— ④8.2	二カ所潰れる。型痕一部残る。溝口不明。
第81図19	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.30 ②11.39 ③11.69 ④8.1	溝口痕明瞭、0.75mm突出。変形なし。
第81図20	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.72 ②12.16 ③— ④8.2	一カ所やや大きく潰れる。一カ所擦れたような痕跡。
第81図21	鉛製品 円弾	1号掘中層	①12.62 ②12.57 ③— ④8.1	半球状に大きく変形。
第81図22	鉛製品 円弾	1号掘中層	①11.87 ②11.50 ③11.76 ④8.1	一カ所小さく潰れる。溝口不明。

5 出土遺物観察表

図番号 P L 番号	種別 名称	出土位置	①-③直径・長さ (mm)	④重さ (g)	特 徴
第81図23	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.71 ②11.64 ③11.40	④8.0	湯口痕不明。目立つ変形なし。
第81図24	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.74 ②11.70 ③12.27	④8.3	湯口痕不明瞭、0.28mm突出。目立つ変形なし。
第81図25	鉛製品 円錐	1号堀中層	①12.10 ②- ③12.15	④8.1	湯口痕明瞭、0.58mm突出。1/3程平らに変形。
第81図26	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.48 ②- ③11.38	④8.0	湯口痕不明。一方所大きな凹み。
第81図27	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.37 ②11.40 ③11.70	④8.1	湯口痕明瞭、0.43mm突出。三カ所小さく潰れる。
第81図28	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.65 ②11.43 ③11.86	④8.1	湯口土がこびり付き不明瞭。0.3mm程突出。三カ所小さい潰れ。
第81図29	鉛製品 円錐	1号堀中層	①12.01 ②- ③-	④8.2	湯口痕明瞭、0.33mm突出。二カ所大きく凹む。
第81図30	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.20 ②11.31 ③11.68	④8.0	湯口痕明瞭、0.27mm突出。二カ所小さく潰れる。
第81図31	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.49 ②11.53 ③11.88	④8.2	湯口痕0.34mm突出。型痕残る。二カ所小さく窪む。
第81図32	鉛製品 円錐	1号堀中層	①- ②- ③11.79	④8.3	湯口痕明瞭、0.47mm突出。湯口付近型痕残る。三カ所潰れる。
第81図33	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.47 ②- ③11.85	④8.1	湯口痕明瞭、0.29mm突出。二カ所潰れる。
第81図34	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.56 ②11.53 ③-	④8.2	湯口痕明瞭、0.32mm突出。型痕残る。約2.0mm幅の平坦面周囲に返る。射出痕？
第81図35	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.52 ②11.31 ③-	④8.3	湯口痕明瞭、0.42mm突出。二カ所潰れる。幅2.0-3.0mmの平坦面周囲に返る。射出痕？
第81図36	鉛製品 円錐	1号堀中層	①12.30 ②- ③-	④8.1	湯口痕明瞭、0.57mm突出。一方所大きく窪む。
第81図37 P L-34	鉛製品 円錐	1号堀中層	①13.31 ②12.85 ③-	④7.8	ほぼ半球状を呈する。
第81図38	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.28 ②11.22 ③11.57	④8.2	湯口痕不明瞭、0.30mm突出。幅2-3mmの平坦面周囲に返る。射出痕？
第81図39	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.38 ②11.37 ③11.77	④8.3	湯口痕0.27mm突出。一方所小さく潰れる。
第81図40	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.62 ②11.51 ③11.35	④8.3	型痕一部残る。幅2-3mmの平坦面周囲に返り、湯口痕潰す。射出痕？
第81図41 P L-34	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.64 ②11.62 ③11.49	④8.2	湯口痕。一部凹む。
第81図42	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.69 ②11.47 ③11.67	④8.3	湯口痕明瞭、0.65mm突出。型痕一部残る。幅2・3mmの平坦面周囲に返り、一部湯口痕潰す。射出痕？
第81図43 P L-34	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.57 ②11.44 ③11.60	④8.2	湯口痕明瞭、0.53mm突出。型痕残る。
第81図44 P L-34	鉛製品 円錐	1号堀中層	①- ②- ③-	④8.0	潰れ著しく、変形。
第81図45	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.45 ②11.25 ③11.70	④7.9	湯口痕明瞭、0.56mm突出。型痕残る。一方所僅かな潰れ。
第81図46	鉛製品 円錐	1号堀中層	①12.68 ②- ③12.81	④7.8	半球状に潰れる。
第81図47	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.60 ②11.86 ③-	④8.0	1/3程潰れる。
第81図48	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.49 ②11.28 ③11.61	④8.1	湯口痕0.33mm突出。湯口付近型痕残る。
第81図49	鉛製品 円錐	1号堀中層	①12.00 ②12.22 ③-	④8.0	1/3程潰れる。湯口痕半分残り、0.59mm突出。
第81図50 P L-34	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.21 ②- ③11.98	④8.1	湯口痕明瞭、1.04mm突出。三カ所小さい潰れ。型痕明瞭。
第81図51	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.78 ②- ③11.31	④8.2	一方所大きく潰れる。幅2-3mmの平坦面帯状に残る。射出痕？

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 名称	出仕位置	①-③直径・長さ (mm)	④重さ (g)	特 徴
第81図52	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.57 ②11.47 ③11.72	④8.1	溝口痕明瞭、0.78mm突出。一カ所小さく潰れる。
第81図53	鉛製品 円錐	1号室中層	①- ②- ③-	④7.9	中央で6.5mm厚までドーム状に潰れる。一部広がる。
第81図54 P.L.-34	鉛製品 円錐	1号室中層	①- ②- ③-	④5.7	厚さ2.0mm程に潰れる。一部欠損か。
第81図55	鉛製品 円錐	1号室中層	①- ②- ③11.46	④8.2	幅2.3mmの平坦面回り、溝口痕を潰し、不明瞭にする。射出痕？三カ所小さく潰れる。新旧関係は、古い順に溝口、射出痕？、潰れ。
第81図56	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.55 ②11.44 ③11.78	④8.0	小さい凹凸があり溝口不明。幅約2.0mmの平坦面回る。射出痕？
第81図57	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.30 ②11.51 ③11.59	④8.1	溝口痕明瞭、0.58mm突出。溝口痕脇に鈍込み不良と思われる小さい凹み一カ所。
第81図58	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.60 ②11.95 ③11.48	④8.1	幅2.3mmの平坦面回り、溝口痕を潰す。射出痕？
第81図59	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.29 ②11.50 ③11.70	④8.1	溝口痕明瞭、0.36mm突出。幅2.3mmの帯状平坦面、射出痕？
第81図60	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.40 ②11.52 ③11.70	④8.0	溝口痕明瞭、0.82mm突出。型痕明瞭。
第81図61 P.L.-34	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.58 ②11.25 ③11.67	④8.1	溝口痕明瞭、0.75mm突出。溝口付近型痕残る。無傷。
第81図62	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.55 ②11.52 ③11.63	④8.1	溝口痕明瞭、0.61mm突出。幅約2.0mmの平坦面回る。射出痕？
第81図63	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.63 ②11.32 ③11.52	④8.1	溝口0.32mm突出。幅約3.0mmの平坦面回る。射出痕？一部凹む。
第81図64	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.44 ②11.40 ③11.54	④8.2	溝口痕明瞭、0.45mm突出。溝口付近近型痕明瞭。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？
第81図65	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.64 ②11.74 ③-	④8.3	溝口痕不明瞭、0.39mm突出。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？約1/3が潰れて平らになる。
第81図66	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.45 ②- ③11.35	④8.1	溝口痕明瞭、0.27mm突出。二カ所小さく潰れる。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？
第81図67	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.31 ②- ③11.75	④8.0	溝口痕明瞭、0.27mm突出。両脇には明瞭な型痕。一カ所小さく潰れる。
第81図68	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.38 ②11.45 ③11.73	④8.3	溝口痕明瞭、0.34mm突出。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？一カ所小さく凹む。
第81図69 P.L.-34	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.41 ②11.39 ③-	④8.0	溝口痕明瞭、0.82mm突出。型痕一部残る。一カ所凹む。
第81図70	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.42 ②11.52 ③11.67	④8.1	溝口痕明瞭、0.64mm突出。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？三カ所小さく凹む。
第81図71	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.38 ②11.53 ③11.55	④8.0	溝口痕明瞭、0.39mm突出。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？二カ所小さく凹む。
第81図72	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.60 ②11.35 ③11.72	④8.2	溝口明瞭、0.44mm突出。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？
第81図73	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.52 ②11.52 ③11.67	④8.0	溝口痕不明瞭。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？が溝口を潰す。二カ所小さく凹む。
第81図74	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.49 ②11.42 ③11.55	④8.0	溝口痕明瞭、0.24mm突出。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？一カ所小さく凹む。
第81図75	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.35 ②11.41 ③11.29	④8.1	溝口痕明瞭、0.42mm突出。溝口両脇に明瞭な型痕。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？
第81図76	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.42 ②11.74 ③11.53	④8.1	溝口痕0.31mm突出。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？
第81図77	鉛製品 円錐	1号室中層	①12.01 ②- ③12.18	④8.1	溝口痕0.29mm突出。一カ所大きく潰れる。
第81図78	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.40 ②11.20 ③11.89	④8.1	溝口痕明瞭、0.73mm突出。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？
第81図79	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.72 ②- ③12.32	④7.9	溝口痕0.44mm突出。1/3程潰れる。潰れない部分もやや変形。幅2.3mmの平坦面、射出痕？
第81図80	鉛製品 円錐	1号室中層	①11.63 ②11.36 ③11.37	④8.0	溝口痕不明瞭、0.18mm突出。幅2.3mmの平坦面回る。射出痕？一カ所小さく凹む。

図番号 Pし番号	種別 名称	出土位置	①~③直径・長さ (mm) ④重さ (g)	特 徴
第81図81	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.54 ②11.45 ③11.72 ④8.2	溝口径0.47mm突出。一方所小さく凹む。
第81図82	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.36 ②11.69 ③11.56 ④8.1	溝口径明確、0.50mm突出。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕? が溝口痕の一部を削る。
第81図83	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.48 ②11.51 ③11.40 ④8.3	幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕?一方所潰れ。
第81図84	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.56 ②11.41 ③11.55 ④8.2	溝口径明確、0.62mm突出。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕? 溝口の一部削る。一方所潰れる。
第81図85	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.47 ②11.59 ③11.76 ④8.1	溝口径不明瞭、0.12mm突出。一方所潰れ。
第81図86	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.55 ②11.58 ③11.56 ④8.1	溝口径明確、0.63mm突出。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕? 一方所小さい潰れ。
第81図87	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.28 ②11.23 ③12.01 ④8.3	溝口径0.27mm突出。溝口痕両脇型痕明確。幅2-3mmの平坦 面巡る。射出痕?
第81図88	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.53 ②11.56 ③11.78 ④8.3	溝口径0.27mm突出。型痕巡る。幅2-3mmの平坦面巡る。射出 痕?
第82図89	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.40 ②11.35 ③11.82 ④8.2	溝口径0.32mm突出。型痕巡る。幅2-3mmの平坦面巡る。射出 痕?
第82図90	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.88 ②11.78 ③11.82 ④8.3	溝口径0.18mm突出。型痕巡る。幅2-3mmの平坦面巡る。射出 痕?
第82図91	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.46 ②11.42 ③11.60 ④8.2	溝口径明確、0.48mm突出。溝口痕両脇の型痕明確。幅2-3mm の平坦面巡る。射出痕?
第82図92	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.43 ②11.58 ③11.43 ④8.3	溝口径0.66mm突出。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕?一方所 小さい潰れ。
第82図93	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.30 ②— ③11.44 ④8.2	溝口径明確、0.30mm突出。型痕巡る。幅2-3mmの平坦面巡る。 射出痕?一方所小さい潰れ。
第82図94	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.39 ②11.42 ③11.85 ④8.2	溝口径明確、0.51mm突出。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕? 一方所小さい潰れ。
第82図95	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.35 ②11.49 ③11.57 ④7.8	溝口径0.32mm突出。土の付着により射出痕?不明瞭。
第82図96	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.34 ②11.26 ③11.35 ④8.0	溝口径0.24mm突出。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕?
第82図97	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.34 ②11.41 ③11.71 ④7.9	溝口径明確、0.64mm突出。一方所凹む。
第82図98	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.44 ②11.62 ③11.61 ④8.3	溝口径0.33mm突出。溝口付近型痕残る。幅2-3mmの平坦面巡 る。射出痕?一方所小さい凹み。
第82図99	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.44 ②11.43 ③11.89 ④8.3	溝口径0.51mm突出。型痕巡る。幅2-3mmの平坦面巡る。射出 痕?
第82図100	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.41 ②11.56 ③11.91 ④8.3	溝口径明確、0.77mm突出。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕? 三方所小さい凹み。
第82図101	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.56 ②11.63 ③11.61 ④8.2	溝口径0.16mm突出。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕?溝口痕 一部削る。
第82図102	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.39 ②11.42 ③11.78 ④8.0	三方所僅む。腐食のためか表面に小さい凹凸多い。
第82図103	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.58 ②11.36 ③11.59 ④8.3	一方所潰れる。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕?型痕残る。
第82図104	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.40 ②11.65 ③11.65 ④8.2	溝口径0.23mm突出。型痕残る。幅2-3mmの平坦面巡る。射出 痕?二方所潰れ。
第82図105	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.35 ②11.85 ③11.21 ④8.3	溝口径不明瞭、0.16mm突出。型痕不明瞭。
第82図106	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.24 ②— ③11.84 ④8.2	溝口径明確、0.42mm突出。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕? 型痕残る。一方所潰れ。
第82図107	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.46 ②11.49 ③11.75 ④8.2	溝口径明確、0.55mm突出。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕? 二方所潰れ。
第82図108	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.76 ②— ③12.06 ④8.2	溝口径明確、1.17mm突出。1/3程潰れてやや変形。型痕残 る。
第82図109	鉛製品 円錐	1号堀中層	①11.61 ②11.43 ③11.67 ④8.1	溝口径不明。幅2-3mmの平坦面巡る。射出痕?一方所凹む。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 名称	出土位置	①-③直径・長さ (mm) ④重さ (g)	特 徴
第82図110	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.50 ②11.48 ③11.40 ④8.2	溝口痕明瞭、0.30mm突出。溝口内陥型明瞭。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？
第82図111	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.54 ②11.49 ③11.81 ④8.2	溝口痕明瞭、0.47mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所潰れ。
第82図112	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.59 ②11.26 ③12.14 ④8.3	溝口痕、0.18mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所潰れ。
第82図113	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.73 ②- ③11.56 ④7.8	溝口痕明瞭、0.55mm突出。1/3陥潰れる。
第82図114	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.41 ②11.20 ③- ④8.0	溝口痕0.10mm突出。幅2・3mmの平坦面高る。射出痕？溝口潰潰す。
第82図115	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.34 ②- ③11.80 ④8.1	溝口痕0.13mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所潰れ。
第82図116	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.48 ②- ③11.57 ④8.1	溝口痕明瞭、0.42mm突出。溝口内陥に明瞭な型痕。一方所潰れ。
第82図117	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.22 ②11.21 ③11.54 ④8.2	溝口痕突出は0.13mmと低いが、円形に形良く残る。溝口痕内陥の型痕明瞭。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？
第82図118	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.50 ②- ③11.68 ④8.1	溝口痕明瞭、0.22mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所潰れ。
第82図119	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.92 ②- ③- ④8.2	溝口痕不明瞭、0.14mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所凹む。
第82図120	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.28 ②- ③11.31 ④8.0	溝口痕不明瞭、0.17mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？型痕残る。
第82図121	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.34 ②- ③11.72 ④8.3	溝口痕不明、幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所凹む。
第82図122	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③11.70 ④8.1	三方所凹む。溝口痕不明。
第82図123	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.37 ②- ③11.61 ④8.3	溝口痕、0.34mm突出。溝口内陥型明瞭。二方所凹む。
第82図124 P.L.-34	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.88 ②- ③- ④8.2	溝口痕明瞭、0.33mm突出。二方所凹む。
第82図125 P.L.-34	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.28 ②11.78 ③- ④8.1	溝口痕0.46mm突出。一部変形。
第82図126	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.52 ②11.77 ③11.58 ④8.2	溝口痕、0.57mm突出。型痕残る。
第82図127	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.23 ②11.35 ③11.30 ④7.8	溝口痕不明瞭、0.16mm突出。
第82図128	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.67 ②11.38 ③11.34 ④8.0	溝口痕明瞭、0.39mm突出。溝口内陥の型痕明瞭。
第82図129	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.57 ②11.40 ③11.58 ④8.2	溝口0.24mm突出。
第82図130	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.56 ②- ③11.39 ④8.1	溝口0.21mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所潰れ。
第82図131	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.71 ②- ③11.68 ④8.2	幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所潰れ変形。
第82図132	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.76 ②11.82 ③- ④8.3	溝口0.13mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所潰れ。
第82図133	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.84 ②- ③- ④8.1	1/3ほど凹む。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？
第81図134	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.41 ②11.48 ③11.80 ④8.3	溝口痕明瞭、0.51mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？二方所凹む。
第82図135	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.48 ②11.21 ③11.97 ④8.4	溝口痕0.27mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所潰れ。
第82図136	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.47 ②- ③11.52 ④8.2	溝口痕0.33mm突出。幅2・3mmの平坦面高る。射出痕？溝口痕を半分潰す。
第82図137	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.43 ②- ③11.55 ④8.5	幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所潰れ。
第82図138	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.43 ②11.40 ③11.65 ④8.2	溝口痕不明瞭、0.20mm突出。幅2・3mmの平坦面高る、射出痕？一方所潰れ。

図番号 P.L.番号	種別 名称	出土位置	①-③直径・長さ (mm) ④重さ (g)	特 徴
第82図139	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.57 ②11.34 ③- ④8.1	幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?一カ所凹む。
第82図140	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.64 ②- ③- ④8.2	溝口痕明瞭。幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?一カ所凹む。
第82図141	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.43 ②11.46 ③- ④8.3	溝口痕0.17mm突出。幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?一カ所凹む。
第82図142	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.44 ②11.47 ③- ④8.0	溝口痕0.25mm突出。一カ所凹む。
第82図143	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.50 ②- ③11.67 ④8.2	溝口痕0.20mm突出。型痕明瞭。幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?一カ所凹む。
第82図144	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③12.34 ④8.1	溝口痕明瞭。0.29mm突出。幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?約1/3潰れ。
第82図145	鉛製品 円弾	1号堀中層	①12.08 ②- ③12.01 ④8.2	幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?1/3潰れる。
第82図146	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.64 ②11.62 ③11.47 ④8.1	幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?一カ所潰れる。
第82図147	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③- ④8.3	二カ所潰れ。二カ所凹む。
第82図148	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③- ④5.4	溝口痕明瞭。最大厚5mmに潰れる。一部欠損か。
第82図149	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③- ④7.9	歪に変形する。
第82図150	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③- ④8.1	溝口痕0.25mm突出。最大厚8mmのドーム状に潰れる。
第82図151	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③- ④8.2	幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?高さ約7mmの歪なドーム状に変形。
第82図152	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③- ④7.9	高さ約7.5mmの歪なドーム状に変形。
第82図153	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.78 ②- ③11.73 ④8.3	溝口痕明瞭。0.43mm突出。幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?一カ所凹む。
第82図154	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③- ④8.1	溝口痕明瞭。0.47mm突出。高さ約3mmの歪なドーム状に変形。
第82図155	鉛製品 円弾	1号堀中層	①12.44 ②12.46 ③- ④8.4	溝口痕明瞭。0.22mm突出。溝口痕両側の型痕明瞭。約1/3潰れドーム状をなす。
第82図156	鉛製品 円弾	1号堀中層	①12.41 ②- ③- ④8.2	幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?約1/3潰れドーム状をなす。
第82図157	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.68 ②- ③- ④8.0	歪に変形する。
第82図158	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③- ④8.1	二カ所潰れる。
第82図159	鉛製品 円弾	1号堀中層	①12.17 ②- ③- ④8.3	約1/3潰れる。型痕残る。
第82図160	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③- ④7.9	厚さ約6.5mmに潰れる。
第82図161 P.L.-34	鉛製品 円弾	1号堀中層	①- ②- ③- ④7.9	最大厚約7.2mmに潰れる。平面形は三ツ輪状を呈する。
第82図162	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.69 ②11.80 ③- ④8.2	幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?一カ所潰れ。
第82図163	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.48 ②11.52 ③11.79 ④8.0	溝口痕0.39mm突出。幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?型痕と異なる小窪突出。
第82図164	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.52 ②- ③11.40 ④8.1	一カ所潰れる。溝口痕不明瞭。
第82図165	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.66 ②11.67 ③- ④8.1	一カ所潰れる。
第82図166	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.41 ②- ③11.73 ④8.1	幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?尖った物に当たったような凹みと陥れたような凹み各一カ所。
第82図167	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.67 ②- ③11.77 ④8.1	溝口痕明瞭。0.43mm突出。幅2.3mmの平坦面突出。射出痕?一カ所潰れる。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 名称	出土位置	①-③直径・長さ (mm) ④重さ (g)	特 徴
第82図168	鉛製品 円弾	1号壙中層	①11.44 ②11.54 ③11.83 ④8.2	溝口痕明瞭、0.41mm突出。幅2-3mmの平坦面突出、射出度?
第82図169	鉛製品 円弾	1号壙中層	①11.45 ②11.39 ③- ④8.0	溝口痕不明瞭、0.17mm突出。溝口痕両脇型痕。一カ所凹む。
第82図170	鉛製品 円弾	1号壙中層	①- ②- ③11.59 ④8.0	四方所潰れる。
第82図171	鉛製品 円弾	1号壙中層	①- ②- ③- ④8.0	高さ約7.2mmの歪なドーム状に変形。
第82図172	鉛製品 円弾	1号壙中層	①- ②- ③- ④5.8	厚さ約5mmに潰れる。一部欠損か。
第82図173	鉛製品 円弾	1号壙中層	①- ②- ③- ④8.1	高さ約7.4mmのドーム状に変形。
第82図174	鉛製品 円弾	1号壙中層	①11.71 ②- ③13.52 ④8.1	一カ所「く」の字状に大きく凹む。

表9 盛土上および高崎城期の出土遺物観察表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ③底径 (cm)	②口径 ④底径 (cm)	①胎土 ②構成 ③色調	成形、調整の特徴など
第83図1	内耳土器 埴輪形	1号壙 7層	2/3	①6.8 ③30.8 ③-	②-	①- ②A ③10YR5/3純黄緑	口縁部に歪みがあり、直径推定不可能。口縁部上面やや凹む。内面に段差あり。
第83図2	肥前磁器 P.L.-34 香炉	4号壙	一部欠損	①6.2 ③4.3	②12.5	①- ②良好 ③灰白色	外面に簡略化した海浜風景を描く。器表に光沢があり、昭和30年代のゴミの中から出土しており、伝世品が廃棄された可能性が高い。
第83図3	平瓦	2号壙 下層	2/3	①- ②- ③-	②-	①夾雑物少ない ②良好 ③-	他の瓦に比して構成が柔らかめで断面が、中心から黒色、灰白色、黒灰色のサンドイッチ状を呈する。大きさも大きく、他の瓦より古い可能性が高い。
第83図4	平瓦	2号壙 下層	3/4	①- ②- ③-	②-	①夾雑物少ない ②良好 ③-	2号壙出土瓦中大きさが判明する数少ない資料。凸面に比して凹面は丁寧に調整される。焼しも良好である。
第84図5	平瓦	2号壙 下層	一部欠損	①- ②- ③-	②-	①夾雑物少ない ②良好 ③-	2号壙出土瓦中大きさが判明する数少ない資料。凸面に比して凹面は丁寧に調整される。焼しも良好である。
第84図6	平瓦	2号壙 下層	一部	①- ②- ③-	②-	①夾雑物少ない ②良好 ③-	凸面に比して凹面は丁寧に調整される。焼しも良好である。
第84図7	丸瓦	2号壙 下層	一部	①- ②- ③-	②-	①夾雑物少ない ②良好 ③-	凸面は縦方向の撫で痕、凹面布痕残る。凹面にコビキB痕残る。
第84図8	平瓦	2号壙 下層	測線部	①- ②- ③-	②-	①夾雑物少ない ②良好 ③-	凸面に比して凹面は丁寧に調整される。凸面の撫しは不良で灰白色を呈する。
第85図9	丸瓦	2号壙 下層	先端と側面欠損	①- ②- ③-	②-	①夾雑物少ない ②良好 ③-	凸面は縦方向の撫で痕、凹面布痕残る。凹面にコビキB痕残る。
第85図10	軒丸瓦	2号壙 下層	瓦頭、玉縁欠損	①- ②- ③-	②-	①夾雑物少ない ②良好 ③-	瓦頭接合部にカキヤブリ。凸面は縦方向の撫で痕、凹面布痕残る。凹面にコビキB痕残る。
第85図11	丸瓦	2号壙 下層	玉縁部	①- ②- ③-	②-	①夾雑物少ない ②良好 ③-	凸面は縦方向の撫で痕、凹面布痕残る。凹面にコビキB痕残る。
第86図12	丸瓦	2号壙 下層	面取り部	①- ②- ③-	②-	①夾雑物少ない ②良好 ③-	凸面は縦方向の撫で痕、凹面にコビキB痕明瞭に残る。
第86図13	五輪塔 火輪	2号壙	完形	①- ②- ③-	②-	①- ②- ③-	上面にはぞ穴を設ける。下面の反りは弱い。
第86図14	茶臼形 下臼	6号壙	1/5	①- ②- ③-	②-	①- ②- ③-	はんざり欠損。黒色を呈し、発色のよい石材を使用。調整は丁寧に石の凹凸は少ない。摺り面には細い目が残る。摺り面の半分ほどが磨れ、周縁ほど滑らかとなる。
第87図15	粉焼き形 上臼	4号壙	一部欠損	①- ②- ③-	②-	①- ②- ③-	輪受け部が抜ける。摩滅により当初引き手穴が摺り面に出る。供給口側側面に引き手穴を付けようとした跡がある。摺り面は周縁に向かうほど滑らかである。偏減りが著しく、周縁部で4cmの高低差がある。供給口は長方形を呈する。

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	成形、調整の特徴など
第88図16 P.L.番号	粉挽き形 土白	2号堀	1/3	①— ②— ③—	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	軸受け穴と供給口の一部分が残る。偏減りが著しく、周縁で2.5cmの比高差がある。一部に目が残り、放射状を呈していた可能性がある。引き手欠残る。
図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①②底径 ③④内径 ⑤厚さ (mm)		備 考
第88図17 P.L.番号	鏡貨 元祐通寶	4号堀	一部欠損	①— ②24.30 ③19.42 ④— ⑤1.04~1.13		北宋1086年初鑄。篆書

表10 1区・3区 堀以外出土遺物観察表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	成形、調整の特徴など
第89図1 P.L.-34	須恵器 坏	2号土坑 底面	一部欠損	①3.6 ②12.7 ③5.3	④須恵1 ⑤良好 ⑥2.5Y6/2灰 ・2.5Y4/1黄灰	底部外面右回転糸切り無調整。口縁部内外面に各一カ所「真」墨書。
第89図2 P.L.-34	須恵器 坏	2号土坑 底面	定形	①3.5 ②11.9 ③6.5	④須恵1 ⑤良好 ⑥2.5Y6/1黄灰	底部外面右回転糸切り無調整。最大で1cm程の凹凸。底部内面中央突出する。
第89図3	須恵器 坏	2号土坑 +9cm	1/4	①3.0 ②12.0 ③—	④須恵1 ⑤やや不良 ⑥5Y7/1灰白	口縁部外反。
第89図4	須恵器 坏	2号土坑	1/4	①— ②(14.4) ③—	④須恵2 ⑤良好 ⑥5Y6/1灰 ・2.5Y6/2灰黄	口縁部外反。
第89図5	須恵器 坏	2号土坑 89図2土器 内	1/5	①3.1 ②13 ③—	④須恵A ⑤やや 不良 ⑥5Y3/2オ リーブ黒	口縁部直線的に開く。
第89図6	須恵器 坏	2号土坑 +6cm	1/5	①— ②(14.2) ③—	④須恵A ⑤やや 不良 ⑥2.5Y4/1 黄灰	口縁部直線的に開く。5と同一個体の可能性あり。
第89図7	須恵器 坏	2号土坑 +8cm	1/3	①(4.0) ②13.5 ③—	④須恵B ⑤酸化 灰 ⑥5Y8/4鈍 橙	口縁部やや肥厚し、外反する。
第89図8	施釉陶器 盤類	3号土坑 +8cm	体部小片 ①— ②— ③—	①— ②— ③—	④— ⑤良好 ⑥瀬2.5Y6/2灰黄	古瀬戸後1からⅢ期。外面と内面上半に灰輪。外面下部に凹線2条流る。
第89図9	施釉陶器 盤類	3号土坑 +7cm	底部小片 ①— ②— ③—	①— ②— ③—	④— ⑤良好 ⑥瀬2.5Y7/2灰黄	古瀬戸後1からⅢ期。底部外面回転彫り。内面灰輪を拭ったような跡。胎土や色調が6と近似し、同一個体の可能性あり。
第89図10	内耳土器 鉢形	3号土坑 +5cm	口縁部から 体部下 位片 ①— ②— ③—	①— ②— ③—	④B ⑤B、良好 ⑥内5Y5/1灰 ・外5Y4/1灰	外面体部下薄彫り。口縁部丸味を帯びる。
第89図11	内耳土器 鉢形	3号土坑 +10cm	口縁部小 片 ①— ②— ③—	①B ②D、良好 ③10YR1.7/1黒 ・10YR7.4鈍黄橙	横し焼成。内面に比して外面黒い。口縁部は丸味を帯びる。	
第89図12	すり鉢	3号土坑	口縁部片 ①— ②— ③—	①B ②B、良好 ③— ④—	④B ⑤B、良好 ⑥5Y5/1灰	口縁部外面から内面の調整は丁寧。口縁部内面の器表磨れる。
第89図13 P.L.-34	鉄滓? 流動滓	3号土坑	小片 ①— ②— ③—	①— ②— ③—	④— ⑤— ⑥—	横断面が扇状を呈し、下部に土の付着が認められる。また、流れ出した際の断面も残り、鉄生塵に伴う流出先薄付近の破片と推定される。
第89図14	土器 土器	9号土坑 底面	1/2	①2.2 ②7.2 ③4.6	④A ⑤良好 ⑥7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁やや強い回転横溝により凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図15	土器 土器	9号土坑 +4cm	1/3	①1.8 ②7.8 ③4.8	④A ⑤良好 ⑥7.5YR6/4鈍橙	内面底部周縁やや強い回転横溝により凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図16 P.L.-34	土器 土器	9号土坑 +4cm	1/2	①1.8 ②7.3 ③(4.5)	④A ⑤良好 ⑥7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁やや強い回転横溝により凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図17 P.L.-34	土器 土器	9号土坑 +4cm	口縁部1/4 欠損 ①— ②— ③—	①1.75 ②7.4 ③4.5	④A ⑤良好 ⑥7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁やや強い回転横溝により凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図18 P.L.-34	土器 土器	9号土坑 +4cm	1/2	①2.8 ②7.4 ③4.3	④A ⑤良好 ⑥7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横溝により凹む。底部外面左回転糸切り無調整。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第89019 P.L.-34	土器 皿	9号土坑 +1~3cm	1/3	①1.9 ②7.3 ③4.1	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89020 P.L.-34	土器 皿	9号土坑 +8cm	口縁部1/4 欠損	①1.6 ②7.4 ③4.4	①A ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89021 P.L.-34	土器 皿	9号土坑 +5cm	完形	①1.8 ②7.6 ③4.5	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89022 P.L.-34	土器 皿	9号土坑 +3cm	完形	①1.7 ②7.8 ③4.4	①A ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90023 P.L.-34	土器 皿	9号土坑 +2cm	完形	①1.7 ②7.4 ③4.6	①A ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90024 P.L.-34	土器 皿	9号土坑 +4cm	完形	①1.7 ②7.6 ③4.05	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90025 P.L.-34	土器 皿	9号土坑 +11cm	完形	①1.55 ②7.55 ③4.7	①A ②良好 ③7.5YR6/6橙	内面底部周縁強い回転横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90026 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 +12cm	完形	①1.55 ②7.15 ③4.3	①A ②良好 ③7.5YR7/6橙	内面底部周縁強い回転横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90027 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 +6cm	完形	①1.6 ②7.8 ③4.5	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	底部から口縁部凸む。内面底部周縁やや強い回転横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90028 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 底面	完形	①1.8 ②7.4 ③4.8	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。体部外面一部磨る。
第90029	土器 皿	9号土坑 +21cm	1/2	①1.9 ②11.4 ③6.6	①A ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	口縁部玉縁状。底部内面強で、周縁強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。板状厚底。
第90030 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 +7cm	2/3	①2.2 ②11.0 ③6.3	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁部玉縁状。周縁強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90031 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 +11cm	完形	①2.3 ②11.1 ③6.1	①A ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	口縁部玉縁状。底部外面左回転糸切り無調整。
第90032 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 底面~+3cm	口縁一部 欠損	①2.55 ②11.0 ③6.0	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁部玉縁状。やや歪む。底部内面弱い横で、周縁強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90033 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 +1~4cm	1/5欠損	①2.1 ②11.8 ③7.0	①A ②良好 ③7.5YR7/6橙	口縁部玉縁状。周縁やや強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90034 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 底面~4cm	口縁一部 欠損	①2.1 ②11.8 ③6.4	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁部玉縁状。周縁やや強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90035 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 底面~11cm	口縁一部 欠損	①2.0 ②11.7 ③6.5	①A ②良好 ③7.5YR7/6橙	口縁部玉縁状。周縁やや強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90036 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 底面~+4cm	底部一部 欠損	①2.1 ②11.7 ③7.1	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁部玉縁状。底部内面弱い横で、周縁やや強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。板状厚底。
第90037 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 +1~8cm	口縁部1/3 欠損	①1.8 ②10.5 ③6.2	①A ②良好 ③10YR7/4鈍黄橙	口縁部玉縁状。底部内面強で、周縁やや強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。板状厚底。
第91038 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 +1~3cm	口縁部1/4 欠損	①2.5 ②11.0 ③6.4	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	歪み著しい。口縁部玉縁状。底部内面弱い横で、周縁やや強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。一部板状厚底？
第91039 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 底面~2cm	完形	①2.3 ②10.8 ③6.2	①A ②良好 ③7.5YR6/6橙	口縁部玉縁状。底部内面やや強い横で。底部外面左回転糸切り無調整。板状厚底多い。
第91040 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 +3~10cm	一部欠損	①2.1 ②11.5 ③6.6	①A ②良好 ③7.5YR6/6橙	口縁部玉縁状。周縁やや強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第91041	土器 皿	9号土坑 +4cm	1/5	①2.4 ②11.6 ③6.2	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁部玉縁状。底部内面強で、周縁やや強い横で。底部外面左回転糸切り無調整。板状厚底多い。
第91042	土器 皿	9号土坑 +2~3cm	口縁部3/4 欠損	①1.9 ②11.5 ③7.3	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁部僅かに玉縁状。周縁やや強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第91043 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 底面~5cm	口縁部1/4 欠損	①2.6 ②11.2 ③6.3	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	歪み著しい。口縁部玉縁状。底部内面強で、周縁やや強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第91図44 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 底面～5cm	口縁部1/3 欠損	①2.5 ②11.9 ③7.0	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。周縁やや強い横溝でにより凹む。 底部外面左回転糸切り無調整。
第91図45	土器 皿	9号土坑 底面～6cm	口縁一部 底部完	①2.35 ②11.3 ③6.2	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。底部内面弱い横溝で、周縁やや強い横溝でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第91図46 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 +4cm	一部欠損	①2.3 ②11.7 ③6.5	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。周縁やや強い横溝でにより凹む。 底部外面左回転糸切り無調整。
第91図47 P.L.-35	土器 皿	9号土坑 +3～8cm	口縁部1/3 欠損	①2.25 ②11.4 ③7.2	①A ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。周縁やや強い横溝でにより凹む。 底部外面左回転糸切り無調整。
第91図48	土器 皿	9号土坑 +23cm	小片	①3.0 ②(17.4) ③—	①A ②良好 ③7.5YR7/6橙	左回転軸調整。大型。
第91図49	土器 皿	9号土坑 +22cm	1/6	①3.4 ②(17.4) ③—	①A ②良好 ③7.5YR7/6橙	左回転軸調整。大型。外面口縁部下側に影らむ。底部直上で欠損。
第91図50	内耳土器 罎形	9号土坑 底面	小片	①— ②— ③—	①B ②C、良好 ③6YR6/6橙	丸底。体部外面黒色。
第92図1 口絵3	製作地不詳 青磁	3区遺構外 青磁	完形	①2.0 ②9.0 ③4.6	①— ②良好 ③—	輻状成形で、文様は型で付ける。高台内透明釉。 文様は底見。高台端部の微少な欠けから見ると、 胎土はガラス質で透明感のある白色を呈する。青 磁釉は厚く掛けるが、三田青磁ではない。
第92図2	粉挽き形 上臼	3区	1/2	①— ②— ③—	①— ②— ③—	偏減りが著しく、周縁部で2.3cmの高低差がある。かなり明確に目が残る。目のパターンは6分番、5本であろう。当然のことながら、この目は当初のものではないであろう。

表11 2区盛土内出土土物観察表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第93図1 口絵3	中国磁器 白磁皿	槽台盛土	1/5	①2.9 ②(11.2) ③5.8	①— ②良好 ③—	高台座部部分により明確色味を帯びる。体部下位は内湾し、口縁部は水平に近く小さく開く。白磁皿C群。
第93図2	大甕 皿	槽台盛土	口縁部小片	①— ②(10.0) ③—	①— ②やや不良 ③—	口縁部外面は横溝目により外反するように見える。灰釉を施す。3片接合。
第93図3 口絵3	中国磁器 染付皿	盛土	1/4	①— ②— ③6.0	①— ②良好 ③—	「玉取子獅子」尾部付近の底部片。染付皿B群。
第93図4	常滑陶器 甕?	盛土	頸部片?	①— ②— ③—	①— ②良好 ③—	外面灰釉掛かる。内面上位に薄く灰釉掛かる。
第93図5	内耳土器 罎形	盛土	口縁部細片	①— ②— ③—	①B ②A、良好 ③2.5Y4/1黄灰	器壁薄いが、焼成はサンドイッチ状をなす。胎土中央から、灰白色、灰赤色、器表が灰黒色を呈する。口縁部内面と体部境の段差は低いものの明瞭である。2片接合。
第93図6	在地土器 すり鉢	盛土	体部下位片	①— ②— ③—	①B ②D、良好 ③10YR5/1褐灰	還元焼成。内面使用により平滑となる。残存部にすり目は認められない。
第93図7 P.L.-35	在地土器 甕?	盛土	1/5	①— ②(24.4) ③—	①D ②C7、良好 ③2.5YR2/1赤黒 ・2.5YR4/3鈍赤褐	器表付近は一部を除き黒色を呈するが、当初のものか否か不明。胎土は中世内耳と同じであるが、古代土塗に似た器形である。内外面の調整は、土塗に比して遙かに丁寧であり、中世の所産と考えられる。
第94図8	内耳土器 罎形	盛土	口縁部片	①— ②— ③—	①C ②D、良好 ③7.5YR3/1黒褐	口縁端部正面凹む。肩部正面は内傾する。口縁部内面と体部境の段差は明瞭であるが、外面の屈曲部は消失し、直線的となる。屈曲部の名残は横溝目状の調整痕として残る。罎形と地輪形の中間的な器形か?
第94図9	在地土器 火鉢?	盛土	体部細片	①— ②— ③—	①B ②D、良好 ③10YR3/1黒褐	胎土断面灰赤色、器表付近灰白色、器表黒灰色。外面に菊花状押印。
第94図10	在地土器 すり鉢	盛土	体部細片	①— ②— ③—	①D ②A、良好 ③10YR4/1黒灰 ・10YR4/4褐	7本単位のすり目を入れる。胎土中央から灰白色、やや赤みを帯びた青灰色、灰白色、器表は灰黒色。15と同一個体の可能性高い。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第94図11	内耳土器 胴形?	盛土	底部小片	①— ②— ③—	①黒D ②A、良好 ③7.5YR5/3鈍褐	断面灰白色で器表が鈍褐色を呈する。器壁厚く平底。胴形若しくは短筒形の底部であろう。
第94図12	常滑陶器 片口鉢	盛土	体部下位 小片	①— ②— ③—	①— ②良好 ③7.5YR6/6橙	焼き締まりはあるが、酸化炭焼成である。高台欠損。内面はすり鉢として使用しているようで、非常に平滑である。器内の常滑片口鉢はすり鉢として使用されている。2片接合。
第94図13	在土土器	盛土	体部下位 細片	①— ②— ③—	①C ②D、良好 ③7.5YR3/1黒褐 ・7.5YR5/4鈍褐	内面に5本単位のすり目を施す。内面下位は使用により器表摩滅する。内面に二次的な被熱痕。
第94図14	在土土器 すり鉢	盛土	底部2/3	①— ②— ③10.7	①D ②D、良好 ③NS/灰	胎土灰白色、器表面青灰色。左回転糸切り無調整。内面すり目なし。内面体部下位から底部周縁使用により平滑となる。底部と体部の境、屈曲部に使用痕は認められず、塗り粉木の使用が想定される。3片接合。
第94図15	在土土器 すり鉢	盛土	底部片	①— ②— ③—	①D ②A、良好 ③2.5Y5/1黄灰 ・2.5Y7/1灰白	7本単位のすり目を放射状に入れる。体部内面下位から底部周縁は使用により器表摩滅する。特に底部周縁と体部下位の幅1.5cmの範囲はやや凹む。この使用痕から塗り粉木の使用は明らかである。胎土中央から灰白色、やや赤身を帯びた青灰色、灰白色、器表は灰黒色。底部外面無で。
第94図16 P.L.-35	土製品 円盤	盛土	完形	径2.5 厚1.0	①C ②D、良好 ③5YR3/2暗赤褐 ・5YR5/6明赤褐	直径2.3cmと小型の円盤。内耳胴形の体部片を打ら欠き、周縁を磨って成形する。
第94図17	在土土器 火鉢?	盛土	口縁部細 片	①— ②— ③—	①B ②D?, 良好 ③5YR5/6明赤褐	外面と断面は暗赤色だが、内面器表から3.0mm程は褐色を呈する。不完全な焼し焼成か。口縁部上面は平坦で、内面は突出する。外面は折り返したように広がる。外面口縁部下に押印。
第94図18	在土土器 皿	盛土	口縁部一 部 底部3/4	①2.1 ②12.3 ③7.0	①B ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。体部は外方に開き、器高は低い。口縁部下で外反する。内面体部下端と底部周縁、強い横溝により凹線状に凹む。3片接合。
第94図19	在土土器 皿	盛土	1/2	①2.4 ②12.0 ③(7.2)	①B ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。口縁部僅かに内湾する。体部と底部の境は明瞭。
第95図20 P.L.-35	内耳土器 胴形	檜台盛土	1/6	①— ②— ③—	①C ②C、良好 ③内7.5YR5/3鈍 褐・断5YR5/3鈍 赤褐	外面器表黒色。口縁部器壁やや薄い。口縁部内外面丸く突出する。口縁部上面凹む。4片接合。
第95図21	在土土器 火鉢?	檜台盛土	口縁部細 片	①— ②— ③—	①B ②D、やや 不良 ③7.5YR4/ 3褐・7.5YR4/1褐 灰	24に似た口縁部形状であるが、外面の幅がやや狭い。内面は消滅する。口縁部外面に菱形の押印を施す。
第95図22	在土土器 火鉢?	檜台盛土	口縁部片	①— ②— ③—	①B ②D、やや 不良 ③10YR3/1黒褐 ・5YR6/4鈍橙	口縁部内面凸出する。外面は端部を幅広く取り、中央を凹線状に窪ませる。外面口縁部下に凸帯を巡らし、上部に巴文押印を巡らせる。凸帯下部にも施文するようだが、残存部が小さく不明。24と同一個体の可能性がある。3片接合。
第95図23	在土土器 火鉢?	檜台盛土	体部細片	①— ②— ③—	①D ②A、良好 ③10YR2/1黒 ・7.5YR5/4鈍褐	色調は、胎土中央から灰白色、鈍褐色、器表は黒灰色。外面に凸帯を巡らせ、上位に菊花状の押印を巡らす。
第95図24	在土土器 火鉢?	檜台盛土	口縁部片	①— ②— ③—	①B ②D、やや 不良 ③10YR3/1 黒褐・5YR5/6明 赤褐	外面口縁部下に凸帯を巡らし、上部に巴文押印を巡らせる。凸帯下部にも施文するようだが、残存部が小さく不明。22と同一個体の可能性がある。2片接合。
第95図25	内耳土器 胴形	檜台盛土	口縁部小 片	①— ②— ③—	①B ②A、良好 ③7.5YR2/1黒	断面の色調は、中央から褐色色、鈍赤褐色、器表が黒色。口縁部内外面は小さく突出する。口縁部は短く、外面は強い横溝により口縁部を外反させる。

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	成形、調整の特徴など
第95図26	内耳土器 網形	橋台盛土	口縁部小片	①— ②— ③—	④C ⑤A、良好 ⑥10YR5/2灰黄褐 ・10YR2/1黒	器壁薄いが、断面はサンドイッチ状をなす。中央から灰白色、褐灰色、灰白色、器表は黒灰色を呈する。口縁部内面上位は強い稜溝により、低い段差がある。
第95図27	内耳土器 網形	橋台盛土	口縁部小片	①— ②— ③—	④B ⑤C、良好 ⑥10YR5/3純黄褐 ・5YR6/4純橙	口縁端部は外方に丸く突出する。端部上面はやや内傾し、僅かに凹む。
第95図28	内耳土器 網形	橋台盛土	口縁部小片	①— ②— ③—	④B ⑤A、良好 ⑥10YR7/4純橙 ・10YR7/3純橙	胎土の中央から、黒色、明褐色、器表付近は明褐色を呈する。外面厚着。口縁端部はごく僅かに肥厚する。上面もごく僅かに凹む。
図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (mm)	④胎土 ⑤焼成 ⑥厚さ	備 考
第95図29	銭貨 元龜通寶	盛土	完形	①24.56 ②24.57 ③19.95 ④19.79 ⑤1.12~1.30		北宋1078年。篆書
第95図30	銭貨 洪武通寶	盛土	完形	①23.12 ②23.10 ③18.96 ④18.80 ⑤1.34~1.63		明1368年。マ順通、早点通
第95図31	銭貨 至道通寶	橋台盛土	完形	①24.92 ②24.67 ③17.83 ④17.32 ⑤1.31~1.52		北宋995年。真書

表12 2区盛土内石列出土遺物観察表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	成形、調整の特徴など
第96-97図 1	宝篋印塔 基座	石列	完形	①32.0 ②21.5		1面に文字を刻む。造形であるが、永享三年辛亥の紀年銘あり。
第97図2	石製品 凹み石	石列	完形	①— ②— ③—		丸味を有する角四石安山岩の1面に凹みをつける。凹みの調整はやや粗い。
第98図3 口輪4	宝篋印塔 塔身	石列	ほぼ完形	①— ②— ③—		上面と下面は全体に浅く凹ませる。側面は4面共に月輪を一段取り下げて墨を入れた後、素研製の梵字を刻む。側面周縁の一部に墨の縁取り明線に残る。
第99図4	五輪塔 地輪?	石列	1/4	①— ②— ③—		底面に凹みをつける。1面に墨を丸く塗り、中に梵字を彫り込む。
第99図5	石製品 鉢	石列	小片	①— ②— ③—		器高14cm程の石鉢片。内外面の調整は丁寧で、形も整っている。使用により内面はやや滑らかとなる。
第99図6	石製品 鉢	石列	1/2	①— ②— ③—		平面の外形は隅丸方形を呈すると思われる。外面の調整は粗いが、内面は丁寧に仕上げる。石質が粗いが、内面は使用により滑らかとなる。
第99図7	石製品 凹み石	石列	1/2	①— ②— ③—		ほぼ方形を呈する角四石安山岩の中央に凹みを有する。凹みは四面にあり、片方が大きく深い。
第99図8	石製品 未製品?	石列	一部欠損	①— ②— ③—		扁平な円形を呈する角四石安山岩。表面は欠損するが、表面は平坦で、中央が僅かに凹む。未製品か。
第100図9	石製品 凹み石	石列	1/2	①— ②— ③—		ほぼ円形を呈する角四石安山岩の1面中央に浅い凹みをつける。凹みの無い側はほぼ平坦。
第100図10	石製品 凹み石	石列	完形	①— ②— ③—		不整形方形を呈する角四石安山岩の1面中央に凹みをつける。
第100図11	石製品 凹み石	石列	2/3	①— ②— ③—		周面を削って直方体とし、1面に粗く凹みをつける。凹み内は黒変するが、使用後は観察できない。
第100図12	石製品 凹み石	石列	完形	①— ②— ③—		小さく厚みのある角四石安山岩の1面に凹みをつける。凹みは径に比して深い。また、凹み底部付近は黒みを帯び、滑らかとなっている。凹み全体の調整も丁寧で、浅い凹み石とは用途が異なるであろう。
第100図13	石製品 不詳	石列	不明	①— ②— ③—		角四石安山岩の1面に段をつける。段部分の調整は丁寧で凹凸が少ない。用途不明。
第100図14	粉焼き形 上白	石列	1/4	①— ②— ③—		角礫凝灰岩製。側面周縁は欠損。残存部では軸受け周辺が最も平滑である。
第101図15	茶白形 下白	橋台石列	1/2	①— ②— ③—		底面は高台状に削り出す。周縁に放射状をなすと思われる狭く深い目が一部残る。坯本でも明瞭なように、中央と周縁との平滑差は歴然としている。石材は発泡し、黒色を呈する。大ききの側に軽い。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第101図16	粉挽き形 上白	石列	一部	①— ②— ③—	①— ②— ③—	供給口からものくぼり部の小片。引き手穴は小さい。目の残りはよい。
第101図17	茶白形 上白	石列	1/2	①— ②— ③—	①— ②— ③—	偏減りが認められ、残存部で7.0cmの比高差がある。摺り面は中央と周縁が平滑となる。目は中央に僅かに残る。
第102図18	粉挽き形 下白	槽台1石列	1/3	①— ②— ③—	①— ②— ③—	摺り面は周縁ほど滑らかとなる。残存する目は分画を無視した配列である。残存部で5mm程の偏減り。
第102図19	粉挽き形 上白	石列	1/2	①— ②— ③—	①— ②— ③—	角稜凝灰岩製。ものくぼりの凹みは不明瞭。偏減りが著しく、残存部周縁で6.5cmもの比高差がある。
第102図20	粉挽き形 上白	石列	小片	①— ②— ③—	①— ②— ③—	摺り面周縁欠損。摺り面は周縁に向かうほど滑らかである。
第103図21	粉挽き形 上白	石列	一部欠損	①— ②— ③—	①— ②— ③—	角稜凝灰岩製。偏減りが著しく、周縁部で2.4cmの比高差がある。摺り面周縁部は平滑である。
第103図22	茶白形 下白	石列	1/2	①— ②— ③—	①— ②— ③—	細い傷のような目が僅かに残る。偏減りがあるようで、周縁でも場所によって平滑さが異なる。
第104図23	粉挽き形 上白	槽台石列1	2/3	①— ②— ③—	①— ②— ③—	上縁はきれいに取れており、打ち欠かれているようである。供給口は小さく、軸受けは径が大きい。上縁内側で2.3cmの比高差があり、偏減りが著しい。目は残存しない。摺り面は周縁部が比較的滑らかである。
第104図24	茶白形 下白	石列	周縁欠損	①— ②— ③—	①— ②— ③—	底面に放射状の彫線があるが、形状から上白の転用とは考えられない。摺り面の状態は比較的良く、周縁ほど平滑さが増す。2片接合。石は黒色を呈し、発泡して大ききの割に軽い。

表13 2区盛土下高状遺構黒色土内出土遺物観察表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第105図1 口絵3	中国製 染付皿	黒色土	1/5	①— ②10.3 ③—	①— ②良好 ③—	呉須の発色は比較的良好。染付皿B1群。
第105図2 口絵3	越州窯系 青磁碗	黒色土	口縁部細片	①— ②— ③—	①— ②良好 ③—	口縁部は尖り気味。軸は薄い。粗い貫入入る。3と同一個体の可能性がある。
第105図3 口絵3	越州窯系 青磁碗	黒色土	体部細片	①— ②— ③—	①— ②良好 ③—	軸は薄く、粗い貫入入る。2と同一個体の可能性がある。
第105図4 口絵3	大窯 皿	黒色土	口縁部片	①— ②(11.0) ③—	①— ②良好 ③—	器壁薄く、口縁部僅かに外湾する。灰軸。4片接合。2段階。
第105図5	大窯 皿	黒色土	口縁部小片	①— ②— ③—	①— ②やや不良 ③—	口縁部外面は轆轤目により外反するように見える。灰軸を施す。第3図2と同一個体の可能性がある。2片接合。2段階。
第105図6 口絵3	大窯 器種不詳 3～4段階	黒色土	口縁部	①(1.6) ②— ③—	①— ②良好 ③—	内外面黒褐色の鉄軸。口縁部を内面に突出させ、端部を広く取る。端部正面は凹線状に窪み、細い紐状粘土の貼り付け痕が認められる。口縁部割れ口には軸の盛り上がりも認められ、欠損部にも細い紐状のものが貼り付けられた可能性がある。
第105図7	大窯 丸皿	黒色土	体部下位 小片	①(1.5) ②— ③6.3	①— ②良好 ③—	内外面黒褐色の鉄軸。外面は蹄輪状に薄く掛かる。底部外面は赤褐色状をなす。鉄軸轆轤底部片か。2段階。
第105図8 口絵3	大窯 天目碗	黒色土	口縁部から 体部	①— ②(12.0) ③—	①— ②やや不良 ③—	1段階。鉄軸薄く施す。胎土に白色起物含む。
第105図9 P.L.-35	土製品 鉢	黒色土	定形	縦4.3 横1.0 厚1.0	①皿C ②やや不良 ③10YR5/2 灰黄褐	細く長い土師。やや焼成不良で軟質な焼き上がり。
第105図10 P.L.-35	在地土器 皿(取皿)	黒色土	口縁部小片	①— ②— ③—	①不明 ②不明 ③2.5Y6/1黄灰赤	内面は軸を掛けたような光沢があり、深さ2mm程までヒビが入る。胎土は外面が青灰色から灰白色を呈するが、内面側2mm程は灰黒色を呈する。取柄として使用されたと考えられる。
第105図11 P.L.-35	在地土器 皿	黒色土	1/5	①2.4 ②(10.3) ③(6.0)	①C ②良好 ③7.5YR4/6褐	体部縁く外湾する。口縁部に油付着。唇に外面は厚く付着する。灯明皿として使用。
第105図12	在地土器 皿	黒色土	1/5	①1.8 ②(8.4) ③(5.0)	①E ②良好 ③10YR3/1黒褐 -5YR5/3純赤褐	底部同軸糸切り無調整。轆轤丸取。器壁は体部中位で厚くなり、口縁部内面は横溝により窪む。口縁部外面小さく窪む。

5 出土遺物観察表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第105図13	在地球器 皿	黒色土	1/6	①— ②10.0 ③—	①B ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	体部外湾する。
第105図14	在地球器 皿	黒色土	1/4	①2.1 ②8.4 ③4.8	①C ②良好 ③5YR5/4鈍赤褐	轆轤左回転。体部外湾する。
第105図15	在地球器 皿	黒色土	口縁部1/6 底部1/3	①1.9 ②9.6 ③—	①B ②良好 ③7.5YR5/4鈍橙	轆轤左回転。内面底部と体部境強い横溝により窪む。
第105図16	在地球器 皿	黒色土	1/4	①1.8 ②10.8 ③—	①B ②良好 ③7.5YR6/6橙	轆轤左回転? 体部外湾する。2片接合。
第105図17 P.L.-35	在地球器 皿	黒色土	底部3/4	①1.9 ②8.4 ③5.4	①E ②良好 ③5YR5/4鈍赤褐	左回転糸切り無調整。体部直線的に開く。体部に比して底部の器壁厚い。
第105図18 P.L.-35	在地球器 皿	黒色土	1/2	①2.4 ②7.2 ③4.8	①B ②良好 ③6YR6/6橙	左回転糸切り無調整。底部内面強い溝により器壁が半分以下となる。外側に板状圧痕は認められないが、積物状圧痕や糸切り痕の潰れは認められる。内面体部と底部境強い横溝により凹線状に窪む。9号土坑出土小型皿に比して体部は直線的で、器高もやや高い。2片接合。
第105図19	在地球器 皿	黒色土	口縁部片	①— ②20.8 ③—	①B ②良好 ③7.5YR5/3鈍橙	大型皿の口縁部片。口縁部は直線的で、体部下位は外湾する。
第105図20 P.L.-35	須臾器? 皿	黒色土	口縁部1/3 底部2/3	①3.1 ②9.6 ③4.0	①C ②やや不良 ③7.5YR7/4鈍橙	右回転糸切り無調整。内面体部と底部境不明瞭。器表剥離する。
第105図21 P.L.-35	在地球器 鉢	黒色土	1/4	①11.7 ②30.0 ③16.8	①錆B ②良好 ③5YR6/6橙 ・2.5Y3/1黒褐	底部外面砂色。高台下部欠損するが、欠損部が摩滅していることから、欠損後も使用されたと推定。底部内面にすり鉢としての使用痕は認められない。口縁端部内面厚減。
第105図22	在地球器 すり鉢	黒色土	片口部片	①— ②— ③—	①B ②D、良好 ③10YR4/1褐灰	1単位9本以上のすり目を口縁部付近まで引き上げる。内面下位使用によりやや平滑となる。口縁端部内面は平滑ではないが、器表剥離する。
第106図23	在地球器 火鉢?	黒色土	体部小片	①— ②— ③—	①皿D ②C、良好 ③2.5YR5/4鈍赤褐・10YR2/1黒	内面器表のみ黒灰色。外面縦押印を散らす。3片接合。
第106図24	在地球器 火鉢?	黒色土	口縁部細片	①— ②— ③—	①B ②B、良好 ③10YR5/1褐灰	口縁端部外面を外方に張り出させ、上面を広くする。口縁部外面に菊状押印を施す。文様下には低く細い凸帯を巡らす。
第106図25 P.L.-36	在地球器 火鉢	黒色土	口縁部から体部下位片	①11.0 ②38.0 ③—	①B ②A、良好 ③10YR5/2灰黄褐	断面中央から褐灰色、鈍褐色で器表が黒褐色を呈する。体部外面は丁寧な彫削り。口縁端部を内外に突出させて上面を幅広にする。外面口縁部下に大きい凸帯を巡らす。口縁端部との間に格子状の押印を施す。欠け口部に小さい円形の凹線が認められる。中央は盛り上がるが、上部欠損する。貼り付け痕は認められず。竹管状地文具による押厚で盛り上がったものと考えられる。内面下縁には強い横溝で認められ、底部付近と推定される。内面中位以下はやや黒変しており、使用痕の可能性もあるが、上部は酸化していない。
第106図26 P.L.-36	須臾器 円盤	黒色土	完形	①径5.2 ②厚1.1 ③—	①B ②良好 ③内2.5Y5/1黄灰 ・外10YR4/1褐灰	須臾器変形の周囲を打ら欠け円盤状に成形する。角は僅かに削る。
第106図27 P.L.-36	石製品 砥石?	黒色土	1/2?	①径11.4 ②幅9.4 ③厚4.8	①— ②— ③—	幅広で中央が厚い。広い面は平坦ではないが、磨かれており平滑となる。幅の狭い面は、一方が平坦ではないが平滑となり、他方は砥石同様の減り具合である。
第106図28 P.L.-36	石製品 砥石	黒色土	1/2	①長7.4 ②幅 3.6 ③厚2.2	①— ②— ③—	幅広の2面を主に使用する。幅の狭い1面には調整時の副面痕残る。
第106図29	石造物 板碑	2区黒色土 F	基部片	①— ②— ③—	基部片か。片面は割られて残存しない。	
第106図30 P.L.-36	筒状洋 蓋土	盛土	2/3	長6.1 幅3.4+1.2		小型で楕円形に近い形状を呈する筒状鉄洋。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第106図31	鉄製品 鉢	黒色土	茎欠損	①— ②— ③—	①— ②焼成 ③色調	定角形式。
第106図32	鉄製品 火打金	魚下遺構外	1/2?	高— 幅— 厚0.2—0.5	①— ②焼成 ③色調	餅がひどく、全体形状は不明であるが、山形を呈することは確かである。頂部と推定される部分に円孔が1/2明瞭に残る。刃部中央が窪むが、餅がひどい部分であり、使用痕が否かは不明。
第106図33	銅製品 不詳	黒色土	完形?	①— ②— ③—	①— ②焼成 ③色調	銅若しくは合金製。薄い板を円形にし、一方を曲げている。外面は銀色を呈し、メッキされている可能性がある。用途不明。
第107図34 口輪4	五輪塔 地輪?	黒色土	一部欠損	①— ②— ③—	①— ②焼成 ③色調	角石安山石製の粗製小製品。下面は全体に浅く凹め、上面は丸味を帯びる。上面中央は小さく凹める。正面に小さく梵字を刻んだ後、円形に墨を入れる。表面の凹凸が多く、梵字は不明瞭。側面と上面周縁に墨の線取りをしている可能性があるが、不明瞭。
図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①②直径 ③④内輪径 ⑤厚さ (mm)		備 考
第107図35	鉄貨 洪武通寶	島	完形	①23.91 ②24.07 ③19.91 ④19.87 ⑤1.37—1.61		明1368年。重点通、背折
第107図36	鉄貨 洪武通寶	黒色土	完形	①23.63 ②23.58 ③17.28 ④17.15 ⑤1.32—1.39		明1368年。マ頭通、単点通
第107図37	鉄貨 不詳	黒色土	完形	①24.80 ②24.91 ③20.12 ④19.99 ⑤0.89—1.20		判読困難。

表14 2区高伏遺構群出土中世遺物観察表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第108図1	大甗 天目碗	24・25号土坑 +36cm	口縁部小片	①— ②(11.2) ③—	①— ②良好 ③—	鉄輪。禾目などは認められない。1段階。
第108図2 口輪3	中国磁器 染付碗	174号ピット	体部下位片	①— ②— ③—	①— ②良好 ③—	器壁は薄く、体部内湾する。底部内面と高台輪に1条の界線を画す。体部外面供須の染色濃い。器表は僅かに青みを帯びる。
第108図3 口輪3	中国磁器 染付碗	73号土坑 +13cm	体部細片	①— ②— ③—	①— ②良好 ③—	体部細片で外面染付。内面無文。
第108図4 口輪3	大甗 黒	30号土坑 +18・33cm	2/3	①2.8 ②(10.0) ③(5.6)	①— ②良好 ③—	底部内面厚く灰輪留まる。3段階(後)。
第108図5	大甗 緑輪皿	24・25号土坑 +5cm	口縁部小片	①— ②(12.2) ③—	①— ②良好 ③—	小皿小片。口縁部に灰輪を施す。1段階。
第108図6 口輪3	大甗 黒	62号土坑 +37・46cm	1/3	①— ②— ③(7.0)	①— ②良好 ③—	内面と高台輪灰輪留まる。貫入入る。高台内も薄く灰輪掛かる。1・2段階
第108図7 口輪3	中国磁器 白磁小皿	62号土坑 +24cm	1/5	①(1.6) ②(3.0) ③(2.2)	①— ②やや不良 ③—	やや焼成不良であるのか、胎土が灰白色に近い。そのため、胎も灰色味を帯びる。底部内面輪の目輪跡。高台輪以下無輪。高台輪の軸は削り取る。器形定状を呈する。
第108図8 口輪3	大甗 黒	30号土坑 +26cm	底部小片	①— ②— ③(5.6)	①— ②良好 ③—	底部内面灰輪留まる。高台内輪白濁。2・3段階。
第108図9 口輪3	中国磁器 白磁皿	62号土坑 +15cm	1/2	①— ②(9.0) ③—	①— ②良好 ③—	口縁のみ白磁細掛ける。白磁皿B群。
第108図10 口輪3	大甗 緑灰皿	45号土坑 +8cm, 210号ピット 黒色土	1/3	①— ②(15.3) ③—	①— ②良好 ③—	大甗端反大皿。内外面に灰輪を施す。胎に強い貫入。二次的な焼痕。大甗1期。210ピットと耕作土出土片と接合。接合しないが、同一個体の可能性があるが破片も複数出土。
第108図11 口輪3	中国磁器? 白磁?皿	45号土坑 +3・7cm	底部完形	①(13.0) ②— ③(7.2)	①— ②不良 ③—	胎土は磁器で灰白色。透明輪は貫入入る。高台輪は無輪で鉄分により茶色を呈する。中国製白磁皿C群の焼成不良であろう。黒色土出土片を含め、7片接合。
第108図12 口輪3	大甗 天目碗	1号井戸 上層	口縁部から体部片	①— ②— ③—	①— ②不良 ③—	胎土は鈍い橙色を呈し、釉も鈍い黄褐色を呈している。口縁部下の内湾は丸味を帯び、端部は小さく外反する。2段階。
第108図13 口輪3	大甗 緑反皿	30号土坑 +43cm	口縁部片	①— ②(18.0) ③—	①— ②良好 ③—	口縁部小さく外反する。灰輪に強い貫入。二次焼成により輪充れる。1段階。

図番号 P L 番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第108814 口絵3	大甕 甕反皿?	1号井戸 上層	体部から 底部片	①12.0 ②— ③6.2	①— ②良好 ③—	全面に灰釉を施す。口径端部は欠損するが、甕反 部が認められる。小型甕反皿であろう。1枚残。
第108815 口絵3	中国磁器 染付皿	72号土坑 +23cm 67号土坑 +17cm	底部1/2	①— ②— ③7.7	①— ②良好 ③—	底部内面染付。乳須の色は良く、無文部もきれ いである。67号土坑出土片と接合。
第108816 口絵3	中国磁器 青磁皿	82号土坑 +16・19cm	口径部1/6 底部定形	①3.35 ②13.7 ③6.0	①— ②良好 ③—	龍泉窯系青磁皿。高台内無軸。内面施による銘文。 小型甕反皿であろう。
第108817 口絵3	輪軸陶器 水漬	62号土坑 +21cm	完形	①2.2 ②2.0 ③2.6	①— ②— ③—	古瀬戸後期。
第108818 口絵3	中国磁器 染付	89号ビット	底部破片	①— ②— ③—	①— ②やや不良 ③—	器種不詳。底部内面染付。残存部外面無文。胎土 は薄い灰白色を呈し、器表も灰色味を帯びている。 古瀬戸後Ⅱ・Ⅲ期か。口径部に灰釉掛ける。口径 部内面に凸帯を施す。体部内面に刻し目。後Ⅱ。 やや薄手の常滑型体部下位片。
第108819 口絵3	古瀬戸 細し皿	72号土坑 +22cm	口径部小 片	①— ②— ③—	①— ②良好 ③—	
第108820	常滑陶器 羹	8号溝	体部破片	①— ②— ③—	①— ②良好 ③—	
第108821	古瀬戸 すり鉢	1号井戸 上層	体部破片	①— ②— ③—	①— ②良好 ③—	内外面磨蝕。6本単位のすり目を入れる。すり目 は使用により磨滅する。古瀬戸のすり鉢。 割れ口磨滅する。後Ⅳ新。
第108822	在地土器 皿	24・25号土坑 +29cm	1/3	①— ②7.9 ③—	①B ②— ③7.5YR5/4鈍黄	9号土坑出土小型皿に比してやや器高が高くなる ようである。
第108823	在地土器 皿	30号土坑	1/3	①1.8 ②7.4 ③—	①C ②良好 ③7.5YR5/4鈍黄	小型。器壁やや厚い。轆轤回転方向不明。
第108824	在地土器 皿	51号土坑	1/4	①2.9 ②9.0 ③4.8	①B ②良好 ③7.5YR5/3鈍黄	轆轤回転方向不明。体部外湾し、口径端部は内湾 気味。
第108825	在地土器 皿	62号土坑	1/4	①— ②9.0 ③—	①B ②良好 ③内10YR5/2黒褐 外10YR5/3鈍黄	轆轤左回転。体部下位は外湾し、口径部は内湾気 味に立ち上がる。
第108826	在地土器 皿	45号土坑	小片	①2.4 ②10.2 ③5.9	①B ②良好 ③10YR4/1黒灰	口径部玉縁状をなす。内面黒色物質薄く付着。黒 色物質表面に皺が認められ、漆の可能性もある。
第108827	在地土器 皿	24号土坑	1/3	①— ②10.0 ③—	①B ②良好 ③10YR5/3鈍黄	体部中位外反。器壁やや薄い。5片接合。
第108828	在地土器 皿	82・83号土坑	1/3	①— ②11.0 ③—	①B ②良好 ③5YR5/4鈍赤黄	轆轤左回転。体部中位で鋭く外反する。2片接合。
第108829	在地土器 皿	162号ビット	1/5	①1.7 ②8.6 ③5.0	①B ②良好 ③5YR6/4鈍橙	体部に比して底部器壁やや薄い。体部と口径部外 面の轆轤目跡。
第108830	在地土器 皿	62号土坑	口径部細 片	①— ②— ③—	①C ②良好 ③5YR6/6橙	口径端部内外面に「〇」の墨書。
第108831	在地土器 皿	64号土坑	1/4	①2.3 ②12.3 ③6.5	①A ②良好 ③5YR6/6橙	器高が低く体部から口径部が開く。9号土坑出土 皿と同様な胎土、器形。体部中位の器壁が薄くな り、口径部で再び肥厚する。轆轤左回転。5片接 合。
第108832 口絵3	大甕 甕反皿	62号土坑	口径部小 片	①— ②— ③—	①— ②良好 ③—	灰釉はやや薄く、粗い貫入入。二次被熱を受ける。 1枚残。
第108833	在地土器 皿	30号土坑	1/3	①2.8 ②12.4 ③7.0	①D ②良好 ③5Y5/6オリーブ	中器皿。体部から口径部外湾する。轆轤左回転。 4片接合。
第108834	在地土器 皿	1号井戸 上層	1/5	①2.1 ②9.2 ③6.0	①D ②良好 ③5YR4/4鈍赤黄	体部外湾する。内面底部と体部境強い横溝により 凹縁状に窪む。口径部内面から口径端部外面油? 付着する。
第108835	織入土器?	8号溝	1/3	①12.0 ②— ③6.0	①密着 ②良好 ③2.5Y5/2暗灰黄	回転糸切り無調整。海面骨針多量に含む。胎土の 特徴は、海面骨針を抜きにしても他の出土遺物と は明らかに異なる。
第108836 P L-36	在地土器 皿	25号土坑 +13cm	完形	①2.3 ②7.8 ③4.9	①B ②良好 ③7.5YR6/6橙	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横溝 により凹縁状に窪む。底部内面中央窪む。
第108837 P L-36	在地土器 皿	25号土坑 +6cm	口径一部 欠損	①2.3 ②7.7 ③4.8	①B ②良好 ③7.5YR6/6橙	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横溝 により凹縁状に窪む。底部内面中央窪む。

V 図 表

図番号 P L 番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第109838 P L-36	在土器 皿	25号土坑 +18cm	完形	①2.2 ②7.7 ③4.5	①B ②良好 ③5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横溝 でにより凹線状に窪む。底部内面中央窪む。
第109839	在土器 皿	25号土坑	口縁部一 部、底部 完	①2.0 ②8.0 ③4.6	①B ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙 ・7.5YR4/1褐灰	左回転糸切り無調整。体部中位やや厚い。
第109860 P L-36	在土器 皿	51号土坑 +9cm	完形	①2.5 ②7.5・ 7.9 ③4.5	①B ②良好 ③5YR5/4鈍褐	左回転糸切り無調整。口縁部歪む。体部から口縁 部直線的に開く。
第109861 P L-36	在土器 皿	84号ピット	1/2	①2.2 ② ③8.0 ④(4.7)	①B ②良好 ③7.5YR5/3鈍褐	左回転糸切り無調整。底部内面軽い指撫で。底部 外面板状圧痕僅かに残り。底部周縁横溝で強く、 凹線状に窪む。9号土坑出土小型皿に比して器高 やや高い。
第109862 P L-36	在土器 皿	24-25号土坑 口縁部1/3 底部2/3	①2.25 ②8.0 ④(4.8)	①B ②良好 ③5YR6/4鈍橙	糸切り回転方向不明。底部内面指撫で。5片接合。	
第109863 P L-36	在土器 皿	24-25号土坑 +53cm	1/3	①2.3 ②7.8 ③4.5	①B ②良好 ③内7.5YR5/3鈍 褐・外10YR2/1黒	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横溝 でにより凹線状に窪む。底部内面中央窪む。体部 外面下位無難目弱く。内湾するかのように見える。
第109864	在土器 皿	24-25号土坑	1/4	①2.4 ②8.0 ③5.0	①C ②良好 ③5YR3/4暗赤褐	底部内面強い指撫で。底部外面板状圧痕明確。内 面、体部と底部境の横溝で強く、凹線状に窪む。 器壁やや厚い。
第109865	在土器 皿	42号土坑	1/5	①2.0 ②7.0 ③(4.0)	①E ②良好 ③5YR6/6橙	小型皿。軸線右回転。体部下端の器壁薄く、体部 から口縁部は厚い。
第109866 P L-36	在土器 皿	24-25号土坑 +5cm	口縁一部 欠損	①2.2 ②7.7 ③4.9	①B ②良好 ③10YR5/2灰黄褐	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横溝 でにより凹線状に窪む。底部内面中央窪む。内面 から口縁部外面油付着。
第109867 P L-36	在土器 皿	24-25号土坑 +79cm	完形	①2.2 ②8.2 ③4.8	①D ②良好 ③7.5YR5/2灰褐	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横溝 でにより凹線状に窪む。内面黒く変色する。小さ く欠損した口縁端部に煤か油付着。外面端部下端 は高台状に小さく直立する。
第109868 P L-36	在土器 皿	82号土坑	口縁一部 欠損	①2.8 ②8.3 ③5.1	①B ②良好 ③10YR6/3鈍黄橙	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境、強い横 溝でにより凹線状に窪む。底部内面指撫で。内面 油付着。欠損した口縁部にも煤か油付着。
第109869 P L-36	在土器 皿	24-25号土坑 +50-55cm	口縁部2/3 底部完	①3.15 ②10.2 ③5.6	①B ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙 ・7.5YR4/1褐灰	左回転糸切り無調整。内面油付着。体部中位外反。 3片接合。
第109870	在土器 皿	65号土坑 +26cm	底部	①1.1 ②- ③5.0	①C ②良好 ③10YR6/4鈍黄橙	左回転糸切り無調整。3片接合。
第109871 P L-36	在土器 皿	24-25号土坑 +16cm	口縁一部 欠損	①2.8 ②10.0 ③5.8	①D ②良好 ③5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。底部内面と体部境強い横溝 でにより凹線状に窪む。底部外面圧痕あり。外面 体部下端、強い横溝でによりやや窪む。
第109872 P L-36	在土器 皿	84号ピット	完形	①2.9 ②9.8・ 10.0 ③5.4	①B ②良好 ③5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。底部内面明確な指撫で。底 部外面板状圧痕僅かに残り、糸切り痕のずれも目 立つ。体部と底部内面境横溝で強く、凹線状に窪 む。体部中位外反する。
第109873 P L-36	在土器 皿	24-25号土坑 +59cm	口縁1/2 底部完	①3.2 ②10.3 ③5.1	①C ②良好 ③10YR5/2灰黄褐	左回転糸切り無調整。底部内面と体部下端境横溝 でにより凹線状に窪む。外部中位で外反する。
第110854 P L-36	在土器 皿	24-25号土坑 +28cm	口縁1/2欠 損	①3.2 ②10.65 ③6.1	①C ②良好 ③明褐	左回転糸切り無調整。底部内面指撫で。底部内面 と体部境強い横溝でにより凹線状に窪む。体部中 位で外反する。
第110855 P L-36	在土器 皿	24-25号土坑 +77cm	口縁1/3欠 損	①2.95 ②10.6 ③6.3	①C ②良好 ③鈍褐	左回転糸切り無調整。底部内面指撫で。底部内面 と体部境強い横溝でにより凹線状に窪む。体部中 位外面強い横溝でを境に外反する。
第110856 P L-36	在土器 皿	82号土坑 +20・36cm	口縁一部 欠損	①3.15 ②11.8 ③7.2	①D ②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	左回転糸切り無調整。底部内面と体部境強い横溝 でにより凹線状に窪む。口縁部内面横溝でにより 内湾気味。底部中央境成後の穿孔。
第110857 P L-36	在土器 皿	82号土坑 +64cm	完形	①3.0 ②11.8 ③7.3	①D ②良好 ③10YR6/3鈍黄橙	左回転糸切り無調整。外面体部下位、強い横溝で により外反する。口縁部内面は内面の強い横溝で により内湾気味となる。口縁部器壁は厚く、玉縁 状をなす。

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第110858 P.L.-36	在土器 皿	24・25号土坑 +10cm	口縁1/4欠 損	①3.4 ②11.7 ③6.2	①BorD ②良 ③5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。体部中位外反する。底部内面と体部境強い横溝でにより凹線状に窪む。
第110859	須恵器 杯	25号土坑	1/2	①3.3 ②11.0 ③7.0	①2 ②やや不良 ③10YR6/4鈍黄橙	右回転糸切り無調整。体部内湾気味で口縁部小さく外反。
第110860	在土器 皿	82号土坑 +35cm	底部1/2	①2.2 ②— ③8.4	①E ②良好 ③5YR5/6明赤褐	大型皿の底部片。左回転糸切り無調整。5片接合。
第110861	在土器 皿	68号土坑	1/2	①2.1 ②— ③6.4	①B ②やや不良 ③7.5YR6/6橙	左回転糸切り無調整。底部内面無。底部外面板状圧痕残る。3片接合。
第110862	須恵器 杯	49号土坑 +10cm	1/3	①3.1 ②11.0 ③6.5	①C ②良好 ③5YR5/6明赤褐	軸線右回転。体部から口縁部内湾する。
第110863 P.L.-37	在土器 皿	24・25号土坑 +3cm	1/2	①3.0 ②11.8 ③7.2	①C ②良好 ③5YR4/4鈍赤褐	左回転糸切り無調整。内面器壁荒れる。
第110864 P.L.-37	在土器 皿	1号井戸 上層	1/3	①2.5 ②11.0 ③6.0	①C ②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	体部外面中央横溝でにより窪む。底部内面指撫で。底部外面板状圧痕多い。左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横溝でにより窪む。
第110865	在土器 皿	82-83号土坑	口縁部一 部 底部2/3	①2.1 ②9.8 ③5.4	①C ②良好 ③10YR3/1黒褐	断面器表共に黒味を帯びるが、当初の色調ではないと推測される。器高低く、体部は細く外反する。左回転糸切り無調整。2片接合。
第110866	在土器 皿	82-83号土坑	1/4	①— ②— ③5.6	①B ②良好 ③7.5YR5/4鈍褐	底部器壁厚。左回転糸切り無調整。内面底部周縁強い横溝でにより凹線状に凹む。体部は直線的に立ち上がり、器高は高めである。3片接合。
第110867 P.L.-37	須恵器 皿	228号ピット +10・14cm	1/2	①2.5 ②10.0 ③5.4	①B ②不良 ③10YR8/3淡黄橙	底部静止糸切り無調整。焼き跡まが非常に固く、器表摩滅する。体部内湾気味で、口縁部小さく外反する。古代須恵器か。4片接合。
第110868	在土器 皿	67号ピット	1/4	①2.3 ②10.0 ③6.0	①B ②良好 ③7.5YR6/6橙	軸線左回転。底部回転糸切り無調整。口縁部玉粒状をなす。
第110869	在土器 皿	73号土坑 +20cm	1/4	①2.1 ②10.0 ③5.0	①A ②良好 ③2.5YR5/6橙	器高低く、体部と口縁部固く。体部中位外反し、口縁部微かに玉粒状をなす。色調は異なるが、胎土・器形は9号土坑出土皿に近似する。
第111870	在土器 皿	30号土坑	1/3	①2.5 ②12.2 ③6.4	①D ②良好 ③5YR6/6橙	中層皿。体部から口縁部外湾する。軸線左回転。7片接合。
第111871	在土器 皿	172号ピット	口縁部一 部 底部1/2	①2.15 ②9.0 ③14.2	①C ②良好 ③6YR6/6橙	左回転糸切り無調整。大型皿。体部は広く開き、口縁部は更に外反する。大きさに割に器壁薄く、焼成も良好。
第111872	内耳土器 鏡形	1号井戸 上層	口縁部小 片	①— ②— ③—	①C ②A?、良好 ③断N4/灰	胎土は断面が黒灰色を呈し、器表付径の0.6mm程が灰褐色を呈する。器表は黒から黒灰色。口縁部は内傾し、作りはシャープである。端部内面は小さく突出する。口縁部下の段差は内外面共に明瞭。
第111873 P.L.-37	内耳土器 鏡形	24・25号土坑 +30cm	1/3	①16.1 ②34.0 ③24.0	①C ②良好 ③7.5YR5/3鈍褐	口縁部やや厚く、端部外面を外方につまみ出す。内耳は小さい。平底。68片接合。
第111874 P.L.-37	内耳土器 鏡形	63号土坑 +25・37cm	1/2	①16.2 ②33.0 ③—	①C ②良好 ③内5YR6/4鈍橙 ・外5YR1.7/1黒褐	丸底。細片28片が接合しているが、同一場所を押しつぶされたような状態で出土している。
第111875 P.L.-37	内耳土器 鏡形	64号土坑 +25・43cm	1/3	①14.5 ②33.0 ③—	①C ②C、良好 ③内7.5YR6/4鈍橙 ・外2.5Y3/1黒褐	63土坑7を含む8片接合。口縁部から体部下端器表黒色。内面は底部と下端の器表黒色。口縁部内面圓取り。口縁部外面は小さく突出する。
第112876 P.L.-37	内耳土器 鏡形	24・25号土坑 +33~86cm	1/4	①17.3 ②33.0 ③23.7	①C ②C、良好 ③5YR4/2灰褐 ・5YR5/4鈍赤褐	口縁部はほぼ水平で、中央やや凹む。端部内面は僅かに突出する。口縁部外面は突出する。器壁やや厚い。平底。体部外面下端磨削。9片接合。
第112877	内耳土器 鏡形	45号土坑	小片	①— ②— ③—	①B ②A、良好 ③10YR4/1黄灰	口縁部僅かに凹み、内傾する。端部内面小さく突出する。端部外面は小さく外反。
第112878	内耳土器 鏡形?	28号土坑	口縁部小 片	①— ②— ③—	①C ②A、やや 不良 ③2.5Y4/1 黄灰	口縁部平坦で、強く内傾する。口縁部外片。口縁部外面に横作り痕。近世の鉢形鏡に似た口縁部形状である。

V 図 表

図番号 P.L.番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高 ②口径 ③底径 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第1128079 P.L.-37	内耳土器 鏡形	73号土坑 +14cm	1/5	①— ②38.0 ③—	①C ②A?良好 ③内10YR3/1黒褐 ・外10YR2/1黒	断面は黒灰色を呈し、器表付近のみ暗赤褐色を呈する。外面器表は黒色。口縁部上面僅かに凹む。肩部内外面突出する。口縁部内湾気味に立ち上がる。器壁やや厚い。
第1128080 P.L.-37	内耳土器 鏡形	1号井戸 下層	1/6	①— ②— ③—	①D ②C、良好 ③内10YR5/3純黄褐 ・外10YR3/1黒	外面器表黒色。口縁部上面は平直で、内面は小さく突出する。肩部形状はシャープである。内面口縁部と体部地の段差も大きく明瞭。同場所外面の横線は強く、段差も明瞭。3片接合。
第1128081 P.L.-38	内耳土器 鏡形	1号井戸 下層	1/5	①— ②— ③—	①B ②A、良好 ③断10YR5/4黄褐	胎土の色調は、断面中央から褐灰色、鈍褐色で、器表が黒色。器表の黒色部下に磨研跡は認められない。80何枚口縁部端の作りはシャープで、口縁部下内外面の段差は明瞭。器形の特徴は類似するが、色調が異なる。3片接合。
第113082	内耳土器 鏡形	67号土坑 +4cm	口縁部片	①— ②— ③—	①B ②C、良好 ③内5YR6/4鈍褐 ・外7.5YR4/2灰	口縁部端正面僅かに凹む。肩部外面突出する。口縁部内面磨り減る。磨り減り方は一律ではない。使用痕であろうが、下部が無く詳細不明。4片接合。
第113083	内耳土器 鏡形	24・25号土坑 +18cm	口縁部片	①— ②— ③—	①B ②A、良好 ③断N4/灰	口縁部平直で内傾する。口縁部内面小さく突出する。5片接合。
第113084	内耳土器 鏡形	24・25号土坑	小片	①— ②— ③—	①C ②D ③断7.5YR6/4鈍	口縁部は平直で、内傾する。耳縁り付け部付近片。器壁やや厚い。
第113085	内耳土器 鏡形	63号土坑	耳部片	①— ②— ③—	①C ②C、良好 ③5YR6/4鈍褐 ・断7.5YR6/3鈍	外面器表黒色。口縁部端幅やや狭く、外面の突出も小さい。
第113086	内耳土器 鏡形	82号土坑	耳部片	①— ②— ③—	①D ②C、良好 ③5YR4/4鈍赤褐 ・5YR2/1黒褐	口縁部器壁薄い。外面器表黒色。口縁部上面は内傾し、中央が凹む。肩部外面は外方に小さく突出する。
第113087	内耳土器 鏡形	73号土坑 +21cm	小片	①— ②— ③—	①C ②A?良好 ③内10YR5/2灰黄褐 ・外10YR2/1黒	断面は黒灰色を呈し、器表付近のみ暗赤褐色を呈する。外面器表は黒色。口縁部上面僅かに凹む。肩部内外面突出する。口縁部内湾気味に立ち上がる。器壁やや厚い。内面器表の色調はやや異なるが、第122図79と同一個体の可能性がある。
第113088	内耳土器 鏡形	64号土坑 +8cm	耳部片	①— ②— ③—	①C ②C、良好 ③内7.5YR6/4鈍 ・外10YR2/1黒	外面器表黒色。口縁部内面小さく突出する。口縁部上面は平直。
第113089	内耳土器 鏡形	82号土坑 +22・27cm	小片	①— ②— ③—	①B ②C、良好 ③5YR5/4鈍赤褐 ・5YR2/1黒褐	器壁やや厚い。口縁部端部浅い凹線走る。端部内外面小さく突出する。外面器表黒色。
第113090	内耳土器 鏡形	63号土坑 +7cm	耳部片	①— ②— ③—	①C ②C、良好 ③5YR5/4鈍赤褐 ・5YR2/1黒褐	外面黒色。口縁部端部は狭い。体部器壁はやや厚いが口縁部は薄い。
第113091	内耳土器 鏡形	82・83号土坑	口縁部片	①— ②25.0 ③—	①C ②A、良好 ③内10YR5/1黒灰 ・外10YR2/1黒	口径やや小さく、器壁は厚い。口縁部上面内傾し、中央付近僅かに凹む。外面器表黒色。2片接合。
第113092	内耳土器 鏡形	35号土坑 +22cm	口縁部小片	①— ②— ③	①B ②A、良好 ③2.5Y6/1黄灰	口縁部端部僅かに凹み、内傾する。口縁部外面、僅かに凹む。口縁部端部内面小さく突出する。
第114093	内耳土器 鏡形	8号溝	口縁部小片	①— ②— ③—	①C ②D、良好 ③断5YR5/4鈍赤褐	口縁部内傾し、上面はやや窪む。肩部外面強く外反する。
第114094	内耳土器 鏡形	73号土坑 +3cm	小片	①— ②— ③—	①D ②B、良好 ③内2.5Y4/1黄灰 ・外2.5Y6/1黄灰	器壁薄く、焼成は還元炎。口縁部上面は内傾し、端部内面の器面は磨減する。使用痕であろう。口縁部のみの破片であり、使用状況は不明。
第114095	内耳土器 鏡形	82号土坑	口縁部片	①— ②— ③—	①C ②D ③10YR4/2灰黄褐	口縁部上面僅かに丸味を帯び、口縁部内面小さく面取りする。口縁部内面と体部との段差は大きい。